

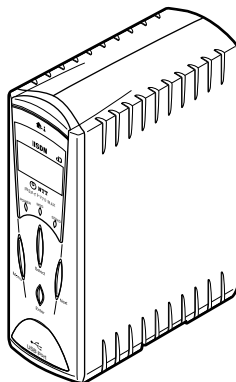
INSメイトV70 MAX

取扱説明書

このたびは、INSメイトV70 MAXをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。

お読みになったあとも、本装置のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。



技術基準適合認証品







安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
 お知らせ	この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
 ワンポイント	この表示は、本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用にあたってのお願い

本装置のご利用にあたって、当社のレンタル電話機がご不要となった場合は、局番なしの116番または当社の営業所等にご連絡いただければ、「機器使用料金」は、不要となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本装置の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。

This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本装置の電話ポート（アナログ）は、電話網の仕様と完全には一致していないため、接続される通信機器によっては、正常に動作しないことがあります。

本装置の付属ソフトウェアは、日本語版のOS上でご使用になることを前提としています。それ以外の環境では、動作を保証しておりません。

本装置の付属ソフトウェアを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。

本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の纯粹経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本装置を設置するための配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。本装置を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。

本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。

この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。

Windows[®] 95は、Microsoft[®] Windows[®] 95 operating systemの略です。

Windows[®] 98は、Microsoft[®] Windows[®] 98 operating systemの略です。

Windows[®] 2000は、Microsoft[®] Windows[®] 2000 operating systemの略です。

Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] operating system Version 4.0の略です。

Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。

Netscape Navigatorは米国Netscape Communications Corporationの登録商標です。その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

AmLINK3 © AMD

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠ 危険

電池パックは、コネクタの向きが決められています。本装置に接続するときは、コネクタの向きを確かめて正しく差し込んでください。

電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください。電池パックの漏液、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。

- 火の中に投入したり、加熱しない。
- 直接はんだ付けしない。
- 赤（プラス）・黒（マイナス）を針金などの金属類で短絡しない。
- 電池カバーを取り付けるとき、電池パックのコードをはさまない。
- 外装チューブ（被覆）をはがしたり、傷をつけない。
- 水や海水につけたり、ぬらさない。

電池パックを単体で充電しないでください。

専用の電池パックを使用してください。また、専用の電池パックは他の機器には使用しないでください。

電池パックを分解、改造しないでください。電池パックの漏液、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。

電池パック内部の液や乾電池のアルカリ液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐに水道水などの多量のきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

電池パックの液もれ、変色、変形、その他今までと異なることに気がついたときは、使用しないでください。

⚠ 警告

万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。

万一、本装置を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

万一、内部に水などが入ったり、本装置をぬらした場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

本装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。本装置を分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

本装置のキャビネットは外さないでください。感電の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

⚠ 警告

本装置のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

ふる場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

AC100 Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

差込口が2つ以上ある壁のコンセントに他の電気製品の電源プラグ等を差し込む場合は、合計の電流値がコンセントの最大値を超えないように注意してください。火災・感電の原因となります。電源コードに傷をつけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源コードが傷んだら、電源プラグをコンセントから抜き、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

電源コードが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグを抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

ぬれた手で本装置を操作したり、ぬれた手で乾電池や電池パックを交換しないでください。感電の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

⚠ 警告

テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

お客様がご用意された機器を本装置に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所に確認してください。確認できない場合は、絶対に接続して使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。本装置を移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、電話機コードを差込口から抜いて、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。また、アースをガス管に接続しないでください。爆発の原因となることがあります。

電源プラグを電源コンセント（AC100 V）に差し込むときは、確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグの本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また半年から1年に1回は、電源プラグをコンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠ 注意

お使いになる前に（設置環境）

直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

振動・衝撃の多い場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

本装置をさかさまに置かないでください。

本装置を重ね置きしないでください。重ね置きすると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

お使いのとき

近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。

本装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。キャビネットや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

本装置の周囲約5 cm以内には、紙などの燃えやすいものを置かないでください。

乾電池は正しくお使いください。使いかたを間違えると液漏れ、発熱、破裂により、けがや故障の原因となることがあります。以下のことを必ず守ってください。

- 保証期間内の単3アルカリ乾電池をお使いください。
（アルカリ以外のマンガン電池などでの動作保証はしていません。）
- 乾電池をショートさせたり、分解したりしないでください。
- 乾電池のプラス（+）、マイナス（-）の方向を確認して入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、種類の異なる乾電池などを混用しないでください。
- 外装ラベルがはがれたり、傷ついた乾電池を使用しないでください。
- 使用済みの乾電池を火中に投げないでください。

停電がない場合でも1年に1回の割合で新しいアルカリ乾電池に交換してください。長期間乾電池を装着したままでご使用になると、液漏れによるトラブルが発生するおそれがあります。

⚠ 注意

お使いのとき

乾電池のアルカリ液をなめた場合には、すぐうがいをし、医師に相談してください。

乾電池のアルカリ液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐに多量の水水道水などのきれいな水で洗い流してください。

本装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと本装置の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

次のような使い方はしないでください。

- じゅうたんや布団の上に置く。
- テーブルクロスなどをかける。
- 本棚、タンスの中、押入の中など風通しの悪い場所に置く。
- さかさまに置く。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず乾電池を抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源コードには、延長コードは使わないでください。火災の原因となることがあります。

お手入れをするときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

乾電池を取り外した場合は、小さなお子様乾電池をなめたり、誤って飲むことがないようにしてください。乾電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。

本装置に乗らないでください。特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。

● お願い

取り扱いについて

ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからがきしてください。

落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

バス配線用ユニットのボードはんだ面に直接手をふれないように注意してください。けがの原因となります。

本装置に内蔵しているバス配線用ユニットを取り外すときは、必ず本装置の電源を切ってから行ってください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

STOP お願い

置き場所について

製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本装置が正常に動作しないことがあります。

電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音等が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けます）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本装置の設置場所を移動してみてください。

硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本装置の寿命が短くなることがあります。

STOP お願い

お使いのとき

INSナンバー・ディスプレイのご利用に際しては、郵政省の定める「発信者情報通知サービスの利用における発信者個人情報の保護に関するガイドライン」を尊重してご利用願います。

本装置プラスチック部品の一部に、光の具合によってはキズに見える部分があります。プラスチック部品の製作過程で生じることがあるものですが、構造上および機能上は問題ありません。安心してお使いください。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書の構成

導入・電話活用編

- 1 お使いになる前に
ご使用になる前に知っておいていただきたいことをまとめています。
- 2 アナログ通信機器の利用
本装置に接続したアナログ通信機器で利用できる機能とその使いかたを説明しています。
- 3 INSネット64サービスの利用
INSネット64の各種サービスを利用するための手順を説明しています。

パソコン活用編

- 1 データ通信を行う
インターネットなど、本装置で利用できるデータ通信について説明しています。
- 2 USBポートを使う
USBポートにパソコンを接続して使用するときに必要な設定や、USBポートで利用できる便利な機能について説明しています。
- 3 USBネットワーク
本装置のUSBポートに2台のパソコンを接続して行うUSBネットワークについて説明しています。
- 4 Dチャンネルパケット通信
Dチャンネルパケット通信を利用するときの手順を説明しています。

パソコン設定編

- 1 Windowsでの設定
(Windows[®] 95 / Windows[®] 98 / Windows[®] 2000 / Windows NT[®] 4.0)
Windows[®] 95 / Windows[®] 98 / Windows[®] 2000 / Windows NT[®] 4.0用の
イーザーセットソフトのインストールと操作を説明しています。
- 2 Mac OSでの設定
Mac OS用のイーザーセットソフトのインストールと操作を説明しています。
- 3 汎用的な設定方法
本装置がサポートしているATコマンドについて説明しています。
- 4 こんなときは
本装置の設定をお買い求め時の状態に戻す方法や、故障かな？と思ったときの確認方法などを説明しています。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書を読む順序

ご利用になりたい機能により、以下の順序でお読みください。

導入・電話活用編「1 お使いになる前に」

最初にお読みください。機器の接続方法、最初に行う日付、時刻の設定などを説明しています。

電話機やファクスを接続して使うとき

導入・電話活用編「2 アナログ通信機器の利用」

本装置に接続した電話機やファクスで利用できる機能や操作について参照してください。また、アナログポートに関する設定を電話機から行う方法は、この章の「電話機から設定を行うには」で説明しています。

導入・電話活用編「3 INSネット64サービスの利用」

INSネット64の各種サービスを利用する方、本装置で利用できるINSネット64サービスについて知りたい方は、参照してください。

また、以下の機能については、それぞれの説明箇所を必要に応じて参照してください。

- Dチャンネルパケット通信 パソコン活用編「4 Dチャンネルパケット通信」
- USBネットワーク パソコン活用編「3 USBネットワーク」
- 本装置の通信機能の詳細 パソコン活用編「1 データ通信を行う」
- OCNエコノミーの利用 パソコン活用編「1 データ通信を行う」

パソコンを接続してインターネットなどのデータ通信を行うとき

「インターネット接続ガイド」(別冊)

本装置を使用してインターネットに接続するまでのパソコン操作を、一般的な手順ののっとり説明しています。

導入・電話活用編「3 INSネット64サービスの利用」

ダイヤルイン、サブアドレスについては、この章の「複数の電話番号を使い分けるには」「サブアドレスで特定の電話機やパソコンを呼び出すには」を参照してください。

パソコン活用編「1 データ通信を行う」
「2 USBポートを使う」

「インターネット接続ガイド」(別冊)に書かれていない、本装置のデータ通信機能(USBポートの使用方法)などについてさらに知りたい方は、参照してください。

電子マニュアルの見かた

Acrobat Reader Ver3.0J以上をお持ちの方は、CD-ROMをセットして表示された「取扱説明書」または「インターネット接続ガイド」または「接続早わかりガイド」をクリックしてください。

Acrobat Readerをお持ちでない方は、CD-ROMにあるReaderフォルダの中のAcrobat Reader 4.0をインストールしてください。

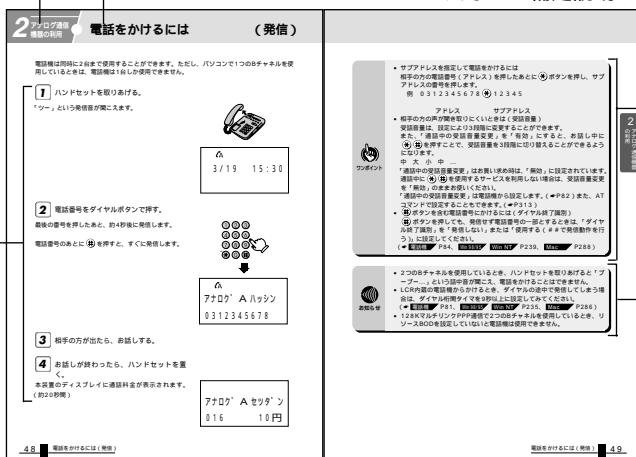
操作説明のページの構成

活用編を例に説明します。

章タイトル
章ごとにタイトルが
付けられています。

タイトル
目的ごとにタイトル
が付けられています。

ワンポイント
知っておくと便利な事
項、操作へのアドバイ
スなどの補足説明です。



操作手順説明
順番に操作を説明します。

お知らせ
この表示は、本装置を取り扱う
うえでの注意事項を示します。

お願い
この表示を無視して、誤った取
り扱いをすると、本装置の本来
の性能を発揮できなかったり、
機能停止を招く内容を示します。

参照の見かた

電話機 ...電話機から設定を行うとき参照

Win 98/95 ...Windows® 98 / Windows® 95のパソコンから設定を行うとき参照

Win NT ...Windows NT® 4.0のパソコンから設定を行うとき参照

Mac ...Mac OSのパソコンから設定を行うとき参照

AT ...ATコマンドで設定を行うとき参照

目次

安全にお使いいただくために必ずお読みください	2
この取扱説明書の見かた	9
この取扱説明書の構成	9
この取扱説明書を読む順序	10
電子マニュアルの見かた	10
操作説明のページの構成	11
目次	12

導入・電話活用編

1 お使いになる前に

特長	22
セットを確認してください	24
各部の名前	26
停電になったときのために	31
停電用の電池をセットする	31
電池パックの取り扱い	33
電池パック回収のお願い	33
接続します	34
接続の手順	34
パソコンを接続するケーブル	36
接続上の注意	38
INSネット64用通信機器を接続する（バス配線）	40
日付・時刻を設定します	44
日付・時刻を設定する	44
必要な設定を行います	47

2 アナログ通信機器の利用

電話をかけるには（発信）	48
短縮ダイヤルで電話をかけるには（短縮ダイヤル）	50
かけてきた相手にかけ直すには（着信履歴発信）	51
電話機で着信履歴表示 / 着信履歴発信する	51
本装置で着信履歴表示 / 着信履歴発信する	53
電話を受けるには（着信）	56
登録した電話番号の相手のみ受けるには（相手番号識別着信）	58
相手番号識別着信とは	58
相手番号識別着信を設定する	58

迷惑電話の着信音を鳴らないようにするには（迷惑電話防止）	60
迷惑電話防止とは	60
迷惑電話防止を設定する	60
電話番号により着信するポートを振り分けるには（マイプライベート着信）	62
マイプライベート着信とは	62
マイプライベート着信を設定する	62
電話番号により着信音を変えるには（疑似なりわけ）	64
疑似なりわけとは	64
疑似なりわけを設定する	64
通話中にかかってきた電話を受けるには（疑似キャッチホン）	66
3人で話すには（疑似三者通話）	68
外からの電話を別の相手に転送するには（疑似着信転送）	70
疑似着信転送を設定する	70
外出中や就寝中の機能を設定するには（おでかけ設定）	72
おでかけ設定とは	72
おでかけ設定ボタンの機能を選択する	72
おでかけ設定を設定する	74
内線でお話するには（内線通話）	75
電話を内線で取りつぐには（内線転送）	77
ディスプレイのバックライトを設定するには	80
常時点灯に設定する	80
電話機から設定を行うには（イージーテレホン設定）	81
機能番号対応表	81
電話機からの設定操作	85
設定例（アナログポートの装置）	87
設定例（ダイヤルイン）	88

3 INSネット64サービスの利用

INSネット64サービスを利用した機能	90
INSネット64のサービスを利用したいいろいろな機能	90
3つの電話番号を使い分けるには（i・ナンバー）	92
必要なINSネット64の契約	92
本装置で必要な設定	92
電話機から設定する例	94
複数の電話番号を使い分けるには（ダイヤルイン）	95
必要なINSネット64の契約	95
本装置で必要な設定	95

目次

サブアドレスで特定の電話機やパソコンを呼び出すには	97
各ポートのサブアドレス	97
発信者番号通知とは	98
INSナンバー・ディスプレイを利用するには	99
電話がかかってきたとき	99
サービスを利用した便利な機能	100
フレックスホンを利用するには	101
フレックスホンとは	101
通話中に別の相手の方の電話を受ける（INSキャッチホン）.....	102
通話中の電話を転送する（通信中転送）.....	102
3人でお話する（三者通話）.....	104
外からの電話を別の相手の方に転送する（着信転送）.....	104
通話 / 通信料金の累計を表示するには	105
その他のサービスを利用するには	107
モデムダイヤルイン	107
INSなりわけサービス	109
INSボイスワープ / INSボイスワープセレクト	110
キャッチホン・ディスプレイ	111
INSマジックボックス	114

パソコン活用編

1 データ通信を行う

インターネットで利用できる通信モード	116
非同期 (38.4 kbit/s、57.6 kbit/s)	116
非同期 / 同期PPP変換 (64 kbit/s)	116
128KマルチリンクPPP	117
マルチアクセス	121
PIAFSモード (PIAFS2.0準拠)	123
通信機能詳細	124
HLC (高位レイヤ整合性)	124
CTI機能	125
ACCM	130
フリーコールバック	130
応答平均化	132
端末速度自動検出	133
無通信監視タイマ	133
強制切断タイマ	133
フロー制御	134
異速度通信	134
非同期 / 同期自動判別着信	134
CS遅延時間	135
手動強制切断	135
OCNエコノミーを利用するには	136
OCNエコノミーを設定する	136
設定スイッチを変更する	136
OCNエコノミーに接続する	137
RS-232Cポートインタフェース	138

目次

2 USBポートを使う

USBポートでデータ通信を行うには	
(Windows® 98 / Windows® 95をご利用の場合)	139
USBポートを使用する	139
Windows® 95のバージョン確認	140
USBソフトウェアの確認	141
USBポート用アダプタのインストール	144
USBポートでデータ通信を行うには	
(Macintoshをご利用の場合)	154
Mac OSのバージョンを確認する	154
USBドライバを手動でインストールする	155
本装置とパソコンを接続する	156
ご利用上の注意	157
USBポートのパソコンで着信履歴にかけ直すには (着信履歴発信)	159
着信履歴 for USBをインストールする	159
着信履歴を見る	161
着信履歴発信する	162
着信履歴から迷惑電話防止番号を登録する	164
簡易電話帳を登録する	165
複数のパソコンで同時にインターネットを利用するには (MUX機能)	167
MUX機能とは	167
MUX機能でインターネットに接続する	169
MUXステータス for USBをインストールする	170
回線状態を確認する	173
ポート状態を確認する	174
チャンネル状態を確認する	174
リンクを削除する (128K : 2Bチャンネル 64K : 1Bチャンネル)	175
リンクを追加する (64K : 1Bチャンネル 128K : 2Bチャンネル)	175
USBポートに関するQ&A	176
インストール前	176
インストール	177
データ通信利用時	177
ユーティリティ	179
USBネットワーク	179
その他	181

3 USBネットワーク

USBネットワークとは	183
システム構成	183
利用例	185
必要な準備	186
サーバを設定するには	187
サーバの設定手順	187
ダイヤルアップサーバをインストールする (Windows® 98の場合)	187
Microsoftネットワーク共有サービスとNetBEUIをインストールする	189
ネットワークを設定する	191
ダイヤルアップサーバを設定する	193
クライアントを設定するには	196
クライアントの設定手順	196
MicrosoftネットワーククライアントとNetBEUIをインストールする	196
ネットワークを設定する	199
接続を作成する	200
接続のプロパティを設定する	202
サーバへの接続を確認する	204
USBネットワークでファイル/プリンタを共有するには	205
ファイルを共有する	205
プリンタを共有する	205

4 Dチャンネルパケット通信

パケット通信を利用するには	206
パケット通信を行うには	207
ATコマンドによる設定例	207
パケット通信時のディスプレイの見かた	209

パソコン設定編

1 Windowsでの設定

(Windows[®] 95 / Windows[®] 98 /
Windows[®] 2000 / Windows NT[®] 4.0)

イメージウィザードで設定するには	212
INSメイトV70 MAXユーティリティをインストールする	212
イメージウィザードを起動する	216
アナログポートを設定する	219
設定した内容を保存する (イメージバックアップ).....	223
イメージセットソフトで設定するには	224
イメージセットソフトをインストールする	224
イメージセットソフトを起動 / 終了する	224
着信番号を登録するには (番号テーブル設定).....	229
契約者回線番号 / 追加番号を登録する	229
i・ナンバーを設定する	231
アナログポートを設定するには	232
各アナログポート (Aポート / Bポート / Cポート) を設定する	232
アナログポート共通の機能を設定する (着信).....	236
アナログポート共通の機能を設定する (その他).....	239
RS-232Cポート / USBポートを設定するには	240
各RS-232Cポート / USBポートを設定する	240
MUX機能を設定する.....	246
RS-232Cポート / USBポート共通の機能を設定する	249
相手の方の電話番号を登録するには (電話帳).....	250
短縮ダイヤルを登録する	250
マイプライベート着信の番号を登録する	251
相手番号識別着信番号を登録する	252
疑似なりわけ番号を登録する	253
迷惑電話防止番号を登録する	254
Dチャンネルバケット通信を設定するには	255
PADパラメータ (P1 ~ P9) を設定する	255
PADパラメータ (P10 ~ P18) を設定する	256
共通設定 (P30 ~ P46) を設定する.....	257
共通設定 (P51 ~ P62) を設定する.....	258
本装置のバージョンアップを行うには	260
バージョンを確認する	260
バージョンアップを行う	261

2 Mac OSでの設定

イーゼルウィザードで設定するには	264
INSメイトV70 MAXユーティリティをインストールする	264
イーゼルウィザードを起動する	266
アナログポートを設定する	267
イーゼルセットソフトで設定するには	272
イーゼルセットソフトをインストールする	272
イーゼルセットソフトを起動/終了する	272
着信番号を登録するには (番号テーブル設定)	278
契約者回線番号/追加番号を登録する	278
i・ナンバーを設定する	280
アナログポートを設定するには	281
各アナログポート (Aポート/Bポート/Cポート) を設定する	281
アナログポート共通の機能を設定する (着信)	285
アナログポート共通の機能を設定する (その他)	288
RS-232Cポート/USBポートを設定するには	289
各RS-232Cポート/USBポートを設定する	289
MUX機能を設定する	295
RS-232Cポート/USBポート共通の機能を設定する	298
相手の方の電話番号を登録するには (電話帳)	299
短縮ダイヤルを登録する	299
マイプライベート着信の番号を登録する	300
相手番号識別着信番号を登録する	301
疑似なりわけ番号を登録する	302
迷惑電話防止番号を登録する	303
Dチャンネルパケット通信を設定するには	304
PADパラメータ (P1~P9) を設定する	304
PADパラメータ (P10~P18) を設定する	305
共通設定 (P30~P46) を設定する	306
共通設定 (P51~P62) を設定する	307
本装置のバージョンアップを行うには	309
バージョンを確認する	309
ファームウェアファイルのダウンロード	309
バージョンアップを行う	310

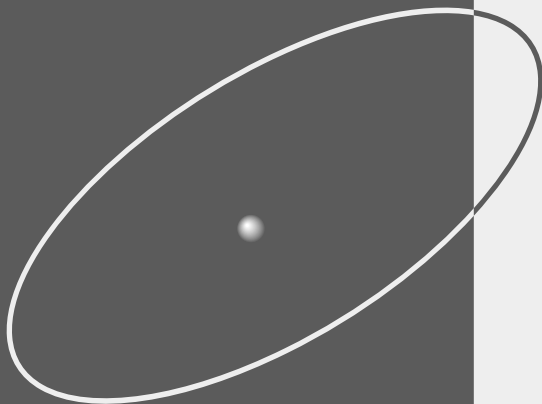
目次

3 汎用的な設定方法

ATコマンド	313
ATコマンド詳細	318
リザルトコード一覧	355
レジスター一覧	357
切断理由一覧	358
診断情報一覧	359
生成源一覧	361
パケット通信コマンド	362
ATコマンド詳細 (Dチャンネルパケット通信)	362
V.25bisコマンド	370
X.28PADコマンド	374
レジスター一覧	384
切断理由一覧	390
診断符号一覧	392
パケット通信設定記入シート	394

4 こんなときは

オプションをご利用になるには	396
設定を初期化するには	397
故障かな?と思ったら	399
設定記入シート	406
自己診断	415
診断項目	415
自己診断を行う	415
索引	417
仕様	422
保守サービスのご案内	423



導入・電話 活用編

1
お使いになる前に

2
アナログ通信機器
の利用

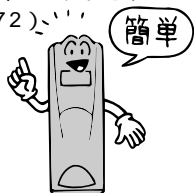
3
INSネット64
サービスの利用

1. お使いになる前に	22
2. アナログ通信機器の利用	48
3. INSネット64サービスの利用	90

INSメイトV70 MAXは、OCN (Open Computer Network) ダイアルアクセスなどのインターネットプロバイダに接続するためのターミナルアダプタです。

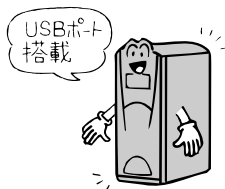
ボタン1つで簡単、おでかけ設定

おでかけ設定ボタンを押すだけで、外出中や就寝中で電話に出られないときの転送や着信音のセットをすることができます。(●P72)



パソコンとの接続を便利にするUSBポートを2基搭載

本装置とパソコン間を12 Mbit/sの高速で接続し、128 kbit/sインターネット接続のベストパフォーマンスを引き出します。(●P139)



充実した電話機能

アナログポートを3つ装備。内線通話、内線転送、グローバル着信選択、疑似キャッチホンなどが利用できるほか、フレックスホンなどのINSネット64サービスにも対応しています。(●P90) また、ナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器をアナログポートに接続して相手の方の電話番号を表示させることができます。



2つのUSBポートとRS-232Cポートでクライアント・サーバネットワーク接続

2つのUSBポートとRS-232Cポートに接続した3台のパソコンをネットワーク接続し、プリンタやファイルを共有することができます。(●P183)



3台のパソコンを接続できますが、同時にやり取りできるのはそのうちの2台となります。

イージーバージョンアップでオンラインバージョンアップ

ファームウェアのバージョンアップをオンラインで簡単に行うことができます。(●P260、309) バージョンアップは、「NTT通信機器商品のご案内」ホームページにアップロードしていく予定です。
「<http://www.ntt-east.co.jp/ced>」
(NTT東日本)
「<http://www.ntt-west.co.jp/kiki>」
(NTT西日本)

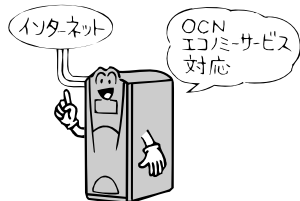
バックライト液晶ディスプレイ搭載

ディスプレイに電話番号、通信料金、通信状況などがわかりやすい文字や絵文字で表示されます。(●P28)



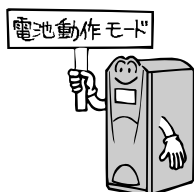
OCNエコノミー対応

OCNエコノミーサービスに対応していますので、インターネットへの常時接続が可能です。(●P136)



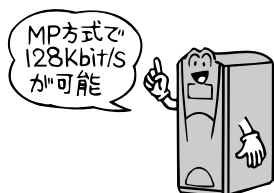
安心の電池動作モード

単3アルカリ乾電池または電池パック(別売)を使用して、停電のときも電話やデータ通信が利用できる電池動作モードを搭載しています。(●P31)



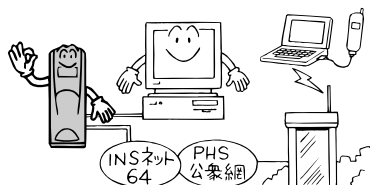
128KマルチリンクPPP通信

Multilink Protocol (MP) 方式により、INSネット64の2つのBチャネルを使って128 kbit/sの高速通信ができます。(●P117)



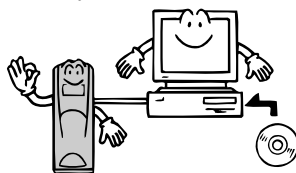
PIAFS対応

本装置に接続したパソコンとPHSデータ端末とで通信ができます。(●P123)



イージーウィザードとイージーセットソフトで簡単設定

イージーウィザードがご利用になれる場合は、インターネットの接続の設定を簡単に行うことができます。また、アナログポート、RS-232Cポートの細かい設定もイージーセットソフトで簡単に行うことができます。(●P212、224、264、272)



イージーウィザードには、Windows® 98 / Windows® 95版、Mac OS版があります。

2台のパソコンから同時アクセス(マルチアクセス)

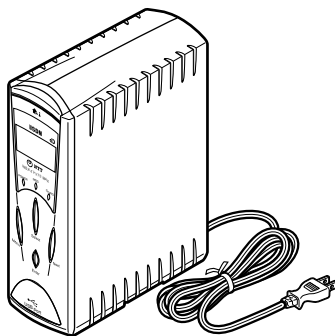
INSメイトV70 MAXに接続した2台のパソコンから、別々のプロバイダに同時にアクセスできます。(●P121)

MUX機能

同じプロバイダなら、Bチャネル1本で、3台のパソコンから同時にアクセスできます。パソコンを2台使っているため、Bチャネル1本が空いているため、電話機やファクスを使用することができます。(●P167)

セットを確認してください

本体

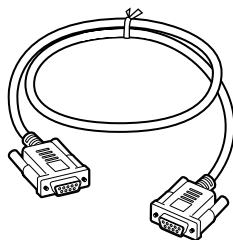


INSメイトV70 MAX

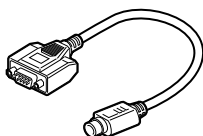
付属品



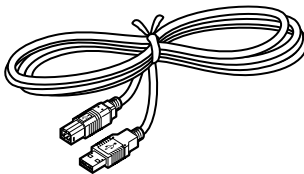
電話機コード (6ピン)
(1本: 約3 m)



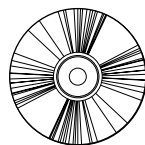
RS-232Cケーブル
(D-SUB9ピン)(1本)



Mac変換ケーブル
(1本)



USBケーブル
(1本: 約2 m)



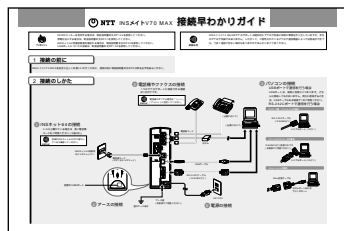
INSメイトV70 MAX
ユーティリティ集
CD-ROM (1枚)



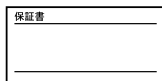
取扱説明書 (1部)



インターネット
接続ガイド (1部)



接続早わかりガイド (1部)



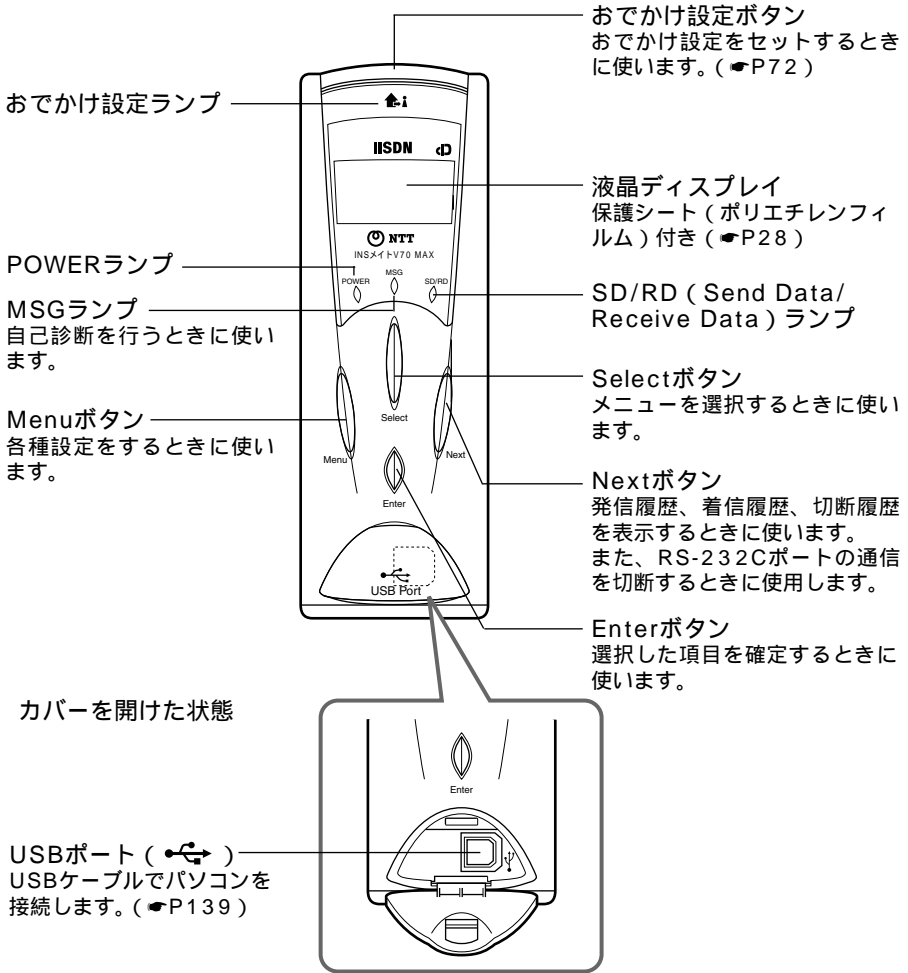
保証書（1枚）



NTT通信機器
お取扱相談センタシール（1枚）

セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所へご連絡ください。

【前面】

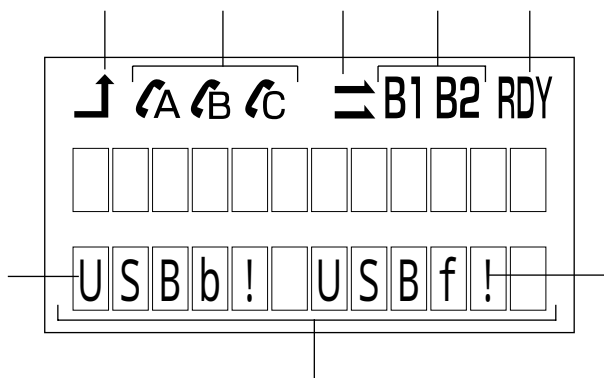


【ランプ表示】

ランプの種類	ランプのつき方（色）	本装置の状況
おでかけ設定ランプ	点灯（赤）	おでかけ設定が設定されているとき
	点滅（赤）	おでかけ設定をセッ中に電話がかかってきたとき <ul style="list-style-type: none"> •おやすみモードのときは、いったん着信があると、その後おでかけ設定ランプは点滅したままとなります。 •フラッシュモードのときは、着信があったときのみ点滅します。
SD/RD（Send Data/Receive Data）ランプ	点滅（緑）	パソコンから本装置にデータを送信しているとき
	点滅（赤）	本装置からパソコンにデータを送信しているとき
POWERランプ	点灯（緑）	電源が入っているとき
	速い点滅（緑）	電池動作モードで動作しているとき
	遅い点滅（緑）	電池動作モードで動作中に電池残量が少なくなったとき
MSGランプ	点滅（緑）	自己診断の結果が正常だったとき
	点灯（赤）	自己診断の結果に異常があったとき

USBポートでデータ通信を行っているときは点灯 / 点滅しません。

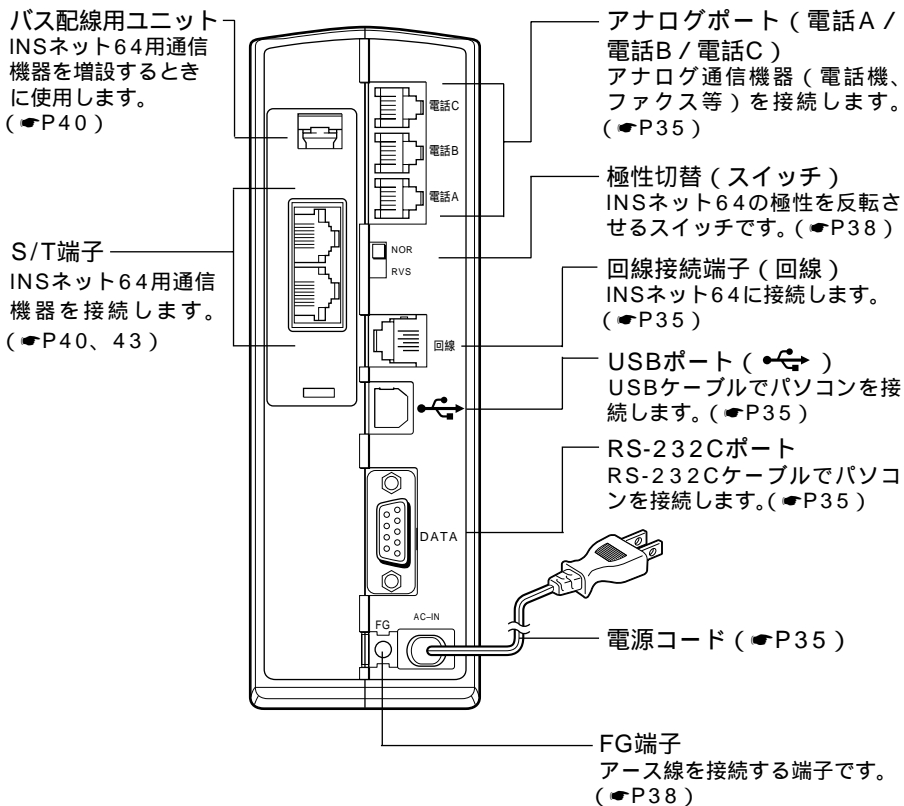
【液晶ディスプレイの見かた】



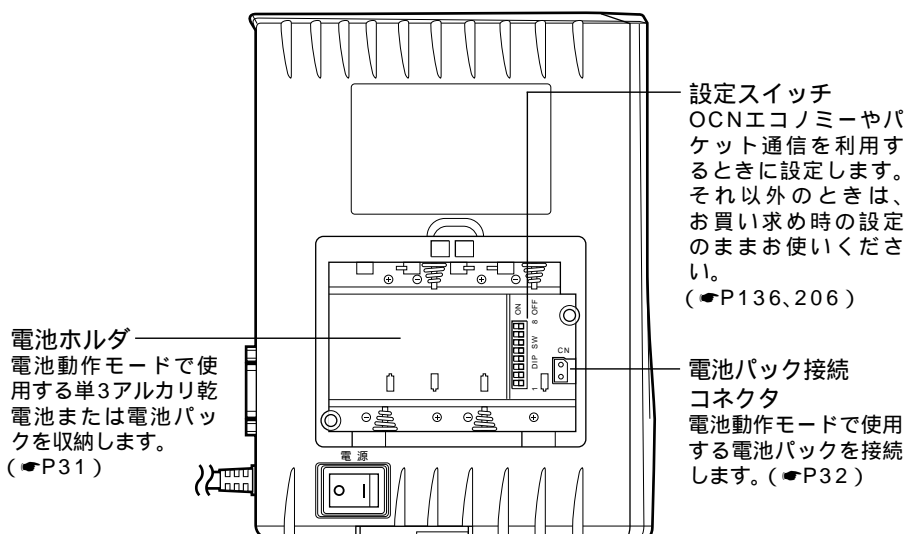
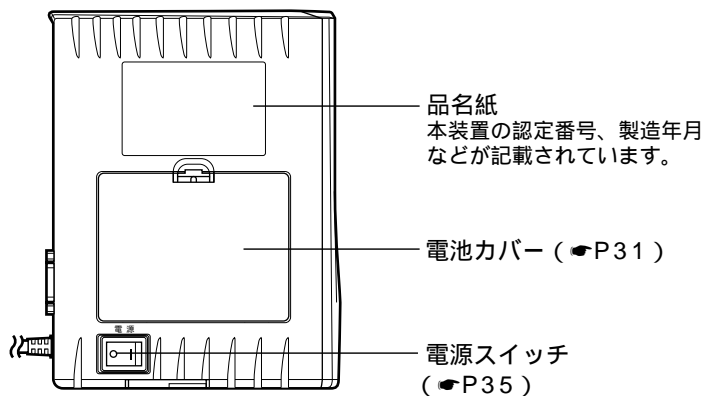
こんなとき表示されます

↑	疑似着信転送またはフレックスホンサービスの着信転送が設定されているとき
Ⓐ Ⓑ Ⓒ	アナログ通信機器を使用しているとき（ABCは使用中のアナログポート）
{ 一 二	1つのBチャンネルでデータ通信中のとき（64 kbit/s）
	2つのBチャンネルでデータ通信中のとき（128 kbit/s）
B1 B2	使用しているBチャンネル
RDY	パソコンのER信号がONのとき
USB b !	背面のUSBポートに接続されたパソコンから通信できる状態のとき
USB f !	前面のUSBポートに接続されたパソコンから通信できる状態のとき
文字や数字	日付・時刻、発信番号、着信番号、本装置の状態などの表示

【背面】



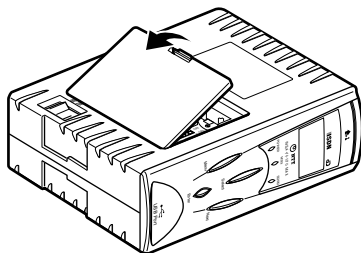
【左側面】



停電したときも、電話をかけたりデータ通信ができるようにするためには、市販の単3アルカリ乾電池（4本）または指定の電池パック（1個：別売）を本装置にセットします。単3アルカリ乾電池または電池パックはお客様で、ご用意願います。

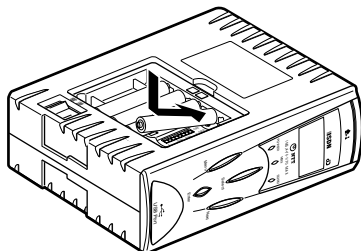
停電用の電池をセットする

- 1 電池カバーのツメを押し下げながら、持ち上げるようにして開ける。



- 2 電池を入れる。

単3アルカリ乾電池の場合
市販の単3アルカリ乾電池（4本）
を電池の極性に注意して、電池ホルダ
に入れます。



乾電池のプラス・マイナスの向きを確かめてください。

STOP
お願い

- 電池は使いかたを誤ったり、使用する環境によっては、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。停電がない場合は電池を取り外して直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管しておき、停電が発生したときに電池を入れて使用していただくことをお勧めいたします。

⚠ 注意

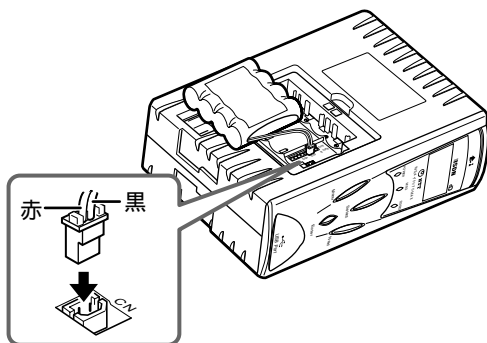
長期間の停電で乾電池を使いきった場合は、乾電池を交換してください。使いきった乾電池をそのまま使用しますと、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。

停電がない場合でも、1年に1回の割合で新しいアルカリ乾電池と交換してください。長期間乾電池を装着したままでご使用になると、液漏れによるトラブルが発生するおそれがあります。

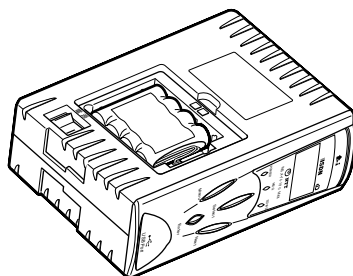
電池を入れた電池ホルダ側の側面を、発熱する機器の近くや直射日光、高温、高湿の場所に置かないでください。また、通風孔をふさがないでください。電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。その他、電池に書かれている注意事項をよくお読みのうえご使用ください。

（次ページへ続く）

電池パック（別売：INSメイトV70 MAXNi-Cdバッテリーパック）の場合指定の電池パック（1個）の接続コードを接続コネクタに差し込んでから、電池パックをはめ込みます。



コネクタの向きが違うと差し込みません。



接続コードを電池パックのすき間に押し込みます。

3 電池カバーを取り付ける。

停電時の使用可能時間の目安

条件		使用可能時間
単3アルカリ乾電池（未使用）	待ち受け	約4時間
	連続通話	約2時間
電池パック（フル充電）	待ち受け	約1時間
	連続通話	約30分



ワンポイント

- 停電時に使用できる機能
 - ・アナログAポートに接続している電話機やファクス
 - ・RS-232CポートやUSBポートに接続しているパソコン（停電時バッテリー駆動の機器）
 - ・S/T端子に接続している停電対応のINSネット64用通信機器1台
- アナログBポート、アナログCポートは使用できません。



お知らせ

- 本装置の電源がパソコンの電源と連動して切れるようにすると、電源が切れるたびに電池動作モードになるため電池が早く消耗してしまいます。本装置の電源は、パソコンから独立して取得するようにしてください。
- 電池パックは、お買い求め時は充電されていません。本装置にセットすると自動的に充電されます。充電が完了するまでには、約2日間かかります。充電中に停電があったときは、電池動作モードに切り替わらなかったり、使用できる時間が短くなることがありますのでご注意ください。停電時に消耗しても、停電復旧後は自動的に充電されますので、電池パックは本装置にセットしたままお使いください。
- 停電中に、アナログBポート、アナログCポートに接続された電話機のハンドセットを取りあげると、電池が早く消耗します。ハンドセットは置いたままにしてください。
- S/T端子、RS-232Cポートに接続した機器の種類によっては、電池の消耗を早めるものがありますので、停電時は、必要でない機器を本装置から外してください。
- POWERランプが遅く点滅し始めると電池の残量が少なくなっています。通信が途中で切断される可能性がありますので、通信を終了してください。
- 電池装着時および3か月に1回程度、電池カバーを開けて電池の外観の検査を行うことをお勧めします。

電池パックの取り扱い

電池パックは消耗品です。使用頻度にもよりますが、約2年程度ご使用になれます。長時間充電しても、停電時に操作が不安定になるようでしたら、新しい電池パックと交換してください。電池パックは停電時の動作を保証するものですので、早めに交換するようにしてください。

電池パック回収のお願い



Ni-Cd

電池パックはリサイクル可能なニカド電池です。交換の際は当社のサービス取扱所へご持参いただくか、当社の販売担当者にお渡しいただくなど、リサイクルの推進にご協力をお願いします。



危険

電池パックについて

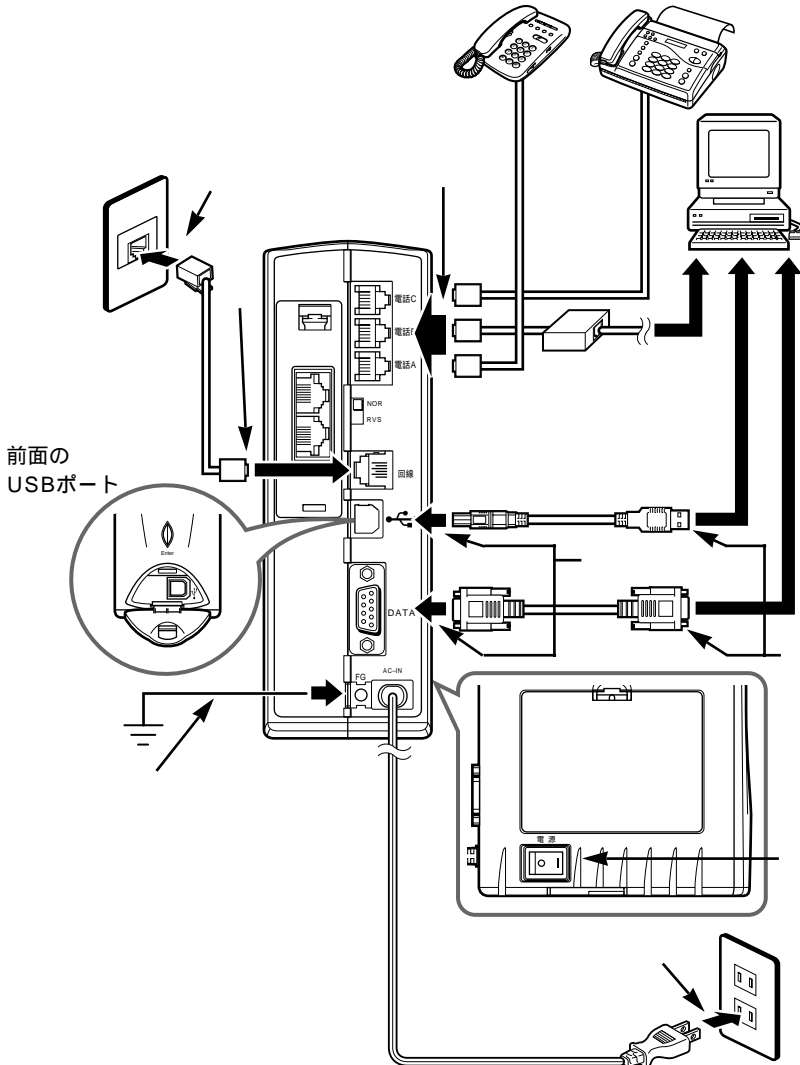
電池パックの取扱いは、次の点にご注意ください。

- ・必ず専用のものをお使いください。
- ・取り出して充電しないでください。
- ・火の中に投入したり、分解・加熱しないでください。
- ・充電は、本装置にセットして行ってください。
- ・端子を短絡させないでください。

本装置は、INSネット64に接続して使用します。INSネット64でないときは別途INSネット64のお申し込みが必要です。INSネット64については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

接続の手順

アナログ通信機器、パソコンを接続する例



付属の電話機コード（6ピンモジュラコード）を回線接続端子（回線）につなぐ。
外付けのDSUにINSメイトV70 MAXを接続するには（●P43）
電話機コードをINSネット64回線用モジュラジャックにつなぐ。
アナログ通信機器の電話機コードをアナログポート（電話A / 電話B / 電話C）につなぐ。
RS-232CケーブルまたはUSBケーブルのどちらかをパソコンにつなぐ。
RS-232Cケーブルはシリアルポートに、USBケーブルはUSBポートに接続してください。使用するケーブルは、パソコンの種類や接続ポートにより異なります。（●P36）
パソコンに接続したケーブルを、本装置のRS-232CポートまたはUSBポートにつなぐ。
RS-232CケーブルはRS-232Cポートに、USBケーブルはUSBポートに接続してください。
USBポートは背面と前面に2つあります。どちらに接続してもかまいません。両方に接続するときは、USBケーブルをお客様で1本ご用意ください。
FG端子にアース線をつなぐ。
アース線は付属していませんので、あらかじめご用意のうえ、壁や電源コンセントのアース端子に接続してください。
電源コードの電源プラグを電源コンセント（AC100V）に差し込む。
電源スイッチの「|」側を押して、電源を入れる。
POWERランプが緑色に点灯します。



お知らせ

- 接続のときは電源を切っておいてください。すべての接続（●P34～43）が終了してから、電源を入れてください。

接続図では、アナログ通信機器、パソコンの接続を概念的に示しています。実際の接続方法は、使用する機器や設置する場所などの使用状況に合わせる必要があるため、図と異なる場合があります。

パソコンを接続するケーブル

本装置とパソコンを接続するときは、以下の付属ケーブルを使用してください。

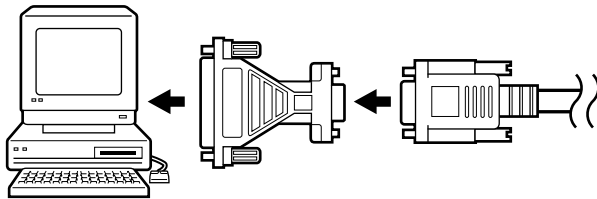
RS-232Cポートに接続する場合

D-SUB9ピン（DOS/Vパソコン等）

付属のRS-232Cケーブルで、パソコンのシリアルポート（9ピン）に接続します。

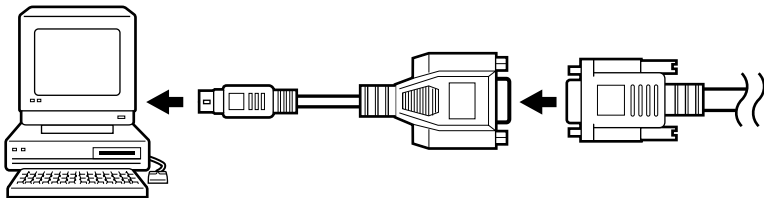
D-SUB25ピン（NEC PC-9800シリーズ）

付属のRS-232CケーブルとD-SUB25ピン変換コネクタ（お客様でご用意ください。）で、パソコンのシリアルポート（25ピン）に接続します。



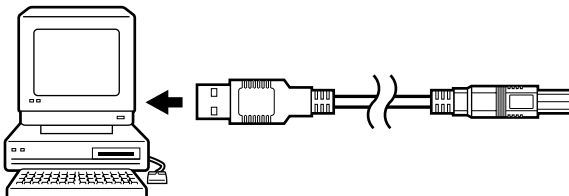
Macintosh

付属のMac変換ケーブルで、Macintoshのモデムポートまたはプリンタポートに接続します。



USBポート

付属のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートに接続します。





お知らせ

- USBポートは、背面と前面どちらに接続してもかまいません。また、それぞれにパソコンを接続することもできます。



お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って接続してください。
- 変換コネクタを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。

接続上の注意

INSネット64の接続

INSネット64以外の回線には接続しないでください。接続には付属品の電話機コードを使用してください。

INSネット64と接続する前に電源を入れると、ディスプレイに「回線異常」と表示されますので、必ず手順どおりに接続してください。

手順どおりに接続しても「回線異常」と表示された場合は、一度電源を切って、極性切替（スイッチ）を「RVS」に切り替えて電源を入れ直してください。

電源の接続

電源プラグは、AC100 V（50 Hzまたは60 Hz）の電源コンセントに接続してください。パソコンなどのスイッチに連動するコンセントに接続した場合、電源が切られると電池動作モードになり、電池が早く消耗しますのでご注意ください。

パソコンの接続

パソコンとの接続には付属品のケーブルを使用してください。ノートパソコン等の特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。

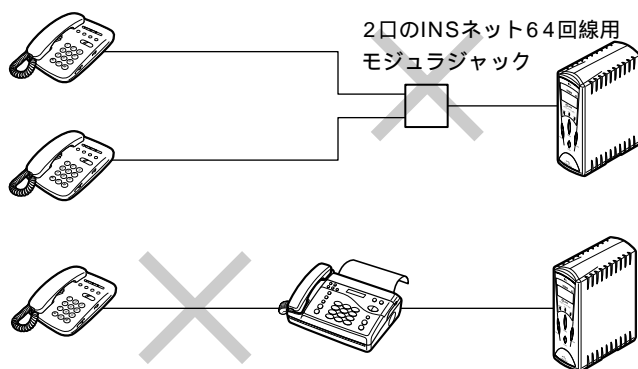
アースの接続

落雷等の電撃事故による人身、装置への損傷を防止するために、FG端子に必ずアース線を接続してください。

電話機・ファクスの接続

アナログポート（電話A / 電話B / 電話C）には、一般のアナログ回線に接続するプッシュ式（PB）のアナログ通信機器（電話機、ファクス等）が接続できます。

下図のように複数のアナログ通信機器を接続した場合、接続したアナログ通信機器が正常に動作しない場合がありますので、1つのアナログポートにはアナログ通信機器を1台のみ接続してください。





お知らせ

- ダイヤル式（DP）のアナログ通信機器は、使用できません。
- アナログポートには、（財）電気通信端末機器審査協会の適合認証を取得しているアナログ通信機器を接続してください。
- 一般のアナログ回線との仕様の違いにより、お使いいただけないアナログ通信機器もあります。
- 料金管理装置などを接続してご使用の場合、通信事業者からの通信料金の請求額とは必ずしも一致しないことがありますので、ご注意ください。
- INSネット64回線用モジュラジャック式の配線工事には資格が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。



お願い

- アナログ通信機器との接続に使用するケーブルの長さは、最長200 m（0.5 ）を目安としてください。
- 屋外に渡る配線は行わないでください。故障の原因になります。
- 機器の接続に使用するコード類は、機器に付属のものを使うか、接続する機器に適合したものを使用してください。

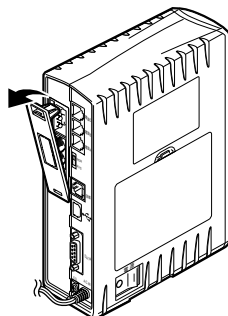
INSネット64用通信機器を接続する（バス配線）

INSメイトV70 MAXには、S/T端子が装備されていますので、INSネット64用通信機器（デジタル電話機、G4ファクス、TA等）を最大7台まで接続することができます。INSネット64用通信機器を接続するときは、あらかじめバス配線用ユニットの設定を行ってください。

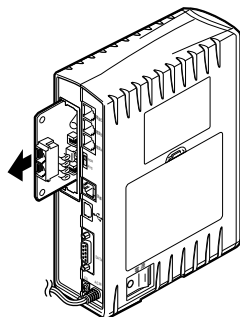
バス配線用ユニットの設定

INSメイトV70 MAXをご利用の場合、INSネット64用通信機器を接続する前に、接続する機器の台数によりバス配線用ユニットのスイッチSW1（終端抵抗）を設定する必要があります。

- 1 バス配線用ユニットのカバーのツメを押し下げながら、カバーを取り外す。

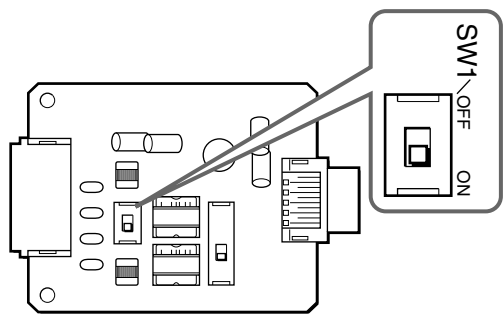


- 2 コネクタの部分を持って、バス配線用ユニットを本装置から取り外す。



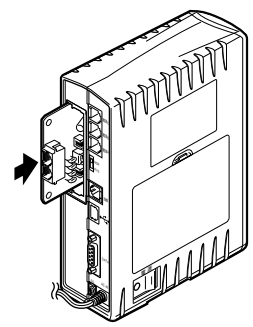
3 接続するINSネット64用通信機器の台数に合わせて、スイッチ（SW1）を設定する。

INSネット64用通信機器の接続台数	スイッチ(SW1)の設定
1～2台	ON (初期値)
3～7台	OFF

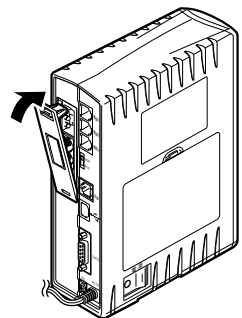


4 バス配線用ユニットを本装置に取り付ける。

無理に押し込まないように注意してください。



5 バス配線用ユニットのカバーを取り付ける。



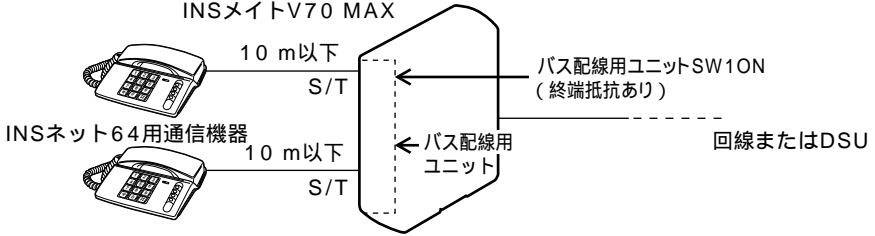
(次ページへ続く)

接続します

INSネット64用通信機器の接続

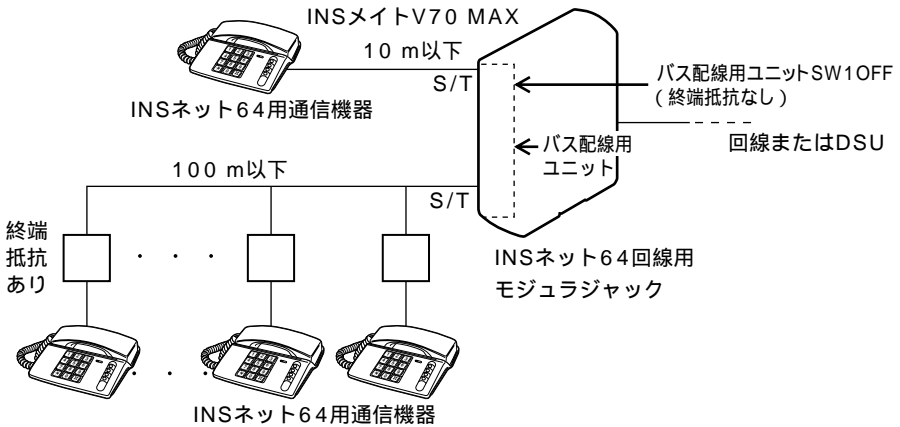
INSネット64用通信機器に付属している電話機コード（8ピン）で接続してください。

1～2台接続



接続ケーブルは10 m以下になるようにしてください。

3～7台接続



本装置から見て、最も遠いINSネット64回線用モジュラジャックには、必ず終端抵抗付きのINSネット64回線用モジュラジャックを使用してください。

- 終端抵抗とは

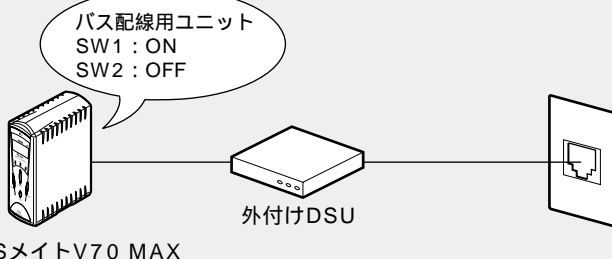
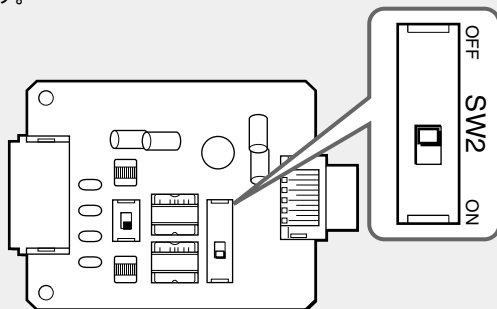
DSUから最も遠いINSネット64回線用モジュラジャックまたはINSネット64用通信機器に入れる抵抗です。回線の送受信線それぞれに入れて、信号波形を正常に保つ働きがあります。

- 外付けDSUにINSメイトV70 MAXを接続するには

外付けのDSUや他のDSU内蔵のTAにINSメイトV70 MAXを接続するときは、バス配線用ユニットのスイッチ（SW2：初期値はON）をOFFにして内蔵DSUを切り離します。S/T端子のどちらか一方をDSUと接続します。他方のジャックにはINSネット64用通信機器を接続することができます。



ワンポイント



お知らせ

- INSネット64用通信機器の接続は、配線が全長で150 m以下となるようにしてください。



お願い

- バス配線用ユニットを取り外した際は、以下のことに注意してください。
 - ・ 異物をスロット内に入れないでください。故障の原因となります。
 - ・ はんだ面に触れないようにしてください。けがをするおそれがあります。

接続が完了したら、電話機から日付・時刻の設定を行います。3つのアナログポートのうち、どれに接続した電話機でも設定できます。Windows® 98 / Windows® 95 / Windows NT® 4.0をご利用の場合は、イージーセットソフトを利用してパソコンで日付・時刻を設定することができます。(●P239)

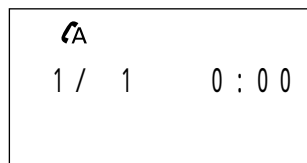
日付・時刻を設定する

- 1 アナログポートに接続した電話機のハンドセットを取り上げる。

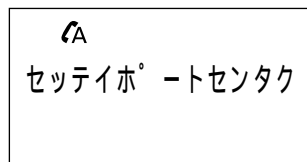
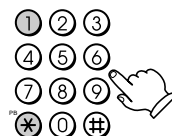
「ツーン」という発信音が聞こえます。



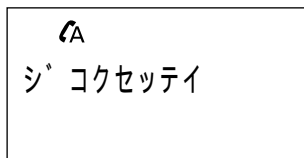
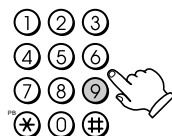
操作は、本装置のディスプレイを見ながら行ってください。



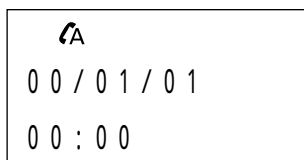
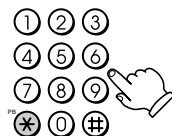
- 2 (＊) (＊) (1) (＊) をダイヤルボタンで押す。



3 ⑨を押す。



4 *ボタンを押す。



5 年、月、日、時、分の順にダイヤルボタンで押す。

月、日、時、分が1桁の場合は、0も入力します。

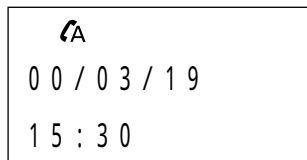
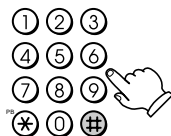
例 2000年 3月 19日 午後3時 30分
 ① ① ① ③ ① ⑨ ① ⑤ ③ ①

年 月 日 時 分
 (西暦下2桁) (24時間制)

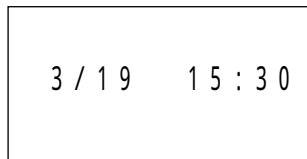
(次ページへ続く)

日付・時刻を設定します

6 **#** ボタンを押す。



7 ハンドセットを置く。



ワンポイント

- 操作を間違えたときは
ハンドセットを置いて、最初からやり直してください。
- 入力が誤っていると、「プププ…」という音が鳴ります。正しく入力してください。



お知らせ

- 日付・時刻を設定するときは、本装置のそばに電話機を置き、本装置のディスプレイを見ながら行ってください。
- 設定を行う電話機以外の、他のアナログポートに接続している電話機は、日付・時刻の設定を行うときハンドセットを置いた状態にしてください。
- 時刻はあくまで目安としてご利用ください。誤差が生じたときは、時刻を合わせ直してください。

本装置は、アナログポートに電話機を接続したあとは、お買い求め時の設定のままで、すぐにお使いになれます。ただし、次のようなご利用方法をされる場合は、設定の変更が必要です。ご使用になる前に、参照ページを読んで設定を変更してください。

最初に設定が必要な場合

以下の項目に該当する場合は、参照ページを読んでから設定を行ってください。

機器を接続しないアナログポートがある

お買い求め時は、すべてのアナログポートが「電話機を使用する」設定になっています。このままの設定で使用すると、電話がかかってきたとき、電話機が接続していないアナログポートに対しても本装置が呼び出す動作を行います。このため、電話機を1台のみ接続しているときに、その1台がお話中でもかけてきた相手の方は、呼出音が聞こえます。話中音が聞こえるようにするためには、電話機を接続していないアナログポートに「使用しない」を設定してください。

(● 電話機 P 87、 Win 98/95 Win NT P 232、 Mac P 281)

アナログポートにファクスやモデムを接続する

ファクスやモデムを接続したアナログポートに「ファクス/モデムを使用する」を設定してください。

(● 電話機 P 87、 Win 98/95 Win NT P 232、 Mac P 281)

ダイヤルインまたはi・ナンバーを利用する

ダイヤルインを利用するときは、ポートごとに着信する電話番号の割り当てが必要です。i・ナンバーを利用するときは、ポートごとにi・ナンバー情報の割り当てが必要です。各サービスの説明を参照して設定を行ってください。(● P90、92、95)



お知らせ

- 本装置にパソコンを接続している場合は、イーージーウィザードを使用して簡単に必要な設定を行うことができます。イーージーウィザードのインストールと設定については、P212、264を参照してください。

参照の見かた

電話機 ...電話機から設定を行うとき参照

Win 98/95 ...Windows[®] 98 / Windows[®] 95のパソコンから設定を行うとき参照

Win NT ...Windows NT[®] 4.0のパソコンから設定を行うとき参照

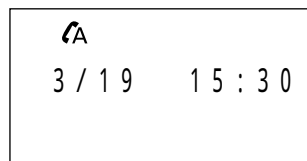
Mac ...Mac OSのパソコンから設定を行うとき参照

AT ...ATコマンドで設定を行うとき参照

電話機は同時に2台まで使用することができます。ただし、パソコンで1つのBチャンネルを使用しているときは、電話機は1台しか使用できません。

1 ハンドセットを取りあげる。

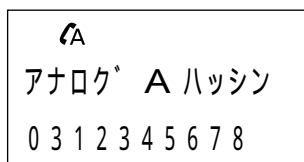
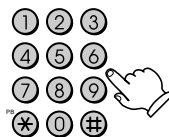
「ツー」という発信音が聞こえます。



2 電話番号をダイヤルボタンで押す。

最後の番号を押したあと、約4秒後に発信します。

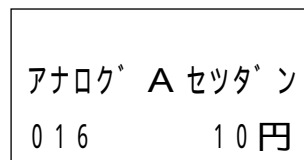
電話番号のあとに(Ⓜ)を押すと、すぐに発信します。



3 相手の方が出たら、お話しする。

4 お話しが終わったら、ハンドセットを置く。

本装置のディスプレイに通話料金が表示されます。
(約20秒間)





ワンポイント

- サブアドレスを指定して電話をかけるには相手の方の電話番号（アドレス）を押したあとに(✳)ボタンを押し、サブアドレスの番号を押します。

例 0 3 1 2 3 4 5 6 7 8 (✳) 1 2 3 4 5

アドレス サブアドレス

- 相手の方の声が聞き取りにくいときは（受話音量）受話音量は、設定により3段階に変更することができます。また、「通話中の受話音量変更」を「有効」にすると、お話し中に(✳)(#)を押すことで、受話音量を3段階に切り替えることができます。

中 大 小 中 ...

「通話中の受話音量変更」はお買い求め時は、「無効」に設定されています。通話中に(✳)(#)を使用するサービスを利用しない場合は、受話音量変更を「無効」のままお使いください。

「通話中の受話音量変更」は電話機から設定します。(●P82) また、ATコマンドで設定することもできます。(●P313)

- (#)ボタンを含む電話番号にかけるには（ダイヤル終了識別）(#)ボタンを押しても、発信せず電話番号の一部とするときは、「ダイヤル終了識別」を「発信しない」または「使用する（##で発信動作を行う）」に設定してください。

(● 電話機 P84、 Win 98/95 Win NT P239、 Mac P288)



お知らせ

- 2つのBチャンネルを使用しているとき、ハンドセットを取りあげると「ブー...」という話中音が聞こえ、電話をかけることはできません。
- LCR内蔵の電話機からかけるとき、ダイヤルの途中で発信してしまう場合は、ダイヤル桁間タイマを9秒以上に設定してみてください。

(● 電話機 P81、 Win 98/95 Win NT P235、 Mac P284)

- 128KマルチリンクPPP通信で2つのBチャンネルを使用しているとき、リソースBODを設定していないと電話機は使用できません。

短縮ダイヤルで電話をかけるには (短縮ダイヤル)

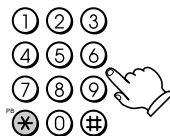
本装置の短縮ダイヤルによくかける電話番号を登録しておく、どのアナログポートからもかけることができるので便利です。

1 ハンドセットを取りあげる。

「ツー」という発信音が聞こえます。

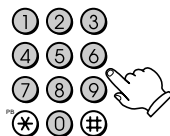


2 * ボタンを押す。

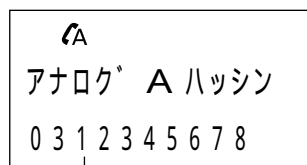


3 短縮番号 (① ~ ⑨) をダイヤルボタンで押す。

登録されている番号に発信します。



4 相手の方が出たら、お話しする。



登録されている電話番号



ワンポイント

- 短縮ダイヤルを登録するには
短縮ダイヤルは、パソコンまたは電話機からの設定操作で登録します。
(☛ 電話機 P83、Win 98/95 Win NT P250、Mac P299)

かけてきた相手にかけ直すには (着信履歴発信)

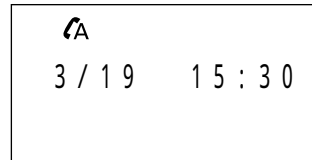
かけてきた相手の方の電話番号などの情報(着信履歴)を、最新のものから50件分記憶して、電話機からの操作で本装置のディスプレイに表示させることができます。また、表示させた電話番号に発信することもできます。

着信履歴を表示させて発信する方法には、電話機で操作する方法と本装置のボタンで操作する2通りの方法があります。また、着信履歴 for USBを利用するとUSBポートに接続したパソコンからも着信履歴発信することができます。(●P159)

電話機で着信履歴表示 / 着信履歴発信する

1 ハンドセットを取りあげる。

「ツーン」という発信音が聞こえます。



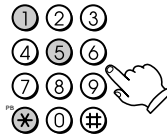
2 (＊) (＊) (5) (1) をダイヤルボタンで押す。

最後にかけてきた方の着信履歴が表示されます。

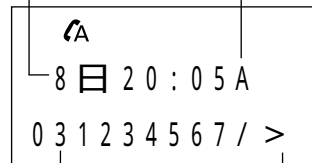
13桁以上の電話番号のときは、

(6) を押すと、電話番号の続きが表示されます。

(4) を押すと、もとに戻ります。



着信日時 応答したアナログポート



相手の電話番号
(アドレス/サブ
アドレス)

電話番号の続きあり

(次ページへ続く)

かけてきた相手にかけるには (着信履歴発信)

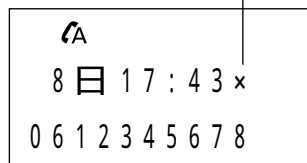
- 3** さらに前の着信履歴を表示させるときは、
⑧を繰り返し押し。

最大50件まで着信履歴が表示されます。

- ②を押すと、逆の順で表示されます。



応答しない... x



- 4** 表示されている番号に発信するときは、
#ボタンを押す。

表示されている番号に発信します。

着信履歴を表示するのみで発信しないときは、ハンド
セットを置きます。



- 5** 相手の方が出たら、お話しする。



ワンポイント

- 着信履歴を消去するには
手順1～3の操作を行い着信履歴を表示させる。
(*)ボタンを押す。「(ショウキョシマス」と表示される)
もう一度(*)ボタンを押す。



お知らせ

- 本装置の電源を切ると、着信履歴はすべて消去されます。
- 着信履歴に電話番号が記憶されるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線からの電話番号を記憶するためには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。

本装置で着信履歴表示 / 着信履歴発信する

1 Menuボタンを押す。

1 : チャクシンリレキ

2 Enterボタンを押す。

1 : チャクシンリレキ
ヒョウジ

3 Enterボタンを押す。

最後にかけてきた方の着信履歴が表示されます。

サイシンリレキヲ
ヒョウジ シマス



19日 10:15A
0312345678

(次ページへ続く)

かけてきた相手にかかけ直すには (着信履歴発信)

- 4** さらに前の着信履歴を表示させるときは、
Selectボタンを繰り返し押す。

最大50件まで着信履歴が表示されます。

8 日 21:05 B
0 6 1 2 3 4 5 6 7 8

- 5** 表示されている番号に発信するときは、
Enterボタンを押す。

発信ポートとして設定されているアナログポートの電
話機で着信音が鳴ります。

着信履歴を表示するのみで発信しないときは、Menu
ボタンを押します。

ハッシンチュウ

- 6** 着信音が鳴っている電話機のハンドセッ
トを取りあげると、本装置が自動的に相
手に電話をかける。相手の方が出たらお
話する。



Ⓐ
アナログ* A ハッシン
0 6 1 2 3 4 5 6 7 8



ワンポイント

- 発信するアナログポートを設定するには
お買い求め時は、本装置の着信履歴発信で発信するポートは、アナログAポートに設定されています。他のポートに変更するときは、次の操作を行ってください。
Menuボタンを押す
Enterボタンを押す（「1：チャクシンリレキヒョウジ」と表示される）
Selectボタンを押す（「2：ハッシンポートセンタク」と表示される）
Enterボタンを押す
Selectボタンを繰り返し押し、ポートを選択する
Enterボタンを押す

外から電話がかかってくると、お買い求め時の状態では接続されているすべての電話機で同時に着信音が鳴ります。2台以上の電話機を接続しているとき、1台の電話機でお話中に電話がかかってくると、他の電話機で呼出音が鳴ります。

1 着信音が鳴る。

本装置のディスプレイに相手の方の電話番号が表示されます。

アナログ チャクシン
0 3 1 2 3 4 5 6 7 8

2 ハンドセットを取り上げて、相手の方とお話する。



A B1
3 / 19 15 : 30

3 お話が終わったら、ハンドセットを置く。





ワンポイント

- 1台の電話機だけ着信音を鳴らすには着信音を鳴らしたい電話機のアナログポートを「優先着信ポート」に設定します。
(☛ 電話機 P83、Win 98/95 Win NT P236、Mac P285)
優先着信ポートを設定すると、優先着信ポートの電話機のみ着信音が鳴り、他の電話機では電話を受けられなくなります。ただし、優先着信ポートの電話機がお話し中のときは、他の電話機で着信音が鳴り電話を受けることができます。
- ファクスを受信するには電話機とファクスをそれぞれアナログポートに接続している場合、ダイヤルインまたはi・ナンバーを契約しないでファクスを受信するには、次の2つの方法があります。
 - ・ファクスの「自動受信機能」を利用する
電話機のアナログポートを優先ポートに設定し、必ず電話機で着信を受けるようにします。電話を受けたとき、ファクスの「ボーボー…」という音が聞こえたら、内線転送でファクスに転送します。
 - ・ファクスの「電話/ファクス自動切替受信」を利用する
「電話/ファクス自動切替受信」は、ファクスの機能です。



お知らせ

- 電話がかかってきたとき、電話番号が表示されるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線からの電話番号を表示させるためには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。

相手番号識別着信を設定すると、あらかじめ登録しておいた相手の方からの着信のみを受けられるようにすることができます。

相手番号識別着信とは

相手番号識別着信は、相手の方の通知してきた発信者番号を登録されている相手番号識別着信番号と照合して、一致したときのみ着信する機能です。電話番号を通知してこない相手や相手番号識別着信番号に登録されていない相手からの電話には着信音が鳴りません。番号を通知してくるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線の相手の電話番号も受け取れるようにするには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。

相手番号識別着信を設定する

最大30件まで登録することができます。

相手番号識別着信を使用するかしないかは、アナログポートごとに設定することができます。相手番号識別着信番号は、アナログポート共通です。次の手順は、電話機から設定する例です。

相手の方の電話番号の登録

ハンドセットを取りあげる

① * * ① * をダイヤルボタンで押す

⑤ * ③ ① ① (~ ③ ② ⑨) * と押す

...300 ~ 329まで30件登録できる

相手の方の電話番号を登録する

② * を押す

相手の方のサブアドレスを登録する(サブアドレスを指定しないときは へ進む)

② ボタンを押す

他の電話番号を登録するときは から繰り返す

電話番号の登録が終了したら へ進む

相手番号識別着信の使用設定

① (~ ③) * ① ③ * を押す

(① : アナログAポート ② : アナログBポート ③ : アナログCポート)

② ② ② を押す

ハンドセットを置く

パソコンからの設定 (Win 98/95 Win NT P235、252、 Mac P284、301)



ワンポイント

- 相手番号識別着信を解除するには
電話機から解除するときは、次の操作で行います。
ハンドセットを取りあげる
⑥ * ⑥ ① * ① (~ ③) * ⑦ ③ * をダイヤルボタンで
押す
(① : アナログAポート ② : アナログBポート
③ : アナログCポート)
⑦ # # を押す
ハンドセットを置く
- INSなりわけサービスの利用について
INSネット64のINSなりわけサービス(有料)を契約すると、登録されて
いる方のみ着信することができるほか、登録されている相手の方の着
信音を変えたり、特定の相手の方だけ通話中に着信を知らせるなどの利
用ができます。また、アナログ回線からの着信も相手番号識別着信の対
象とすることができます。(▶P109) この場合、INSナンバー・ディス
プレイの契約は必要ありません。



お知らせ

- 相手番号識別着信を設定しても、「110」、「119」からの着信は受けら
れます。
- 相手の方が発信者番号を通知しないでかけてきた場合は、登録された相
手でも受けられません。
- 相手番号識別着信番号にサブアドレスまで登録した場合は、サブアドレ
スが通知されないと受けられません。
- 相手番号識別着信を利用するときは、相手番号識別着信番号を必ず市外
局番から登録してください。



お願い

- 相手番号識別着信を設定して相手番号識別着信番号に何も登録しないと、
すべての着信が拒否されますので、ご注意ください。

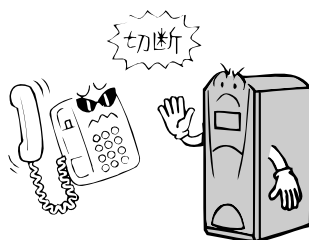
迷惑電話の着信音を鳴らないように するには (迷惑電話防止)

特定の電話番号から電話がかかってきたとき、着信音を鳴らないようにすることができます。いたずら電話などがかかってきて迷惑なとき、利用すると便利です。

迷惑電話防止とは

迷惑電話防止は、相手の方の通知してきた発信者番号を、登録されている迷惑電話番号と照合して、一致したときは自動的に切断する機能です。このとき、相手の方には話中音が聞こえます。迷惑電話番号は、着信履歴に残っている相手の番号から登録することができ、登録できる相手の数は最大20件です。

番号を通知してくるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線からの迷惑電話を防止するためには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。



迷惑電話防止を設定する

迷惑電話を切った直後に設定する方法

迷惑電話を切った直後に電話機で以下の操作を行うと、直前の電話の相手の番号が迷惑電話番号として登録され、迷惑電話防止をセットすることができます。

ハンドセットを取りあげる

① ② をダイヤルボタンで押す (「メイワクデンワトウロク」と表示される)

① を押す (「キョヒシマスカ」と表示される)

② ボタンを押す (「キョヒシマス」と表示される)

③ ボタンを押す (「セツテイシマシタ」と表示される)

ハンドセットを置く

電話番号が通知されない「非通知」「公衆電話」「表示圏外」(P99)も、迷惑電話番号として登録することができます。この場合、手順で「P:非通知 キョヒシマスカ」のように確認が表示されます。④ ⑤ を押すと登録されます。

あらかじめ登録しておく方法

迷惑電話番号をあらかじめ登録しておくときは、以下の操作を行います。

ハンドセットを取りあげる

(*) (*) ⑤ ② ② をダイヤルボタンで押す(「メイワクデンワトウロク」と表示される)

登録する電話番号(最大15桁)を登録する

非通知、公衆電話、表示圏外を登録するときは、電話番号の代わりに次のボタンを押す

非通知... (*) ① ①

公衆電話... (*) ① ②

表示圏外... (*) ① ③

(#) (#) を押す

他の電話番号を登録するときは(*) ボタンを押して から繰り返す

電話番号の登録が終了したら、ハンドセットを置く

迷惑電話の番号は、イージーセットソフトまたは、着信履歴 for USBユーティリティでも設定することができます。

パソコンからの設定 (Win 98/95 Win NT P164、254、 Mac P303)



ワンポイント

- 迷惑電話番号を削除するには

ハンドセットを取りあげる

(*) (*) ⑤ ③ をダイヤルボタンで押す(登録されている迷惑電話番号が表示される)

⑧ を繰り返し押す(登録されている迷惑電話番号が順に表示される)

② を押すと、逆の順に表示される

(*) (*) を押す

ハンドセットを置く



お知らせ

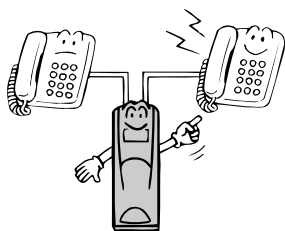
- 相手が発信者番号を通知しないでかけてきた場合は、登録された相手でも着信音が鳴ります。
- 迷惑電話番号には、必ず市外局番から登録してください。
- 「非通知」「公衆電話」「表示圏外」を迷惑電話番号として登録すると、すべての「非通知」「公衆電話」「表示圏外」の着信が受けられなくなりますのでご注意ください。
- 迷惑電話番号にサブアドレスは登録することはできません。
- 着信時に発信者番号、「非通知」、「公衆電話」、「表示圏外」のいずれも本装置のディスプレイに表示されない相手の方を、迷惑電話番号として登録すると、表示圏外が迷惑電話番号として登録されます。また、表示圏外を迷惑電話番号として登録すると、表示圏外を通知してきた着信だけでなく、ディスプレイに何も表示されない着信のすべてが迷惑電話として着信を拒否されますのでご注意ください。

電話番号により着信するポートを振り分けるには (マイプライベート着信)

電話がかかってきたとき、相手の方の電話番号により特定の電話機だけを呼び出すようにすることができます。特定の相手からの着信を、受けたいアナログポートの電話機で直接受けられるようにすることができます。

マイプライベート着信とは

相手の方が通知してきた発信者番号が、マイプライベート着信に登録されている番号のときは、設定されているアナログポートの電話機だけ着信音が鳴るようにする機能です。番号を通知してくるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線の相手の電話番号も受け取れるようにするには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。



マイプライベート着信を設定する

次の手順で設定してください。電話機から設定する例です。

相手の方の電話番号の登録

ハンドセットを取りあげる

＊ ＊ ① ＊ をダイヤルボタンで押す

⑤ ＊ ① ① ① (~ ① ② ⑨) ＊ を押す

...100~129まで30件登録できる

相手の方の電話番号を登録する

＃ ＊ を押す

相手の方のサブアドレスを登録する (サブアドレスを指定しないときは へ進む)

＃ ＊ を押す

着信するポートの選択

① (~ ③) を押す

(① : アナログAポート ② : アナログBポート ③ : アナログCポート)

＃ ボタンを押す

他の電話番号を登録するときは から繰り返す

電話番号の登録が終了したら へ進む

マイプライベート着信の使用設定

④ * ⑦ ② * を押す

① # # を押す

ハンドセットを置く

電話番号が通知されない「非通知」「公衆電話」「表示圏外」(☛P99)も、マイプライベート着信の番号として登録することができます。

パソコンからの設定 (☛ Win 98/95 / Win NT / P251、 Mac / P300)



ワンポイント

- マイプライベート着信を解除するときは
電話機から解除するときは、次の操作で行います。

ハンドセットを取りあげる

* * ① * ④ * ⑦ ② * をダイヤルボタンで押す

① # # を押す

ハンドセットを置く



お知らせ

- 相手の方が発信者番号を通知しないでかけてきた場合は、登録された相手でもマイプライベート着信で受けられません。
- マイプライベート着信の番号にサブアドレスまで登録した場合は、サブアドレスが通知されてこないと、マイプライベート着信で受けられません。
- マイプライベート着信の番号は、必ず市外局番から登録してください。
- マイプライベート着信に登録された相手の方が、登録されている電話番号以外の電話機からかけてきた場合は、その電話を受けることはできません。

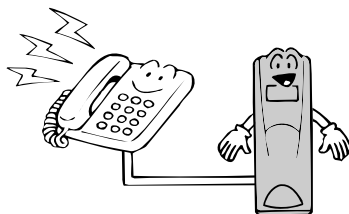
電話番号により着信音を変えるには (疑似なりわけ)

あらかじめ登録されている電話番号の相手の方から電話がかかってきたときは、通常の着信音と違う音で呼び出すようにすることができます。大切な相手などからかかってきた電話を、ハンドセットを取り上げる前にわかるようにすることができます。

疑似なりわけとは

相手の方が通知してきた発信者番号を、疑似なりわけ番号と照合し、登録されているときは、通常と異なる着信音を鳴らす機能です。

番号を通知してくるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線の相手の電話番号も着信音を変えるようにするには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。



疑似なりわけを設定する

疑似なりわけを使用するかしないかは、アナログポートごとに設定することができます。疑似なりわけ番号は、アナログポート共通です。次の手順は、電話機から設定する例です。

相手の方の電話番号の登録

ハンドセットを取り上げる

ⓧ ⓧ ① ⓧ をダイヤルボタンで押す

⑤ ⓧ ② ① ① (~ ② ② ⑨) ⓧ を押す

...200 ~ 229まで30件登録できる

相手の方の電話番号を登録する

ⓧ ⓧ を押す

相手の方のサブアドレスを登録する(サブアドレスを指定しないときは へ進む)

ⓧ を押す

他の電話番号を登録するときは から繰り返す

電話番号の登録が終了したら へ進む

疑似なりわけの使用設定

① (~ ③) ⓧ ① ⑤ ⓧ を押す

(① : アナログAポート ② : アナログBポート ③ : アナログCポート)

② ⓧ ⓧ を押す

ハンドセットを置く



ワンポイント

- 疑似なりわけを解除するには
電話機から解除するときは、次の操作で行います。
ハンドセットを取りあげる
⑥ ⑥ ① ⑥ ① (~ ③) ⑥ ① ⑤ ⑥ をダイヤルボタンで押す

(① : アナログAポート ② : アナログBポート
③ : アナログCポート)

① ② ③ を押す
ハンドセットを置く
- INSなりわけサービスの利用について
INSネット64のINSなりわけサービス(有料)を契約すると、登録されている相手の方の着信音を変えるだけでなく、登録されている方のみ着信したり、特定の相手だけ通話中に着信を知らせるなどの利用ができます。また、アナログ回線からの着信もなりわけの対象とすることができます。(P109)



お知らせ

- 相手の方が発信者番号を通知しないでかけてきた場合は、登録された相手でも通常の着信音で鳴ります。
- 疑似なりわけ番号にサブアドレスまで登録した場合は、サブアドレスが通知されないと、通常の着信音で鳴ります。
- 疑似なりわけ番号は、必ず市外局番から登録してください。

通話中にかかってきた電話を受ける には (疑似キャッチホン)

外の相手の方とお話中に別の相手の方から電話がかかってきたとき、お話し中の方を保留にして、かけてきた方とお話しすることができます。お買い求め時は、疑似キャッチホンは「使用しない」に設定されています。疑似キャッチホンを利用するためには設定が必要です。

- 1** 外の相手の方とお話中に「ププッ、ププッ...」という音が聞こえる。



CA	B1
アナログ	チャクシン
0 3 1 2 3 4 5 6 7 8	

- 2** 外の相手の方に待っていただくように伝え、フッキングする。

かけてきた相手の方に切り替わります。



- 3** かけてきた相手の方とお話する。

保留にした方には、疑似保留音が聞こえます。

疑似キャッチホン中は、Bチャンネルを2本使用するため、他のポート（アナログポート、RS-232Cポート、USBポート）で、内線通話以外の通信はできません。



CA	B1 B2
3 / 19	15 : 30

- 4** お話しする相手を切り替えるときは、フッキングする。

- 5** お話しが終わったら、ハンドセットを置く。

お話し中の方との電話は切れて着信音が鳴り、ハンドセットを取りあげると保留中の方とのお話しになります。

- 疑似キャッチホンを設定するには
疑似キャッチホンは、アナログポートごとに設定することができます。
電話機から設定するときは、次の手順で行ってください。

ハンドセットを取りあげる

(*) (*) ① (*) ① (~ ③) (*) ② (*) をダイヤルボタンで押す

(① : アナログAポート ② : アナログBポート

③ : アナログCポート)

② (#) (#) を押す

ハンドセットを置く

疑似キャッチホンを解除するときは、手順 で ② (#) (#) を押してください。

パソコンからの設定 (☛ Win 98/95 Win NT P232、Mac P281)

- フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタンなど)を押します。



- 特定の相手からの着信のみキャッチホンを可能にするには(選択キャッチホン)

相手番号識別着信の設定を「通信中着信時のみ使用可能」に設定すると、相手番号識別着信番号に登録されている相手の方からの着信のみ、通話中に電話がかかってきたことを知らせることができます。

(☛ 電話機 P81、Win 98/95 Win NT P235、Mac P284)

- 1本のBチャンネル使用で行うには(INSキャッチホン)

INSネット64のフレックスホン(有料)を契約すると、1本のBチャンネルの使用で、かかってきた電話に切り替えることができるため、キャッチホン中も他のポートを使用することができます。(☛P102)

- アナログ回線からの電話番号を確認するには(キャッチホン・ディスプレイ)
INSナンバー・ディスプレイをご契約になると、お話し中にかかってきた相手の方がアナログ回線からでも、電話番号をディスプレイに表示することができます。(☛P111)



ワンポイント



お知らせ

- 疑似キャッチホンのご利用には、INSネット64の付加サービス契約は必要ありません。ただし、キャッチホン・ディスプレイをご利用になるには、キャッチホン・ディスプレイに対応したアナログ通信機器が必要です。
- 電話機能を搭載したファクスやモデムを接続したアナログポートに疑似キャッチホンは設定しないでください。通信中に着信があるとエラーになります。

外の相手の方とお話中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけ、3人でお話することができます。疑似三者通話には、相手を切り替えながらお話しする切替モードと、3人同時にお話しするミキシングモードがあります。

1 お話し中に相手の方に待っていただくように伝え、フッキングする。

2 「ププッ、ププッ…」という音が聞こえている間に別の相手の方の電話番号を押す。

保留にした方には、疑似保留音が聞こえます。

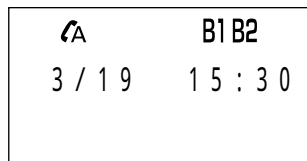
3 相手の方が出たらお話しする。(切替モード)

疑似三者通話中は、Bチャンネルを2本使用するため、他のポート(アナログポート、RS-232Cポート、USBポート)で、内線通話以外の通信はできません。

4 お話しする相手を切り替えるときは、フッキングする。

「ププッ、ププッ…」という音のあとにお話しできるようになります。

また、続けて2回(約5秒以内)フッキングするとミキシングモードになり、3人でお話できます。ミキシングモードから切替モードに戻ることはできません。



5 お話が終わったら、ハンドセットを置く。

お話し中の方との電話は切れます。保留の方がいる場合は、着信音が鳴り、ハンドセットを取りあげるとお話しできます。



ワンポイント

- 疑似三者通話を設定するには
疑似三者通話を電話機から設定するときは、次の手順で行ってください。
ハンドセットを取りあげる
④ * ① * ④ * ② ⑤ * をダイヤルボタンで押す
② # # を押す
ハンドセットを置く
疑似三者通話を解除するときは、手順 で ① # # を押してください。
パソコンからの設定 (Win 98/95 Win NT P239、 Mac P288)
- フッキングとは (P67)
- 1本のBチャネルで行うには (三者通話)
INSネット64のフレックスホン (有料) を契約すると、1本のBチャネルの使用で3人でお話しすることができますので、三者通話中も他のポートを使用することができます。また、ミキシングモードから切替モードに戻ることできます。(P104)



お知らせ

- 疑似三者通話のご利用には、INSネット64の付加サービス契約は必要ありません。
- 疑似三者通話利用中は、内線転送はできません。
- 疑似三者通話を設定すると、フレックスホンの通信中転送 (P102) が利用できませんので、通信中転送をご契約のときは、疑似三者通話を設定しないようにしてください。
- 疑似三者通話のミキシングモードを使用中、相手の方の1人が電話を切ると一瞬話中音が聞こえることがあります。
- 疑似三者通話の終了時には、最後の発信にかかった通話料金を表示します。

外からの電話を別の相手に転送するには (疑似着信転送)

外の相手の方からの電話を、あらかじめ登録しておいた別の相手に直接取りつぐことができます。ダイヤルインをご利用の場合は、契約者回線番号や追加番号ごとに転送先を各1件（合計3件）まで設定することができます。i・ナンバーをご利用の場合は、i・ナンバー情報ごとに転送先を各1件（合計3件）まで設定することができます。転送の開始や解除は、おでかけ設定で行います。

疑似着信転送を設定する

次の手順で転送を設定してください。電話機から設定する例です。

転送元の登録

ハンドセットを取りあげる

④ * ① * ④ * ④ ① (~ ④ ②) * をダイヤルボタンで押す
④ ① ~ ④ ② を押すことにより、契約者回線番号または追加番号ごとに各1件（合計3件）までの電話番号（または i・ナンバー情報ごとに各1件（合計3件）までの電話番号）を登録できる

転送元の電話番号（または i・ナンバー情報番号）を登録する

i・ナンバー情報1への着信を転送するときは ①、i・ナンバー情報2への着信を転送するときは ②、i・ナンバー情報3への着信を転送するときは ③ を押す
ボタンを押す

転送先の登録

④ * ③ ① (~ ③ ②) * を押す

の で押したのと同じボタンを押す

転送先の電話番号を登録する

ボタンを押す

着信転送の種類選択

疑似着信転送を選択します。

④ * ② 7 * を押す

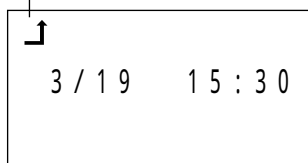
② # # を押す

ハンドセットを置く

おでかけ設定ボタンに着信転送・疑似着信転送を割り当てる（▶P72）

おでかけ設定ボタンで疑似着信転送をセットする（▶P74）

着信転送





ワンポイント

- 特定の相手からの着信のみ転送するには (相手番号識別着信転送) 相手番号識別着信番号に登録してある相手の方からの着信のみ、転送するように設定することができます。電話機から以下の操作を行い、転送条件を設定してください。

ハンドセットを取りあげる

(*) (*) ① (*) ④ (*) ② ⑧ (*) をダイヤルボタンで押す

② (#) (#) を押す

ハンドセットを置く

無条件にすべての着信を転送する設定に戻すときは、手順 で ① (#)

(#) を押します。

パソコンからの設定 (Win 98/95 Win NT P 237、 Mac P 286)

- Bチャンネルを使用しないで行うには (着信転送) INSネット64のフレックスホン (有料) を契約すると、Bチャンネルを1本も使用しないで転送することができます。(P 104)



お知らせ

- 疑似着信転送のご利用には、INSネット64の付加サービス契約は必要ありません。
- 本装置から転送先への通話料金は、本装置利用のお客様負担となります。
- 疑似着信転送では、発信者番号通知により、転送先には契約者回線番号が通知されます。
- 疑似着信転送では、B1、B2チャンネルの両方を使用するため、着信転送時は外線通話や通信ができません。内線でお話することはできます。
- 疑似着信転送では、フレックスホンの着信転送のような、かけてきた方や転送先に転送を伝えるトークは流れません。
- 疑似着信転送は、アナログポートに電話機を接続しなくても利用することができます。
- 転送されるとき、本装置の電話機では着信音は鳴りません。
- 迷惑電話防止を設定しているとき、迷惑電話番号の相手からの着信は転送されません。

外出中や就寝中の機能を設定するには (おでかけ設定)

おでかけ設定ボタンを押したときに利用する機能を、あらかじめ選択しておくこと、外出するときなどに、おでかけ設定ボタンを押すだけで着信転送を開始したり、就寝時に着信音が鳴らないようにしたりすることができます。

おでかけ設定とは

おでかけ設定ボタンに割り当てることができる機能は、次の4つです。

着信音を鳴らないようにする(おやすみモード)

電話がかかってきても、着信音が鳴らないようにします(内線着信のときは着信音が鳴ります)。相手の方には呼出音が聞こえます。電話がかかってくると、おでかけ設定ランプが点滅し、液晶ディスプレイには相手の電話番号と応答できるアナログポートが表示されますので、電話に出るときは電話機のハンドセットを取りあげてお話しください。

いったん着信があると、その後、おでかけ設定ランプは点滅したままになります。

着信転送・疑似着信転送(電話着信転送モード)

登録されている転送先へ、設定されている転送方法で着信転送を開始します。

おでかけ設定ボタンに着信転送・疑似着信転送を割り当てるときは、あらかじめ転送元や転送先の電話番号などの設定をしておく必要があります。(●P70、104)

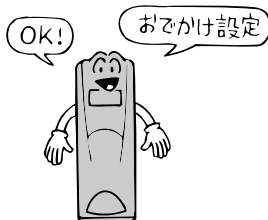
INSボイスワープ(INSボイスワープ転送モード)

設定されているINSボイスワープの転送方法で転送を開始します。INSボイスワープをご利用になるときは、当社との契約が必要です。(●P110)

おでかけ設定ボタンにINSボイスワープを割り当てるときは、サービス起動/停止の電話番号や転送方法を、あらかじめ設定しておく必要があります。(●P110)

着信をおでかけ設定ランプの点滅で知らせる(フラッシュモード)

おやすみモードと同じように、電話がかかってきても着信音が鳴らないようにします。おやすみモードでは、いったん着信があるとその後おでかけ設定ランプは点滅したままになりますが、フラッシュモードでは電話がかかってきたときのみ点滅し、それ以外のときは点灯になります。



おでかけ設定ボタンの機能を選択する

おでかけ設定ボタンを押したとき、利用する機能を4つの中からあらかじめ選択しておきます。

1 Menuボタンを押す。

1:チャクシンリレキ

2 Selectボタンを繰り返し押し、「3 : オ
デカケモード」を表示させる。

3 : オデ` カケモード`

3 Enterボタンを押す。

オデ` カケモード` /
セッテイデ` ス

4 Selectボタンを繰り返し押し、機能を
選択する。

1 : オヤスミモード`



2 : デ` ソワテンソウスル



3 : INSホ` イスワー
プ` セッテイ



4 : フラッシュモード`

(次ページへ続く)

5 Enterボタンを押す。

おでかけ設定ボタンの機能が設定されます。

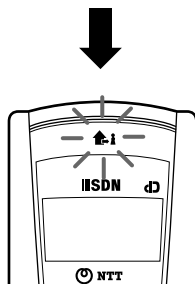
オヤスミモード ニ
セッテイシマシタ

おでかけ設定を設定する

お買い求め時は、おでかけ設定ボタンがロックされています。(←下記ワンポイント) ロックを解除してから、おでかけ設定を設定してください。

1 おでかけ設定ボタンを1秒以上、上から押す。

おでかけ設定ランプが点灯し、設定されている機能が利用できるようになります。



ワンポイント

- おでかけ設定を解除するには
再度、おでかけ設定ボタンを1秒以上押します。「ピーッ」と鳴ってランプが消灯します。
- おでかけ設定ボタンをロックするには
おでかけ設定ボタンがロックされているときは、おでかけ設定ボタンを押してもおでかけ設定が設定されません。誤ってボタンを押して設定されてしまうのを防ぐことができます。
 - ・ Selectボタンを押しながら、おでかけ設定ボタンを押す
(ロックを解除するときは、再度Selectボタンを押しながら、おでかけ設定ボタンを押す)



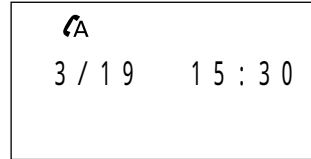
お知らせ

- おでかけ設定を設定するためにおでかけ設定ボタンを1秒以上押すと、「ピーッ」と鳴っておでかけ設定ランプ(赤)が点灯します。点灯しないときは、再度おでかけ設定ボタンを1秒以上押してください。また、おでかけ設定を解除できないときも、再度おでかけ設定ボタンを押してください。

他のアナログポートに接続された電話機を呼び出して、お話しすることができます。

1 ハンドセットを取りあげる。

「ツー」という発信音が聞こえます。



2 ① ② ③ 【呼び出す電話機の内線番号】 (① ~ ③) をダイヤルボタンで押す。

呼出音が聞こえます。

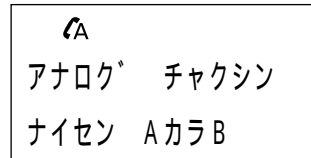
内線番号のあとに ④ を押すと、すぐに呼び出します。

内線番号

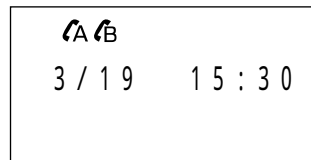
アナログAポート...1

アナログBポート...2

アナログCポート...3



3 呼び出された方が応答したら、お話しする。



(次ページへ続く)

- 4** お話しが終わったら、ハンドセットを置く。



ワンポイント

- 内線通話中に電話がかかってきたらお話しに重なって「プツ、プツ…」という音が聞こえます。電話に出る方がフッキング(☛P67)して外の相手の方とお話してください。このとき、内線通話は切れます。
- 内線で呼び出すときの音を変えるには(内線呼出信号)お買い求め時は、内線で呼び出すと「トゥルトウル、トゥルトウル…」という音が鳴ります。通常の着信音に変更することもできます。



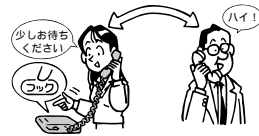
お知らせ

- 相手の方がお話し中のときは、話中音が聞こえます。
- 停電中は、内線通話はできません。
- INSネット64に接続していなくても、内線通話は利用できます。

電話を内線で取りつぐには (内線転送)

外の相手の方との電話を、他のアナログポートに接続された電話機に取りつぎます。

- 1** お話中に相手の方に待っていただくように伝え、フッキングする。
保留にした方には、保留音が聞こえます。



A	B1
3 / 19	15 : 30

- 2** **Ⓜ** **✳** 【呼び出す電話機の内線番号】
(**①** ~ **③**) をダイヤルボタンで押す。

呼出音が聞こえます。
内線番号のあとに **Ⓜ** を押すと、すぐに呼び出します。

内線番号

- アナログAポート...1
- アナログBポート...2
- アナログCポート...3



A	B1
アナログ*	チャクシン
ナイセン	AカラB

(次ページへ続く)

- 3** 呼び出された方が応答したら、転送することを伝える。



☎A	B1
3 / 19	15 : 30

- 4** ハンドセットを置く。

外の相手の方と、転送先の電話機でお話できるようになります。



☎	B1
3 / 19	15 : 30



ワンポイント

- フッキングとは (☛P67)
- 相手が応答する前に転送するには
手順2の呼び出し中にハンドセットを置くと、相手が応答する前に転送することができます。ファクスからの着信を電話機で受けたとき、ファクスに転送するときは、この方法で転送してください。
- 呼び出しを中止して外の相手の方とのお話しに戻るにはフッキングします。
- 電話機でFAXの着信に応答してしまった場合でも(「ポー、ポー」という音が聞こえる)、他のアナログポートに接続したFAXに内線転送して応答させることができます。



お知らせ

- 転送先がお話し中のときは、話中音が聞こえます。フッキングして、外の相手の方とのお話しに戻ってください。
- 転送先がお話し中のときや、内線転送操作の途中でハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、外の相手の方とのお話しに戻ります。
- 疑似三者通話または三者通話中は、内線転送はできません。
- バス配線により接続されている他のTAなどの電話機へは内線転送できません。
- 停電中は内線転送はできません。

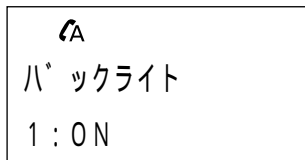
ディスプレイのバックライトを設定するには

本装置のディスプレイにはバックライトによって点灯表示する機能が搭載されており、お買い求め時は、発信中や着信中に点灯するように設定されています（オートモード）。見やすくするため、常時点灯に変更することができます。また、日付・時刻設定の表示を回線状態の表示に変えることができます。

常時点灯に設定する

1 ハンドセットを取りあげる。

2 **＊ ＊ ⑧ ①** をダイヤルボタンで押す。



3 ハンドセットを置く。



ワンポイント

- 常時消灯に設定するには
手順2で **＊ ＊ ⑧ ① ①** を押してください。
- お買い求め時の設定（オートモード）に戻すには
手順2で **＊ ＊ ⑧ ① ②** を押してください。
- データ通信中点灯には
発信中 / 着信中点灯（オートモード）と、データ通信中も点灯させるときは、手順2で **＊ ＊ ⑧ ① ③** を押してください。
- Bチャンネル使用中点灯に設定するには
発信中 / 着信中点灯（オートモード）と、Bチャンネル使用中に点灯させるときは、手順2で **＊ ＊ ⑧ ① ④** を押してください。
- 日付・時刻設定の代わりに回線状態を表示させるには
手順2で **＊ ＊ ⑧ ① ①** を押してください。また、日付・時刻設定の設定に戻すときは、**＊ ＊ ⑧ ① ①** を押します。



お知らせ

- 電池動作モードで動作中は、常時点灯またはオートに設定していてもバックライトは点灯しません。

電話機から設定を行うには (イージーテレホン設定)

本装置にパソコンを接続している場合は、イージーウィザードやイージーセットソフトを使用して必要な設定を行うことをお勧めします。パソコンを接続していない場合は、本装置のそばに電話機を置いて、本装置のディスプレイを見ながら電話機から設定を行ってください。

機能番号対応表

電話機から設定できるアナログポートの機能には、以下のものがあります。

アナログポートごとの設定

機 能	機能番号	設定値...設定する内容
アナログポートの装置 (●P47)	01	0...電話機 (初期値) 1...ファクス/モデム 2...使用しない
キャッチホン (●P66、102)	02	0...使用しない (初期値) 1...INSキャッチホン 2...疑似キャッチホン
相手番号識別着信 (●P58、67、109)	03	0...使用しない (初期値) 1...INSなりわけサービス (セキュリティ) 2...識別着信 3...INSなりわけサービス (選択キャッチホン) 4...疑似選択キャッチホン
HLC (●P124)	04	0...使用しない (初期値) 1...使用する 2...使用するが着信判定はしない
グローバル着信 (●P95)	05	0...着信する (初期値) 1...着信しない
サブアドレスなし着信 (●P97)	06	0...着信する (初期値) 1...着信しない
ダイヤル桁間タイマ (●P49)	07	0...4秒 (初期値) 1...9秒 2...11秒 3...13秒
フッキング検出タイマ (フッキング●P67)	08	0...30 ms ~ 1 000 ms 1...300 ms ~ 1 000 ms (初期値) 2...500 ms ~ 1 500 ms

(次ページへ続く)

電話機から設定を行うには (イージーテレホン設定)

機 能	機能番号	設定値...設定する内容
発信者番号通知 (●P98)	09	0...通知しない 1...通知する 2...INSネット64の契約に従う(初期値)
情報通知サービス (●P99、107、111)	10	0...利用しない(初期値) 1...INSナンバー・ディスプレイ 2...モデム・ダイヤルイン 4...INSナンバー・ディスプレイとモデム・ダイヤルイン
情報通知サービスサブアドレス (●P108)	11	0...サブアドレスつけない(初期値) 1...サブアドレスつける
受話音量 (●P49)	12	0...小 1...中(初期値) 2...大
リバースパルス送出 (●P235)	13	0...送出しない(初期値) 1...送出する
通話中の受話音量変更 (●P49)	14	0...変更しない(初期値) 1...変更する
なりわけ (●P64、109)	15	0...使用しない(初期値) 1...INSなりわけサービス(識別リングング) 2...疑似なりわけ
CTI機能 (●P125)	16	0...使用しない(初期値) 1...使用する
内線呼出信号選択 (●P76)	17	0...呼出信号1(通常着信音) 1...呼出信号2(SIR着信音)(初期値)
キャッチホン・ディスプレイ (●P111)	18	0...使用しない(初期値) 1...使用する
着信番号選択 (●P95)	91	0...番号選択 1...電話番号の続き表示 2...現在の設定表示 3...次の番号表示 4...前の番号表示
発信者通知番号 (●P98)	92	電話番号(最大32桁)
サブアドレス (●P97)	93	サブアドレス(最大19桁)
着信するポート (●P94)	94	1...i・ナンバー情報1を着信する 2...i・ナンバー情報2を着信する 3...i・ナンバー情報3を着信する
発信するポート (●P94)	95	1...i・ナンバー情報1の電話番号を通知する 2...i・ナンバー情報2の電話番号を通知する 3...i・ナンバー情報3の電話番号を通知する

アナログポート共通の設定1

機能	機能番号	設定値...設定する内容
停電時の着信 (☛P31)	22	0...着信ブザー 1...着信リング (初期値) 3...着信しない
優先着信ポート (☛P57)	23	0...優先なし (初期値) 1...アナログAポートを優先 2...アナログBポートを優先 3...アナログCポートを優先
内線通話・内線転送 (☛P75、77)	24	0...使用しない 1...使用する (初期値)
三者通話 (☛P68、104)	25	0...使用しない (初期値) 1...三者通話 2...疑似三者通話
通信中転送 (☛P102)	26	0...使用しない (初期値) 1...使用する
着信転送の種類 (☛P70、72、104)	27	1...着信転送 2...疑似着信転送 (初期値)
		↓ 1のとき (☎) (✳)を押すと 0...転送トーカーなし、転送元トーカーなし 1...転送トーカーあり、転送元トーカーなし 2...転送トーカーなし、転送元トーカーあり 3...転送トーカーあり、転送元トーカーあり (初期値)
転送条件 (☛P71、72)	28	0...無条件転送 (初期値) 1...INSなりわけサービス (セキュリティ機能) 2...識別着信転送
着信転送先 (☛P70、72)	30~32	電話番号 (最大32桁)
着信転送元 (☛P70、72)	40~42	電話番号 (最大32桁) または i・ナンバー 情報番号 (1、2、3)
	43~45	40~42のサブアドレス (最大19桁)
短縮ダイヤル (☛P50)	50~59	電話番号 (最大32桁)
	60~69	50~59のサブアドレス (最大19桁)
累積料金表示/クリア (☛P105)	70	1...累積料金0円にする
発信時電話番号表示 (☛P48)	71	0...表示しない 1...表示する (初期値)

(次ページへ続く)

電話機から設定を行うには (イージーテレホン設定)

機能	機能番号	設定値...設定する内容
マイプライベート着信 (☛P62)	72	0...使用しない(初期値) 1...使用する
おでかけ設定 (☛P72)	73	1...おやすみモード(初期値) 2...電話着信転送モード 3...INSボイスワープ転送モード 4...フラッシュモード
INSボイスワープ (☛P110)	74	1...無条件転送(初期値) 2...無応答時転送 3...話中時転送 4...無応答または話中時転送
ダイヤル終了識別 (☛P49)	75	0...使用しない 1...#で発信する(初期値) 2...##で発信する
i・ナンバー (☛P92)	76	0...使用しない(初期値) 1...使用する
着信番号 (☛P95)	80 ~ 87	電話番号(最大32桁)
		↓ ☎ ☎ を押すと モデム・ダイヤルラインで使用する変換後の 番号(最大4桁)

アナログポート共通の設定2(電話番号登録)

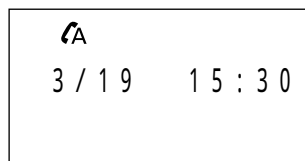
機能	機能番号	設定値...設定する内容
マイプライベート着信番号 (☛P62)	100 ~ 129	電話番号 または ☎ 01...P:非通知 ☎ 02...C:公衆電話 ☎ 03...O:表示圏外
		↓ ☎ ☎ を押すと サブアドレス
		↓ ☎ ☎ を押すと着信ポート選択 1...アナログAポート 2...アナログBポート 3...アナログCポート
なりわけ番号(リンギング) (☛P64)	200 ~ 229	電話番号
		↓ ☎ ☎ を押すと サブアドレス

機能	機能番号	設定値...設定する内容
相手番号識別着信番号 (●P58)	300 ~ 329	電話番号
		↓ (Ⓜ) (✳) を押すと サブアドレス
i・ナンバー情報の電話番号 (●P92)	901	i・ナンバー情報1の電話番号参照・設定
	902	i・ナンバー情報2の電話番号参照・設定
	903	i・ナンバー情報3の電話番号参照・設定
		↓ (Ⓜ) (✳) を押すと モデム・ダイヤルインで使用する変換後の 番号 (最大4桁)
INSボイスワープ設定 (●P110)	910	サービス停止設定用電話番号参照・設定
	911	無条件転送用電話番号参照・設定
	912	無応答時転送用電話番号参照・設定
	913	話中時転送用電話番号参照・設定
	914	無応答または話中時転送用電話番号参照・設定
	919	INSボイスワープ契約電話番号参照・設定

電話機からの設定操作

電話機からアナログポートの設定を行う手順は、以下の要領で行います。手順4～6で押す機能番号と設定値は、設定する機能により異なりますので、機能番号対応表で確認してください。

1 ハンドセットを取りあげる。



(次ページへ続く)

2 **(*)** **(*)** **(1)** **(*)** をダイヤルボタンで押す。

(A)
キノウセツテイ



(A)
セツテイホ^o - トセンタク

3 ポート番号を押す。

アナログポートごとのポート番号

アナログAポート... **(1)**

アナログBポート... **(2)**

アナログCポート... **(3)**

アナログポート共通のポート番号

アナログポート共通の設定1... **(4)**

アナログポート共通の設定2... **(5)**

(A)
アナログ^o A ニセツテイ

4 **(*)** ボタン【機能番号】を押す。

機能番号は、機能番号対応表で確認してください。

(●P81)

表示された設定内容を確認し、変更しないときは手順7へ進みます。

5 **(*)** ボタンを押す。

6 【設定値】を押す。

設定できる設定値は、機能番号対応表で確認してください。(●P81)

7 **Ⓜ** ボタンを押す。

機能番号27（着信転送を選択したとき）80～87、100～129、200～229、300～329、901～902のときは、さらに**Ⓧ** ボタンを押し、設定値を押してから、**Ⓜ** ボタンを押します。

Ⓐ
セッテイポ ートセンタク

8 **Ⓜ** ボタンを押す。

Ⓐ
セッテイシマシタ

9 ハンドセットを置く。

お知らせ

- 「ポートシヨウ中 セッテイフカ」と表示されたときは、いずれかのポート（アナログポート、RS-232Cポート、USBポート）が使用中のため設定操作はできません。使用中の通信が終了してからやり直してください。

設定例（アナログポートの装置）

ハンドセットを取りあげる

Ⓧ **Ⓧ** ① **Ⓧ** をダイヤルボタンで押す

ポート番号（①～③）を押す

Ⓧ ① ① を押す

Ⓧ を押す

【使用する装置】（①～②）を押す

電話機..... ①

ファクス/モデム... ①

使用しない..... ②

Ⓐ
アナログ ソウチ
0 : テ ソウ

現在の設定内容

Ⓜ ボタンを押す

他のアナログポートを設定するときは にもどる

Ⓜ ボタンを押す

設定例 (ダイヤルイン)

設定操作開始

ハンドセットを取りあげる

(*) (*) ① (*) をダイヤルボタンで押す

着信番号登録 (アナログポート共通の設定)

使用する電話番号 (契約者回線番号と追加番号) をすべて登録します。

④ (アナログポート共通の設定1) を押す

(*) ⑧ ① (~ ⑦) を押す

... ①には契約者回線番号、① ~ ⑦には追加番号を登録する

<p>Ⓐ</p> <p>チャクアト* 0:</p> <p>0 3 1 2 3 4 1 1 1 1</p>
--

現在の設定内容

(*) ボタンを押す

【電話番号】(##) ボタンを押す

(##) ボタンを押す

(~ を繰り返し、利用する電話番号をすべて登録します)

グローバル着信 (アナログポートごとの設定)

契約者回線番号を着信するかどうかを設定します。

① (~ ③ : ポート番号) を押す

(*) ① ⑤ (*) を押す

<p>Ⓐ</p> <p>グ* ローハ* ルチャクシン</p> <p>0 : スル</p>
--

現在の設定内容

① (着信する) または ① (着信しない) を押す

(##) ボタンを押す

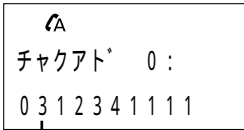
(~ を繰り返し、使用するすべてのアナログポートを設定します)

(次ページへ続く)



着信番号選択（アナログポートごとの設定）
着信させる番号を割り当てます。

- ①（～③：ポート番号）を押す
- ＊⑨①＊を押す



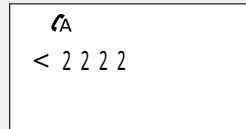
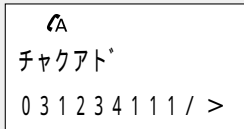
現在の設定内容

- ③（次の番号）または④（前の番号）を繰り返し押して電話番号を選ぶ
- ①を押す
- ＊ボタンを押す
- （～を繰り返し、使用するアナログポートと電話番号の組み合わせを設定します）
- ＊ボタンを押す
- ハンドセットを置く

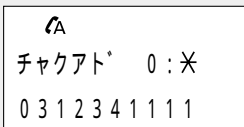
- 電話番号を間違えて入力したときは
＊＊を押すと、最後尾の1文字が消えます。
- 12桁以上の電話番号を入力するには
12桁目以上を入力すると、先頭に が表示され、12桁目以降の表示に切り替わります。＊①を押すと、1～11桁目と12桁目以降の表示を切り替えることができます。



ワンポイント



- 着信させる番号を割り当てたときは
着信番号選択で、着信させる番号を割り当てると、番号の右に「＊」が表示されます。



INSネット64サービスを利用した 機能

INSネット64は、当社が提供するINSネット64サービスです。本装置では、INSネット64のサービスを活用したさまざまな機能を利用できます。

INSネット64のサービスを利用したいろいろな機能

機能	説明	参照ページ
i・ナンバー	着信時に通知されるi・ナンバー情報により、呼び出すアナログポートを特定することができます。 当社との契約が必要です。	☛P92
ダイヤルイン	ダイヤルイン番号をポートに割り当てることにより、電話機やファクス、パソコンを呼び分けることができます。 当社との契約が必要です。	☛P95
発信者番号通知	電話をかけたときに、発信者番号を相手の方へ通知することができます。	☛P98
INSナンバー・ディスプレイ	アナログ回線からかかってきた場合でも、相手の方の電話番号をディスプレイに表示させることができます。 当社との契約が必要です。	☛P99
サブアドレス	サブアドレスを利用して、特定のポートにだけ着信させることができます。	☛P97
フレックスホン	Bチャンネル1本の使用で、以下のサービスが利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • INSキャッチホン • 三者通話 • 通信中転送 • 着信転送 当社との契約が必要です。	☛P101
通話料金表示	利用した通話料金、通信料金を表示することができます。	☛P105
モデムダイヤルイン	通知されるダイヤルイン番号やi・ナンバー情報を受信することにより、電話とファクスの呼び分けなどができます。 当社とダイヤルインまたはi・ナンバーの契約が必要です。	☛P107
INSなりわけサービス	特定の相手の方からの着信を識別するサービスです。 当社との契約が必要です。	☛P109
INSボイスワープ/ INSボイスワープセレクト	フレックスホンの着信転送にくらべて、高機能な着信転送サービスです。転送先の電話番号は当社の交換機に登録します。当社との契約が必要です。	☛P110
キャッチホン・ディスプレイ	外の相手の方とお話し中にかかってきた別の相手の方の電話番号をディスプレイに表示させることができます。 当社との契約が必要です。	☛P111
INSマジックボックス	話中時録音、INSキャッチホン、不在時転送、不在時録音が利用できるサービスです。当社との契約が必要です。	☛P114



お知らせ

- INSネットサービスの詳細については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。
- キャッチホン・ディスプレイでアナログ回線の相手の方の電話番号を表示するためには、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

3つの電話番号を使い分けるには (i・ナンバー)

i・ナンバー（有料）をご契約になると、2つまたは3つの電話番号を持つことができます。相手の方が電話をかけてきたときに通知されるi・ナンバー情報ごとに、着信するポートを特定することができます。

必要なINSネット64の契約

i・ナンバー（有料）

本サービスをご利用になるには当社との契約が必要になります。（平成12年3月現在）

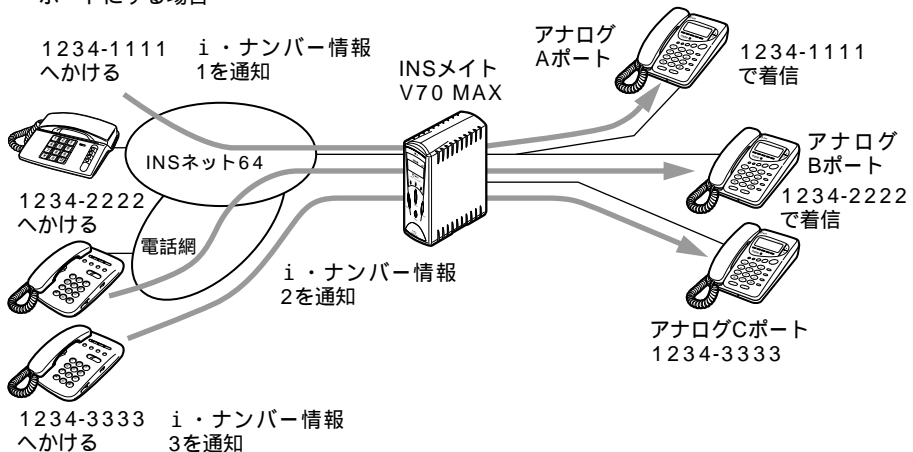
1つめの電話番号（契約者回線番号）がi・ナンバー情報1、2つめの電話番号（追加番号）がi・ナンバー情報2、3つめの電話番号（追加番号）がi・ナンバー情報3となります。

本装置で必要な設定

i・ナンバーを利用する旨と、通知されたi・ナンバー情報ごとにどのアナログポートに着信するかについて、設定する必要があります。

3つの電話機で呼び分ける例

1234-1111（契約者回線番号）での着信はアナログAポートに、1234-2222（追加番号）での着信はアナログBポートに、1234-3333（追加番号）での着信はアナログCポートにする場合



回線契約と設定	i・ナンバー情報1	i・ナンバー情報2	i・ナンバー情報3
回線の契約	i・ナンバーを契約する		
	1234-1111 (契約者回線番号) が割り当てられる	1234-2222 (追加番号) が割り当てられる	1234-3333 (追加番号) が割り当てられる
i・ナンバーの設定 (☛P84、231、280)	「i・ナンバーを使用する」を選択する		
電話番号の設定 (☛P85、231、280)	1234-1111を設定する	1234-2222を設定する	1234-3333を設定する
着信ポートの設定 (☛P82、231、280)	「Aポート」を選択する	「Bポート」を選択する	「Cポート」を選択する

電話機から設定する例

着信番号の設定

ハンドセットを取りあげる

① * ② * ③ ④ * をダイヤルボタンで押す

⑤ * を押す

⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ~ ⑩ ⑪ ⑫ を押す

i・ナンバー情報1を設定するときは⑬ ⑭ ⑮、i・ナンバー情報2を設定するときは⑯ ⑰ ⑱、i・ナンバー情報3を設定するときは⑲ ⑳ ㉑ を押す

㉒ *、電話番号、㉓ # の順に押す

から繰り返し i・ナンバー情報1・2・3のうち利用するものすべてを設定する

着信番号の設定が終了したら へ進む

着信ポートの設定

① または ② または ③ を押す

(①: アナログAポート ②: アナログBポート ③: アナログCポート)

④ * ⑤ ⑥ ⑦ * を押す

着信する i・ナンバー情報 ⑧ ~ ⑩ を押し、㉔ # を押す

他のアナログポートを設定するときは から繰り返し

着信ポートの設定が終了したら へ進む

発信ポートの設定

① または ② または ③ を押す

(①: アナログAポート ②: アナログBポート ③: アナログCポート)

④ * ⑤ ⑥ ⑦ * を押す

通知する発信番号(電話番号) ⑧ または ⑨ を押し、㉕ # を押す

他のアナログポートを設定するときは から繰り返し

発信ポートの設定が終了したら へ進む

i・ナンバーの使用設定

① ② * ③ ④ ⑤ * を押す

⑥ # ⑦ # を押し、ハンドセットを置く

パソコンからの設定(Win 98/95 Win NT P 231、 Mac P 280)



お知らせ

- 発信ポートの設定を正しく行わないと、相手の方に正しい電話番号が伝わらなかったり、発信者番号通知(P98)で設定した内容が有効とならない場合があります。また、INSネット64サービスが利用できない場合がありますので、発信ポートを正しく設定してください。
- i・ナンバーについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

複数の電話番号を使い分けるには (ダイヤルイン)

ダイヤルインをご契約になると、契約者回線番号に加えて複数の追加番号を持つことができます。この追加番号をポートに割り当てることにより、電話機やファクス、パソコンを呼び分けることができます。

契約者回線番号、追加番号の割り当ては、利用形態に合わせて本装置で設定します。

必要なINSネット64の契約

ダイヤルイン（有料）

ご利用になりたい電話番号の数より、1つ少ない数の追加番号をご契約ください。

グローバル着信

INSネット64の付加サービスである「グローバル着信」を「利用する」でご契約ください。

本装置で必要な設定

着信番号の設定（アナログポート共通）

着信番号として、契約者回線番号とご契約になった追加番号をすべて登録します。

（☛ **電話機** P88、**Win 98/95** **Win NT** P229、**Mac** P278）

グローバル着信 / 着信番号選択（アナログポートごと）

契約者回線番号を着信するポートは、グローバル着信を「着信する」に、また、追加番号を着信するポートは「着信しない」に設定してください。イーザーセットソフトを使用し設定するときは、契約者回線番号のグローバル着信を「着信する」に設定するだけで自動的に、契約者回線番号を着信するポートはグローバル着信を「着信する」に、追加番号を着信するポートは「着信しない」になります。

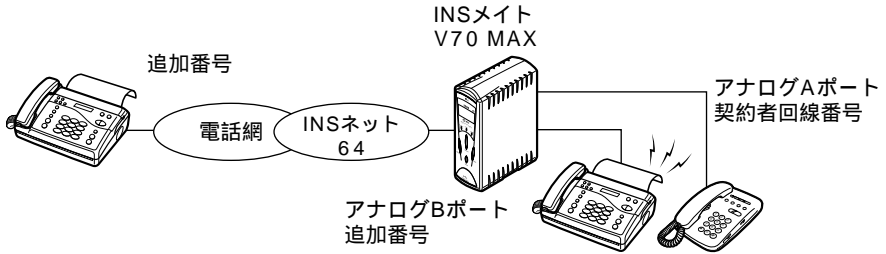
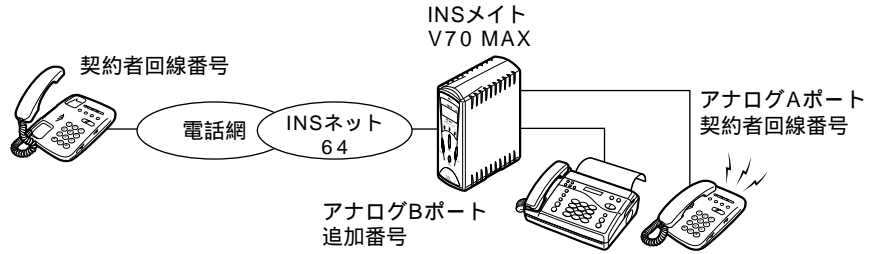
さらに、着信番号選択で、各アナログポートが着信する番号を選択します。

（☛ **電話機** P88、89、**Win 98/95** **Win NT** P229、**Mac** P278）

（次ページへ続く）

複数の電話番号を使い分けるには (ダイヤルイン)

電話機とファクスを呼び分ける例



この例では、追加番号を1つ以上契約する必要があります。

アナログポートの設定 ポート	装置	グローバル着信	着信番号選択
アナログAポート	電話機	着信する	契約者回線番号
アナログBポート	モデム/ファクス	着信しない	追加番号
アナログCポート	使用しない	(設定不要)	(設定不要)



お知らせ

- 電話番号の設定を正しく行わないと、相手に正しい電話番号が伝わらない場合があります。

INSネット64サービスでは、1回線に複数の電話機やパソコンを接続しているとき、サブアドレスを指定して特定の電話機やパソコンを直接呼び出すことができます。

各ポートのサブアドレス

外から電話をかけるときに、電話番号のあとにサブアドレスをダイヤルすると、そのサブアドレスが設定されているポートの電話機またはパソコンだけを呼び出すことができます。サブアドレスは、呼び出す方が指定できる場合にのみ利用できます。

お買い求め時は、各ポートのサブアドレスは設定されていません。

サブアドレスを利用する場合は、各ポートにサブアドレスを設定する必要があります。

(☛ 電話機 P22、Win 98/95 Win NT P235、Mac P284)



お知らせ

- サブアドレスを指定して電話をかけるには (☛P49)

発信者番号通知とは

発信者番号を相手の方に通知する機能です。

ご自分の電話番号の通知のされかた

発信者番号を通知するかどうかは、INSネット64の契約の内容、ダイヤル操作、本装置の設定の組み合わせで決まります。

INSネット64の発信者番号通知サービスの契約種別

「通常通知」「通常非通知」があります。

通知する / 通知しないを指定するダイヤル操作

電話番号の前に付加して「184（通知しない）」「186（通知する）」があります。

本装置の設定

ポートごとに「通知する」「通知しない」「INSネット64契約に従う」を設定することができます。

電話をかけるときの操作は以下のようになります。

契 約	本装置の設定	ダイヤル操作		
		相手番号 (通常の操作)	184+相手番号	186+相手番号
通常通知	通知する		×	
	通知しない	×	×	
	INSネット64 契約に従う		×	
通常非通知	通知する		×	
	通知しない	×	×	
	INSネット64 契約に従う	×	×	

: 通知する × : 通知しない



お知らせ

- 本装置で発信者番号通知を設定するには
(☛ 電話機 P82、Win 98/95 Win NT P232、Mac P281)
また、「発信者通知番号」で、ポートごとに通知する番号を設定することができます。
- (☛ 電話機 P82、Win 98/95 Win NT P229、Mac P278)
- 発信者番号通知を「通知しない」または「通知する」に設定し、i・ナンバー(☛P84)を「使用する」に設定した場合は、必ず発信者番号通知を正しく設定してください。
- (☛ 電話機 P82、Win 98/95 Win NT P229、Mac P278)
- i・ナンバー使用時は、発信者番号通知を正しく設定しないと正しく動作しません。

INSナンバー・ディスプレイとは、INSネット64サービスを利用している方にアナログ回線から電話がかかってきたときでも、相手の方の電話番号がディスプレイに表示されるサービスです。このサービスを利用するためには、当社との契約が必要です。

電話がかかってきたとき

電話に出る前に、かけてきた相手の方の電話番号が表示されます。相手の方の電話番号を確認してから電話に出ることができます。

電話機やファクスに表示させるには

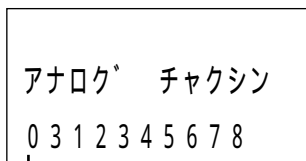
アナログポートにナンバー・ディスプレイ対応またはキャッチホン・ディスプレイ対応の電話機やファクスを接続すると、電話機やファクスのディスプレイにも電話番号を表示させることができます。INSナンバー・ディスプレイを利用できるポートは、アナログAポートとBポートの2つです。

本装置で必要な設定

電話番号を表示させる機器を接続するアナログポートの「情報通知サービス」に「INSナンバー・ディスプレイ」を設定してください。

(☛ 電話機 P82、Win 98/95 Win NT P233、Mac P282)

本装置のディスプレイにはこのように表示されます



相手の方の電話番号

相手の方の電話番号が表示されない場合

表示	表示の意味
アナログ チャクシン P:非通知	かけてきた相手の方が番号を通知しない操作をした、または、表示しない契約になっている
アナログ チャクシン C:公衆電話	相手の方が公衆電話からかけている
アナログ チャクシン O:表示圏外	相手の方がナンバー・ディスプレイを提供していない地域からかけている、または、サービスが競合しているために電話番号を通知できない

サービスを利用した便利な機能

INSナンバー・ディスプレイを契約すると、アナログ回線からの着信に対しても、相手の方の発信者番号を利用する次の機能を利用することができます。

- 着信履歴発信 (☎P51、159)
- 相手番号識別着信 (☎P58)
- 迷惑電話防止 (☎P60)
- マイプライベート着信 (☎P62)
- 疑似なりわけ (☎P64)
- 疑似選択キャッチホン (☎P67)
- 相手番号識別着信転送 (☎P71)
- キャッチホン・ディスプレイ (☎P111)



お知らせ

- INSナンバー・ディスプレイを契約していない場合でも、かけてきた相手の方がINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機を利用して発信者番号を通知してきた場合は、電話番号が表示されます。携帯電話機、PHS対応電話機からの着信は、着信番号が表示されないこともあります。
- ナンバー・ディスプレイ対応機器の機種によっては、電話番号が正しく表示されない場合があります。
- 本装置に着信した電話番号が表示されている間は、設定操作を行わないでください。
- 1つのアナログポートに複数のアナログ通信機器を接続すると、正常に電話番号が表示されません。

本装置は、INSネット64サービスの付加サービスであるフレックスホンを利用することができます。

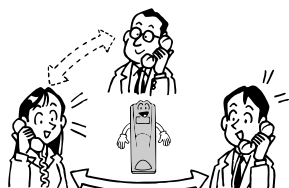
フレックスホンとは

フレックスホンをご利用になるときは、当社との契約が必要です。詳しくは、局番なしの116番または当社の営業所等にお問い合わせください。

フレックスホンには、以下のサービスがあります。

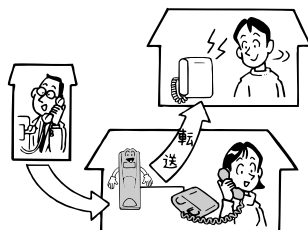
お話し中に別の相手の方の電話を受け る（INSキャッチホン）

外の相手の方とお話し中に、別の相手の方から電話がかかってきたとき、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方と話しすることができます。疑似キャッチホンと異なり、キャッチホン中も他のポートを使用することができます。（☛P102）



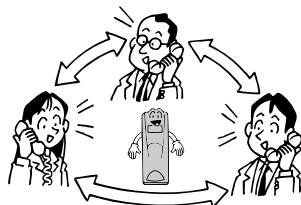
お話し中に外の相手の方に転送する （通信中転送）

外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけて取りつぐことができます。（☛P102）



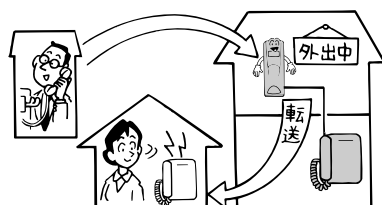
3人でお話しする（三者通話）

外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけ、3人でお話しすることができます。疑似三者通話と異なり、三者通話中も他のポートを使用することができます。（☛P104）



外からの電話を別の相手の方に転送する （着信転送）

外の相手の方からの電話を、あらかじめ登録した相手の方に直接取りつぐことができます。疑似着信転送と異なり、着信転送中も各ポートを使用することができます。（☛P104）



通話中に別の相手の方の電話を受ける（INSキャッチホン）

INSキャッチホンをご契約になったときは、パソコンまたは電話機からの設定操作で、アナログポートごとに「INSキャッチホン」を設定してください。

（☛ 電話機 P81、Win 98/95 Win NT P232、Mac P281）

INSキャッチホンの操作は、疑似キャッチホンと同じです。（☛P66）



お知らせ

- 電話機能を搭載したファクスやモデムを接続したアナログポートにINSキャッチホンは設定しないでください。通信中に着信があるとエラーになります。
- 2台の電話機でそれぞれお話し中に、さらに別の相手の方から電話がかかってきたときは、INSキャッチホンを設定しているアナログポートの中で若い番号のポートにのみ「ププッ、ププッ...」という音が聞こえます。

通話中の電話を転送する（通信中転送）

通信中転送をご契約になったときは、パソコンまたは電話機からの設定操作で、「通信中転送」を設定してください。

（☛ 電話機 P83、Win 98/95 Win NT P239、Mac P288）

- 1** お話し中に相手の方に待っていただくように伝え、フッキングする。



- 2** 別の相手の方の電話番号を押す。

「ププッ...」という音が聞こえます。保留にした方には、保留音が聞こえます。

3 相手の方が出たら転送することを伝える。



☎ A	B1
3 / 19	15 : 30

4 フッキングする。

「プップ、プップ…」という音が聞こえます。

5 電話を切る。

外の相手の方と、転送先の電話機でお話しできるようになります。



ワンポイント

- 転送先がお話し中のときはフッキングすると、前の相手の方のお話しに戻ることができます。
- フッキングとは（☎P67）
- 転送先の方が応答する前に転送するには（応答前転送）手順2で転送先に電話をかけ、相手の方が電話に出る前に、フッキングしてから電話を切るにより転送することができます。



お知らせ

- 疑似三者通話が設定されていると、フレックスホンの通信中転送が利用できませんので、通信中転送をご契約のときは、疑似三者通話を設定しないようにしてください。

3人でお話する(三者通話)

三者通話をご契約になったときは、パソコンまたは電話機からの設定操作で、アナログポートごとに「三者通話」を設定してください。

(☛ 電話機 P83、Win 98/95 Win NT P239、Mac P288)

操作は疑似三者通話と同じです。(☛P68)

三者通話の場合は、続けて2回のフッキング操作で、ミキシングモードから切替モードに戻ることができます。

外からの電話を別の相手の方に転送する(着信転送)

疑似着信転送の設定と同じ操作で、設定してください。(☛P70)

着信転送の解除操作も、疑似着信転送と同じです。(☛P74)



ワンポイント

- 転送トーキを利用するには
着信転送では、電話をかけてきた方と転送先の方に転送であることを音声ガイダンスで知らせる転送トーキを利用することができます。
- 転送元トーキ
「ただいま電話を転送しますので、そのままお待ちください。」
- 転送トーキ
「電話が転送されます。」

転送トーキの利用には、本装置での設定が必要です。

(☛ 電話機 P83、Win 98/95 Win NT P237、Mac P287)

INSネット64から送られてきた通話 / 通信料金情報をもとに、本装置のボタン操作で累計料金を表示することができます。

1 Menuボタンを押す。

1 : チャクシンリレキ

2 Selectボタンを繰り返し押しして「2 : リョウキン」を表示させる。

2 : リョウキン

3 Enterボタンを押す。

RS-232Cポートの通信料金の累計が表示されます。

ルイセキ シリアル
310円

4 累計の表示を確認しながら、Selectボタンを繰り返し押す。

Selectボタンを押すたびに、「シリアルポート」「USB(B)ポート」「USB(F)ポート」「アナログAポート」「アナログBポート」「アナログCポート」の順に通話 / 通信料金の累計が表示されます。

ルイセキ アナログ A
50円

5 表示を確認したら、Menuボタンを押す。

(次ページへ続く)



ワンポイント

- 電話機からの操作で通話 / 通信料金の累計を表示させるには (☛P83)
- パソコンで通話 / 通信料金の累計を表示させるには
(☛ Win 98/95 / Win NT / P227、Mac / P275)
- 通話 / 通信料金の累計をクリアするには
Menuボタンを押す
Selectボタンを繰り返し押し、「4 : ショキカ」を表示させる
Enterボタンを押す(「1 : ルイセキカキンノショキカ」と表示される)
Enterボタンを押す(「ルイセキカキンショウキョシマスカ」と表示される)
Enterボタンを押す



お知らせ

- いずれかのポート(アナログポート、RS-232Cポート、USBポート)が使用中のときは、本操作はできません。使用中の通信が終了してからやり直してください。

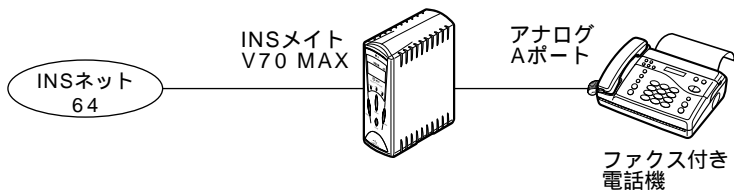
本装置に接続した電話機で以下の便利な機能を利用することができます。

モデムダイヤルイン

ダイヤルイン番号またはi・ナンバー情報の電話番号での着信を、モデム信号で知らせる機能です。これにより、モデムダイヤルイン対応のファクス付き電話機でファクス着信と電話着信を呼び分けることができます。モデムダイヤルインを利用できるポートは、アナログAポートとBポートの2つです。

モデムダイヤルイン利用に必要な設定

- ダイヤルインまたはi・ナンバーの利用設定 (☛P88、95)
- モデムダイヤルインを利用するアナログポートの「情報通知サービス」に「モデム・ダイヤルイン」を設定する
(☛ **電話機** P82、**Win 98/95** **Win NT** P233、234、**Mac** P282、283)



本装置の設定とモデムダイヤルイン対応 ファクス付き電話機の設定例

- ダイヤルインを利用した場合

着信番号	変換後の番号	モデムダイヤルイン対応ファクス付き電話機の設定
03-1234-1111	設定しない	1234-1111で電話機を呼び出す
03-1234-2222	設定しない	1234-2222でファクスを呼び出す

モデムダイヤルイン対応のファクス付き電話機に登録する電話番号は、その通信機器の取扱説明書によらず、市内局番から登録してください。

- i・ナンバーを利用した場合

i・ナンバーの設定により、設定した電話番号に対応するアナログポートを呼び出します。

電話番号	モデムダイヤルイン対応ファクス付き電話機の設定
03-1234-1111	03-1234-1111で電話機を呼び出す
03-1234-2222	03-1234-2222でファクスを呼び出す

モデムダイヤルイン対応のファクス付き電話機に登録する電話番号が市外局番からの場合は、本装置の電話番号も市外局番から登録してください。市内局番の場合も同様に登録してください。

(次ページへ続く)



ワンポイント

- モデムダイヤルインで内線電話の直接呼び出しを設定するには情報通知サービスの設定で、「変換後の番号」を設定すると、着信を変換後の番号に置きかえ、特定の内線電話を呼び出すことができます。
- サブアドレス付きで設定するには情報通知サービスの「モデム・ダイヤルイン」の設定で、「サブアドレスを付ける」を設定してください。
(☛ 電話機 P82、Win 98/95 Win NT P235、Mac P284)
- モデムダイヤルイン対応電話機の親機および子機から発信したとき、相手の方に通知する発信者番号 (☛P98) は、設定ユーティリティまたはイーザーテレホン設定の着信番号選択で通知番号として選択した番号が通知されます。(親機、子機とも同じ発信者番号が通知されます)
(☛ 電話機 P82、Win 98/95 Win NT P229、Mac P278)



お知らせ

- モデムダイヤルインを利用するには、当社とダイヤルインまたはi・ナンバーの契約が必要です。
- アナログ通信機器へのモデムダイヤルイン番号登録の操作方法は、ご利用になるアナログ通信機器の取扱説明書などを参照してください。
なお、i・ナンバーを利用の場合、ご利用になるアナログ通信機器へのモデムダイヤルイン番号の登録は、その通信機器の取扱説明書にかかわらず、i・ナンバー情報の電話番号 (☛P94) に登録した電話番号を登録してください。
- モデムダイヤルインを設定したアナログポートでINSキャッチホンを利用している場合、お話し中にファクスの着信があっても、電話の着信と同じように「ブッ、ブッ...」という音が聞こえます。
- ファクス付き電話機で着信音呼び返し動作の場合は、ファクスと電話が両方呼び出されます。

INSなりわけサービス

INSなりわけサービスは、あらかじめ相手の方の電話番号を登録して、以下のような利用を行うサービスです。

- 登録した相手の方からの着信音を通常と異なる音で鳴らす(識別リングング)
- 登録した相手の方からの着信のみ着信音を鳴らす(セキュリティ)
- 登録した相手の方のみキャッチホンの着信を知らせる(選択キャッチホン)

INSなりわけサービスを利用するには

INSなりわけサービスを利用するには、当社との契約が必要です。

本装置で必要な設定

INSなりわけサービスを契約した電話番号を、発信者通知番号として登録します。

ご利用になる機能により、本装置で次の設定を行ってください。

- 識別リングング
アナログポートごとの設定で、なりわけに「INSなりわけ(識別リングング)」を設定してください。
- セキュリティ
アナログポートごとの設定で、相手番号識別着信に「INSなりわけ(セキュリティ)」を設定してください。
- 選択キャッチホン
アナログポートごとの設定で、相手番号識別着信に「INSなりわけ(選択キャッチホン)」を設定してください。

(☛ 電話機 P81、82、Win 98/95 Win NT P235、Mac P284)



お知らせ

- 電話機の機種や設定により、着信音が鳴らないことがあります。
- INSなりわけサービスは契約者回線番号、追加番号ごとに契約します。
- INSなりわけサービスの詳細については、ご契約時に局番なしの116番または当社の営業所等でご確認ください。

INSボイスワープ/INSボイスワープセレクト

INSボイスワープは、リモコン操作で転送の開始や転送先の変更などができる転送サービスです。本装置に接続した電話機からは、INSボイスワープをご利用になるとき、以下の項目について利用者の方が直接設定することができます。

- 転送サービスの開始（転送方法の選択）/停止
- 転送先電話番号の登録
- 転送先リストの選択（転送先の選択）
- 無応答時の転送の起動時間（転送待ち時間）の設定
- リモートコントロール機能の設定（暗証番号の設定）
- 転送トーカーの設定
- 転送元電話番号通知の設定

INSボイスワープ/INSボイスワープセレクトを利用するには

INSボイスワープ/INSボイスワープセレクトをご利用になるには、当社との契約が必要です。本装置で必要な設定

おでかけ設定（●P72）でINSボイスワープをご利用になるときは、あらかじめ次の～の設定を行っておく必要があります。手動でINSボイスワープ/INSボイスワープセレクトをご利用になるときは、代表取扱サービスやダイヤルインを契約している回線ではのみを設定してください。（●P95）

発信者番号通知の設定

アナログポートごとの発信者番号通知の自己アドレスを設定してください。

INSボイスワープ転送サービス起動/停止用電話番号の設定

お買い求め時は次の番号が設定されています。特番が変更になったときは変更することができます。通常はこのままでご利用になれます。

無条件転送	14211	無応答または話中時転送	14214
無応答転送	14212	サービス停止	1420
話中時転送	14213		

INSボイスワープ起動用契約電話番号の設定

INSボイスワープをご契約になった、契約者回線番号または追加番号を設定してください。

INSボイスワープ転送サービス開始モードの設定

おでかけ設定ボタンを押したとき、起動するINSボイスワープの転送方法を次の4つの中から1つ選択しておきます。

無条件転送/無応答時転送/話中時転送/無応答または話中時転送

おでかけ設定ボタンの機能選択（●P72）

おでかけ設定をINSボイスワープに設定してください。

（● 電話機 P84、85、Win 98/95 Win NT P236、Mac P285）



お知らせ

- INSボイスワープ/INSボイスワープセレクトは、契約者回線番号、追加番号ごとに契約します。
- INSボイスワープ/INSボイスワープセレクトの詳細については、ご契約時に局番なしの116番または当社の営業所等でご確認ください。

キャッチホン・ディスプレイ

本装置のアナログAポート、アナログBポートはキャッチホン・ディスプレイに対応しています。キャッチホン・ディスプレイは、外の相手の方とお話中に別の相手の方から電話がかかってきたとき、電話をかけてきた方の電話番号（発信電話番号）や電話番号を通知できない理由をアナログポートに接続したアナログ通信機器に通知し、アナログ通信機器のディスプレイに表示するサービスです。この機能をご利用になるためには、以下の契約と設定が必要です。

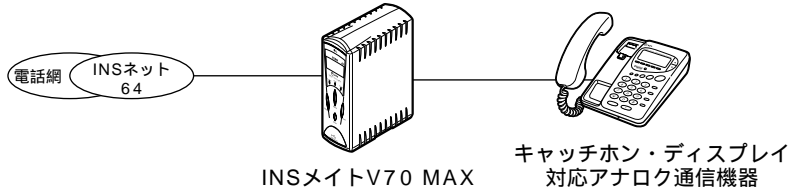
回線契約と設定	疑似キャッチホン（●P66） を利用する場合	INSキャッチホン（●P102） を利用する場合
回線の契約	INSナンバー・ディスプレイ ¹ （●P99）を契約する（有料）	・INSナンバー・ディスプレイ ¹ （●P99）を契約する（有料） ・INSキャッチホン（●P102） を契約する（有料）
情報通知サービスの設定 （●P82、233、282）	「INSナンバー・ディスプレイ」または「INSナンバー・ディスプレイとモデム・ダイヤルイン」を選択する ²	
キャッチホンの設定 （●P81、232、281）	「疑似キャッチホン」を選択する	「INSキャッチホン」を選択する
キャッチホン・ディスプレイの設定 （●P82、233、282）	「使用する」を選択する	

- 1 相手の方がINSネット64から発信電話番号を通知して電話をかけてきた場合は、INSナンバー・ディスプレイが未契約でも発信電話番号をアナログ通信機器に通知することができます。
- 2 キャッチホン・ディスプレイをご利用のときは、ナンバー・ディスプレイ発信電話番号通知を「する」に設定してください。「しない」に設定するとアナログ通信機器が正常動作しない場合があります。

（次ページへ続く）

その他のサービスを利用するには

アナログポートに接続した通話中のアナログ通信機器に、電話をかけてきた別の方の発信電話番号を表示する仕組みは次のとおりです。



通話中に発信電話番号が付加された着信があります。(キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器では、「プップ、プップ...」という着信音が聞こえます)

本装置は、受信した発信電話番号をモデム信号に変換します。

ナンバー・ディスプレイ発信電話番号通知およびキャッチホン・ディスプレイ発信電話番号通知を「する」に設定したアナログポートにモデム信号を送出します。(キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器では、「ビツ」という割込音が聞こえます)

キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器が、モデム信号で受信した発信電話番号を表示します。



お知らせ

- キャッチホン・ディスプレイにおいて相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、本装置に接続したアナログ通信機器に発信電話番号は通知されません。このとき、電話番号を通知できない理由を、本装置に接続したアナログ通信機器に通知します。ただし、INSナンバー・ディスプレイの契約において、非通知理由「有/無」の契約を「有」にする必要があります。電話番号を通知できない主な理由についてはP99「相手の方の電話番号が表示されない場合」を参照してください。
なお、アナログ通信機器のディスプレイなどにどのように表示されるかは、アナログ通信機器によって異なります。
- アナログ通信機器によっては、発信電話番号などが正しく表示されないことがあります。
- 相手の方からサブアドレスが通知された場合、本装置は発信電話番号（アドレス）と発サブアドレス（相手の方のサブアドレス）をアナログ通信機器に通知するように設定することができます。このとき発信電話番号と発サブアドレスの区切り子として「/」を挿入します。
例 0312345678 / 001

発信電話番号 区切り子 発サブアドレス

ただし、本装置に接続したアナログ通信機器にサブアドレス受信機能がない場合は、設定ユーティリティまたはテレホン設定の「サブアドレス」で、「発・着サブアドレスを通知しない」設定をしてください。

(☛ 電話機 P81、Win 98/95 Win NT P235、Mac P284)

- キャッチホン・ディスプレイによる着信時には、「プップ、プップ…」という着信音に加えて「ピッ」という割込音が聞こえます。この割込音とお話し中の声が重なりますと電話番号などの表示ができないことがあります。また、1秒程度通話が途切れます。
- 「おやすみモード」、「フラッシュモード」や「停電時にブザーを鳴らす」に設定しているときは、発信者電話番号などが正しく表示されないことがあります。
- 内線通話中の着信時は、INSキャッチホンまたは疑似キャッチホンの設定にかかわらず、キャッチホン・ディスプレイ対応の電話機に電話番号を表示します。

INSマジックボックス

INSマジックボックスは、話中時録音、INSキャッチホン、不在時転送、不在時録音が利用できるサービスです。

「ダイヤルイン」、「代表取扱」サービスや「i・ナンバー」のご契約をされている場合に、このサービスをご利用になるときは、INSマジックボックスをご利用になる電話番号を、必ず設定ユーティリティまたはイージーテレホン設定で発信者通知番号として登録してください。

(☛ 電話機 P82、Win 98/95 Win NT P229、Mac P278)

また、INSマジックボックスのINSキャッチホンをご利用の場合は、設定ユーティリティまたはイージーテレホン設定でキャッチホン設定を「INSキャッチホン」に設定してください。

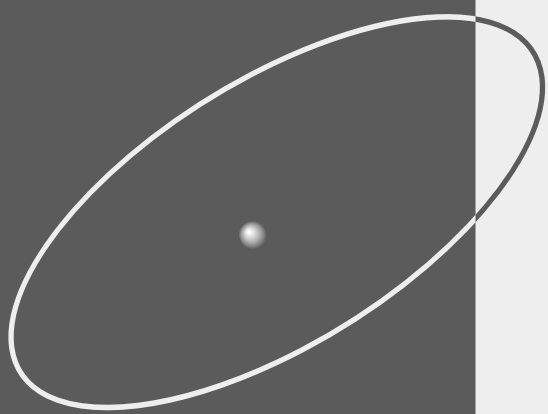
(☛ 電話機 P81、Win 98/95 Win NT P232、Mac P281)

このサービスをご利用になるには、当社との契約が必要です。



お知らせ

- INSマジックボックスについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。



パソコン 活用編

1 データ通信を行う

2 USBポートを使う

3 USBネットワーク

4 Dチャンネルパケット通信

1 . データ通信を行う	116
2 . USBポートを使う	139
3 . USBネットワーク	183
4 . Dチャンネルパケット通信	206

本装置は、非同期、非同期/同期PPP変換、128KマルチリンクPPP、PIAFSの4つの通信モードの中から選択してインターネットサービスプロバイダに接続します。通信モードは、付属品のCD-ROMからパソコンにモデム情報やCCLファイルをインストールすることにより設定することができます。

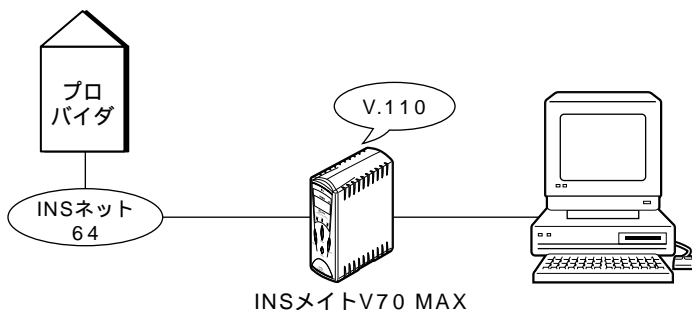
モデム情報、CCLファイルのインストールについては、「インターネット接続ガイド」(別冊)を参照してください。

Windows[®] 2000をご使用の場合は、本装置のRS-232Cポートとパソコンを接続してご利用ください。

「インターネット接続ガイド」(別冊)では、モデム情報のインストール操作をはじめとして、本装置を使用してインターネットに接続する手順を、準備から説明しています。

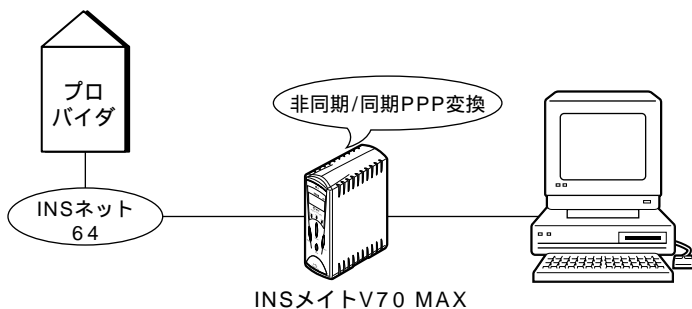
非同期 (38.4 kbit/s、57.6 kbit/s)

V.110による速度整合を行います。インターネットの非同期38.4 kbit/s、57.6 kbit/sの接続サービスを利用するときの通信モードです。



非同期/同期PPP変換 (64 kbit/s)

パソコンの非同期PPPデータとINSネット64回線の同期PPPデータを相互に変換して通信するモードです。インターネットの同期64 kbit/sの接続サービスを利用するときの通信モードです。

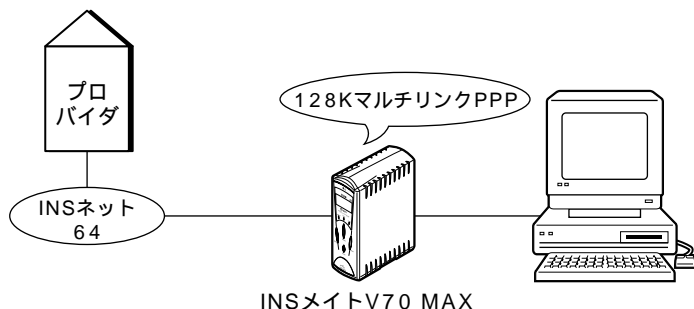


128KマルチリンクPPP

Multilink Protocol (MP) 方式により、INSネット64の2つのBチャンネルを使って128 kbit/sで通信するモードです。128KマルチリンクPPPをサポートしているアクセスポイントに接続するときの通信モードです。

128KマルチリンクPPPで通信するときは、BOD機能(▶P118)で通信データ量で使用するチャンネル数を自動的に調節することができます。

BOD機能の設定 (▶ Win 98/95 / Win NT / P242、▶ Mac / P291)



128KマルチリンクPPP通信

プロバイダとの契約について

128KマルチリンクPPP通信を行うためには、マルチリンクPPPをサポートしているプロバイダと契約する必要があります。128KマルチリンクPPP通信を行うためには、プロバイダ側が認証プロトコルとして、PAP(パスワード認証プロトコル)をサポートしている必要があり、「2本目のBチャンネルPPPネゴシエーションは、1本目のネゴシエーションと同じ値を許容する」となっている必要があります。通常、プロバイダはこれらをサポートしています。

通信料金について

128KマルチリンクPPP通信で2つのBチャンネルを使用している間の通信料金は、64K同期通信で1本のBチャンネルを使用しているときの2倍になります。

128KマルチリンクPPP通信の使用中は...

- プロバイダのアクセスポイントのポートに空きがない場合は、128KマルチリンクPPP通信モードで発信しても、1つのBチャンネルしか接続できない場合があります。この場合は、64K同期通信になります。
- 2つのBチャンネルが接続できて、128KマルチリンクPPP通信が確立すると、本装置から「ピッピッ」という音が鳴ります。
- 128KマルチリンクPPP通信中は、Bチャンネルを2本使用しますので、アナログポートでの発着信はできません。
- 128KマルチリンクPPP通信中も、MUXを使用して複数のパソコンで同時にインターネットを利用することができます。

(次ページへ続く)

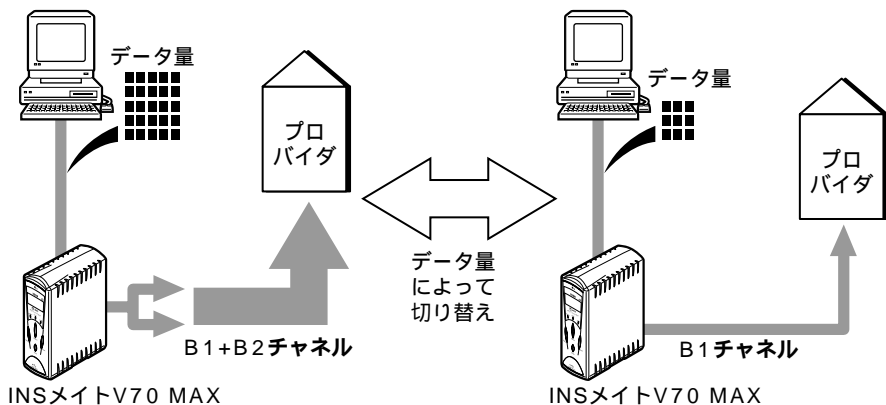
BOD機能

128KマルチリンクPPP通信を利用するとき、使用するチャンネル数を自動的に変更する機能です。

通信データ量によってチャンネル数を変更する方式を「スルーブットBOD」、アナログポートに接続している電話機/ファクスの発着信によって変更する方式を「リソースBOD」といいます。

スルーブットBOD

スルーブットBODを設定すると、自動的に、通信データ量が少なくなるときは1つのBチャンネルを使用し、多いときは2つのBチャンネルを使用して通信を行うことができます。



● スルーブットBODの設定

「リンク追加算出時間」内に、送受信データ量が「リンク追加しきい値」より大きくなると、Bチャンネルを2つ使用して通信します。

また、「リンク削除算出時間」内の送受信データ量が「リンク削除しきい値」より小さくなると、2つ目のBチャンネルを削除して、1つのBチャンネルで通信します。

● しきい値

次の回線利用率(%)で示します。

回線利用率(%) = 一定時間のデータ量の平均値 / 回線の最大データ量 × 100

「回線の最大データ量」は、64 kbit/s (8 kbyte/s) です。たとえば、「リンク追加算出時間」が30秒、「リンク追加しきい値」が70%の設定のときは、30秒間の回線利用率が70%より大きくなったとき(30秒間の送受信データ量が44.8 kbit/sより大きくなったとき) Bチャンネルを追加します。

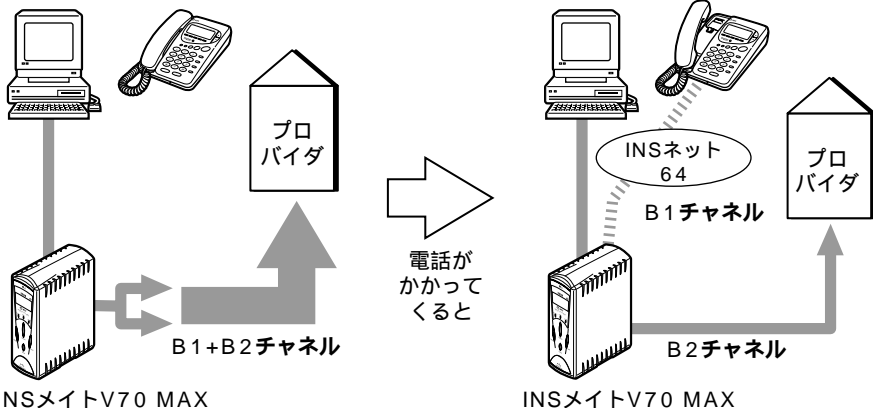


お知らせ

- 接続するプロバイダの状況、アクセスするサイトの混雑状況、お客様の使用状況等の条件によっては、Bチャンネルの追加と削除が頻繁に発生して、逆に料金が高くなる場合があります。
- 本装置は、通信相手からのBチャンネルの追加、削除要求があっても拒否します。通信相手から強制的にBチャンネルを追加、削除された場合には、通信エラーが発生する可能性があります。

リソースBOD

リソースBODを設定すると、2つのBチャンネルでデータ通信中に、アナログポートに接続した電話機やファクスに発着信があると、1つのBチャンネルを削除して電話機やファクスが使用できるようにすることができます。また、アナログポートの使用が終了すると、データ通信のBチャンネルを追加します。



INSメイトV70 MAX

INSメイトV70 MAX

- リソースBODを利用するために必要な契約
リソースBODを利用する場合、INSネット64の契約で「通信中着信通知サービス」の利用を選択する必要があります。
- リソースBODの利用
1つのBチャンネルを削除するときは、本装置で「ピッ」という音が鳴ります。また、データ通信の終了時にも、「ピッ」と鳴ることがあります。



お知らせ

- プロバイダの混雑状況によっては、アナログポートの使用が終了しても2つ目のBチャンネルが接続できないことがあります。このようなときは、アナログポートの電話機のハンドセットを取りあげて、戻す操作を行うことで再度2つ目のBチャンネルの追加を試みることができます。
- 2つ目のBチャンネルの追加とアナログポートの発信が同時に行われたときは、アナログポートは話中音が聞こえます。このようなときは、再度発信し直してください。
- リソースBODとスルーブットBODを両方使用するとき、Bチャンネルを追加するのは、スルーブットがしきい値以上になったときのみです。アナログポートの使用が終了してもスルーブットの条件が満たされなければBチャンネルを追加しません。
- 128KマルチリンクPPPで通信を行うときは、本装置とパソコン側の通信速度は、230.4 kbit/sでご使用ください。Windows対応機種で使用する場合、お使いになるパソコンが230.4 kbit/sに対応していないときは、市販の高速RS-232Cボードを購入してください。Macintoshで使用する場合は、230.4 kbit/s対応の機種をご使用ください。

(次ページへ続く)

手動BOD機能

データ通信中に本装置のEnterボタンを押すことにより、128KマルチリンクPPP 64KPPPまたは64KPPP 128KマルチリンクPPPを切り替えることができます。

- 1** 128KマルチリンクPPP通信中に、Enterボタンを押す。

通信速度64 kbit/sで通信しているときは、右のように表示されます。

```
→B1 RDY
64カラ128へ
ツイカスル?
```

通信速度128 kbit/sで通信しているときは、右のように表示されます。

```
⇒B1 B2 RDY
128カラ64へ
サクシヨスル?
```

- 2** もう一度Enterボタンを押す。

通信速度が切り替わります。

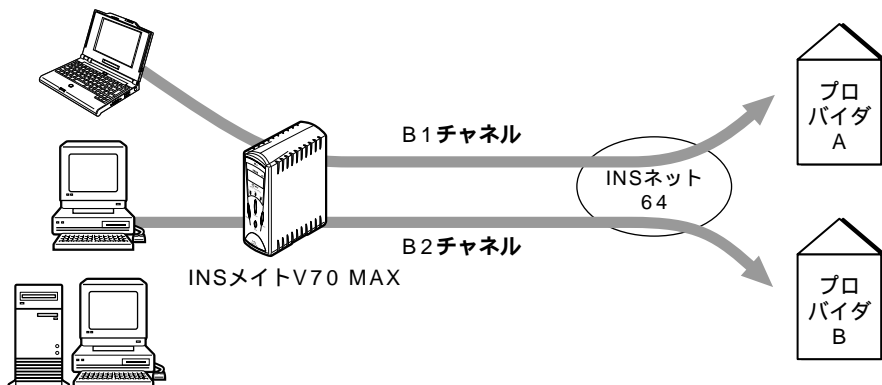


ワンポイント

- ATコマンドで通信を制御するには
本装置は、モデムの標準的な制御コマンドであるATコマンドをサポートしています。ATコマンドで通信モードなどの設定を行うときは、パソコン設定編の「ATコマンド」を参照してください。(●P313)
- 手動BODを行う場合は、リソースBODを設定しておいてください。スループットBODの設定をしているとデータ量が少ない場合、Enterボタンを押しても128KマルチリンクPPPに切り替わりません。

マルチアクセス

マルチアクセスは、本装置の2つのUSBポートまたはRS-232Cポートに接続された2台のパソコンから、Bチャンネルを1本ずつ使ってそれぞれ別のアクセスポイントに接続する機能です。



マルチアクセスご利用中は、2つの接続それぞれに通信料金がかかります。1つのアクセスポイントへの接続を2台または3台のパソコンで同時に利用したい場合は、「MUXステータス for USBユーティリティ」をインストールし、MUX機能をご利用ください。複数のパソコンで同時にインターネットを利用するには（●P167）

（次ページへ続く）

マルチアクセスでの接続方法

マルチアクセスで利用可能な通信モードは、「非同期 / 同期変換 (64 kbit/s)」と「Dチャンネルパケット通信」のみです。

Dチャンネルパケット通信が利用できるのは、RS-232Cポートのみです。マルチアクセスがご利用になれる通信モードは、以下の9つの組み合わせになります。

	R-232Cポート	USBポート (前面)	USBポート (背面)
1	同期64K	同期64K	
2	同期64K		同期64K
3	同期64K	MUX	
4		同期64K	同期64K
5	MUX	同期64K	MUX
6	MUX		同期64K
7	Dチャンネル		同期64K
8	Dチャンネル	同期64K	
9	Dチャンネル	MUX	

「同期64K」……………非同期 / 同期変換 (64 kbit/s)

「Dチャンネル」……………Dチャンネルパケット通信

「MUX」……………MUXによるBチャンネル共有 (非同期 / 同期変換 (64 kbit/s))

「 」……………使用不可

マルチアクセスで接続するときは、単独で接続するときと同じ要領で2台のパソコンからインターネットに接続してください。2台目のパソコンからのインターネット接続により自動的にマルチアクセス通信になります。

インターネットに接続する方法 (● 「インターネット接続ガイド」別冊)



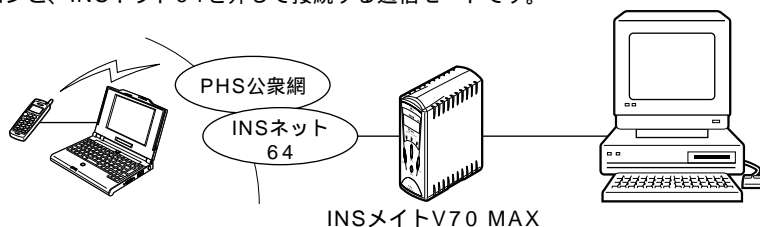
お知らせ

- マルチアクセスご利用中は2つのBチャンネルを使用しますので、アナログポートに接続された電話機やファクスは使用できません。
- マルチアクセスご利用中は、BOD機能は利用できません。

PIAFSモード (PIAFS2.0準拠)

本装置は、PIAFSモードをサポートしています。RS-232Cポート、USBポートでPIAFS通信ができます。

ワイヤレスパソコンアダプタなどに接続したモバイルPCやPIAFS機能をサポートしているパソコンと、INSネット64を介して接続する通信モードです。



発信

- PIAFSモードに切り替える

AT \$ Nコマンドで通信モードを切り替えます。

AT \$ N1=2 (PIAFSモード) (☛P344)

AT \$ N15=0 (PIAFS32K) (☛P345)

AT \$ N15=1 (PIAFS64K)

- 発信時に通信モードを指定する

PIAFS32Kモードのとき、ATDコマンドの相手の電話番号の末尾に「PF」を付けて発信します。

PIAFS64Kモードのとき、ATDコマンドの相手の電話番号の末尾に「PD」を付けて発信します。

ATDコマンド (☛P318)

着信

PIAFSモードでの着信があると、自動的に判別して通信を行います。

- PIAFSとは

PHS Internet Access Forum Standardの略称で、PHSインターネットアクセスフォーラムで規定されたPHSを用いたデータ通信手順のことです。32 kbit/sのPHSデータを通信速度29.2 kbit/sで発着信する通信方法と、64 kbit/sのPHSデータを通信速度58.4 kbit/sで発信する2とおりの通信方法があります。

- PIAFS64Kモードでは、NTTDoCoMoの方式を用いた相手と接続できます。



ワンポイント



お知らせ

- PIAFS64Kモードのときは、発信者番号通知を行うようにしてください。(☛P98)

HLC (高位レイヤ整合性)

接続する機器に合わせて、HLCを設定すると、HLCが一致する相手とのみ通信ができます。HLCには、次のものがあります。

コード	種 別
01	電話
04	G2/G3ファクス
33	G4ファクス
36	ミックスモード
49	テレテックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム
65	OSIアプリケーション

アナログポートのHLC

本装置では、アナログポートに接続した機器については、「使用する機器」として設定したHLCが設定されます。

(☛ 電話機 P81、Win 98/95 Win NT P232、Mac P281)

本装置の動作

- 発信時は、本装置が自動的にHLCを付加して発信します。
- 着信時は、発信者からのHLCを照合し、一致する場合のみ通信を行います。
- HLCがない相手からの着信は、受け付けません。

HLCの設定(☛ 電話機 P81、Win 98/95 Win NT P235、241、Mac P284、290)

着信時、HLCを判別しないようにするには

ATコマンドで、HLCを設定しても着信時にHLCが一致しない着信を受け付けるように、設定することができます。

\$A、\$B、\$Cコマンド(☛P337、339)



お知らせ

- アナログポートに、ファクス付き電話機を接続したときは、相手が電話でもファクスでも着信を受けられるように、「HLCを設定しない」を設定してください。HLCを設定すると、INSネット64用電話機からの着信は受け付けません。

CTI機能

CTI（コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション）機能は、着信時に通知される情報をコンピュータで処理するなど、電話機とコンピュータを統合的に利用する機能のことです。本装置では、CTI機能として、「CTI情報出力」と「CTI発信」の2つの機能を搭載しています。

CTI機能利用設定

CTI機能を利用するときは、CTI機能の使用を設定し、CTI情報表示を有効とするポートを、2つのUSBポートまたはRS-232Cポートの中から設定する必要があります。

CTI機能の利用設定（☛ **電話機** P82、**Win 98/95** **Win NT** P235、**Mac** P284）
ATコマンド形式、リザルトコード形式（☛P313）

CTI情報出力

アナログポートに通知される着信情報に含まれる発信者番号などを、着信時にRS-232CポートまたはUSBポートに以下の形式のリザルトコードで通知します。

RING ANALOG 発信者番号/発信者サブアドレス 着番号/着サブアドレス

最大32桁 最大19桁 最大32桁 最大19桁

非通知理由を受信したときは、発信者番号/発信者サブアドレスの代わりに以下の形式でリザルトコードを送出します。

RING ANALOG [非通知理由] 着番号/着サブアドレス

P：ユーザ拒否 O：サービス提供不可

C：公衆電話発信 S：サービス競合

サブアドレスセパレータ(/)は、固定です。

リザルトコードの最後に付加される[CR][LF]は、固定です。

i・ナンバーをご利用のときは、着番号としてi・ナンバー情報に対応した電話番号が表示されます。

（次ページへ続く）



お知らせ

- 電話網からの着信に対して、相手電話番号をRS-232CポートまたはUSBポートに出力するには当社とのINSナンバー・ディスプレイの契約（有料）が必要です。
- RS-232CポートまたはUSBポートへの出力は、RS-232Cポートが空いているときに限り、1回のみ出力します。
- ダイヤルイン契約をしていない回線およびグローバル着信契約をしているときの契約者回線番号への着信では、設定ユーティリティ等で契約者回線番号に設定した電話番号を着番号として出力します。
(☛ **電話機** P88、**Win 98/95** **Win NT** P229、**Mac** P278)
- i・ナンバー(☛P92)を「使用する」に設定した場合は、設定ユーティリティなどでi・ナンバー情報の電話番号と着信するポートを設定してください。(☛P231、280)
ここで設定した電話番号を着番号として出力します。電話番号を設定しない場合はi・ナンバー情報1を着番号として出力します。
- CTI情報の出力時、パソコンへのCI信号は変化しません。
- 設定ユーティリティで本機能を使用する設定をしたあと、設定ユーティリティを終了する前にアナログポートへ着信があると、「ATコマンドエラー」と表示される場合があります。
- 相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、出力されません。
- パソコンを最初に接続したときや、パソコンの通信速度を変更したときは、ハイパーターミナルなどのターミナルソフトで「AT」を必ず入力して、パソコンと本装置の通信速度を合わせてください。「AT」を入力しない場合、着信時に文字化けするなど正しく動作しないことがあります。
- ここでは、CTIを利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

CTI発信

RS-232CポートまたはUSBポートに接続したパソコンから以下の形式のATコマンドを入力することにより、アナログポートの発信を行うことができます。

CTI発信手順

パソコンよりATコマンドを入力する

ATコマンドで指定したアナログポートに接続されているアナログ通信機器の着信音が鳴ります。着信音は3分間鳴り続けます。

着信音が鳴っている間に、ハンドセットを取りあげる

ATコマンドで入力した相手の方の電話番号に本装置が自動的に発信します。着信音が鳴っている間にアナログ通信機器のハンドセットを取りあげないと、呼び出しを中止します。

相手の方が出たらお話しする

CTI発信のATコマンド

AT!Dn;相手の方の着番号/サブアドレス

最大32桁

最大19桁

nは、アナログポート番号です。(1：アナログAポート、2：アナログBポート、3：アナログCポート)

CTI発信キャンセルコマンド

アナログ通信機器を呼び出している間は、以下のATコマンドで発信を取り消すことができます。

AT!Cn

nは、アナログポート番号です。(1：アナログAポート、2：アナログBポート、3：アナログCポート)

(次ページへ続く)

リザルトコード

CTI発信を行ったときのリザルトコードは、以下の形式になります。

数 字	文 字	説 明 (送出される条件)
0	OK Tn	<ul style="list-style-type: none"> CTI発信で呼び出し中でないアナログポートを指定してCTI発信をキャンセルしたとき
1	CONNECT Tn	<ul style="list-style-type: none"> 電話をかけた相手の方が応答したとき
3	NO CARRIER Tn	<ul style="list-style-type: none"> CTI発信でのお話しが終了したとき アナログ機器のハンドセットを取りあげたとき2つのBチャンネルが使用中 アナログポートの接続機器が「使用しない」になっているとき 回線異常時
4	ERROR Tn	<ul style="list-style-type: none"> 着番号、着サブアドレスの最大桁数を超えた番号で発信したとき 使用中のアナログポートにCTI発信したとき 停電時に、アナログBポートかアナログCポートからCTI発信したとき CTI発信から3分以内にアナログ通信機器のハンドセットを取りあげないとき データ通信のオンラインコマンドモードでCTI発信したとき データ通信のオンラインコマンドモードでCTI発信をキャンセルしたとき
	ERROR	<ul style="list-style-type: none"> 着番号を指定しないでCTI発信したとき アナログポート番号を指定しないで、または1～3以外のアナログポート番号でCTI発信したとき アナログポート番号を指定しないで、または1～3以外のアナログポート番号でCTI発信をキャンセルしたとき CTI発信によるアナログ通話が終了する前にデータ通信で発信したとき AT!Cコマンドのあとに、他のATコマンドを続けて入力した場合
7	BUSY Tn	<ul style="list-style-type: none"> 相手の方がお話し中のとき
8	ER OFF Tn	<ul style="list-style-type: none"> パソコンのER信号がOFFの状態でのCTI発信を行ったとき パソコンのER信号がOFFの状態でのCTI発信をキャンセルしたとき

nは、アナログポート番号です。(1：アナログAポート、2：アナログBポート、3：アナログCポート)



お知らせ

- CTI発信は、続けて2つまで行うことができます。
 - すでに2つのBチャンネルを使用している場合は、CTI発信手順の でハンドセットを取りあげると話中音が聞こえます。
 - アナログ通信機器を呼び出し中に、そのアナログポートに電話がかかってきた場合は、電話をかけてきた相手の方には話中音が聞こえます。
 - CTI発信時に本装置の短縮ダイヤルは利用できません。
 - CTI発信後、内線転送を行った場合、パソコンへ通知するアナログポートの番号はCTI発信時のアナログポート番号です。
 - CTI発信後、AT!D、AT!Cコマンド以外のATコマンドを入力した場合は、パソコンへERRORを返します。
 - CTI発信による通話が終了するまでは、データの発着信はできません。データ着信時は、着信を拒否します。通話終了後あるいはER信号OFF後にデータ着信が許可状態になります。
 - ATD¥によるCTI発信はできません。
 - CTI発信中にパソコンのER信号がOFFになった場合は、本装置のER信号の設定により次の動作になります。
 - 常時ONにする
CTI発信動作を継続する。
 - 通信中のみパソコンのERを見る
アナログ通信機器の呼び出しを停止する。そのあとのリザルトコードはパソコンへ通知しない。
 - 通信中のみパソコンのER信号を見る
上記 と同じ動作となる。
- パソコンを最初に接続したときや、パソコンの通信速度を変更したときは、ハイパーターミナルなどの通信ソフトで「AT」を必ず入力して、パソコンと本装置の通信速度を合わせてください。「AT」を入力しない場合、着信時に文字化けするなど正しく動作しないことがあります。
- ここでは、CTI発信を利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

ACCM

Async Control Character Mapの略です。非同期PPP通信で使用する制御キャラクタを2バイトのキャラクタに変換するかどうかを決めます。

ネットワークからのACCMを許容しないアプリケーションをお使いの場合は、「AT \$N13=0」を設定して、ACCMを付加しないようにする必要があります。

Windows® 98 / 95、Windows NT® 4.0は、ACCMを許容するので、設定する必要はありません。

フリーコールバック

本装置を利用してクライアント/サーバのネットワークを構築したとき、クライアント側から発信を行うと自動的にサーバ側本装置がクライアント側へかけ直します。(コールバック)フリーコールバックを使用すると、たとえば、自宅(リモートクライアント)~会社(サーバ)のネットワークで、自宅側の電話料金を発生させずに通信することができます。

フリーコールバックを利用するには...

フリーコールバックを利用するためには、次の契約や設定が必要です。

クライアント側

INSネット64契約	発信者番号通知サービスを「通常通知(通話ごと非通知)」で契約する
フリーコールバック	「フリーコールバックする」に設定する (☛ Win 98/95 Win NT P245、 Mac P294、AT P345)
RS-232Cポートの発信者番号通知の設定	「通知する」または「INSネット64に従う」に設定する (☛ Win 98/95 Win NT P240、 Mac P289、AT P345)
フロー制御の設定	「RS-CSフロー制御」に設定する (☛ AT P326、336)
自動応答	「自動応答」に設定する (☛ AT P357)
発信時	ATコマンドのDコマンドで相手のアドレスの末尾に「CB」を付加して発信する (☛ AT P318)

サーバ側	
INSネット64契約	発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」で契約する
フリーコールバック	「フリーコールバックする」に設定する (☛ Win 98/95 / Mac / Win NT / AT P 245、P 294、P 345)
RS-232Cポートの発信者番号通知の設定	「通知する」または「INSネット64に従う」に設定する (☛ Win 98/95 / Mac / Win NT / AT P 240、P 289、P 345)
フロー制御の設定	「RS-CSフロー制御」に設定する (☛ AT P 326、336)
自動応答	「自動応答」に設定する (☛ AT P 357)
ER信号	サーバのER信号をONにしておく



ワンポイント

- フリーコールバックが利用できるターミナルアダプタ
INSメイトV-70 / V-70DSU、INSメイトV-7 / V-7DSU、INSメイトV-3 / V-3DSU、INSメイトV-1SII、INSメイトPB-1DSUで利用できます。



お知らせ

- フリーコールバックを設定していても、通常の発着信を行うことができません。
- アナログポートでフリーコールバックを使用することはできません。
- リモートクライアント側と同じ回線に複数のターミナルアダプタが接続されているときは、本装置を指定できるように、サブアドレスやダイヤルインを利用してください。

応答平均化

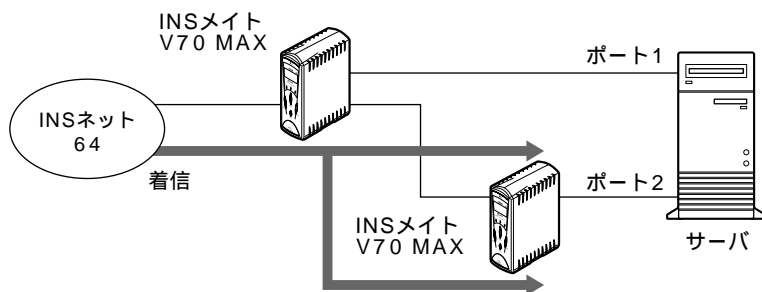
1本のINSネット64に複数の本装置が接続されているときに、本装置の各RS-232Cポートへの着信応答を平均化することができます。この機能を利用すると、サーバに対する無効な着信を防止し、リソースの有効活用ができます。

(Win 98/95 / Win NT / P249、 Mac / P298)

応答平均化利用例

本装置が下図のように2台接続されているとき、応答平均化が設定されていないと、リモートクライアントからサーバにアクセスがあると、サーバのポート1とポート2に同時に着信がかかります。ここでサーバは、両方のポートに応答しますが、早く応答したポートはリモートクライアントと通信状態になり、遅く応答したポートは接続に失敗して切断されます。このため、遅く応答したポートは着信から切断復旧まで次の着信を受けることができず、リソースが無駄に消費されてしまいます。

応答平均化を設定すると、2台の本装置がサーバのポート1とポート2に交互に着信させることができるようになり、サーバへの無駄な着信が発生しなくなります。



ワンポイント

- 応答平均化が利用できるターミナルアダプタ
INSメイトV-70 / V-70DSU / INSメイトV-7 / V-7DSU、INSメイトV-3 / V-3DSU、INSメイトV-1SIIで利用できます。



お知らせ

- アナログポートで応答平均化を使用することはできません。
- 応答平均化を利用するときは、同じINSネット64に接続されているターミナルアダプタすべてに「応答平均化する」を設定してください。応答平均化が設定されていないターミナルアダプタがあると、着信順番は保証されません。
- 頻繁に着信がかかる回線で使用しているときは、ビジーを返すことがあります。

端末速度自動検出

通信ソフトからATコマンドを入力するだけで、パソコンで設定した通信速度、データビット長、パリティビットを本装置が自動検出する機能です。この機能により、本装置で設定を行わなくても、簡単に通信を行うことができます。速度検出が正常に行われると、「OK」(リザルトコード)が返されます。



お知らせ

- 本装置の電源を切ると、検出した速度データは消去されます。保持したいときは、ATコマンドの\$Sコマンドで設定してください。

無通信監視タイマ

設定した時間内にデータの送受信がないと、自動的に回線を切断する機能です。この機能を利用すると、切断忘れを防止することができます。

(☛ Win 98/95 Win NT P243、Mac P292)



お知らせ

- プロバイダによっては、監視パケット等を定期的に発信する場合があります。この場合、切断されませんので手動で切断するか、強制切断タイマを設定してください。

強制切断タイマ

データ通信を開始してから、設定した時間が経つと強制的に切断する機能です。切断操作を行っても、ソフトウェアが正しく動作しないなどの理由で切断できない場合の長時間接続を防止することができます。

設定時間は、1～10時間の1時間刻みで設定することができます。

(☛ Win 98/95 Win NT P243、Mac P292)

フロー制御

フロー制御を設定することにより、相手のパソコンのRS-232Cポートと通信速度が異なるときでも、データを欠かすことなく通信することができます。(●P326、336)

設定できるフロー制御には、次の方式があります。

XON/XOFF (ソフトウェアフロー制御)

パソコンがデータ通信中にXON/XOFF (DC1 : 11h/DC3 : 13h) 制御コードを入れてフロー制御を行います。XONがデータ受信可能を、XOFFがデータ受信不可能を表します。本装置は、パソコンからXOFF制御コードを受信すると、データの一部として通信相手に送るとともに、相手からの受信データをパソコンへ送出せずにバッファに蓄積します。

CSフロー

本装置がRS-232CポートのCS信号を用いてフロー制御を行います。パソコンからのデータが受信可能なときはON、不可能なときはOFFにします。パソコンからのデータ受信速度よりも回線へのデータ送信速度が遅く、受信したデータ量が本装置内にあるバッファの規定量を超えたときにパソコンからのデータ送出を止めるためにCSOFFにします。

RS-CSフロー (ハードフロー制御)

CSフロー制御とともにRS-232CポートのRS信号を用いてフロー制御を行います。パソコンが本装置からのデータを受信可能なときはON、不可能なときはOFFにします。RS信号は、V.110速度整合方式のXビットにマッピングさせて通信相手へのCS信号に反映されます。

異速度通信

着信時に相手の通信速度を本装置が自動的に判別し、発信してきた相手に合わせた速度で通信を行う機能です。この機能により、通信速度が異なるパソコンどうしても通信することができます。

異速度通信は、初期値の設定「着信速度チェックしない(異速度通信する)」「RS-CSフロー制御」のまま利用することができます。(●P326、336、344)

非同期 / 同期自動判別着信

着信時に、本装置が通信相手が非同期通信か、非同期 / 同期変換PPP通信かを自動的に判別し、相手に合わせて通信する機能です。この機能をサーバ側の本装置で使用することにより、さまざまな形態のクライアントと通信できるネットワークを構築することができます。

非同期 / 同期自動判別着信機能は、初期値の設定「着信速度チェックしない(異速度通信する)」「RS-CSフロー制御」のまま利用することができます。(●P326、336、344)

CS遅延時間

パソコンからのRS信号がOFFからONになったとき、設定されている時間だけCS信号を遅延させてONにする機能です。データ速度の24ビット分に設定した時間を足した時間分、CS信号を遅延してONにします。

通信相手のパソコンがCD信号を受信するよりも、RS信号のONによるCS信号のONが早い
ため、送信したデータを相手パソコンで受信できないことがないようにできます。

CS遅延時間の設定

- AT&K0またはAT≠Q0（フロー制御なし）を設定する
（☛P326、336）
- S26=コマンドで遅延時間を設定する
（☛P357）

手動強制切断

データ通信中にNEXTボタンを5秒以上押し続けると、データ通信中の回線を強制的に切断
することができます。

- 手動強制切断により、アナログポートの通話は切断されません。
- マルチアクセスでデータ通信中は、手動強制切断によりB1チャンネル、B2チャンネルの両方
のデータ通信が切断されます。

OCNエコノミーは、128 kbit/sの通信速度で利用できるインターネット常時接続サービスです。本装置は、OCNエコノミーへの接続に対応しています。

OCNエコノミーは、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供しているサービスです。OCNエコノミーを利用する場合には、NTTコミュニケーションズ株式会社との契約が必要です。

OCNエコノミーを設定する

必要な契約

OCNエコノミーを利用するためには、OCNエコノミーの契約が必要です。

設定スイッチの設定

OCNエコノミーを利用するとき、本装置では設定スイッチの設定が必要です。


設定スイッチをOCNエコノミーに設定したあと、本装置の電源を入れると、ディスプレイには「OCNエコノミー」と表示されます。

OCNエコノミー設定時のATコマンド

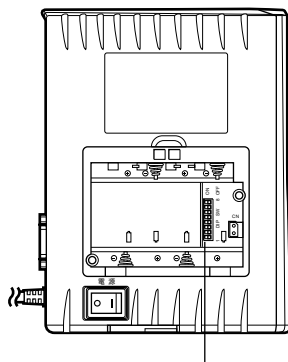
設定スイッチをOCNエコノミーに設定しているとき、利用できるATコマンドは以下のものです。

D,E,H,I,O,Q,V,X,Z,&C,&D,&S,+++

設定スイッチを変更する

1 電源スイッチの「」側を押して、電源を切る。

2 電池カバーのツメを押し下げながら、持ち上げるようにして開ける。



設定スイッチ



お買い求め時の
設定スイッチの設定



- 3** つまようじのようなもので
設定スイッチを変更する。

スイッチのみ変更してください。

OCNエコノミーを利用するとき



- 4** 電池カバーを取り付ける。

- 5** 電源を入れる。

OCNエコノミーに接続する

「インターネット接続ガイド」(別冊)を参照し、次の点に注意してダイヤルアップIP接続の設定と接続を行ってください。

モデム情報のインストール

OCNエコノミーを利用するときは、インストールでモデム情報の「INSMATEV70 MAX MP128」を選択します。

IPアドレス設定

TCP/IPの設定で、各パソコンで付与されたIPアドレスを入力します。

アクセスポイントの電話番号

「0」などの仮の数字を入力しておいてください。数字を入力しておかないと、発信できないことがあります。



ワンポイント

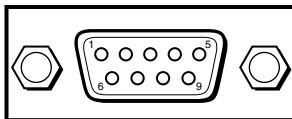
- IPアドレスの入力方法
8個のIPアドレスが割り当てられます。パソコンに設定するIPアドレスは、ネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを除いた残りの6個の中から1つを選びます。



お知らせ

- 設定スイッチを変更するときは、必ずいったん電源を切ってから行ってください。電源を入れ直すと変更した内容が有効になります。
- OCNエコノミーに設定スイッチを設定すると、アナログポートに接続した電話機やファクスは使用できません。
- OCNエコノミーに設定スイッチを設定すると、ファームウェアのバージョンアップはできません。バージョンアップを行う場合は、設定スイッチの1ビット目をいったんOFFにして、電源を入れ直してから行ってください。
- 本装置は、発信側の機能のみ対応しています。

コネクタ形状
9ピンコネクタ（オス型）



パソコンインタフェースの信号線

ピン番号		信号方向 パソコン 本装置	名称	機能
シェル	(FG)		保安用接地	装置のフレームアースです
1	CD		キャリア検出	本装置が、パソコンにデータ受信を要求していることを示します ON : パソコンにデータ受信を要求します OFF : パソコンにデータ受信を要求しません
2	RD		受信データ	本装置からパソコンへ送られるデータです
3	SD		送信データ	パソコンから本装置へ送られるデータです
4	ER		データ端末レディ	パソコンの動作準備ができているかどうかを示します ON : パソコンが、データの授受の準備ができていることを示します OFF : パソコンが、データの授受の準備ができていないことを示します
5	SG		信号用接地	相互接続回路に基準電位をあたえます
6	DR		データセットレディ	本装置の動作準備ができているかどうかを示します ON : パソコンとデータの授受を行う準備ができていることを示します OFF : パソコンとデータの授受を行う準備ができていないことを示します
7	RS		送信要求	データ送信許可を要求します ON : データ送信許可を要求します OFF : データ送信許可を要求しません
8	CS		送信可	データ送信可能かどうかを示します ON : データ送信が可能です OFF : データ送信してはいけません
9	CI		被呼表示	パソコンに着信していることを示します ON : 着信があることを示します OFF : 着信がないことを示します

USB (Universal Serial Bus) は、1つのポートに種類の異なる周辺機器をプラグ&プレイで接続できるようにするインタフェースです。USBポートは、RS-232Cポートより高速の通信 (パソコン - 周辺機器間) が可能なため、インターネットへ128KマルチリンクPPPで接続するときの接続ポートに適しています。

USBポートを使用する

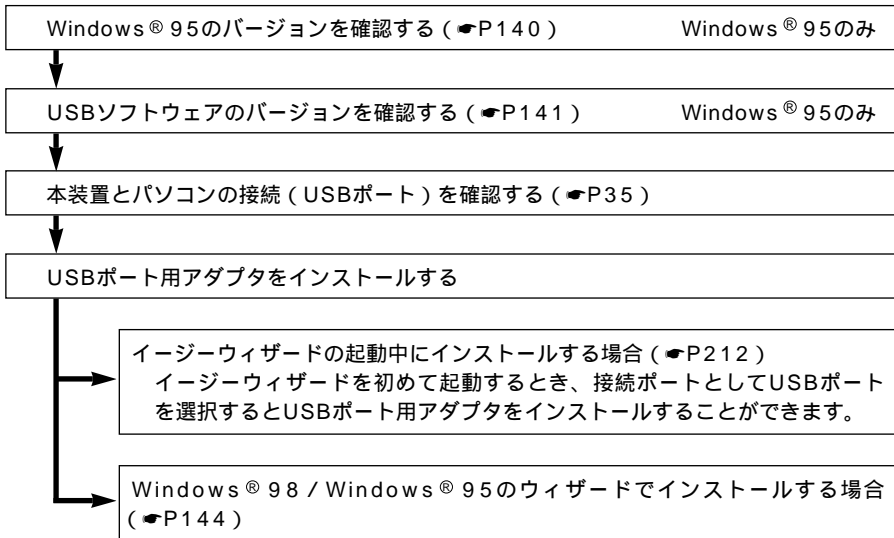
本装置のUSBポートに接続するパソコンは、以下の条件を備えている必要があります。

- パソコンがUSBポートを装備していること
- Windows® 98またはWindows® 95がインストールされていること
(Windows® 95の場合、USBポートに対応しているのは、4.00.950Bまたは4.00.950C (OSR2.1) 以降のバージョンです。)
- USBソフトウェアがインストールされていること
(USBソフトウェアが、本装置の動作が確認されているバージョンであることを確認する必要があります。)

USBポートを使用するための準備

USBポートでインターネットに接続するためには、以下の順で、お使いのパソコンでUSBポートが使用できる環境になっているかを確認し、本装置の付属品のCD-ROMからUSBポート用アダプタをパソコンにインストールします。

Windows® 98をお使いの場合は、 の操作は必要ありません。 以降の操作を行ってください。



(次ページへ続く)



お知らせ

- USBポートが使える状態になると液晶ディスプレイに次のように表示されます。
USB!... 前面のUSBポートに接続されたパソコンから通信できる状態のとき
USBb!... 背面のUSBポートに接続されたパソコンから通信できる状態のとき

Windows® 95のバージョン確認

1 パソコンの電源を入れ、起動する。

2 [スタート]をクリックしたあと、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

[コントロールパネル]が表示されます。

3 [システム]アイコンをダブルクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



4 [情報]タブの表示で、システムのバージョンを確認する。

[Microsoft Windows 95 4.00.950B]または[4.00.950C]と表示されているときは、本装置のUSBポートを使用することができます。



お知らせ

- Windows® 95のバージョンが「4.00.950」または「4.00.950a」の場合は、Windows® 95のバージョンアップが必要です。バージョンアップについては、お使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。
- パソコンメーカーが動作保証していないUSBソフトウェアをWindows® 95「4.00.950」または「4.00.950a」がインストールされているパソコンにインストールしないでください。Windows® 95が動作しなくなることがあります。
- [OEM Service Release 2.1 (OSR2.1)]以降であれば、[Microsoft Windows95 4.00.950B]または[4.00.950C]が表示されます。

USBソフトウェアの確認

1 [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

2 USBソフトウェアがインストールされていることを確認する。

[セットアップと削除]タブの表示の一覧に[USB Supplement to OSR2]があれば、USBソフトウェアはインストールされています。USBソフトウェアがインストールされていない場合は、お使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。



(次ページへ続く)

3 [キャンセル] をクリックする。

[USB Supplement to OSR2] をダブルクリックしないように注意してください。USBソフトウェアが削除されます。

4 [スタート] をクリックしたあと、[検索] をポイントし、[ファイルやフォルダ] をクリックする。

[検索] ダイアログボックスが表示されます。

5 USBソフトウェアを検索する条件を入力する。

[名前]

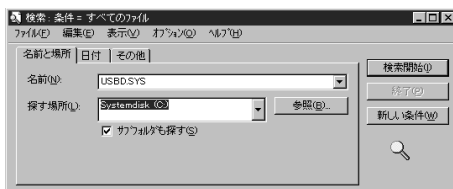
... USBD.SYS

[探す場所]

... Windows® 95がインストールされているドライブ

[サブフォルダも探す]

... チェックする



6 [検索開始] をクリックする。

7 検索された「USB.D.SYS」ファイルを右クリックし、プルダウンメニューの [プロパティ] をクリックする。

USB.D.SYSのプロパティが表示されます。

8 [バージョン情報] タブをクリックする。



9 [ファイルバージョン] で、本装置の動作が確認されているバージョンを確認する。

本装置の動作が確認されているUSBソフトウェアのバージョンは、インターネットのNTT通信機器商品のご案内ホームページで紹介しています。



お知らせ

- NEC PC98-NXシリーズのパソコンは、[セットアップと削除] タブの表示の一覧に [USB Supplement to OSR2] が表示されませんが、USBソフトウェアはインストールされています。
- パソコンによっては、USBソフトウェアがインストールされていても、BIOS設定を行わないとUSBポートを使用できないものがあります。BIOS設定は、ご使用のパソコンの取扱説明書を参照して行ってください。

USBポート用アダプタのインストール

USBポート用アダプタのインストールは、デバイスドライバウィザードによるユニバーサルシリアルバスコントローラへのインストールと、ハードウェアウィザードによるCOMポートへのインストールの2つの手順で行います。

イーージーウィザードの操作の中で、これらのインストールを行うことができます。(▶P212)画面は、Windows® 98の例です。

お使いのパソコンによっては手順のとおりにはインストールできないことがあります。

ユニバーサルシリアルバスコントローラへのインストール

1 パソコンの電源を入れ、起動する。

2 本装置とパソコンをUSBポートで接続する。

3 本装置の電源を入れる。

[新しいハードウェアの追加ウィザード] が表示されます。

4 [次へ >] を1回クリックする。



- 5** [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]のラジオボタンをクリックし、[次へ>]をクリックする。

「新しいドライバは、ハードドライブのドライバデータベースと...」と表示されます。



- 6** 付属品の「INSメイト V70 MAXユーティリティ集」をCD-ROMドライブにセットする。

- 7** [検索場所の指定]をチェックし、[参照]をクリックする。

- 8** CD-ROMの[Usb]フォルダの中の[Win98]フォルダを選択し、[OK]をクリックする。

Windows® 95をご使用の場合は、[Usb]フォルダの中の[Win95]フォルダを選択してください。

(次ページへ続く)

9 [次へ>] をクリックする。

「INSMATEV70 MAX USBPort Adapter」と表示されます。

「(不明)上のファイル V70 MAX Port.vxdが見つかりませんでした」が表示されたときは、[参照]をクリックし、手順8で指定したフォルダを選択後、[OK]をクリックしてください。

10 [次へ>] をクリックする。

USBポート用アダプタがインストールされます。



11 [完了] をクリックする。

12 [コントロールパネル]の [システム]をダブルクリックする。

13 [デバイスマネージャ] タブをクリックする。

14 [ユニバーサルシリアルバス
コントローラ]をダブルク
リックする。

「INSMATEV70 MAX USBPort
Adapter」が表示されます。

「INSMATEV70 MAX USBport
Adapter」に **!** が表示されたときは、
アンインストール (P153) を行い、
手順1からやり直してください。



お知らせ

- インストールの途中で誤って [キャンセル] をクリックしたときは、手順1からやり直してください。

引き続きCOMポートへのインストールを行います。

COMポートへのインストール

1 [コントロールパネル]の
[ハードウェアの追加]をダ
ブルクリックする。

[新しいハードウェア追加ウィザード]
が表示されます。



(次ページへ続く)

2 [次へ>] をクリックする。

Windows® 95をご使用の場合は、手順5へ進みます。



3 [次へ>] をクリックする。



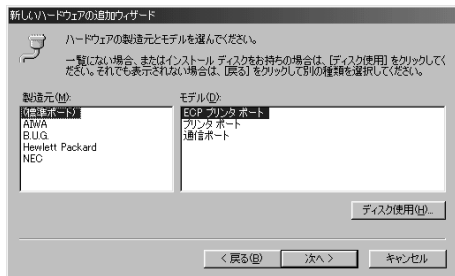
4 [デバイスは一覧にない] のラジオボタンをクリックし、[次へ>] をクリックする。



- 5** [いいえ] のラジオボタンをクリックし、[次へ>] をクリックする。

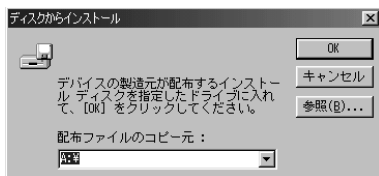


- 6** [ポート (COM/LPT)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



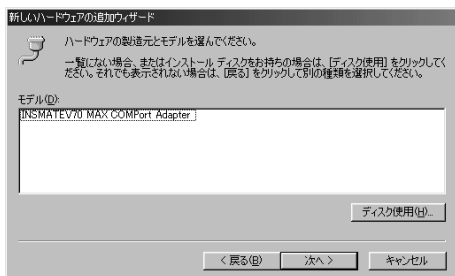
(次ページへ続く)

7 付属品の「INSメイトV70 MAXユーティリティ集」がCD-ROMドライブにセットされているのを確認し、[ディスク使用]をクリックする。



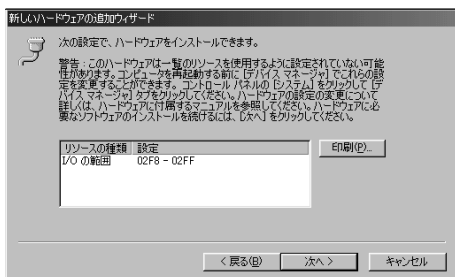
8 [参照] をクリックし、CD-ROMの [Usb] フォルダの中の「Win98」フォルダを選択し、[OK] をクリックする。

Windows® 95 をご利用の場合は、[Usb] フォルダの中の [Win95] フォルダを選択してください。



9 [次へ >] をクリックする。

「INSMATEV70 MAX COMPort Adapter」に割り当てられたリソースが表示されます。

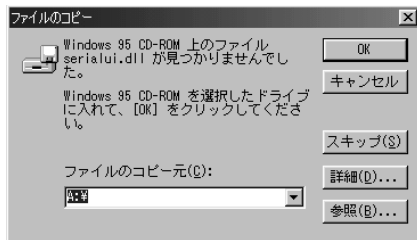


10 表示される画面に従って、インストールを行う。

お使いのパソコンによっては、右の画面が表示されることがあります。右の画面が表示されたときは、次の ~ の操作を行ってください。

Windows® 95のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
(Windows® 95の場合のみ)
(Windows® 95をご利用の場合でも、CD-ROMのセットは省略可能です。)

[OK] をクリックする。



[参照] をクリックする。

フォルダを選択する。

(1) Windows® 95をご利用の場合でCD-ROMをセットした場合
Windows® 95のCD-ROMの [Win95] を選択します。

(2) CD-ROMをセットしていない場合

Windows® 98 / Windows® 95 がインストールされているハードディスクの [System] フォルダを選択します。

[OK] を2回クリックする。

(次ページへ続く)

- 11** インストールの完了を確認する。



- 12** [完了] をクリックする。



- 13** [はい] をクリックする。



Windows® 98 / Windows® 95が再起動します。

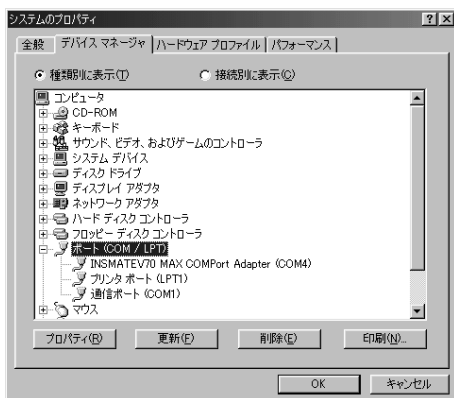
- 14** [コントロールパネル] の [システム] をダブルクリックする。

- 15** [デバイスマネージャ] タブ をクリックする。

16 [ポート (COM/LPT)] をダブルクリックする。

「INSMATEV70 MAX COMPort Adapter」が表示されます。

「INSMATEV70 MAX COMPort Adapter」に  が表示されたときは、アンインストール ( 下のワンポイント) を行い、手順1からやり直してください。



ワンポイント

- USBポート用アダプタのアンインストール
USBポート用アダプタをインストールする前の状態に戻りたいときは、付属品のCD-ROMに入っているアンインストーラを使用していきます。
起動中のアプリケーションをすべて終了させる
付属品の「INSメイトV70 MAXユーティリティ」をCD-ROMドライブにセットする
エクスプローラでCD-ROMの中の [Usb] フォルダの中の、[V70 MAX USBUninst.exe] をダブルクリックで起動する
表示される指示に従ってアンインストールする



お知らせ

- パソコンを再起動するときは、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。入っていれば抜いてから再起動してください。入っていると正常に再起動できません。

USBポートでデータ通信を行うには (Macintoshをご利用の場合)

iMac / iMac DV / iBook / Power Macintosh G3 / Power Macintosh G4のUSBポートに本装置を接続してご利用になるときは、以下の操作が必要です。

MacintoshのUSBポートに本装置を接続する手順

MacOSのバージョン確認 (☛下記)

USBドライバのインストール

INSメイトV70 MAXユーティリティ
のインストーラでインストールする
場合 (☛P264)

手動でインストールする場合 (☛P155)

本装置とパソコンの接続 (☛P156)

上記手順を行ったあとは、ご利用上の注意 (☛P157) を必ずお読みください。

Mac OSのバージョンを確認する

iMac / iMac DV / iBook / Power Macintosh G3 / Power Macintosh G4にインストールされているMacOSのバージョンを、以下の操作で確認します。本装置が利用できるバージョンでない場合は、利用できるバージョンへのアップデートを行ってください。

1 パソコンの電源を入れ、起動する。

2 アップルメニューをプルダウンして[このコンピュータについて]をクリックする。

インストールされているMac OSのバージョンなどが表示されます。



3 MacOSのバージョンを確認する。

OS 8.6以上



お知らせ

- USBポートにて本装置をご利用になる場合、「SerialShimLib」が必要となります。「システムフォルダ」内の「機能拡張」の中に「SerialShimLib」が入っていることを確認してください。

USBドライバを手動でインストールする

1 パソコンのCD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする。

2 CD-ROMを開き、[USBドライバ]フォルダを開く。

3 次のファイルを[システムフォルダ]の中の[機能拡張]フォルダにドラッグ&ドロップでコピーする。

コピーするファイル

- ・INSMATEV70 MAX

[機能拡張]フォルダに他のターミナルアダプタやモデムのUSBドライバがある場合は、それらを削除してください。

4 パソコンを再起動する。



お知らせ

- パソコンを再起動するときは、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。入っていれば抜いてから再起動してください。入っていると正常に再起動できません。

本装置とパソコンを接続する

付属のUSBケーブルで本装置とパソコンを接続します。本装置を安定してご使用いただくためには、キーボードのUSBポートではなく、パソコン本体のUSBポートに接続するようにしてください。

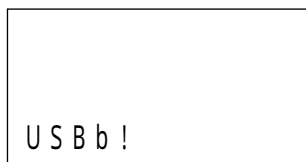
本装置とパソコンの接続方法(●P35、36)

正しく接続されたときは、本装置のディスプレイに次のように表示されます。

本装置前面のUSBポート使用時



本装置背面のUSBポート使用時



お知らせ

- ご利用のパソコンの環境によっては、起動時やUSBケーブルの接続時に1回で本装置が認識されない場合があります。そのようなときは、いったんUSBケーブルを抜いて、再度接続し直してみてください。

ご利用上の注意

本装置をMacintoshのUSBポートに接続してご利用になるときは、以下の制限があります。

制限事項

- スリープから復帰できない場合があります。このような場合は、以下のように対処してください。
キーボードやマウスの操作で復帰できないとき復帰するには
キーボードを接続しているUSBケーブルをパソコンから抜き、再度接続し直します。
キーボードやマウスの操作で復帰できるようにスリープを設定するには
コントロールパネルの[省エネルギー設定]を次のように設定してください。
[スリープするまでの非動作時間] [しない]に設定
[より詳しく]をクリック
[画面のスリープを別指定する][ハードディスクのスリープを別指定する]
チェックして任意の時間を設定

その他

- USBの安定した動作のためには、ご利用のパソコンが正常に動作している必要があります。頻繁にフリーズやエラーが発生する環境では、パソコンのシステムを再構築し、正常に動作するのを確認して、USBドライバのインストール等を行うことをお勧めします。
- ご利用の環境によっては、インターネット接続を長時間行ったり、他のソフトウェアを複数起動したりすると、表示が遅くなったり、メモリ不足エラーが発生する場合があります。その場合は、アプリケーションを終了する、パソコンを再起動する、環境を改善する（メモリ増設等）などの対処によりご利用ください。
- 接続先のプロバイダやサーバ、接続時間帯、データ転送の特徴などにより、接続回線速度のパフォーマンスが十分得られないことがあります。またファイルのアップロードを行うとき、ご利用の通信アプリケーションによってはフロー制御が使用できないなどの理由から、通信パフォーマンスが十分得られないことがあります。
- パソコンで本装置のUSBポートを選択して通信アプリケーションを実行中に、本装置のUSBケーブルを抜いたり電源を切ったりすると、通信アプリケーションとUSBドライバとの結合がシステムにより解放されるため、引き続き通信アプリケーションをご利用になる場合は、通信アプリケーションをいったん終了して、再度実行し直してください。また、本装置を初期化するコマンド（ATZ98、ATZ99等）を通信アプリケーションで実行したときも同様です。通信アプリケーションをいったん終了して、再度実行し直してください。
- USBポートで通信中に、本装置のもう一方のUSBポートにパソコンを接続したり、パソコンが接続されているケーブルを抜いたりしないでください。通信が切断されることがあります。

（次ページへ続く）

USBポートでデータ通信を行うには (Macintoshをご利用の場合)

- ターミナルソフトを使用した非同期通信を行うと、転送速度が遅くなったり、データ抜けが発生することがあります。
- ファームウェアのダウンロードに失敗したときには、強制ダウンロードが利用できます。
強制ダウンロードとは
再度のイーザーバージョンアップでバージョンアップできないときに実行する手順です。次の手順でバージョンアップを行います。
設定スイッチ2～6のみをONにして電源を切 入する。POWERランプが赤く点滅し、液晶ディスプレイに「キョウセイ×××」と表示されるのを確認する
表示が「ショウキョ中」から「コマンドタイキ中」になるのを確認する
イーザーバージョンアップを起動し、画面に従って通常にバージョンアップする
バージョンアップが終了したら、 でONにした設定スイッチ2～6をOFFにして電源を切 入する。
- Macintoshの電源を切ってから本装置の電源を切ると、Macintoshの電源が再び入ることがあります。本装置の電源を切ってから、Macintoshの電源を切るようにしてください。

付属品の着信履歴 for USBを利用すると、パソコンで記憶している着信履歴をパソコンの画面に表示させ、電話をかけ直したり、着信履歴から迷惑電話番号を登録することができます。また、簡易電話帳に登録されている相手の方は、着信履歴に名前を表示させることができます。

着信履歴 for USBをインストールする

1 起動中のアプリケーション
をすべて終了させる。

2 付属品のCD-ROM「INSメ
イトV70 MAXユーティリ
ティ集」をCD-ROMドライ
ブにセットする。

「INSメイトV70 MAXユーティリ
ティ集」のフォルダ一覧が表示されます。

フォルダ一覧が表示されないときは、
[マイコンピュータ] CD-ROMドラ
イブのアイコンの順にダブルクリック
してください。

3 [Usb] フォルダをダブルク
リックする。

4 [Util] フォルダをダブルク
リックする。

5 [着信履歴] フォルダをダブ
ルクリックする。



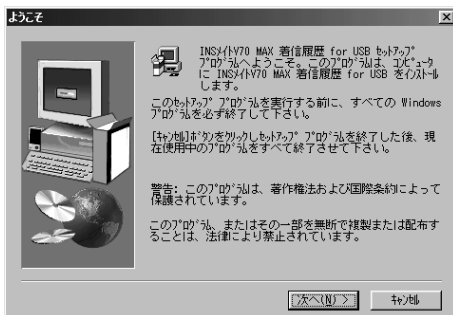
お知らせ

- 着信履歴 for USBは、Mac OSではご利用になれません。

(次ページへ続く)

6 [Setupex.exe] をダブル クリックする。

セットアッププログラムが起動しま
す。



7 表示される指示に従って、 インストールを行う。



ワンポイント

- 着信履歴 for USBをアンインストールするには
[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]をクリックする。
[インストールと削除]タブをクリックする。
「次のソフトウェアは自動的に削除できます。...」の一覧の中から
[INSメイトV70 MAX 着信履歴 for USB]をクリックし、[追加と削
除]をクリックする。



お知らせ

- 着信履歴 for USBは、USBポートに接続したパソコンのみ利用でき
ます。

着信履歴 for USBの起動

[スタートボタン]をクリックして、[プログラム] [INSメイトV70 MAX USBユー
ティリティ] [着信履歴ユーティリティ]をクリックします。

着信履歴 for USBが起動すると、タスクトレイに着信履歴 for USBのアイコンが表示さ
れます。

着信情報の表示

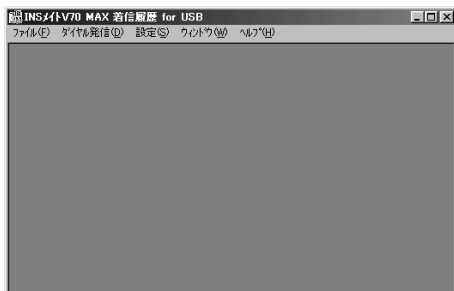
アナログポートへ着信があると、パソコンの画面の下に次のような着信情報が表示されま
す。



着信履歴を見る

1 タスクトレイの着信履歴 for USBのアイコンをクリックする。

[INSメイトV70 MAX 着信履歴 for USB] ウィンドウが表示されます。



2 [ファイル] メニューをクリックし、[着信履歴を見る] をクリックする。

[着信履歴情報] ウィンドウが表示されます。

通話	着信日時	名前	相手番号	着信ポート
○	99/01/09 15:18	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A
×	99/01/09 15:18	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:18	ZZZZ ZZZZ	03XXXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:17	ZZZZ ZZZZ	03XXXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:17	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A
×	99/01/09 15:17	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:17	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:17	ZZZZ ZZZZ	03XXXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:16	ZZZZ ZZZZ	03XXXXXXXXX	A
×	99/01/09 15:16	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:16	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:16	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A
×	99/01/09 15:15	ZZZZ ZZZZ	03XXXXXXXXX	A
○	99/01/09 15:15	XXXX XXXX	048XXXXXXXX	A

[着信履歴情報] ウィンドウには、最近のものから順に着信の情報が表示されます。表示される項目は、次のようになっています。

[通話] 応答したときは ○、応答しなかったときは ×

[着信日時] 着信を受けた日時

[名前] 簡易電話帳に登録されている電話番号と一致した場合はその方の名前
「非通知」「公衆電話」「表示圏外」(●P99)

[相手番号] 通知されてきた電話番号 (「 / 」 はサブアドレスの区切り)

[着信ポート] .. [通話] が ○ のときは応答したポート、× のときは着信したポート

(次ページへ続く)



ワンポイント

- 着信履歴 for USBの操作方法を調べるには
[ヘルプ]メニューをクリックし、[ヘルプ]をクリックすると、ヘルプウィンドウが表示されますので、操作方法について見ることができます。
- 保存する履歴の件数などを変更するには
[設定]メニューをクリックすると、着信履歴情報の保存や表示に関する設定を行うことができます。



お知らせ

- 着信履歴に電話番号が記憶されるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線からの電話番号を記憶するためには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。(P99)
INSナンバー・ディスプレイを契約していない場合、アナログ回線からの電話番号は「表示圏外」になります。
- 着信日時は、本装置に設定されている日時になります。

着信履歴発信する

1 [着信履歴情報] ウィンドウの一覧から、電話をかける相手の方をクリックして選択する。

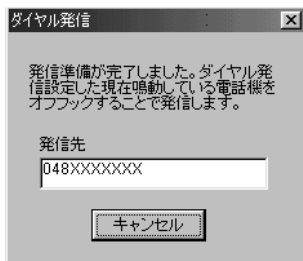
2 メニューバーの[ダイヤル発信]をクリックする。

[ダイヤル発信準備]が表示されます。



- 3** [発信ポート]の中から発信させるアナログポートのラジオボタンをクリックし、[OK]をクリックする。

[ダイヤル発信]が表示され、発信ポートとして設定されているアナログポートの電話機で着信音が鳴ります。



- 4** 着信音が鳴っている電話機のハンドセットを取り上げる。

表示されている番号に発信します。

発信しないときは、[キャンセル]をクリックします。



- 5** 相手の方が出たらお話しする。

着信履歴から迷惑電話防止番号を登録する

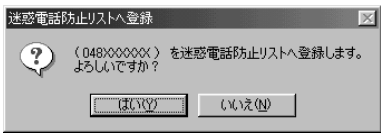
1 [着信履歴情報] ウィンドウの一覧から、迷惑電話防止番号に登録する相手の方を右クリックする。

ポップアップメニューが表示されます。



2 [迷惑電話防止リストに追加] をクリックする。

確認のメッセージが表示されます。



3 [はい] をクリックする。

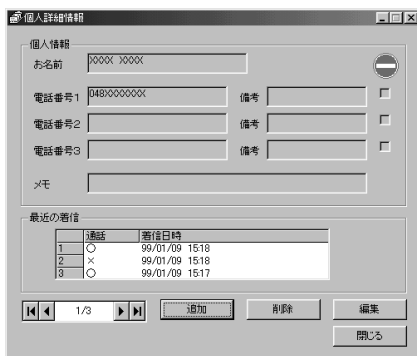
選択した相手の電話番号が、迷惑電話防止リストに登録されます。

登録を中止するときは、[いいえ] をクリックします。

簡易電話帳を登録する

- 1** [ファイル]メニューをクリックし、[個人詳細情報を見る]をクリックする。

[個人詳細情報]ウィンドウが表示されます。



- 2** [追加]をクリックする。

[簡易電話帳へ追加]ウィンドウが表示されます。

- 3** 名前や電話番号を入力する。

電話番号は、必ず市外局番から入力してください。市外局番が登録されていないと、着信時に通知される番号と一致しないため、名前を表示できません。



(次ページへ続く)

4 [登録]をクリックする。

簡易電話帳に個人詳細情報が登録されます。



ワンポイント

- 簡易電話帳の一覧を見るには
登録されている個人詳細情報の一覧は、[ファイル]メニューの[簡易電話帳をみる]で表示させることができます。
- 着信情報や着信履歴情報から個人の簡易電話帳に登録するには
 - ・ 着信情報から登録する
簡易電話帳に登録されていない電話番号からの着信のときは、着信情報ウィンドウに[登録]ボタンが表示されます。そのボタンをクリックすると、[簡易電話帳へ追加]ウィンドウが表示されます。
 - ・ 着信履歴情報から登録する
着信履歴情報の一覧で、名前が表示されていない着信をダブルクリックすると、[簡易電話帳へ追加]ウィンドウが表示されます。



お知らせ

- 簡易電話帳には、着信履歴 for USBをインストールしたハードディスクの空容量分の件数を登録することができます。

複数のパソコンで同時にインターネットを利用するには (MUX機能)

本装置の2つのUSBポートとRS-232Cポートに接続された3台のパソコンから、同時に同じプロバイダのアクセスポイントに接続して、インターネットを利用することができます。

MUX機能とは

MUX機能を利用すると...

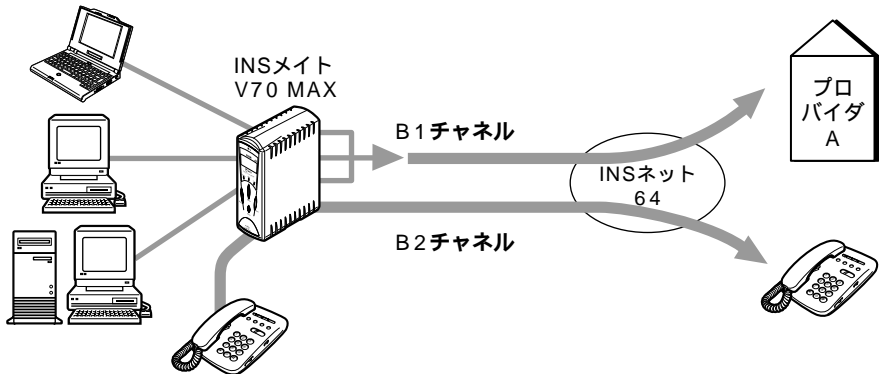
MUX機能を利用すると、Bチャンネルの使用を1本のみで2台または3台のパソコンで同時にインターネットを利用することができます。

- 1本のBチャンネルが空いているので、アナログポートに接続された電話機やファクスを使用することができます。
- ホームページの閲覧などのデータ量が多くない場合は、2本のBチャンネルを使用するのに比べて通信料金がかかりません。

MUX機能の利用例

1本のBチャンネルを3台のパソコンで使う場合

1本のBチャンネルを使ってプロバイダのアクセスポイントに接続し、USBポートとRS-232Cポートに接続された3台のパソコンからインターネットを利用します。アナログポートの電話機やファクスも利用できます。

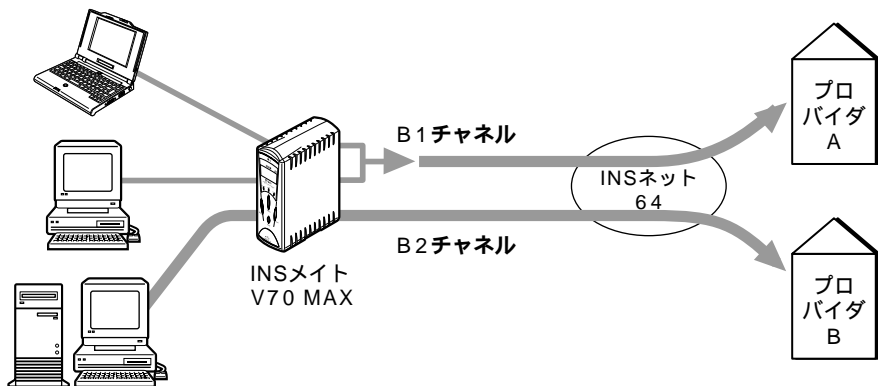


(次ページへ続く)

複数のパソコンで同時にインターネットを利用するには (MUX機能)

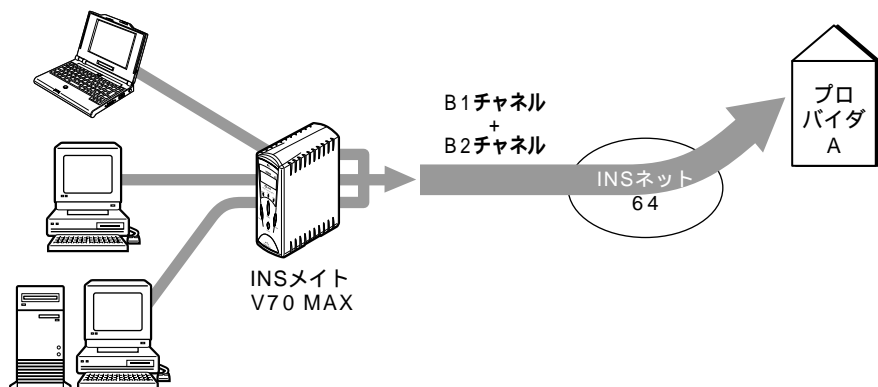
1本のBチャンネルを2台のパソコンが使い、2本目のBチャンネルを1台のパソコンが使う場合

マルチアクセス (P145) で2つのアクセスポイントに接続し、1つ目のアクセスポイントは2台のパソコンが利用します。



128KマルチリンクPPP通信を3台のパソコンで使う場合

2本のBチャンネルを使ってプロバイダのアクセスポイントに128KマルチリンクPPPで接続し、USBポートとRS-232Cポートに接続された3台のパソコンからインターネットを利用します。



MUX機能でインターネットに接続する

MUX機能を利用するには、次の手順が必要です。

発信時にMUX機能を指定する

ATDコマンドの相手の電話番号（アクセスポイント）を同じにし、電話番号の末尾「PA」を付加します。

ATDコマンド（☛P318）

MUXステータス for USBで通信状況をモニタする

チャンネルやポートの状況によってはMUX機能が利用できないことがあるため、現在のチャンネルやポートの使用状況を付属のユーティリティソフト「MUX ステータスfor USB」で確認する必要があります。



お願い

- MUX通信を行うときは、1台目のパソコンの接続の認証が完了し正しく接続されたことを確認してから2台目のパソコンで発信を行ってください。最初の認証が完了する前に発信すると正しく接続することができません。



お知らせ

- 2台目、3台目のパソコンの接続先（アクセスポイント）の番号が、1台目の番号と異なっていたり、末尾に「PA」が付いていない場合は、MUX通信になりません。
- 家族会員などのように、MUX機能で同じアクセスポイントに接続するとき異なるユーザIDを使いたい場合、イーージーセットソフトで[MUX設定]タブの[MUX接続時の認証]のチェックを外して認証しないようにしてください。（☛P246）

MUX機能利用上の制限

- S/T端子にバス配線で接続されているINSネット64用通信機器に接続されているパソコンからは、MUX機能を利用できません。
- MUX機能は、ルータなどで用いられているIPアドレスのポート番号変換機能を使用するため、一般にルータで使用できないネットワークゲームなどのアプリケーションは、動作しない場合があります。
- USBネットワーク使用時は、MUX機能は動作しません。
- PPP接続時の認証はPAPのみサポートされます。
- PPP接続時、以下の機能はサポートされません。
VJC、MS-CBCP、MLPPP（クライアントが実装している場合）、CCP
- マルチアクセスは同期64 kbit/sでご利用ください。

（次ページへ続く）

- FTP (File Transfer Protocol) を行うときの注意
 - (1) Windows版、Microsoft Internet ExplorerでFTPを行う場合は、webベースのFTPを使用するようにしてください。
設定方法
(例)
 - Microsoft Internet Explorerの [ツール] メニューから [インターネットオプション] を選択する
 - [詳細設定] タブをクリックする
 - [ブラウズ] グループの中の [WebベースのFTPを使用する] をチェックする
 - (2) DOS窓からFTPコマンドを実行することはできません。
 - (3) FTP専用アプリケーションを使う場合は、「Passive Transfer」や「ファイアウォールを超える」などの設定をチェックしてください。
FTPをご利用になるときは、ご利用先のFTPのヘルプ等で制限事項を確認してください。

MUXステータス for USBをインストールする

MUXステータス for USBを利用すると、Bチャンネルやポートの状況をモニタしながら、128KマルチリンクPPP通信のリンクを削除したり追加したりすることもできます。

1 起動中のアプリケーション
をすべて終了させる。

2 付属品のCD-ROM「INSメイトV70 MAXユーティリティ集」をCD-ROMドライブにセットする。

「INSメイトV70 MAXユーティリティ集」のフォルダ一覧が表示されます。

フォルダ一覧が表示されないときは、
[マイコンピュータ] CD-ROMドライブの順にアイコンをダブルクリックしてください。

3 [Usb] フォルダをダブルクリックする。

4 [Util] フォルダをダブルクリックする。

5 [MUXステータス] フォルダをダブルクリックする。

6 [Setupex.exe] をダブルクリックする。

セットアッププログラムが起動します。



7 表示される画面に従って、インストールを行う。

MUXステータス for USBの起動

MUXステータス for USBはWindowsを起動すると自動的に起動し、タスクトレイに [MUXステータス] インジケータが表示されます。タスクトレイに [MUXステータス] インジケータが表示されない場合は、次の操作で起動してください。

[スタート] ボタンをクリックする

[プログラム] [INSメイトV70 MAX USBユーティリティ] [MUXステータス ユーティリティ] の順にポイントする

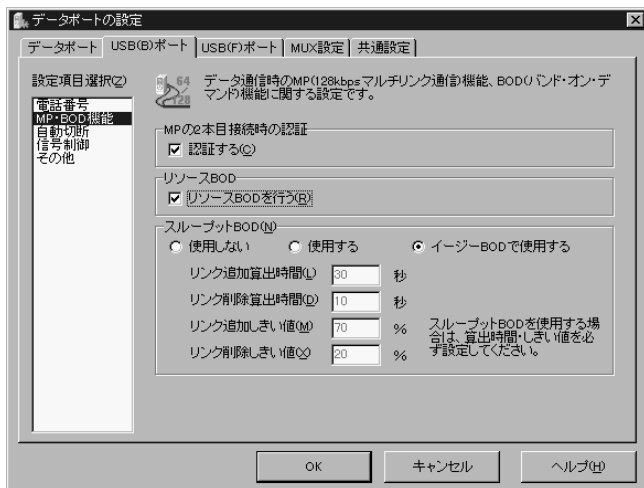
[MUXステータス ユーティリティ] をクリックする

MUXステータス for USBが起動すると、タスクトレイにMUXステータス ユーティリティのアイコンが表示されます。

(次ページへ続く)

MUXステータス for USBを使用するときのBOD設定

BOD設定は、イーゼットソフトで行います。MUXステータス for USBを使用するときは、イーゼットソフトを起動して、BODを次のように設定してください。



[リソースBODを行う]チェックする

[イーゼットBODで使用する] ...チェックする



ワンポイント

- イーゼットソフトのインストールと操作 (P224)



お知らせ

- MUXステータス for USBは、USBポートでインターネットに接続するときのみ利用できます。

回線状態を確認する

回線の状態は、タスクトレイの [MUXステータス] インジケータのアイコンに随時表示されます。

[MUXステータス] インジケータのアイコン



上のランプ (B1チャンネルの状態)
下のランプ (B2チャンネルの状態)

ランプは、回線の状態により、次のように表示が変わります。

空き	アナログ 通信	同期通信		非同期通信		PIAFS通信		マルチリンク通信	
		自ポート	他ポート	自ポート	他ポート	自ポート	他ポート	自ポート	他ポート
緑	黄色	赤	黒	紫	黒	水色	黒	赤 + M	黒

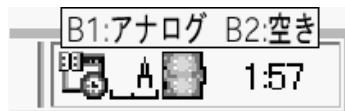
128KマルチリンクPPPで通信しているときの例



通信できないときの表示



アイコンをポイントすると
ツールチップヘルプが表示され、回線状態がわかります。



詳しい回線状態は、 [チャンネル状態] タブでご確認ください。(●P174)

ポート状態を確認する

- 1 [MUXステータス] インジケータのアイコンをクリックする。

[INSメイトV70 MAX MUXステータス for USB] 画面が表示されます。

- 2 [データポート状態] タブをクリックする。

USBポート、RS-232Cポートの [接続先] [状態] [使用チャンネル] [MUX参加の可否] が表示されます。

チャンネル状態を確認する

- 1 [MUXステータス] インジケータのアイコンをクリックする。

[INSメイトV70 MAX MUXステータス for USB] 画面が表示されます。

- 2 [チャンネル状態] タブをクリックする。

B1、B2各チャンネルの状態が表示されます。

リンクを削除する (128K : 2Bチャンネル 64K : 1Bチャンネル)

128KマルチリンクPPP通信中に...

- 1 タスクトレイの [MUXステータス for USB] インジケータのアイコンをクリックする。

[INSメイトV70 MAX MUXステータス for USB] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [マルチリンクの停止 < 128k 64k >] をクリックする。

リンクを追加する (64K : 1Bチャンネル 128K : 2Bチャンネル)

64KマルチリンクPPP通信中に...

- 1 タスクトレイの [MUXステータス for USB] インジケータのアイコンをクリックする。

[INSメイトV70 MAX MUXステータス for USB] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [マルチリンクの再開 < 64k 128k >] をクリックする。

Windows[®] 98 / Windows[®] 95をご利用の場合の参考になる操作方法や注意点などを、質問形式でまとめています。iMac / iMac DV / iBook / Power Macintosh G3 / Power Macintosh G4の場合については、P157を参照してください。

インストール前

Q Windows[®] 3.1、Windows NT[®] 3.51、Windows NT[®] 4.0でUSBポートを使用できますか？

A 使用できません。

Q Windows[®] 95での使用するときの制限条件は？

A 以下の制限があります。

- Windows[®] 95のバージョン

「OEM Service Release 2.1 (OSR 2.1)」以降でなければなりません。

確認方法 (☛P140)

- USBソフトウェアのバージョン

「4.03.1212」は使用できません。

確認方法 (☛P141)

このほか、OHCIコントローラ採用のパソコンでは、シャットダウンできない場合があります。ケーブルの抜き差しで、パソコンが停止することがあります。

Q (NEC PC98NXシリーズ使用の場合)

システムのプロパティに [デバイスマネージャ] タブがありません。またはコントロールパネルに [モデム] アイコンがありません。

A 誤操作による設定変更を防ぐための「CyberTrio-NX」がインストールされています。「CyberTrio-NX」のモードを「アドバンスモード」に切り替えてお使いください。

Q PC-9821シリーズを本装置のUSBポートに接続できますか？

A 接続できません。RS-232Cポートに接続してください。

インストール

Q 「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」へのインストール時に、デバイスドライバウィザードをキャンセルしてしまったため、本装置が不明なデバイスとして認識されたときはどうしたらよいですか？

A 次の手順で、不明なデバイスを削除してください。
[コントロールパネル]の[システム]をダブルクリックする。
[デバイスマネージャ]タブの[不明なデバイス]をクリックする。
[削除]をクリックする。

Q 「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」へのインストール時に、Windowsがフリーズしてしまったのは？

A インターネットのホームページで、動作確認済みのパソコンであるか確認してください。動作確認済みのパソコンである場合は、USBソフトウェアのバージョンを確認してください。(●P141)

データ通信利用時

Q 通信ソフトウェアの動作中にUSBケーブルの抜き差しや本装置の電源の切 入を行ったら、Windowsがフリーズしたのは？

A お使いのパソコンによっては、通信ソフトウェアの動作中にUSBケーブルの抜き差しや本装置の電源の切 入を行うと、パソコンがフリーズすることがあります。この現象が発生する場合は、通信ソフトウェアを終了させてから、USBケーブルの抜き差しや本装置の電源の切 入を行うようにしてください。

Q ダイアルアップネットワークによるインターネットの切断が遅い、またはブラウザが起動してデータの表示が遅いのは？

A お使いのパソコンによっては、[アクティブデスクトップ]が表示されていて、そのために遅くなる場合があります。コントロールパネルの[画面のプロパティ]をダブルクリックし、[Web]タブをクリックして、[アクティブデスクトップをWebページとして表示]のチェックを外してください。

Q パソコンから本装置にデータを送信しているとき、SD/RD (Send Data/Receive Data) ランプが点滅 (緑) しないのは？

A USBポートを使用しているときは、SD/RD (Send Data/Receive Data) ランプは点滅しません。

Q 例外エラーが発生するのは？

A スタンバイ、サスペンド機能をサポートしているパソコンで、スタンバイ、サスペンドを実行すると例外エラーが発生することがあります。スタンバイ、サスペンド機能を使用しないでください。

Q [Windowsの終了] [MS-DOSモードでパソコンを再起動する] を実行すると、パソコンがフリーズするのは？

A パソコンによっては、[Windowsの終了] [MS-DOSモードでパソコンを再起動する] を実行すると、パソコンがフリーズすることがあります。この場合は、[MS-DOSモードでパソコンを再起動する] を起動しないでください。

Q 通信中にパソコンの画面表示が遅くなったり、マウスポインタの矢印表示が画面に貼り付くのは？

A 次の手順で画面の設定を変更することにより、改善する場合があります。

コントロールパネルの [システム] をダブルクリックし、[パフォーマンス] タブをクリックする。

[グラフィックス] をクリックする。

[ハードウェアアクセラレータ] のスライダーを [なし] にドラッグして、[OK] をクリックする。

Windowsを再起動する。

また、お使いのパソコンによっては、3Dポインタを使用すると画面表示が遅くなったり、マウスポインタの矢印表示が画面に貼り付くことがあります。その場合は、標準のポインタをお使いください。

コントロールパネルの [マウス] をダブルクリックする。

[デザイン] を [なし] にして [OK] をクリックする。

Q 時間のかかるファイルのダウンロードの途中で止まってしまうのは？

A パソコンの機種によっては、省電力機能によりUSBの使用が制限されることがあります。コントロールパネルの [パワーマネジメント] または [電源の管理] で省電力機能を停止させてください。また、パソコンによっては起動時のBIOS設定にて省電力の設定を行うものもあります。ご使用になっているパソコンの取扱説明書を参照して、省電力機能を停止させてください。

ユーティリティ

- Q** INSメイトV70 MAXイーザーセットソフトを起動するとき、「...正しく接続されていません。」と表示されたら何番のCOMポートを選択すればよいのですか？
- A** [システム]コントロールパネルの[デバイスマネージャ]タブで、[ポート(COM/LPT)]をダブルクリックし、[INSMATEV70 MAX USB COMPort Adapter]が割り当てられているCOMの番号を選択してください。
- Q** [マルチリンクの再開]をクリックしても、ダイヤル発信せずに[発信中...]が点滅表示され、128K通信にならないのは？
- A** BODの設定がされていません。イーザーセットソフトでBODの設定を行ってください。(☛P242)
- Q** [マルチリンクの停止]をクリックしても、[停止中...]が点滅表示され、64K通信にならないのは？
- A** BODの設定がされていません。イーザーセットソフトでBODの設定を行ってください。(☛P242)

USBネットワーク

- Q** USBネットワークで接続しようとするとうINSネット64に発信してしまうのは？
- A** 所在地で設定している市外局番と国番号がダイヤルアップネットワークの接続先で設定した市外局番や国番号と違うことが考えられます。所在地と接続先の市外局番、国番号を同じに設定し直してください。
- Q** ダイヤルアップサーバで[着信する]を選択できないのは？
- A** 他のプログラムが本装置を使用している状態のとき、ダイヤルアップサーバを動作させることができません。また、ダイヤルアップサーバが動作しているときは、イーザーウィザードやイーザーセットソフトは起動できません。

- Q** USBネットワークで正常に接続できたのに、サーバが [ネットワークコンピュータ] フォルダに表示されないのは？
- A** NetBEUIでは、[ネットワークコンピュータ] フォルダに接続先のパソコンが表示されるまでに時間がかかることがあります。エクスプローラの [ツール] メニューにある [検索] により、[ほかのコンピュータ] にサーバの名前を指定して検索してみてください。検索によりサーバが表示されれば、正常に動作しています。
検索しても、サーバが表示されないときは、サーバ側で共有が設定されていないことが考えられます。
- Q** サーバの共有名は表示されるが、開こうとすると何度もユーザ名とパスワードをたずねられ、フォルダを開くことができないのは？
- A** 入力したパスワードが間違っています。正しいパスワードを入力してください。パスワードを忘れてしまったときは、サーバで共有しているフォルダを選択し、右ボタンのクリックで表示されるドロップダウンメニューの [共有] を選択して、新しいパスワードを設定し直してください。
- Q** USBネットワークを利用したら、インターネットに接続できなくなったのは？
- A** 前面のUSBポートにパソコンが接続されていると、背面のUSBポートやシリアルポートに接続しているパソコンから本装置に接続することができなくなります。前面のUSBポートのパソコンを取り外してから、接続してください。

Q ダイヤルアップサーバのパスワードを忘れてしまったときは？

A 次の手順でダイヤルアップサーバのパスワードを解除します。
[ダイヤルアップネットワーク]フォルダを開く
[接続]メニューの[ダイヤルアップサーバ]を選択する
ダイヤルアップサーバを[着信しない]に設定する
Windows® 98 / Windows® 95をMS-DOSモードで再起動する
MS-DOSプロンプトでWindowsフォルダのRNA.PWLファイルを削除する
Windows® 98 / Windows® 95を再起動する
[ダイヤルアップネットワーク]フォルダを開く
[接続]メニューの[ダイヤルアップサーバ]を選択する
新しいパスワードを入力する旨のメッセージが表示されるので
[INSMATEV70 MAX SYNC115]を選択し、新しくパスワードを設定する
[着信する]に設定する

Q Windows® 98 / Windows® 95添付のハイパーターミナルや通信ソフトウェアを起動しようとするとき[Comポートをオープンできません]というエラーが表示されるのは？

A ダイヤルアップサーバの動作中は、着信を行うため、常に指定されたモデムやTAをオープンしています。このため、Comポートが使用中となります。Comポートを直接開くタイプの通信ソフトウェアをご使用になるときは、ダイヤルアップサーバを一時[着信しない]に設定してください。

その他

Q 1台のパソコンにUSBポートを使用して本装置を何台まで接続できますか？

A 1台です。

Q 他のUSBデバイスと同時に使用できますか？

A 1台のパソコンに本装置と他のUSBデバイスを同時に接続した場合、両デバイスが1つのUSBバスを共用することになります。個々のデバイスの特性、制御方法の違いにより、お互いが影響しあい、本装置の通信速度が遅くなったり使用できなくなる場合があります。このような場合には、他のデバイスと同時に接続しないようにしてください。

Q フロー制御の設定は？

A USBポートをお使いの場合、通信ソフトウェアの設定はハードウェア制御（RS-CSフロー制御、CTS-RTSフロー制御）に設定してご使用ください。

Q 通信相手によって通信速度が遅い場合があるのは？

A インターネットプロバイダやゲームサーバなどの通信相手によっては、プロバイダの回線が混雑していることがあります。また、通信データがショートパケットになるなどの通信条件によってはシリアルポートの接続に比べて通信速度が遅くなる場合があります。

Q パソコン動作中にUSBケーブルを抜き差しするとパソコンがフリーズしたり、例外エラーが発生したのは？

A お使いのパソコンの環境によっては、パソコン動作中にUSBケーブルの抜き差しや、本装置の電源の切 入を行うと、まれにパソコンがフリーズしたり、例外エラーが発生することがありますのでご注意ください。

Q Windows[®] 98 SecondEditionにアップグレードするときの注意事項はありますか？

A Windows[®] 98 SecondEditionにアップグレードしたあとに、ご利用中のUSB環境が引き継がれない場合があります。次の手順でご使用中のモデム、USBドライバを更新してください。

モデムを再インストールする。

モデムの削除

1. [スタート] [設定] [コントロールパネル] をクリックしたあと、[モデム] をダブルクリックする
2. [全般] タブをクリックする
3. Windows[®] 98の環境でインストールしていないモデムが表示されている場合、そのモデムをクリックしたあと、[削除] をクリックする

モデムの追加

イーージーウィザードを起動後、表示されるウィンドウの内容に従って設定を行い、[プロバイダの選択] でモデムの追加を行います。

USBドライバを再インストールする

P218のワンポイントを参照し、イーージーウィザードを使ってUSBドライバを再インストールしてください。

本装置の前面、背面2つのUSBポートとRS-232Cポートに接続した3台のパソコンは、本装置を介して通信を行うことができます。USBネットワークとは、このようにUSBポートを利用して行うパソコンのネットワークのことです。

システム構成

サーバ/クライアント

USBネットワークでは、本装置の前面と背面のUSBポートおよびRS-232Cポートに接続したパソコンのうちどれか1つがサーバ、他の2つがクライアントになります。クライアントから、サーバのファイルを利用したり、サーバに接続されているプリンタを利用することができます。

本装置のUSBネットワークは、Windows[®] 98またはWindows[®] 95をご使用のパソコンでのみ利用できます。Windows[®] 98 / Windows[®] 95で利用できる、以下のネットワークソフトウェアで通信を行います。

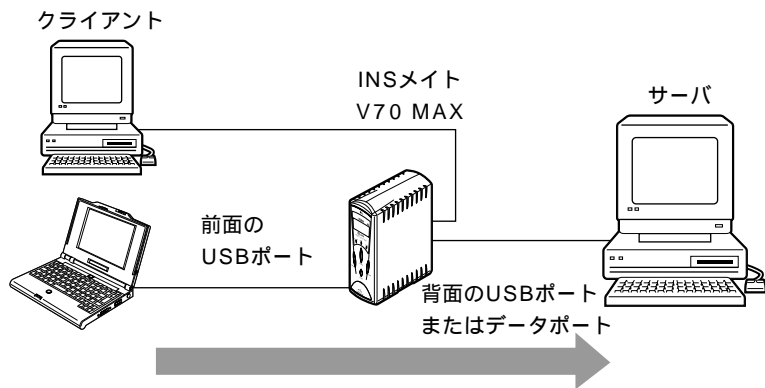
サーバ：

ダイヤルアップサーバ、Microsoft共有サービス

クライアント：

ダイヤルアップネットワーク、Microsoftクライアント

構成例



- USBネットワークで通信できる組み合わせ

前面USBポート	RS-232Cポート
背面USBポート	RS-232Cポート
前面USBポート	背面USBポート

(次ページへ続く)



お知らせ

- ダイアルアップサーバとダイアルアップネットワークは、2台のパソコンを接続するために必要なソフトウェアです。またMicrosoft共有サービスとMicrosoftクライアントはファイルやプリンタを共有するために必要なソフトウェアです。
- Windows[®] 98にはダイアルアップサーバが付属していますが、Windows[®] 95をご利用の場合は、Microsoft社の「Microsoft Plus!」やWebサイトなどで、別途入手する必要があります。詳しくは、Microsoft社または同社製品の販売店にお問い合わせください。ダイアルアップサーバ以外のネットワークソフトウェアは、Windows[®] 98 / Windows[®] 95の両方に付属しています。

ネットワークプロトコル

USBネットワークで利用するネットワークプロトコルは、NetBEUIです。NetBEUIは、Windows[®] 98 / Windows[®] 95に付属しています。IPX、NetWareでは、USBネットワークを利用することはできません。またTCP/IPは特殊な設定が必要になるため、ここでは解説しません。NetBEUIをご利用ください。

NetBEUIのインストールについては、「サーバを設定するには (●P187)」「クライアントを設定するには (●P196)」で説明しています。なお、NetBEUIをインストールしても、TCP/IPの設定を変更する必要はありません。



お知らせ

- Windows[®] 98 / Windows[®] 95以外のOSでは、本装置のUSBネットワークを利用することはできません。
- 2つのUSBポートとRS-232Cポートに3台のパソコンを接続することができます。USBネットワークで同時に通信できるのは2台までです。
- サーバからクライアントのファイルやプリンタを、利用することはできません。

利用例

USBネットワークでは、背面にデスクトップパソコン（サーバ）を、接続／取り外しに便利な前面のUSBポートにノートパソコン（クライアント）を接続することにより、便利な使いかたができます。

• ファイル共有

USBネットワークを介すことにより、ノートパソコンからデスクトップパソコンのファイルを、コピーせずにアプリケーションの操作で直接開くことができます。

STOP

お願い

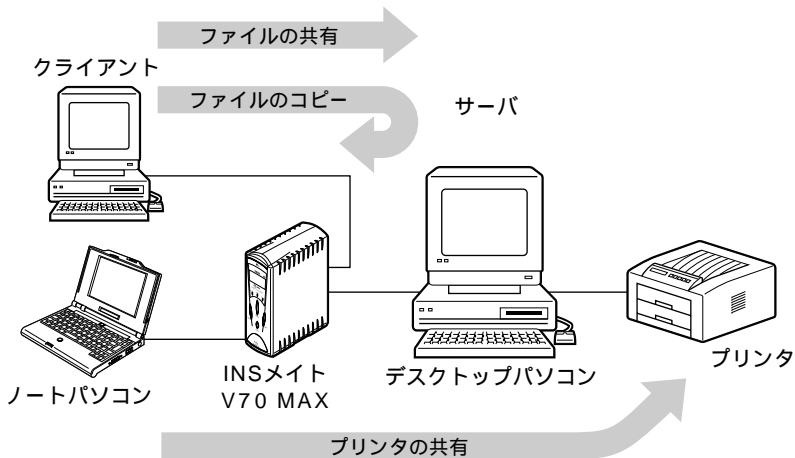
- デスクトップパソコンとノートパソコンの両方から同時に同じファイルを利用するためには、ネットワーク利用に対応したアプリケーションでファイルを開く必要があります。

• ファイルコピー

ノートパソコン／デスクトップパソコン間のファイルのコピーを、ノートパソコンの操作だけで簡単に行うことができます。

• プリンタ共有

ノートパソコンから、デスクトップパソコンに接続されているプリンタに印刷することができます。



必要な準備

● 接続とUSBポートの準備

本装置にはUSBケーブルが1本付属しています。2本目のUSBケーブルは、お客様ご用意になり、本装置のUSBポートに、2台のパソコンを正しく接続してください。(●P35)
また、USBポート用アダプタのインストールなどの必要な手順を行い、パソコン2台とも本装置が利用できる状態にしてください。(●P139)

● 本装置の設定と動作確認

イメージウィザードやイメージセットソフトを利用して最初に必要な本装置の設定を行い(●P212、264) 本装置が正しく動作することを確認してください。

● ダイアルアップネットワークのインストール

USBネットワークに必要なネットワークソフトウェアのインストールと設定は、以降の「サーバを設定するには」と「クライアントを設定するには」で説明していますが、インターネットに接続するときと同じダイアルアップネットワークのインストールについては説明していません。あらかじめ、次の説明を参照してインストールしてください。

参照 : 「インターネット接続ガイド」(別冊)

「接続に必要なソフトウェアをインストールするには」(●P8)

● モデム情報のインストール/モデムのプロパティ設定

本装置をパソコンで使用できるようにするために、あらかじめ、次の説明を参照してモデム情報のインストールとプロパティの設定を行ってください。

参照 : 「インターネット接続ガイド」(別冊)

「本装置を使用できるようにするには」(●P22)

インストールするモデム情報...同期PPP「INSMATEV70 MAX SYNC115」

必要なネットワークソフトウェアをインストールし、サーバ用の設定を行います。説明の画面はWindows® 98の例です。標準でないソフトウェアがインストールされている場合や、バージョンアップにより画面が異なることもあります。

サーバの設定手順

ダイヤルアップサーバのインストール (☛下欄)

あらかじめダイヤルアップサーバがインストールされている場合は、この操作を行う必要はありません。



Microsoftネットワーク共有サービスとNetBEUIのインストール (☛P189)

あらかじめダイヤルアップサーバがインストールされている場合は、この操作を行う必要はありません。



ネットワークの設定 (☛P191)



ダイヤルアップサーバの設定 (☛P193)



お知らせ

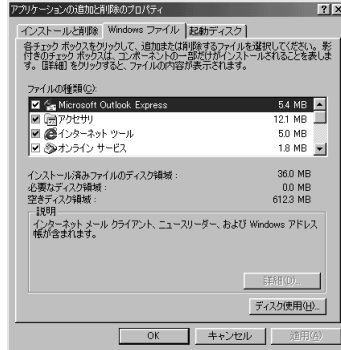
- インストール操作の途中では、Windows® 98 / Windows® 95のCD-ROMやフロッピーディスクが必要になる場合があります。

ダイヤルアップサーバをインストールする(Windows® 98の場合)

- 1 [コントロールパネル]の
[アプリケーションの追加と
削除]を開く。

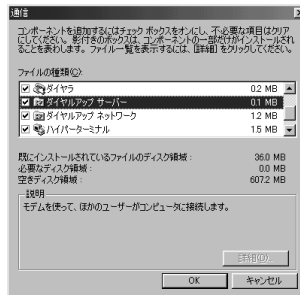
(次ページへ続く)

2 [Windowsファイル] タブ
をクリックする。



3 [通信] をクリックし、[詳細] をクリックする。

[通信] ダイアログボックスが表示されます。



4 [ダイヤルアップサーバー] をクリックし、[OK] をクリックする。

5 [OK] をクリックする。



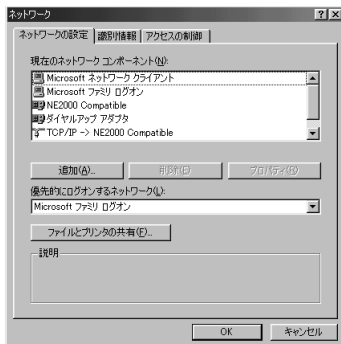
ワンポイント

- Windows® 95をご利用の場合
ダイヤルアップサーバのインストールは、入手した「Microsoft Plus!」などの説明に従って行ってください。

Microsoftネットワーク共有サービスとNetBEUIをインストールする

1 [コントロールパネル]の
[ネットワーク]を開く。

[ネットワーク]ダイアログボックス
が表示されます。



2 [追加]をクリックする。

[ネットワークコンポーネントの選択]
ダイアログボックスが表示されます。



3 [サービス]をクリックし、
[追加]をクリックする。



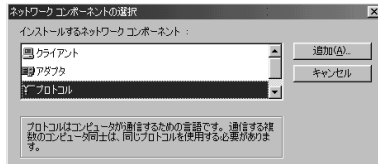
(次ページへ続く)

4 [Microsoftネットワーク共有サービス] をクリックし、
[OK] をクリックする。

[ネットワーク] ダイアログボックス
に戻ります。

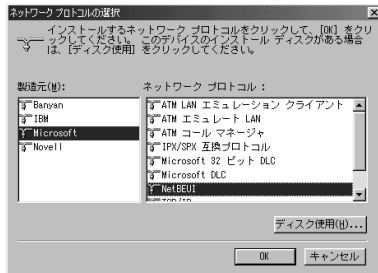
Windows ® 95の場合は、[製造元] の
[Microsoft] をクリックして [ネット
ワークサービス] の [Microsoftネット
ワーク共有サービス] をクリックして
ください。

5 [追加] をクリックする。



6 [プロトコル] をクリックし、
[追加] をクリックする。

7 [製造元] の [Microsoft]
をクリックして、[プロトコ
ル] の [NetBEUI] をク
リックする。



8 [OK] をクリックする。

[ネットワーク] ダイアログボックスに戻ります。

[ネットワーク] ダイアログボックスの [OK] をクリックしないで、このまま「ネットワークを設定する」の操作を行ってください。

ネットワークを設定する

1 [Microsoftネットワーク共有サービス] をクリックして、[プロパティ] をクリックする。



2 [プロパティ] の [LMアナウンス] をクリックし、[値] の をクリックして [はい] を選択する。

3 [プロパティ] の [ブラウズマスタ] をクリックし、[値] の をクリックして [有効] を選択する。

(次ページへ続く)

4 [OK] をクリックする。

[ネットワーク] ダイアログボックス
に戻ります。

5 [識別情報] タブをクリック
する。

Windows ® 95 の場合は、[ユーザー
情報] タブをクリックします。

**6** [コンピュータ名][ワーク
グループ] を入力し、[OK]
をクリックする。

[コンピュータ名] :

クライアントと異なる名前にしてく
ださい。半角アルファベット15文
字以内で入力してください。途中で
空白を入れることはできません。

[ワークグループ] :

クライアントと同じ名前にしてくだ
さい。半角アルファベット15文字
以内で入力してください。途中で空
白を入れることはできません。

7 [OK] をクリックする。

ネットワークソフトウェアがインス
トールされます。インストールが終了
すると、再起動を促すメッセージが表
示されます。

8 Windows® 98 / Windows®
95を再起動する。



お知らせ

- 「LMアナウンス」とは、ネットワークに接続したことを他のパソコンにアナウンスする機能です。この機能により、他のパソコンは新しくネットワークに接続したパソコンのアイコンをすぐに見つけることができます。
- 「ブラウズマスタ」を有効にすると、そのパソコンはネットワーク内のパソコンリストを保持し、他のパソコンにその情報を提供します。
- パソコンを再起動するときは、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。入っていれば抜いてから再起動してください。入っていると正常に再起動できません。

ダイヤルアップサーバを設定する

1 [マイコンピュータ]をダブルクリックする。

2 [ダイヤルアップネットワーク]をダブルクリックする。

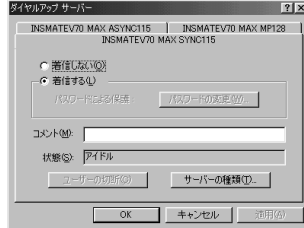


3 [接続]メニューから[ダイヤルアップサーバー]を選択する。

[ダイヤルアップサーバー]ダイアログボックスが表示されます。

(次ページへ続く)

4 [INSMATEV70 MAX SYNC115] タブをクリックする。



5 [着信する] をチェックする。

6 [パスワードの変更] をクリックする。

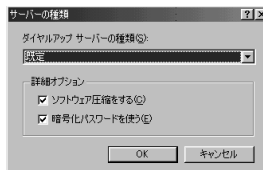


7 [新しいパスワード] にクライアントが接続するとき使用するパスワードを入力する。

8 [新しいパスワードの確認] に同じパスワードを入力し [OK] をクリックする。

[ダイヤルアップサーバー] ダイアログボックスに戻ります。

9 [サーバーの種類] をクリックする。



10 [ダイヤルアップサーバーの種類]をプルダウンし、[PPP:インターネット、Windows NT Server、Windows98]を選択する。

11 [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮をする] [暗号化パスワードを使う]がチェックされていることを確認し、[OK]をクリックする。

[ダイヤルアップサーバー]ダイアログボックスに戻ります。

12 [適用]をクリックする。

[状態]が[アイドル]から[監視中]に変わります。



13 [OK]をクリックする。



お知らせ

- ダイヤルアップサーバの設定では、複数のモデム情報がインストールされている場合、それぞれに着信する/しないを設定することができます。ただし、同時に着信できるのは1つのみです。このためUSBネットワークを使用している間は、本装置以外の装置からサーバにダイヤルアップネットワークで接続することはできません。
- USBネットワーク用にダイヤルアップサーバを動作させている場合でも、本装置のRS-232Cポートに着信があり、本装置が着信可能な設定になっているとダイヤルアップサーバによる接続が可能になってしまいます。接続はパスワードにより保護されていますが、セキュリティ上、INSネット64からRS-232Cポートへの着信は相手番号識別着信の設定等で制限することをお勧めします。

必要なネットワークソフトウェアをインストールし、クライアント用の設定を行います。説明の画面はWindows[®] 98の例です。標準でないソフトウェアがインストールされている場合や、バージョンアップにより画面が異なることもあります。

クライアントの設定手順

MicrosoftネットワーククライアントとNetBEUIのインストール (◀下欄)

ネットワークの設定 (▶P199)

接続 (ダイヤルアップネットワーク) の作成 (▶P200)

接続のプロパティを設定する (▶P202)

サーバへの接続を確認する (▶P204)



お知らせ

- インストール操作の途中では、Windows[®] 98 / Windows[®] 95のCD-ROMやフロッピーディスクが必要になる場合があります。

MicrosoftネットワーククライアントとNetBEUIをインストールする

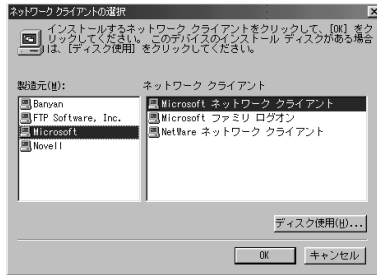
1 [コントロールパネル] の
[ネットワーク] を開く。

[ネットワーク] ダイアログボックス
が表示されます。



2 [追加] をクリックする。

[ネットワークコンポーネントの選択]
ダイアログボックスが表示されます。

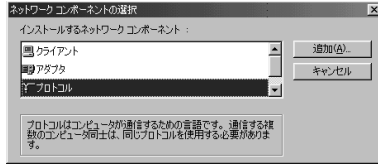
**3** [クライアント] をクリックし、
[追加] をクリックする。**4** [Microsoft ネットワーク
クライアント] をクリックし、
[OK] をクリックする。

[ネットワーク] ダイアログボックス
に戻ります。

Windows[®] 95の場合は、[製造元] の
[Microsoft] をクリックして [ネット
ワークサービス] の [Microsoft ネット
ワーククライアント] をクリックし
てください。

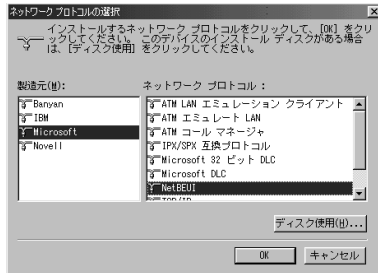
(次ページへ続く)

5 [追加] をクリックする。



6 [プロトコル] をクリックし、[追加] をクリックする。

7 [製造元] の [Microsoft] をクリックして、[プロトコル] の [NetBEUI] をクリックする。



8 [OK] をクリックする。

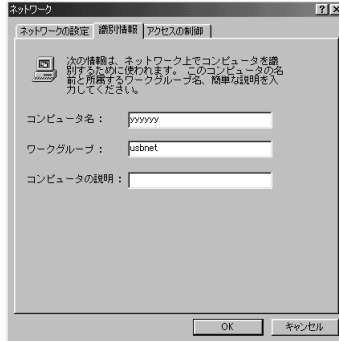
[ネットワーク] ダイアログボックスに戻ります。

[ネットワーク] ダイアログボックスの [OK] をクリックしないでこのまま「ネットワークを設定する」の操作を行ってください。

ネットワークを設定する

1 [識別情報] タブをクリックする。

Windows[®] 95の場合は、[ユーザー情報] タブをクリックします。



2 [コンピュータ名][ワークグループ] を入力し、[OK] をクリックする。

[コンピュータ名] :

サーバと異なる名前にしてください。半角アルファベット15文字以内で入力してください。途中で空白を入れることはできません。

[ワークグループ] :

サーバと同じ名前にしてください。半角アルファベット15文字以内で入力してください。途中で空白を入れることはできません。

3 [OK] をクリックする。

ネットワークソフトウェアがインストールされます。インストールが終了すると、再起動を促すメッセージが表示されます。

4 Windows[®] 98 / Windows[®] 95を再起動する。

(次ページへ続く)

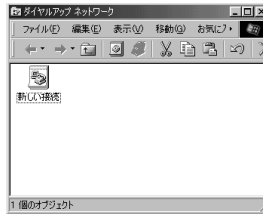


お知らせ

- パソコンを再起動するときは、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。入っていれば抜いてから再起動してください。入っていると正常に再起動できません。

接続を作成する

- 1 [マイコンピュータ] をダブルクリックする。
- 2 [ダイヤルアップネットワーク] をダブルクリックする。



- 3 [新しい接続] アイコンをダブルクリックする。



- 4 [接続名] にわかりやすい名前（「usbネットワーク」など）を入力する。
- 5 [モデムの選択] をプルダウンして、[INSMATEV70 MAX SYNC115] を選択する。

6 [次へ>] をクリックする。



7 次のように接続先を入力する。

[市外局番]

...プルダウンで所在地に登録されている市外局番を選択

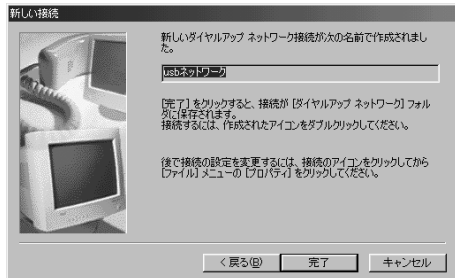
[電話番号]

...サーバが背面のUSBポートの場合、「00」を入力
 サーバが前面のUSBポートの場合、「01」を入力
 サーバがRS-232Cポートの場合、「02」を入力

[国番号]

...プルダウンで [日本 (81)] を選択

8 [次へ>] をクリックする。



(次ページへ続く)

9 [完了]をクリックする。

[ダイヤルアップネットワーク]に作成した接続のアイコンが表示されます。

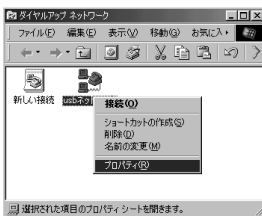


- 接続先で入力する市外局番に所在地に登録されている市外局番と異なる番号を選択すると、USBネットワークではなくINSネット64へ発信してしまうので、必ず所在地として登録されている市外局番を選択してください。

接続のプロパティを設定する

1 作成した接続のアイコンにポインタを合わせ、マウスの右ボタンをクリックする。

ドロップダウンメニューが表示されます。



2 ドロップダウンメニューの [プロパティ] を選択する。



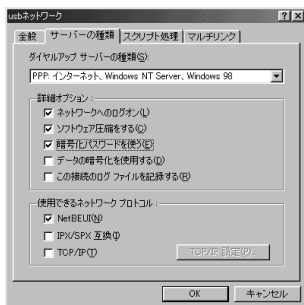
3 [サーバーの種類] タブをクリックする。

4 [ダイヤルアップサーバーの種類] に [PPP: インターネット、Windows NT Server、Windows98] が表示されていることを確認する。

Windows[®] 95 の場合は、[PPP: Windows95、Windows NT3.5、インターネット] が表示されます。

5 [詳細オプション] の [ネットワークへのログオン] [ソフトウェア圧縮をする] [暗号化パスワードを使う] の3つをチェックし、[データの暗号化を使用する] のチェックは外す。

6 [使用できるネットワークプロトコル] の [NetBEUI] のみチェックし、他のチェックを外す。



7 [OK] をクリックする。

サーバへの接続を確認する

- 1 作成した接続のアイコンをダブルクリックする。



- 2 [ユーザー名] は任意の名前を入れる。
- 3 [パスワード] にサーバで設定した接続用のパスワードを入力する。
- 4 電話番号が「接続を作成する」の手順7 (P201) で設定した番号になっていることを確認し、[接続] をクリックする。

サーバに接続されます。

- 5 接続を確認したら、タスクトレイの [ダイヤルアップネットワークモニタ] アイコンをダブルクリックする。
- 6 [ダイヤルアップネットワーク] の [切断] をクリックする。



ワンポイント

- INSネット64でサーバに接続するにはダイヤルアップサーバで着信するように設定していると、INSネット64からもサーバに接続することができます。
- USBネットワークでは、クライアントからの接続 / 切断のみご利用になれます。

USBネットワークでファイルやプリンタを共有するためのサーバとクライアントの設定や操作は、Windows[®] 98 / Windows[®] 95の通常のファイル/プリンタ共有の操作と同じです。Windows[®] 98 / Windows[®] 95のヘルプの参照箇所を紹介しますので、参考にして操作を行ってください。

ファイルを共有する

ファイルを共有するときは、次の手順で行います。

あらかじめサーバで共有するファイルを設定しておく

クライアントからの操作でサーバに接続する

クライアントの操作で共有が設定されているファイルを利用する

サーバの設定

Windows[®] 98のヘルプ：

「ネットワークに接続する」

「ネットワークを使う」

「フォルダを共有する」

Windows[®] 95のヘルプ：

「Windowsの使い方」

「ネットワークを使う」

「ほかのユーザとフォルダを共有する」

クライアントの操作

Windows[®] 98のヘルプ：

「ネットワークに接続する」

「ネットワークを使う」

「ほかのコンピュータの共有ファイルを開く」

Windows[®] 95のヘルプ：

「Windowsの使い方」

「ネットワークを使う」

「ほかのコンピュータの共有フォルダを開く」

プリンタを共有する

プリンタを共有するときは、次の手順で行います。

サーバでプリンタの共有を設定し、共有名を付ける

クライアントからの操作でサーバに接続する

クライアントでネットワークプリンタをインストールする

サーバの設定

Windows[®] 98のヘルプ：

「ネットワークに接続する」

「ネットワークを使う」

「プリンタを共有する」

Windows[®] 95のヘルプ：

「Windowsの使い方」

「印刷する」

「ほかのユーザとプリンタを共有する」

クライアントの操作

Windows[®] 98のヘルプ：

「ネットワークに接続する」

「ネットワークを使う」

「共有ネットワークプリンタを使う」

Windows[®] 95のヘルプ：

「Windowsの使い方」

「印刷する」

「ネットワークの共有プリンタを使う」

本装置は、PAD機能を装備しており、INSネット64のDチャンネルを使用したDチャンネルパケット通信を行うことができます。

Dチャンネルパケット通信では、制御コマンドとしてATコマンド、V.25bisコマンド、X.28PADコマンドの3種類のコマンドを使用することができます。

パケット通信を利用するための準備

パケット通信を利用するためには、次の準備を行ってください。

INSネット64の「Dチャンネルパケット通信サービス」のご契約



本装置の設定スイッチをパケット通信に設定する

設定スイッチの設定

パケット通信を利用するときは、本装置の設定スイッチを以下のように設定します。

ATコマンド使用時

V.25bisコマンド使用時

X.28PADコマンド使用時



ON



ON



ON

1 DIP SW 8 OFF

1 DIP SW 8 OFF

1 DIP SW 8 OFF

設定スイッチをV.25bisコマンド、X.28PADコマンドに設定すると、使用できるデータ通信はDチャンネルパケット通信のみになり、イーザーセットソフトを起動できるポートはRS-232Cポートのみになります。

設定スイッチの設定方法 (●P136)



ワンポイント

- PAD機能とは
パソコンからのデータをパケットに組み立てて送信したり、受信したパケットを分解してパソコンに送信する機能です。



お知らせ

- INSネット64の「Dチャンネルパケット通信サービス」契約については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。
- Dチャンネルパケット通信時には、次の機能はご利用になれません。
フリーコールバック、応答平均化、無通信監視タイマ、強制切断タイマ、サブアドレスなし着信
- 設定スイッチをATコマンドに設定した場合、非同期、PIAFS通信は行えません。非同期、PIAFS通信を行う場合には、設定スイッチをINSネット64（お買い求め時の設定）に設定してください。（●P136）
- 設定スイッチをV.25bisコマンド、X.28PADコマンドに設定した場合、パケット通信が行えるのはRS-232Cポートのみとなります。

パケット通信をATコマンドで設定する例です。
ATコマンドの詳細、V.25bisコマンド、X.28PADコマンドについては、設定編の「パケット通信コマンド」を参照してください。(●P362)

また、パケット通信をイーザセットソフトで設定することもできます。

(● Win 98/95 P255、 Mac P304)

ATコマンドによる設定例

パケット通信モード

AT\$N1=3...パケット通信モードに切り替え、ATDでパケット通信できるようにする
(●P362、366)

パケットの組み立て

レジスタの初期設定では、パソコンからの文字データは以下のときパケットに組み立てられます。

- 文字データをパケットサイズ分(256オクテット)受信したとき
- CR(復帰)コードを受信したとき
- LF(改行)コードを受信したとき

CRコードの多いテキストデータを送信するときや、CRコードに続けてLFコードが挿入される設定の通信ソフトウェアをご利用の場合など、パケットの数が多くなりすぎないように、以下のレジスタの設定でパケットの組み立てを制御することができます。

P3レジスタ...自動的にパケットを組み立てる契機となるキャラクタを設定する

P4レジスタ...P3で設定したキャラクタ以外の文字を受信しているとき、キャラクタとキャラクタの間でP4で設定した時間が空くと自動的にパケットを組み立てる(P4=0のときは時間設定なし)

ファーストセレクト機能

ファーストセレクト機能を利用すると、ユーザデータを最大128バイトまで付加することができます。また、相手からのユーザデータを表示することができます。

P31レジスタ.....ファーストセレクト機能を設定する(●P388)

ATP31=1.....ファーストセレクト機能ありに設定する

ATDコマンド、ATDXコマンド...ユーザデータを付加して発信する(●P362、363)



お知らせ

- ファーストセレクト機能を利用するときは、ファーストセレクト機能の契約が必要です。
- ファーストセレクト機能を利用しなくても、16バイトまでのユーザデータを付加することができます。
- ファーストセレクト機能を利用して発信する場合は、相手もファーストセレクト機能を契約している必要があります。
- ATコマンド設定時に複数ポートに接続された端末を識別したい場合にはPレジスタに準備しているサブアドレスを利用してください。サブアドレス設定を行わない場合には、着信を早く受けた端末が優先されます。
- Dチャンネルパケット設定時にご利用可能なマルチアクセスは同期PPP通信のみとなります。Dチャンネルパケットを複数端末にて同時には利用できません。

(次ページへ続く)

自己アドレス / 自己サブアドレス

発呼要求パケット (CRパケット) の中に、最大15桁の自己アドレス (契約者回線番号) と最大38桁の自己サブアドレスを含めることができます。

P51レジスタ...自己アドレスを設定する (☛P389)

P52レジスタ...RS-232Cポートの自己サブアドレスを設定する (☛P389)

P54レジスタ...背面USBポートの自己サブアドレスを設定する (☛P389)

P56レジスタ...前面USBポートの自己サブアドレスを設定する (☛P389)

P54レジスタ、P56レジスタは、ATコマンド使用時のみ設定することができます。

通信相手のPADパラメータ変更

相手先のPADパラメータを変更することにより、相手のPADを制御することができます。以下のコマンドは、エスケープシーケンス (+++) を入力して、オンラインコマンドモードにしてから実行してください。

AT%Pn=コマンド... (☛P367)

PADパラメータは、ITU-T勧告X.3で規定されています。

通信相手からのPAD制御

通信相手から制御できる本装置のPADパラメータは、Pレジスタの2~4、12のみです。



お知らせ

- 本装置は、ホスト局などからPADパラメータを変更された場合、通信終了後、変更前のPAD設定に自動的に復元します。

解放勧誘メッセージ送信

通信を終了するとき、こちらから回線を切断すると相手に全部のデータが届く前に切断されることがあります。これを避けるため、相手のPADに回線を切断するよう促す解放勧誘メッセージを送ることができます。

ATH1コマンド...解放勧誘メッセージを送出して切断する

解放勧誘メッセージは、ITU-T勧告X.29で規定されている特殊なパケットで、相手PADはこれを受信すると回線を切断します。



お知らせ

- 発呼要求で自己アドレスの指定をしないと、接続できないホスト局もありますので、ご注意ください。
- 相手先のPADを制御するには、相手のPADがX.29の機能を持っている必要があります。

パケット通信時のディスプレイの見かた

パケット通信時、本装置のディスプレイは以下のように表示されます。

状態	表示
INSネット64の同期がとれているとき	3 / 19 15 : 30
INSネット64の同期が外れているとき レイヤ1が外れているとき	回線異常 レイヤ1ダウ
レイヤ2が外れているとき	回線異常 レイヤ2ダウ
パケットリンクが外れているとき	回線異常 パケットリンクダウ
Dチャネルパケット通信できないとき リスタート中 (SQ送出後SF待ちのとき)	D - PKT リスタート
パケット通信閉塞状態のとき	D - PKT 通信フカ

(次ページへ続く)

状態	表示
通信時	D - PKT 通信中



お知らせ

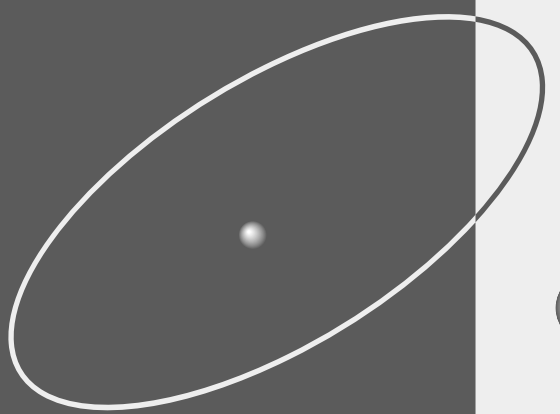
- パケット通信閉塞状態のときは、Dチャンネルパケット通信ができませんので、本装置の電源をいったん切ったあと、入れ直してください。
- 「パケットリンクダウン」「D-PKT リスタート」「D-PKT 通信フカ」と表示されていてもアナログポートを使用した通信やインターネット通信はできます。

PADパラメータプロファイル一覧

初期状態（お買い求め時）のプロファイルの内容は、以下のとおりです。

PADパラメータ		プロファイル番号									
NO.	名称	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	エスケープキャラクタ	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0
2	エコー	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0
3	パケット送出キャラクタ	2	2	0	0	0	0	2	2	2	2
4	アイドルタイム	0	32	5	5	5	5	32	2	32	2
5	フロー制御	3	3	3	3	0	0	3	0	3	0
6	PADサービス信号	5	1	0	0	0	0	5	1	5	1
7	ブレーク信号制御	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	データ破棄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	CR後のパディング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	1行の字数指定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	端末速度	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
12	フロー制御	3	3	3	3	0	0	3	0	3	0
13	CR後のLF挿入	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0
14	LF後のパディング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	編集機能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	キャラクタ削除	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
17	行削除	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
18	行表示	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18

参考：ATコマンドは、プロファイル番号0のみをサポートしています。



パソコン 設定編

1
Windows
での設定

2
Mac OSでの設定

3
汎用的な設定方法

4
こんなときは

1 . Windowsでの設定 (Windows [®] 95 / Windows [®] 98 / Windows [®] 2000 / Windows NT [®] 4.0)	212
2 . Mac OSでの設定	264
3 . 汎用的な設定方法	313
4 . こんなときは	396

本装置に接続したパソコンで Windows® 95 / Windows® 98をご利用の方は、INSメイトV70 MAXユーティリティをインストールし、イージーウィザードで設定を行ってください。イージーウィザードを実行すると、アナログ通信機器の利用とインターネット接続に必要な設定のほとんどが完了します。

Windows® 95をご利用の方でUSBポートにパソコンを接続した場合は、イージーウィザードで設定を行う前に、「USBポートでデータ通信を行うには(▶P139)」を参照して、「Windows® 95のバージョンを確認する」と「USBソフトウェアのバージョンを確認する」を行ってください。Windows® 95またはUSBソフトウェアのバージョンによっては、本装置をUSBポートで使用できない場合があります。

Windows® 2000では、イージーウィザードは使用できません。

INSメイトV70 MAXユーティリティをインストールする

パソコンを起動する前に、本装置の電源は切っておいてください。

また、本装置のUSBポートにパソコンを接続している場合は、インストール後続けてイージーウィザードを起動しUSBドライバをインストールするため、USBケーブルをパソコンから外しておいてください。

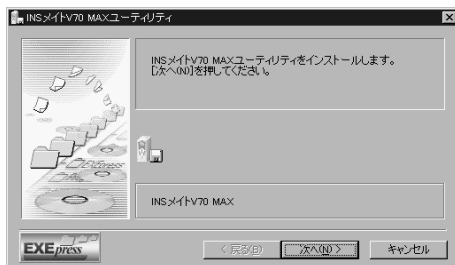
1 パソコンの電源を入れ、起動する。

2 付属品のCD-ROM「INSメイトV70 MAXユーティリティ集」をCD-ROMドライブにセットする。

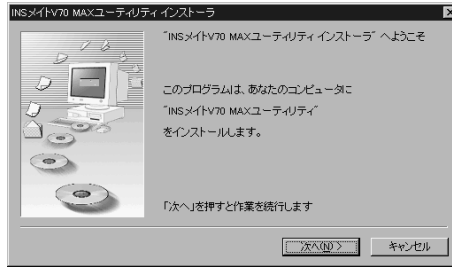
メニュー画面が表示されます。

フォルダー一覧が表示されないときは、[マイコンピュータ] CD-ROMドライブのアイコンの順にダブルクリックしてください。

3 [INSメイトV70 MAXユーティリティ (Windows® 95/98/NT4.0用のインストール)] をクリックする。

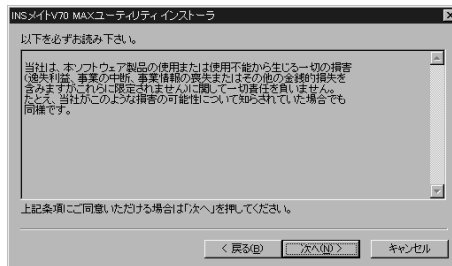


4 [次へ>]をクリックする。



5 [次へ>]をクリックする。

セットアッププログラムが起動します。



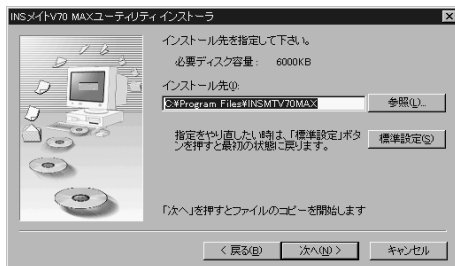
6 表示された内容を読み、同意する場合は [次へ>] をクリックする。

インストール先を指定する画面が表示されます。

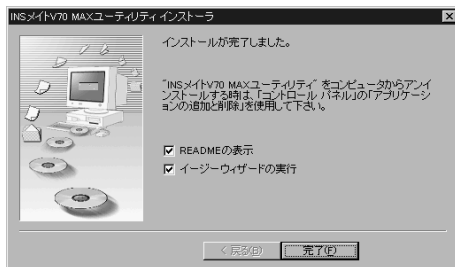
(次ページへ続く)

7 [次へ>] をクリックする。

インストール先を変更するときは、[参照] をクリックしてインストール先のフォルダを指定します。

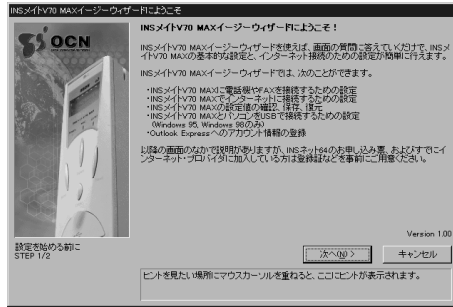
**8** [次へ>] をクリックする。

インストールが実行されます。

9 インストールが完了すると、「インストールが完了しました。」と表示される。**10** [READMEの表示] と [イージーウィザードの実行] がチェックされていることを確認して [完了] をクリックする。

READMEが表示されます。

11 「README」をよく読んで、閉じるボタンをクリックする。
 イージーウィザードが起動します。



ワンポイント

- イージーウィザードを起動するには
 INSメイトV70 MAXユーティリティのインストール後に、イージーウィザードを起動するときは、[スタート]をクリックしたあと、[プログラム] [INSメイトV70 MAXユーティリティ]の順にポイントし [INSメイトV70 MAXイージーウィザード]をクリックします。



お知らせ

- ご利用のパソコンによっては、イージーウィザードが起動しなかったり、操作の途中で止まる場合があります。そのようなときは、アナログポートの設定はイーザセットソフトで行い、インターネットへの設定は「インターネット接続ガイド」(別冊)を参照して行ってください。
- イージーウィザードで行えるアナログポートに着信したい電話番号の設定は標準のものになります。さらに詳細な設定を行う場合にはイーザセットソフトで行ってください。

イージーウィザードを起動する

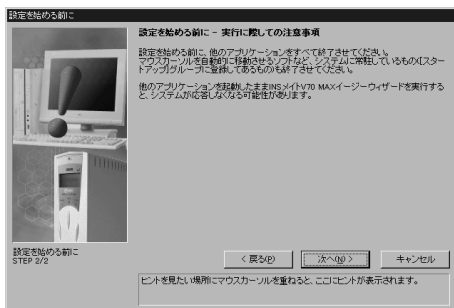
1 本装置の電源スイッチを押して、電源を入れる。

初めてイージーウィザードを起動し、本装置のUSBポートにパソコンを接続する場合は、USBケーブルをパソコンから外しておいてください。

POWERランプが緑色に点灯します。

2 [イージーウィザードによるこそ]で[次へ>]をクリックする。

[設定を始める前に]が表示されます。他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてください。



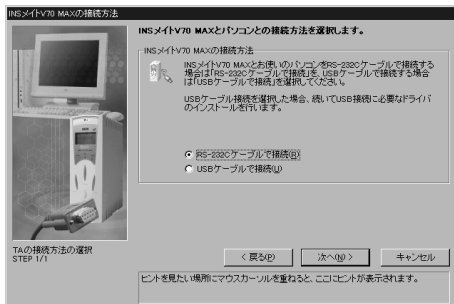
3 注意事項を読んで、[次へ>]をクリックする。

初めてイージーウィザードを起動したときは、[INSメイトV70 MAXの接続方法]が表示されます。

イージーウィザードを起動するのが初めてでない場合は、手順7へ進んでください。

4 本装置を接続しているポートのラジオボタンをクリックする。

本装置をRS-232Cポートに接続しているときは「RS-232Cケーブルで接続」を、USBポートに接続しているときは「USBケーブルで接続」をクリックしてください。



5 [次へ>] をクリックする。

6 手順4で選択したポートにより操作が異なります。

手順4で [RS-232Cケーブルで接続] を選択した場合
本装置が接続されているCOMポートが表示されます。

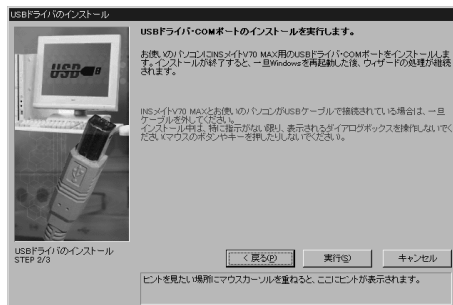
確認して、[次へ>] をクリックしてください。



手順4で [USBケーブルで接続] を選択した場合
[USBドライバのインストール] が表示されます。

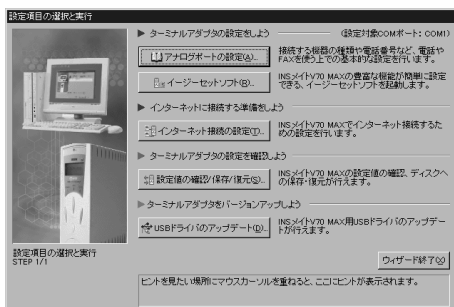
[実行] をクリックし、案内にしたがってUSBドライバをインストールしてください。
(●P218ワンポイント)

インストール完了後は、再起動後、イーージーウィザードの設定に戻ります。

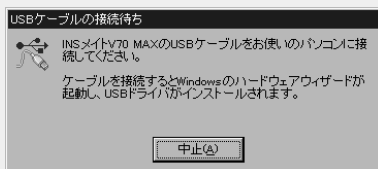


(次ページへ続く)

7 イーザーウィザードのメニュー画面が表示される。

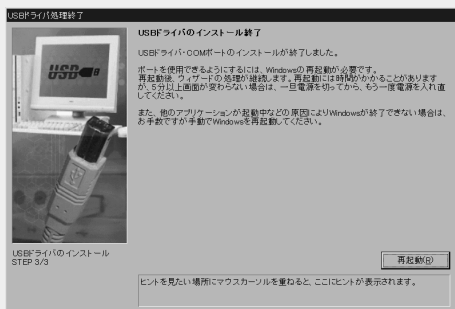


- USBドライバをインストールするには手順6で[実行]をクリックした後、自動的にインストール処理が行われます。次の画面が表示されたら、USBケーブルとパソコンを接続してください。



ワンポイント

USBドライバのインストールが完了すると、次の画面が表示されます。[再起動] ボタンをクリックして再起動すると、イーザーウィザードの設定に戻ります。

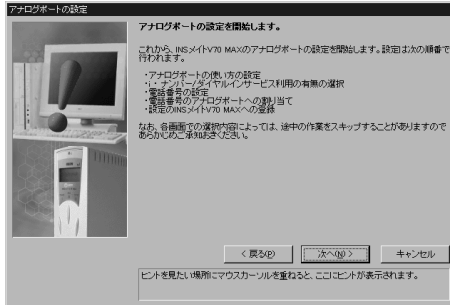


お知らせ

- 手順5で「INSメイトV70 MAXが接続されているポートが見つかりません。…」と表示されたときは、[キャンセル] をクリックし、イーザーウィザードを中断します。本装置の電源が入っているか、本装置とパソコンが正しく接続しているかを確認してください。
- パソコンを再起動するときは、フロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。入っていれば抜いてから再起動してください。入っていると正常に再起動できません。

アナログポートを設定する

- 1 イージーウィザードのメニュー画面で [アナログポートの設定] をクリックする。



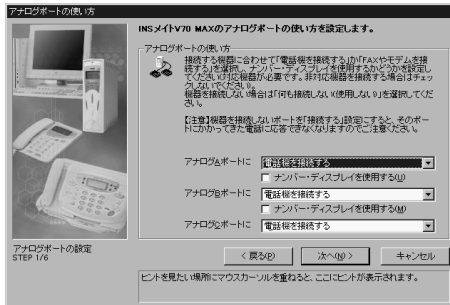
- 2 [次へ >] をクリックする。

- 3 [アナログ...ポートに] をプルダウンして、アナログポートの使いかたをクリックする。

機器を接続していないアナログポートは、必ず [何も接続しない (使用しない)] を選択してください。

ファクス付きの電話機は、[FAXやモデムを接続する] に設定します。

アナログAポートまたはアナログBポートでINSナンバー・ディスプレイを利用するときは、[ナンバー・ディスプレイを使用する] をチェックします。



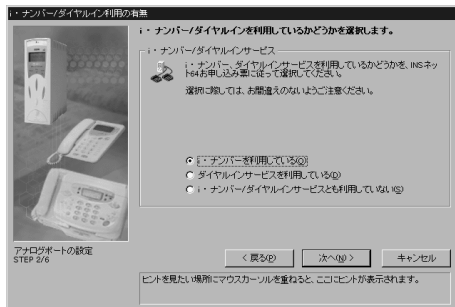
- 4 [次へ >] をクリックする。

[i・ナンバー/ダイヤルイン利用の有無] が表示されます。

(次ページへ続く)

5 INSネット64のi・ナンバー / ダイヤルイン利用についてラジオボタンをクリックする。

- i・ナンバーの利用(●P92)
- ダイヤルインの利用(●P95)



6 [次へ>] をクリックする。

[電話番号の設定] が表示されます。

7 ご契約の電話番号を入力する。

手順5で [i・ナンバーを利用している] を選択した場合

[i・ナンバー情報1]

契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力

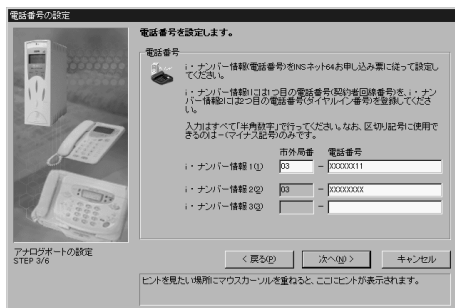
- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

[i・ナンバー情報2]

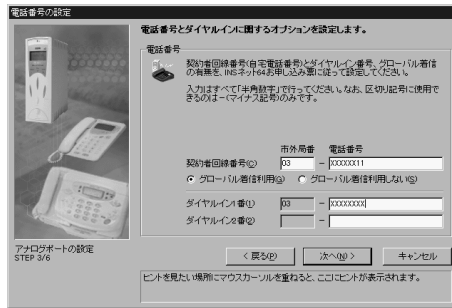
追加番号を入力

[i・ナンバー情報3]

追加番号を入力



手順5で [ダイヤルインサービスを利用している] を選択した場合



[契約者回線番号]

契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

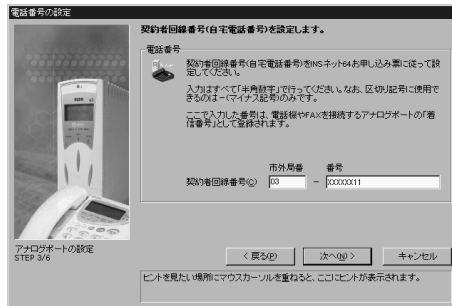
[グローバル着信] (☑ P95)

グローバル着信の契約内容により選択

[ダイヤルイン1番～2番] (☑ P95)

契約しているダイヤルイン番号を入力

手順5で [i・ナンバー/ダイヤルインサービスとも利用していない] を選択した場合



[契約者回線番号]

契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力

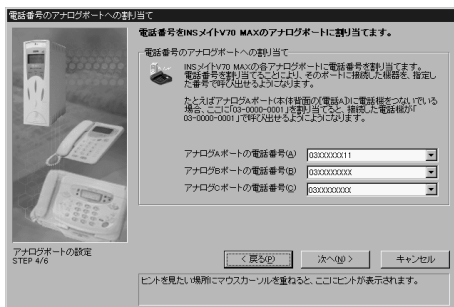
(次ページへ続く)

8 [次へ>] をクリックする。

[電話番号のアナログポートへの割り当て] が表示されます。

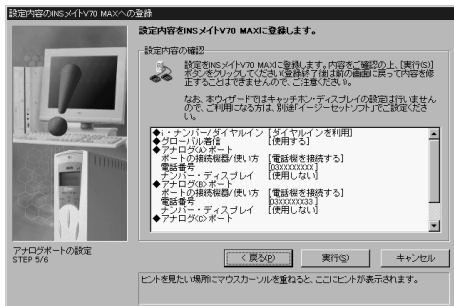
手順5で [i・ナンバー/ダイヤルインサービスとも利用していない] を選択した場合は、[電話番号のアナログポートへの割り当て] は表示されません。手順10へ進みます。

9 アナログポートごとに着信したい電話番号をプルダウンで選択する。



10 [次へ>] をクリックする。

[設定内容のINSメイトV70 MAXへの登録] が表示されます。



11 注意事項を読んで、[実行] をクリックする。

[アナログポートの設定の終了] が表示されます。

12 [設定終了] をクリックします。

イージーウィザードのメニュー画面に戻ります。

設定した内容を保存する（イージーバックアップ）

イージーバックアップを利用すると、現在の設定を確認したり、設定内容をパソコンのハードディスクやフロッピーディスクにファイルとして保存することができます。

- 1 イージーウィザードのメニュー画面で [設定値の確認 / 保存 / 復元] をクリックする。

イージーバックアップが起動し、設定内容が表示されます。

- 2 [ファイル] メニューから [保存] を選択する。

保存先を指定する画面が表示されます。

- 3 保存先のフォルダとファイル名を指定して、[保存] をクリックする。

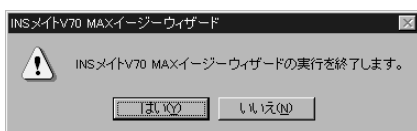
設定内容が保存されます。

- 4 [ファイル] メニューの [終了] を選択する。

イージーウィザードのメニュー画面に戻ります。

- 5 イージーウィザードを終了するときには、[ウィザード終了] をクリックする。

続けて、インターネット接続の設定などを行うことができます。イージーウィザードでインターネット接続の設定を行う方法は、「インターネット接続ガイド」(別冊)を参照してください。



- 6 [はい] をクリックする。



ワンポイント

- 保存ファイルから設定を復元するには
イージーバックアップを起動し、[ファイル] メニューから [復元] を選択します。設定内容を保存したファイルを選択後、[開く] ボタンをクリックし、表示される案内に従って操作してください。
- イージーバックアップを直接起動するには
イージーウィザードを終了後、イージーバックアップのみを起動するときには、[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] [INSメイト V70 MAXユーティリティ] の順にポイント、[INSメイト V70 MAX イージーバックアップ] をクリックします。

付属品のイーザーセットソフトは、本装置のいろいろな設定をパソコンからわかりやすい操作で行うためのユーティリティです。イーザーセットソフトを起動するときは、本装置とパソコンを正しく接続してください。

Windows® 2000をご使用の場合は、本装置のRS-232Cポートにパソコンを接続してください。USBポートではご利用できません。

イーザーセットソフトをインストールする

INSメイトV70 MAXユーティリティをインストールすると、イーザーウィザード、イーザーセットソフト、イーザーバージョンアップ、イーザーバックアップがインストールされます。(●P212)



ワンポイント

- イーザーセットソフトのインストール条件
ハードディスクの空き容量：5 MB以上

イーザーセットソフトを起動 / 終了する

1 本装置の電源を入れる。

2 [スタート]をクリックし、[プログラム] [INSメイトV70 MAXユーティリティ]の順にポイント、[INSメイトV70 MAXイーザーセットソフト]をクリックする。

[INSメイトV70 MAXイーザーセットソフト]が起動します。



3 [設定画面 / 機能]の各ボタンをクリックする。

[アナログポート]

アナログポートの設定を行います。(●P232)

[データポート]

RS-232Cポート / USBポートの設定を行います。(●P240)

パソコンを接続しているポート (RS-232CポートまたはUSBポート) の設定になります。

[番号テーブル]

着信する電話番号と発信者番号通知について設定します。(●P229)

[電話帳]

短縮ダイヤル、マイプライベート着信、相手番号識別着信、迷惑電話防止を利用するときの相手の方の電話番号を登録します。(●P250)

[パケット通信]

Dチャンネルパケット通信の設定を行います。(●P255)

[初期化]

設定をお買い求め時に戻します。(●P228)

[バージョン]

イーザーセットソフトとファームウェアのバージョン情報などを表示します。(●P260)

4 設定が終了したら、[OK] をクリックする。

設定内容が本装置のフラッシュメモリに記憶されます。

本装置の電源を切っても、フラッシュメモリの内容は消えません。



ワンポイント

- イーザーウィザードから起動する方法
イーザーセットソフトは、イーザーウィザードのメニュー画面から、[イーザーセットソフト] をクリックして起動することもできます。
- イーザーセットソフトの操作方法を調べるには
[ヘルプ] をクリックすると、ヘルプウィンドウが表示されますので、操作方法について見ることができます。



お知らせ

- 手順2で「INSメイトV70 MAXが見つかりません。...」と表示されたときは、[OK] をクリックしてイーザーセットソフトの起動を中止します。本装置の電源が入っているか、本装置とパソコンが正しく接続しているかを確認してください。
- アナログポートの使用中は、[OK] をクリックしないでください。

(次ページへ続く)

主な機能と設定項目

本装置の主な機能とイーザーセットソフトの設定項目との対応は下表のとおりです。

機能	設定項目	参照ページ
アナログポートの装置 (●P47)	アナログポート「接続機器」	●P232
ダイヤルイン (●P95)	番号テーブル「i・ナンバーを使用しない」	●P229
ディスプレイのバックライト(●P80)	アナログポート「LCDモード」「LCD表示」	●P239
短縮ダイヤル (●P50)	電話帳「短縮ダイヤル」	●P250
相手番号識別着信 (●P58)	電話帳「識別着信」	●P252
	アナログポート「識別着信」	●P235
	RS-232Cポート/USBポート「識別着信」	●P241
疑似キャッチホン (●P66)	アナログポート「キャッチホン」	●P232
疑似三者通話 (●P68)	アナログポート「三者通話」	●P239
疑似着信転送 (●P70)	アナログポート「おでかけ設定」	●P236
迷惑電話防止 (●P60)	電話帳「迷惑電話防止」	●P254
マイプライベート着信 (●P62)	電話帳「マイプライベート着信」	●P251
疑似なりわけ (●P64)	アナログポート「識別リングング」	●P235
	電話帳「疑似なりわけ」	●P253
おでかけ設定 (●P72)	アナログポート「おでかけ設定」	●P236
INSナンバー・ディスプレイ(●P99)	アナログポート「情報通知サービス」	●P233
フレックスホンサービス (●P101)		
INSキャッチホン	アナログポート「キャッチホン」	●P232
三者通話	アナログポート「三者通話」	●P239
通信中転送	アナログポート「通信中転送」	●P239
着信転送	アナログポート「おでかけ設定」	●P236
モデムダイヤルイン (●P107)	アナログポート「情報通知サービス」	●P233
	アナログポート「端末番号の送出方法」	●P234
INSなりわけサービス (●P109)		
識別リングング	アナログポート「識別リングング」	●P235
セキュリティ	アナログポート「識別着信」	●P235
選択キャッチホン	アナログポート「キャッチホン」	●P232
	電話帳「識別着信」	●P252
	アナログポート「識別着信」	●P235
	アナログポート「通信中着信時のみ使用可能」	●P235
i・ナンバー (●P92)	番号テーブル「i・ナンバーを使用する」	●P231
キャッチホン・ディスプレイ(●P111)	アナログポート「キャッチホン」	●P232
	アナログポート「情報通知サービス」	●P233
128KマルチリンクPPPのBOD機能	データポート/USBポート「MP・BOD機能」	●P242

各種情報の見かた

イーザーセットソフトを起動したときのウィンドウには、本装置の最新の情報が表示されます。



[使用ポート]

本装置が接続されているポートです。

[更新]

クリックすると、最新の情報が表示されます。

[高度な情報]

クリックするとさらに詳細な情報を表示することができます。

[料金 (単位:円)]

通信料金、通話料金の累計が表示されます。

[累積クリア]

クリックすると、通信料金 / 通話料金の累計が0円になります。

[最新着信番号]

最新着信番号とそのときの相手の番号が表示されます。

[最新発信番号]

各ポートから最後に発信した電話番号が表示されます。

(次ページへ続く)

[高度な情報] の見かた



[更新]

クリックすると、最新の情報が表示されます。

[切断理由・生成源]

発信時の切断理由と生成源が表示されます。(●P358、361)

[レイヤ]

正常 (緑)、異常 (赤)

[パソコン信号線]

オン (緑)、オフ (グレー)

[着信判定要因]

本装置が着信を拒否した理由が表示されます。

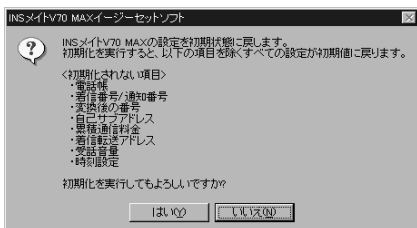
[データ、USB (B)、USB (F)、Aポート、Bポート、Cポート]

診断情報のコードが表示されます。(●P359)

設定を初期化する

1 [設定画面 / 機能] の [初期化] をクリックする。

2 メッセージを確認して [はい] をクリックする。



次の項目を除くすべての項目が、お買い求め時の設定に初期化されます。

初期化されない項目

電話帳 / 着信番号 / 通知番号 / 変換後の番号 / 各ポートのサブアドレス / 着信転送先電話番号 / 累積通話料金・通信料金 / 受話音量 / 時刻設定

契約している電話番号を設定し、番号ごとに着信があったとき、どのポートを呼び出すかを設定します。ダイヤルインをご利用の方は、「契約者回線番号 / 追加番号を登録する」を行ってください。i・ナンバーをご利用の方は、「i・ナンバーを設定する」を行ってください。また、どちらのサービスもご利用でない方は、「契約者回線番号 / 追加番号を登録する」で契約者回線番号のみ設定してください。

契約者回線番号 / 追加番号を登録する

1 [設定画面 / 機能] の [番号テーブル] をクリックする。
[電話番号テーブル] が表示されます。

2 [i・ナンバーを使用しない] をクリックする。

3 項目を設定する。



[契約者回線番号のグローバル着信]

グローバル着信の利用 (INSネット64の契約) を設定します。

[契約者回線番号][ダイヤルイン1番 ~ 7番]

ご契約の番号をすべて入力します。

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

[着信するポート]

それぞれの番号に着信があったとき呼び出すポートを選択します。

[通知番号]

各ポートから発信したときに通知する番号を1つずつ選択します。[契約ON] をクリックすると、すべてのポートで契約者回線番号を通知します。[全OFF] をクリックすると、すべてのポートで番号を通知しません。

4 [OK] をクリックする。

各ポートの着信番号が設定されます。

(次ページへ続く)



ワンポイント

- **ダイヤルイン設定例**

契約

契約者回線番号...03XXXX1111 (グローバル着信する)

追加番号 ...03XXXX1112 (ダイヤルイン番号)

利用方法

アナログAポートに契約者回線番号を、アナログBポート、アナログCポートにダイヤルイン番号を着信する

設定

[契約者回線番号のグローバル着信]

「グローバル着信する」を選択する

[契約者回線番号]

電話番号に「03XXXX1111」を入力し、着信するポートの「A」
をチェックする

[ダイヤルイン1番]

電話番号に「03XXXX1112」を入力し、着信するポートの「B」
「C」をチェックする

i・ナンバーを設定する

1 [設定画面 / 機能] の [番号テーブル] をクリックする。

[電話番号テーブル] が表示されます。

2 [i・ナンバーを使用する] をクリックする。

i・ナンバーの設定になります。

3 項目を設定する。



[電話番号]

i・ナンバー情報1、i・ナンバー情報2、i・ナンバー情報3の電話番号を入力します。

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

[着信するポート]

i・ナンバー情報1、i・ナンバー情報2、i・ナンバー情報3で、呼び出すポートを選択します。

[発信するポート]

各アナログポート (A、B、C)、RS-232Cポート、各USBポートから発信したときに通知する電話番号を1つずつ選択します。[1 ON] をクリックすると、すべてのポートで i・ナンバー情報1の電話番号を通知します。[2 ON] をクリックすると、すべてのポートで i・ナンバー情報2の電話番号を通知します。[3 ON] をクリックすると、すべてのポートで i・ナンバー情報3の電話番号を通知します。

4 [OK] をクリックする。

各ポートの着信番号が設定されます。



お知らせ

- 電話番号の設定を正しく行わないと、相手に正しい電話番号が伝わらない場合や、INSネット64の各種サービスが利用できない場合があります。
- i・ナンバー情報3は、平成12年3月現在サービス未提供です。

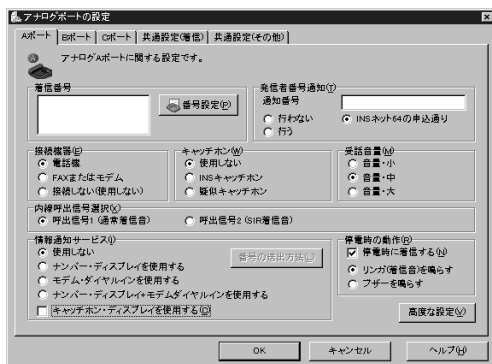
アナログポートの設定を行うときは、設定するアナログポートが使用中でないことを確認します。使用中のときは、通話などが終了してから設定を行ってください。

各アナログポート（Aポート／Bポート／Cポート）を設定する

1 [設定画面 / 機能] の [アナログポート] をクリックする。

2 [Aポート][Bポート][Cポート] タブをクリックする。
各アナログポートの設定が表示されます。

3 項目を設定する。
[Aポート] タブ（アナログAポート）の例



[着信番号]

このアナログポートに着信する電話番号が表示されます。着信番号を設定するときは、[番号設定] をクリックします。(●P229)

[発信者番号通知]

[通知番号] に発信者番号通知での通知番号として設定した電話番号が表示されます。このアナログポートからの発信時に発信者番号を通知するかしないかを選択します。

[接続機器]

このアナログポートに接続する機器を選択します。接続しないときは、必ず [接続しない (使用しない)] を選択してください。

[キャッチホン]

疑似キャッチホンやフレックスホンサービスのINSキャッチホンを利用するときに設定します。

[受話音量]

受話音量を設定します。モデムの接続がうまくいかないときには、[音量 : 大] にすると改善されることがあります。

[内線呼出信号選択]

内線で呼び出されたときの着信音を選択します。

[情報通知サービス](アナログAポート / Bポートのみ)

INSナンバー・ディスプレイ、モデムダイヤルインを利用するとき、設定します。

モデムダイヤルインを利用するときは、[番号の送出方法] をクリックして、このアナログポートに送出する番号を設定することもできます。(●P234)

キャッチホン・ディスプレイを利用するときは、「ナンバー・ディスプレイを使用する」または「ナンバー・ディスプレイとモデム・ダイヤルインを使用する」と、「キャッチホン・ディスプレイを使用する」をチェックします。

[停電時の動作](アナログAポートのみ)

電池動作モードのとき、着信するかどうかと、電池動作モード時の着信音を設定します。(●P33) INSナンバー・ディスプレイやモデムダイヤルインをご利用の場合は、停電時の着信音を「リング(着信音)を鳴らす」にしてください。「ブザーを鳴らす」に設定されていると、発信者番号や着信番号が正しく表示されないことがあります。

[高度な設定]

サブアドレスや相手番号識別着信を設定するときは、クリックします。(●P235)

4 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、設定するポートのタブをクリックします。

(次ページへ続く)

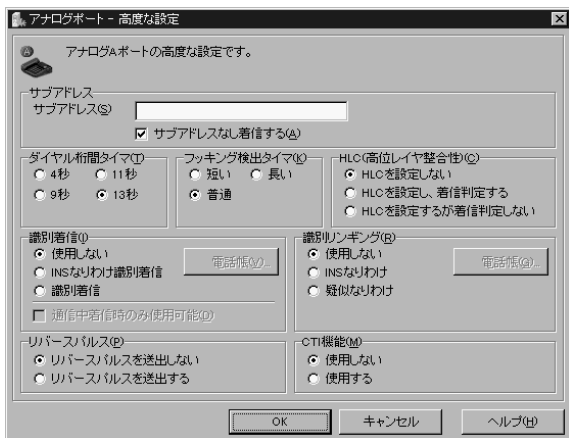
端末番号の送出方法（モデムダイヤルラインの設定）



[モデム・ダイヤルラインでの端末番号の送出方法]

着信する番号ごとに [電話番号をそのまま送出] か [電話番号を変換して送出] を選択します。また、[電話番号を変換して送出] を選択したときは、[変換後の番号] (最大4桁までの数字) を入力します。

アナログポートの高度な設定



[サブアドレス]

[サブアドレス] に、このアナログポートに設定するサブアドレス (最大19桁) を入力します。

サブアドレスが指定されていない着信を受けないときは、[サブアドレスなし着信する] のチェックを外します。

[ダイヤル桁間タイマ]

ダイヤル桁間タイマを [4秒] [9秒] [11秒] [13秒] の中から選択します。

[フッキング検出タイマ]

フッキング桁間タイマを [短い] [普通] [長い] の中から選択します。

[HLC (高位レイヤ整合性)]

HLC高位レイヤ整合性を [HLCを設定しない] [HLCを設定し、着信判定する] [HLCを設定するが着信判定しない] の中から選択します。(☛P124)

[識別着信]

相手番号識別着信やINSなりわけサービスの相手番号識別着信を利用するとき設定します。また、相手番号識別着信を利用するときは、[電話帳] をクリックして相手番号識別着信番号を登録します。(☛P252)

選択キャッチホンでのみ相手番号識別着信を有効にするときは、[通信中着信時のみ使用可能] をチェックします。

[識別リングング]

INSなりわけサービスの識別リングングや疑似なりわけを利用するとき、設定します。また、疑似なりわけを利用するときは、[電話帳] をクリックして疑似なりわけ番号を登録します。(☛P253)

[リバースパルス]

リバースパルスの検出によって通話を終了する電話機を接続するとき、[リバースパルスを送出する] を選択します。留守番電話の録音で、相手が電話を切っても通話が終了しないときは、[リバースパルスを送出する] に設定してください。

[CTI機能]

CTI機能 (アナログポートへの着信情報をRS-232CポートまたはUSBポートに通知したり、RS-232CポートまたはUSBポートからATコマンドを入力してアナログポートの発信を行う機能) を使用するかどうかを選択します。(☛P125)

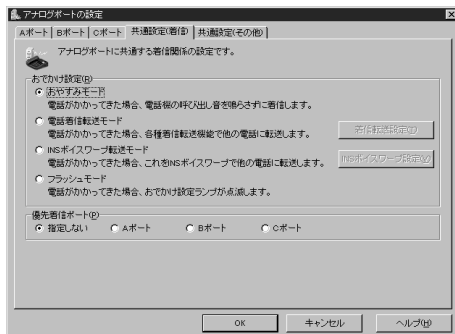
アナログポート共通の機能を設定する（着信）

1 [設定画面 / 機能] の [アナログポート] をクリックする。

2 [共通設定（着信）] タブをクリックする。

共通設定（着信）の設定が表示されます。

3 項目を設定する。

**[おでかけ設定]**

おでかけ設定ボタンの機能を選択します。

[電話着信転送モード] を選択したときは、[着信転送設定] をクリックして、着信転送に関する設定をしてください。（☛P237）

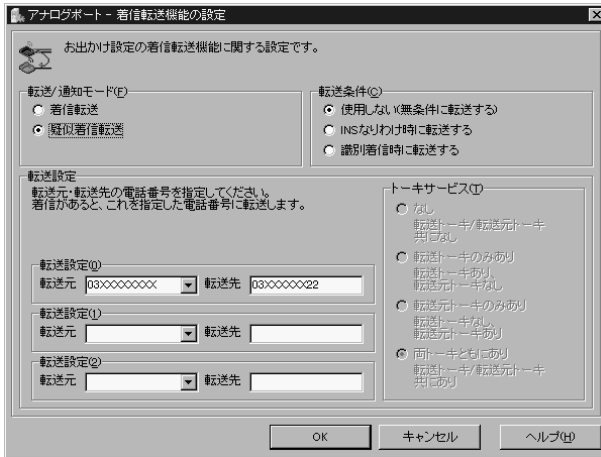
[INSボイスワープ転送モード] を選択したときは、[INSボイスワープ設定] をクリックして、INSボイスワープの起動 / 停止に関する設定を行ってください。（☛P238）

[優先着信ポート]

優先着信ポートを設定するときは、[Aポート][Bポート][Cポート] のどれかを選択します。

4 [OK] をクリックする。

着信転送の設定



[転送 / 通知モード]

フレックスホンサービスの着信転送か疑似着信転送のどちらを利用するか選択します。

[転送条件]

相手番号識別着信で着信できる相手の方のみ転送する場合は、「INSなりわけ時に転送する」か「識別着信時に転送する」を選択します。

[転送設定]

• ダイヤルインを利用した場合

[転送元] をプルダウンして、転送する電話番号を選択します。プルダウンで表示される電話番号は、番号テーブル設定で設定された番号です。

[転送先] に転送先の電話番号を入力します。

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

(次ページへ続く)

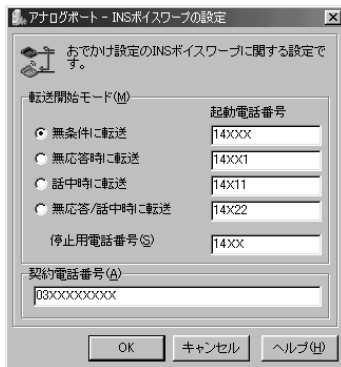
- i・ナンバーを利用した場合
 [転送先]に各i・ナンバー情報の転送先の電話番号を入力します。
 - (ハイフン)は入力してもしなくてもかまいません。



[トーカーサービス]

転送トーカーと転送元トーカーを流すかどうか選択します。疑似着信転送をご利用のときは、トーカーサービスを利用することはできません。

INSボイスワープの設定



[転送開始モード]

おでかけ設定ボタンを押したとき起動するINSボイスワープの機能を [無条件に転送] [無応答時に転送] [話中時に転送] [無応答 / 話中時に転送] の中から選択します。INSボイスワープサービス停止の電話番号に変更があったときは、起動電話番号を変更します。

[契約電話番号]

INSボイスワープをご契約になった契約者回線番号または追加番号を入力します。
 - (ハイフン)は入力してもしなくてもかまいません。

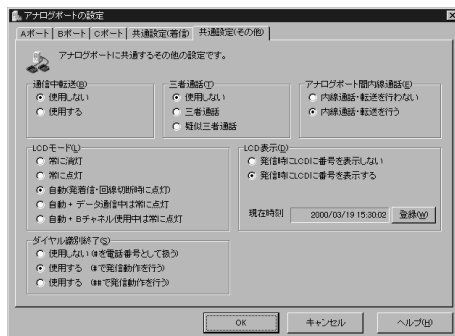
アナログポート共通の機能を設定する（その他）

1 [設定画面 / 機能] の [アナログポート] をクリックする。

2 [共通設定 (その他)] のタブをクリックする。

共通設定 (その他) の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[通信中転送]

フレックスホンの通信中転送を利用するとき [使用する] を設定します。

[三者通話]

疑似三者通話、フレックスホンの三者通話を使用するときは、それぞれを設定します。

[アナログポート間内線通話]

内線通話、内線転送を行えないように設定することができます。

[LCDモード]

本装置の液晶ディスプレイのバックライトの点灯を設定します。

[LCD表示]

発信するときに電話番号を本装置のディスプレイに表示するかしないかを設定します。

[現在時刻]

[登録] をクリックすると、パソコンの現在の日付・時刻を本装置に設定します。

[ダイヤル終了識別]

Ⓜ ボタンを含む電話番号にかけるときなどは、[しない] または 「 使用する (# # で発信動作を行う) 」 を設定します。(P49)

4 [OK] をクリックする。

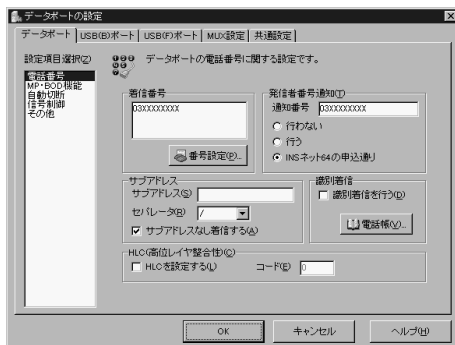
他の設定をするときは、他のタブをクリックします。

RS-232Cポート / USBポートの設定を行うときは、設定しようとしているポートが使用中ではないことを確認します。使用中のときは、通信が終了してから設定を行ってください。

各RS-232Cポート / USBポートを設定する

着信番号を設定する（電話番号）

- 1 [設定画面 / 機能] の [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート（データポート（RS-232Cポート） / USB（B）ポート / USB（F）ポート）のタブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [電話番号] をクリックする。
電話番号の設定が表示されます。
- 4 項目を設定する。



[着信番号]

このポートに着信する電話番号が表示されます。着信番号を設定するときは、[番号設定] をクリックします。（☛P229）

[発信者番号通知]

[通知番号] に発信時に通知する電話番号として設定した電話番号が表示されます。このポートからの発信時に発信者番号を通知するかしないかを選択します。

[サブアドレス]

[サブアドレス] に、このポートに設定するサブアドレス（最大19桁）を入力します。

[セパレータ] で、サブアドレスとアドレスの区切りに使用する文字を選択します。

サブアドレスが指定されてない着信を受けないときは、[サブアドレスなし着信する] のチェックを外します。

[識別着信]

このポートで相手番号識別着信を行うときは、チェックします。相手番号識別着信を行うときは、電話帳の相手番号識別着信に着信可能な電話番号を設定する必要があります。

[電話帳]

相手番号識別着信の電話番号を登録するとき、クリックします。(▶P252)

[HLC (高位レイヤ整合性)]

HLC高位レイヤ整合性を設定するときは [HLCを設定する] をチェックし、「01」～「65」のコードを入力します。(▶P124)

5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

(次ページへ続く)

128KマルチリンクPPPのBODを設定する (MP・BOD機能)

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート (データポート (RS-232Cポート) / USB (B) ポート / USB (F) ポート) のタブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [MP・BOD機能] をクリックする。
128KマルチリンクPPPのBOD設定が表示されます。
- 4 項目を設定する。



[MPの2本目接続時の認証]

2本目のBチャンネルを接続するときの認証について設定します。

[リソースBOD]

リソースBODを利用するとき設定します。(●P119)

[スループットBOD]

スループットBODを利用するとき設定します。(●P118)

イージー-BODで使用するときに設定します。(●P172)

5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

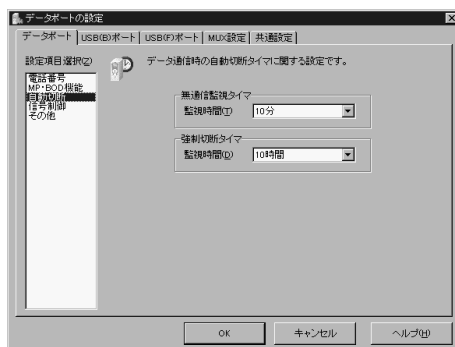
自動切断タイマを設定する（自動切断）

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート（データポート（RS-232Cポート） / USB（B）ポート / USB（F）ポート）のタブをクリックする。

- 3 [設定項目選択] の [自動切断] をクリックする。

自動切断タイマの設定が表示されます。

- 4 項目を設定する。



[無通信監視タイマ]

無通信監視タイマを設定します。（☛P133）

[強制切断タイマ]

強制切断タイマを設定します。切断するまでの時間を入力します。（☛P133）

- 5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

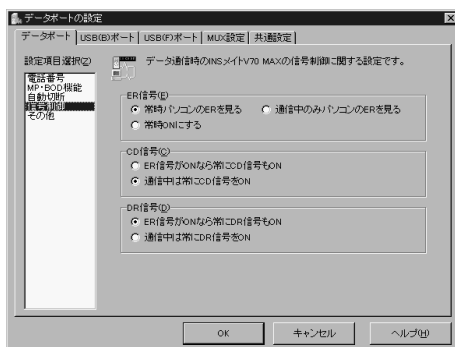
（次ページへ続く）

信号線の制御を設定する（信号制御）

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート（データポート（RS-232Cポート） / USB（B）ポート / USB（F）ポート）のタブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [信号制御] をクリックする。

信号線の制御の設定が表示されます。

- 4 項目を設定する。



[ER信号]

ER信号について設定します。ER信号がないパソコンを使用するときは、[常時ONにする] を選択してください。

[CD信号]

CD信号について設定します。CD信号が通常ONのときに動作するパソコンは、[ER信号がONなら常にCD信号もON] を設定してください。

[DR信号]

DR信号について設定します。通常は、[ER信号がONなら常にDR信号もON] に設定してください。

- 5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

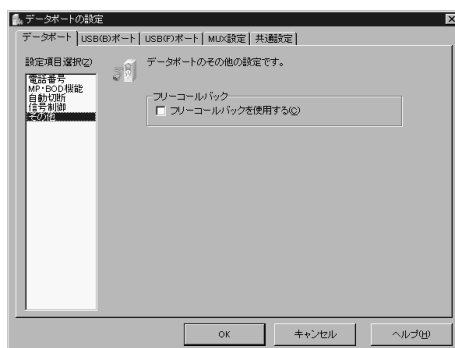


お知らせ

- [ER信号] の設定で [通信中のみパソコンのERをみる] を設定すると、通常はER信号をONとみなしますが、通信中に5秒以上ER信号がOFFになると、いったんER信号をOFFとみなします。ER信号がないパソコンでソフトウェアが正常に切断できなくなっても、パソコンの電源を切りER信号をOFFにすることで通信を切断することができます。

その他の機能を設定する

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート (データポート (RS-232Cポート) / USB (B) ポート / USB (F) ポート) のタブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [その他] をクリックする。
その他の設定が表示されます。
- 4 項目を設定する。



[フリーコールバック]

コールバックを使用するときの設定をします。(●P130)

- 5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

MUX機能を設定する

128KマルチリンクPPPのBODを設定する（MP・BOD機能）

1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。

2 [MUX設定] タブをクリックする。

3 [設定項目選択] の [MP・BOD機能] をクリックする。

128KマルチリンクPPPのBOD設定が表示されます。

4 項目を設定する。



[MPの2本目接続時の認証]

2本目のBチャンネルを接続するときの認証について設定します。

[リソースBOD]

リソースBODを行うとき設定します。（●P119）

[スループットBOD]

スループットBODを使用するとき設定します。（●P118）

イージーBODで使用するときに設定します。

5 [OK] をクリックする。

自動切断を設定する

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 [MUX設定] タブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [自動切断] をクリックする。
自動切断の設定が表示されます。
- 4 項目を設定する。



[無通信監視タイマ]

監視時間を設定します。(☛P133)

[強制切断タイマ]

監視時間を設定します。切断するまでの時間を選択します。(☛P133)

- 5 [OK] をクリックする。

(次ページへ続く)

MUX認証を設定する

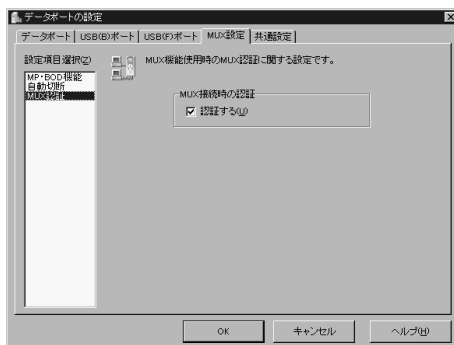
1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。

2 [MUX設定] タブをクリックする。

3 [設定項目選択] の [MUX認証] をクリックする。

MUX認証が表示されます。

4 項目を設定する。



[MUX接続時の認証]

MUX接続時に認証を行うときは、チェックします。

5 [OK] をクリックする。

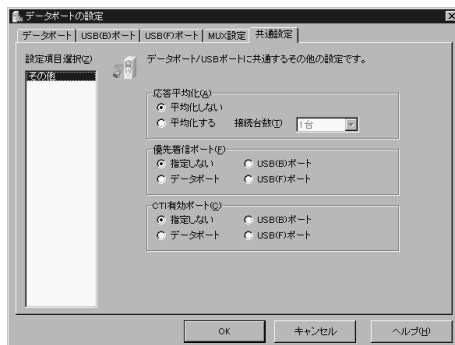
RS-232Cポート / USBポート共通の機能を設定する

1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。

2 [共通設定] タブをクリックする。

RS-232Cポート / USBポート共通の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[応答平均化]

応答平均化を設定します。(●P132)

[優先着信ポート]

優先着信ポートを設定するときは、[データポート][USB(B)ポート][USB(F)ポート]のどれかを選択します。[指定しない]を選択すると、RS-232Cポートと2つのUSBポートすべてに着信します。

[CTI有効ポート]

CTI情報を出力するポートを選択します。[指定しない]を選択すると、RS-232Cポートと2つのUSBポートすべてにCTI情報が出力されます。(●P125)

4 [OK] をクリックする。

短縮ダイヤル、マイプライベート着信、相手番号識別着信、疑似なりわけ、迷惑電話防止の各機能を利用するための、相手の方の電話番号を電話帳に登録します。短縮ダイヤルに登録されている相手の方には、各ポートから簡単な操作で発信できます。

短縮ダイヤルを登録する

1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。

2 [短縮ダイヤル] タブをクリックする。



3 一覧の中の登録する番号 (短縮番号) をクリックする。

4 [名前][電話番号][サブアドレス]を入力する。

サブアドレスは入力しなくてもかまいません。

電話番号中の - (ハイフン) は入力しなくてもかまいません。

5 [更新] をクリックする。

入力した内容が一覧に表示されます。

続けて登録するときは、手順3～5を繰り返します。

[削除] をクリックすると、登録されている短縮ダイヤルが消去されます。

6 登録が終了したら、[OK] をクリックする。

マイプライベート着信の番号を登録する

- 1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。
- 2 [マイプライベート着信] タブをクリックする。



- 3 マイプライベート着信を有効にするときは、[マイプライベート着信を使用する] をチェックする。
- 4 一覧の中の登録する番号をクリックする。
- 5 [名前][電話番号][サブアドレス]を入力する。
電話番号を入力する代わりに、[非通知][表示圏外][公衆]のどれかをチェックすると、発信者番号が通知されない着信も振り分けすることができます。
サブアドレスは入力しなくてもかまいません。

電話番号中の - (ハイフン) は入力しなくてもかまいません。

- 6 [呼び分けポート]の中から、呼び出す電話機のアナログポートをチェックする。
- 7 [更新] をクリックする。
入力した内容が一覧に表示されます。

続けて登録するときは、手順4～7を繰り返します。

- 8 登録が終了したら、[OK] をクリックする。

相手番号識別着信番号を登録する

- 1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。
- 2 [識別着信] タブをクリックする。



- 3 一覧の中の登録する番号をクリックする。
 - 4 [名前][電話番号][サブアドレス]を入力する。
サブアドレスは入力しなくてもかまいません。
電話番号中の - (ハイフン) は入力しなくてもかまいません。
 - 5 [更新] をクリックする。
入力した内容が一覧に表示されます。
- 続けて登録するときは、手順3～5を繰り返します。
- 6 登録が終了したら、[OK] をクリックする。

疑似なりわけ番号を登録する

- 1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。
- 2 [疑似なりわけ] タブをクリックする。



- 3 一覧の中の登録する番号をクリックする。
 - 4 [名前][電話番号][サブアドレス]を入力する。
サブアドレスは入力しなくてもかまいません。
電話番号中の - (ハイフン) は入力しなくてもかまいません。
 - 5 [更新] をクリックする。
入力した内容が一覧に表示されます。
- 続けて登録するときは、手順3～5を繰り返します。
- 6 登録が終了したら、[OK] をクリックする。

迷惑電話防止番号を登録する

1 [設定画面/機能]の[電話帳]をクリックする。

2 [迷惑電話防止]タブをクリックする。



3 一覧の中の登録する番号をクリックする。

4 [名前][電話番号]を入力する。

電話番号を入力する代わりに、[非通知][表示圏外][公衆]のどれかをチェックすると、発信者番号が通知されない着信も迷惑電話番号として登録することができます。

電話番号中の - (ハイフン) は入力しなくてもかまいません。

5 [追加]をクリックする。

入力した内容が一覧に表示されます。

すでに登録されている番号を修正するときは、[更新]をクリックします。

続けて登録するときは、手順3～5を繰り返します。

6 登録が終了したら、[OK]をクリックする。



ワンポイント

- 電話帳を削除するには
削除する電話番号をクリックして、[削除]をクリックします。
- 名前や電話番号をコピーするには
短縮ダイヤルからマイプライベート着信へ、識別着信から疑似なりわけなど、登録されている名前や電話番号をコピーすることができます。
コピーする名前や電話番号の番号をクリックして、[コピー]をクリックする
コピー先の番号をクリックして、[貼り付け]をクリックする

Dチャンネルパケット通信に関する設定（レジスタの値設定）をイーザーセットソフトで行うことができます。

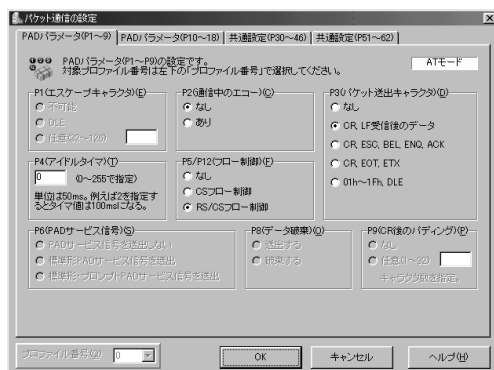
PADパラメータ（P1～P9）を設定する

1 [設定画面 / 機能] の [パケット通信] をクリックする。

2 [PADパラメータ（P1～9）] タブをクリックする。

PADパラメータ（P1～P9）の設定が表示されます。

3 [プロファイル番号] をプルダウンして、設定内容を保存するプロファイルを選択する。



4 項目を設定する。

[P1（エスケープキャラクタ）]

P1レジスタ（エスケープ文字）を設定します。（☛P385）

[P2（通信中のエコー）]

P2レジスタ（エコー）を設定します。（☛P385）

[P3（パケット送出キャラクタ）]

P3レジスタ（パケット送出契機文字）を設定します。（☛P385）

[P4（アイドルタイム）]

P4レジスタ（アイドルタイム値）を設定します。（☛P385）

[P5/P12（フロー制御）]

P5 / P12レジスタ（フロー制御）を設定します。（☛P385、386）

[P6（PADサービス信号）]

P6レジスタ（PADサービス信号）を設定します。（☛P386）

[P8（データ破棄）]

P8レジスタ（データ破棄）を設定します。（☛P386）

[P9（CR後のパディング）]

P9レジスタ（CR後のパディング）を設定します。（☛P386）

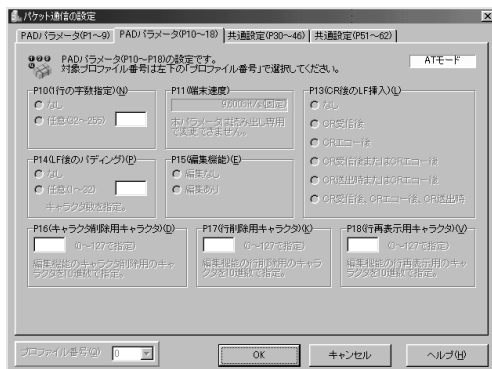
（次ページへ続く）

5 [OK] をクリックする。

他の項目を設定するときには、他のタブをクリックします。

PADパラメータ (P10~P18) を設定する**1** [設定画面 / 機能] の [パケット通信] をクリックする。**2** [PADパラメータ (P10~18)] タブをクリックする。

PADパラメータ (P10~P18) の設定が表示されます。

3 [プロファイル番号] をプルダウンして、設定内容を保存するプロファイルを選択する。**4** 項目を設定する。

[P10 (1行の字数指定)]

P10レジスタ (1行の字数指定) を設定します。(●P386)

[P11 (端末速度)]

P11レジスタ (端末速度) を設定します。(●P386)

[P13 (CR後のLF挿入)]

P13レジスタ (CR後のLF挿入) を設定します。(●P387)

[P14 (LF後のパディング)]

P14レジスタ (LF後のパディング) を設定します。(●P387)

[P15 (編集機能)]

P15レジスタ (編集機能) を設定します。(●P387)

[P16 (キャラクタ削除用キャラクタ)]

P16レジスタ (キャラクタ削除用キャラクタ) を設定します。(●P387)

[P17 (行削除用キャラクタ)]

P17レジスタ (行削除用キャラクタ) を設定します。(●P388)

[P18 (行再表示用キャラクタ)]

P18レジスタ (行再表示用キャラクタ) を設定します。(☛P388)

5 [OK] をクリックする。

他の項目を設定するときは、他のタブをクリックします。

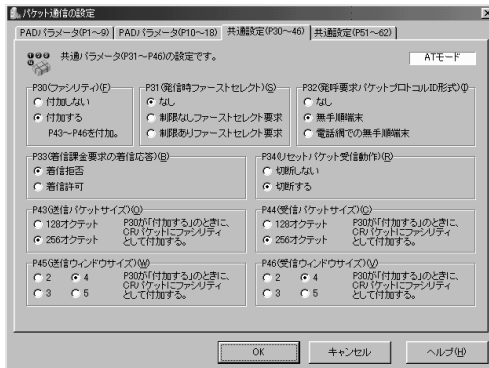
共通設定 (P30 ~ P46) を設定する

1 [設定画面 / 機能] の [パケット通信] をクリックする。

2 [共通設定 (P30 ~ 46)] タブをクリックする。

共通設定 (P30 ~ P46) の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[P30 (ファシリティ)]

P30レジスタ (ファシリティ付加) を設定します。(☛P388)

[P31 (発信時ファーストセレクト)]

P31レジスタ (発信時ファーストセレクト) を設定します。(☛P388)

[P32 (発呼要求パケットプロトコルID形式)]

P32レジスタ (発呼要求パケットプロトコルのID形式) を設定します。(☛P388)

[P33 (着信課金要求の着信応答)]

P33レジスタ (着信課金要求のある着信許可) を設定します。(☛P388)

[P34 (リセットパケット受信動作)]

P34レジスタ (通信中にリセット指示パケットを受信したときの動作指定) を設定します。
(☛P388)

[P43 (送信パケットサイズ)]

P43レジスタ (送信パケットサイズ) を設定します。(☛P389)

[P44 (受信パケットサイズ)]

P44レジスタ (受信パケットサイズ) を設定します。(☛P389)

(次ページへ続く)

[P45 (送信ウィンドウサイズ)]

P45レジスタ (送信ウィンドウサイズ) を設定します。(☛P389)

[P46 (受信ウィンドウサイズ)]

P46レジスタ (受信ウィンドウサイズ) を設定します。(☛P389)

4 [OK] をクリックする。

他の項目を設定するときは、他のタブをクリックします。

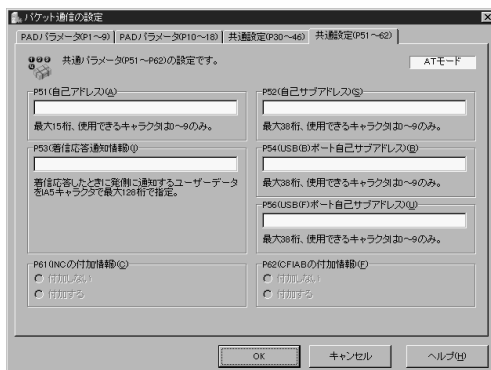
共通設定 (P51 ~ P62) を設定する

1 [設定画面 / 機能] の [パケット通信] をクリックする。

2 [共通設定 (P51 ~ 62)] タブをクリックする。

共通設定 (P51 ~ P62) の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[P51 (自己アドレス)]

P51レジスタ (自己アドレス) を設定します。(☛P389)

[P52 (自己サブアドレス)]

P52レジスタ (RS-232Cポート用サブアドレス) を設定します。(☛P389)

[P53 (着信応答通知情報)]

P53レジスタ (着信応答通知情報) を設定します。(☛P389)

[P54 (USB (B) ポート自己サブアドレス)]

P54レジスタ (背面USBポート用自己アドレス) を設定します。(☛P389)

[P56 (USB (F) ポート自己サブアドレス)]

P56レジスタ (前面USBポート用自己アドレス) を設定します。(☛P389)

[P61 (INCの付加情報)]

P61レジスタ (INCの付加情報) を設定します。(☛P390)

[P62 (CFIABの付加情報)]

P62レジスタ (CFIABの付加情報) を設定します。(▶P390)

4 [OK] をクリックする。

他の項目を設定するときは、他のタブをクリックします。

イージーバージョンアップを利用すると、本装置のファームウェアを簡単な操作でバージョンアップすることができます。

バージョンを確認する

本装置のファームウェアのバージョンは、イージーセットソフトで確認することができます。

- 1 本装置の電源を入れる。
- 2 パソコンの電源を入れ、起動する。
- 3 [スタート]をクリックし、[プログラム] [INSメイトV70 MAXユーティリティ]の順にポイント、[INSメイトV70 MAXイージーセットソフト]をクリックする。

[INSメイトV70 MAXイージーセットソフト]が起動します。

- 4 [設定画面/機能]で[バージョン]をクリックする。

[INSメイトのファームウェアバージョン]にファームウェアのバージョンが表示されます。



- 5 確認したら、[OK]をクリックし、バージョン表示画面を終了する。
- 6 [OK]をクリックし、イージーセットソフトを終了する。



ワンポイント

- 本装置のボタン操作でバージョンを確認するにはパソコンを起動せずに本装置のディスプレイでファームウェアのバージョンを確認することができます。(P309)

バージョンアップを行う

- 1 [スタート]をクリックし、[プログラム] [INSメイトV70 MAXユーティリティ]の順にポイント、[INSメイトV70 MAXイーザーバージョンアップ]をクリックする。

[INSメイトV70 MAXイーザーバージョンアップ]が起動します。

すでにバージョンアップ用のソフトウェアを入手済みの場合（デスクトップにファームウェアがある場合）は、[次へ>]をクリックして、手順5へ進みます。

- 2 [最新ファームウェアの入手]でNTT東日本またはNTT西日本のサポートページを選択し、[Go!]をクリックする。

自動的にプロバイダに接続し、つながるとインターネットエクスプローラが起動します。NTT東日本またはNTT西日本のホームページが表示されます。

- 3 [INSメイトV70 MAX]を参照して、ファームウェアやユーティリティをダウンロードする。

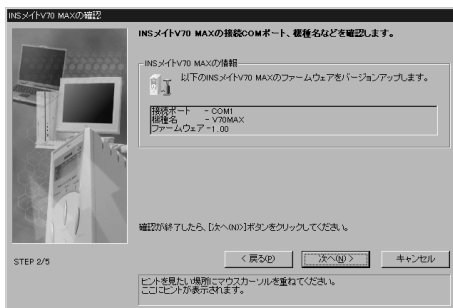
- 4 インターネットへの接続を終了する。

[INSメイトV70 MAXイーザーバージョンアップ]に戻ります。

インターネットエクスプローラを終了するか、タスクトレイの[ダイヤルアップネットワークモニター]アイコンをダブルクリックして[切断]をクリックすると、接続を終了することができます。

- 5 [次へ>]をクリックする。

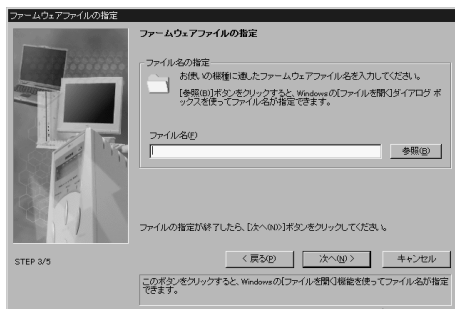
現在の状況が表示されます。



(次ページへ続く)

6 本装置が接続されているCOMポートなどを確認して、[次へ>]をクリックする。

7 [参照]をクリックして、ダウンロードしたファームウェアを保存したフォルダを開き、ダウンロードしたファイルを選択し、[次へ>]をクリックする。通常ダウンロードしたファームウェアは圧縮されていますので、解凍してから使用してください。



8 [次へ>]をクリックする。

バージョンアップが開始します。

本装置のPOWERランプが点灯したら...

9 設定が必要な場合は、[ユーティリティの起動]をクリックし、項目を設定する。

10 [終了]をクリックする。



ワンポイント

- ファームウェアとは
本装置に内蔵されているフラッシュメモリに書き込まれるソフトウェアのことです。新しいバージョンのファームウェアを本装置に書き込むことにより、新しい機能を利用できるようになります。



お知らせ

- イージーバージョンアップはRS-232Cポート、USBポートどちらに接続したパソコンからも利用することができます。
- イージーバージョンアップで最新のファームウェアやユーティリティをダウンロードするには、あらかじめインターネットに接続できるようになっている必要があります。インターネット接続については、「インターネット接続ガイド」(別冊)を参照してください。
- バージョンアップに失敗した場合は、ディスプレイに「コマンド待機中」と表示されているのを確認し、手順1からやり直してください。バージョンアップをやり直すと、ディスプレイにバージョンと接続名が取得できない旨が表示されますが、そのまま手順を進めてバージョンアップを行ってください。

イージーウィザードを実行すると、アナログ通信機器の利用とインターネット接続に必要な設定のほとんどが完了します。

INSメイトV70 MAXユーティリティをインストールする

INSメイトV70 MAXユーティリティをインストールすると、次のものがインストールされます。

- ・USBドライバ（USBポートに接続している場合のみ）
- ・CCLファイル
- ・イージーウィザード
- ・イージーセットソフト
- ・イージーバージョンアップ

- 1** パソコンの電源を入れ、起動する。
- 2** 付属品のCD-ROM「INSメイトV70 MAXユーティリティ集」をCD-ROMドライブにセットする。
- 3** [V70 MAX] アイコンをダブルクリックする。
- 4** [V70 MAXユーティリティ] フォルダをダブルクリックする。
- 5** [Installer for USB] または [Installer for Modem/Printer] をダブルクリックする。

本装置のUSBポートにパソコンを接続しているときは [Installer for USB] を、本装置のRS-232Cポートにパソコンを接続しているときは [Installer for Modem/Printer] をダブルクリックします。

- 6** [インストール] をクリックする。

インストール先を指定する画面が表示されます。インストール先を変更するときは、[インストールする場所] でインストール先を指定します。

インストールが実行されます。

7 インストールが完了すると、「インストールが完了しました。」と表示される。

8 [終了]をクリックする。

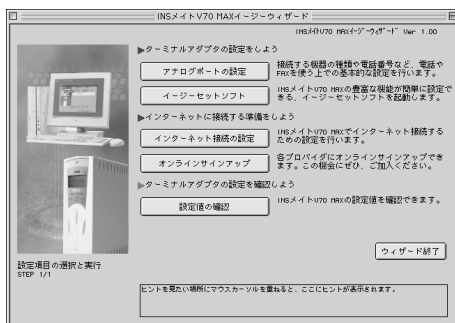
イージーウィザードを起動する

- 1 本装置の電源を入れる。
- 2 [INSメイトV70 MAXユーティリティ]フォルダをダブルクリックする。
- 3 [INSメイトV70 MAXイージーウィザード]アイコンをダブルクリックする。

接続ポートの選択になります。

- 4 接続ポートを選択し [OK] をクリックする。

メニュー画面が表示されます。



- 5 設定したい項目のボタンをクリックして、設定を行う。
- 6 イージーウィザードを終了するときには、[ウィザード終了]をクリックする。

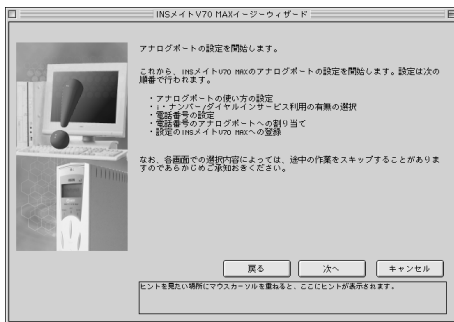


お知らせ

- 手順4で接続ポートの選択が正しくされなかったときには、[OK] をクリックしても、エラーメッセージが表示され、メニュー画面が表示されません。このような場合には [終了] をクリックし、イージーウィザードを中断します。本装置の電源が入っているか、本装置とパソコンが正しく接続しているかを確認してください。
- ご利用のパソコンによっては、イージーウィザードが起動しなかったり、操作の途中で止まる場合があります。そのようなときは、アナログポートの設定はイージーセットソフトで行い、インターネットへの設定は「インターネット接続ガイド」(別冊)を参照して行ってください。

アナログポートを設定する

- 1 イージーウィザードのメニュー画面で [アナログポートの設定] をクリックする。



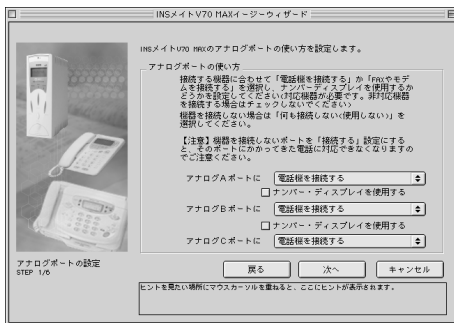
- 2 [次へ] をクリックする。

- 3 [アナログ...ポートに] をプルダウンして、アナログポートの使いかたをクリックする。

機器を接続していないアナログポートは、必ず [何も接続しない (使用しない)] を選択してください。

ファクス付きの電話機は、[FAXやモデムを接続する] に設定します。

アナログAポートまたはアナログBポートでINSナンバー・ディスプレイを利用するときは、[ナンバー・ディスプレイを利用する] をチェックします。



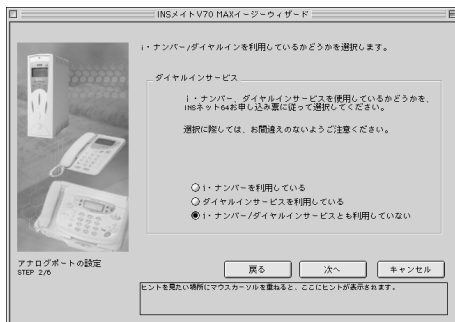
- 4 [次へ] をクリックする。

(次ページへ続く)

5 INSネット64のi・ナンバー / ダイヤルイン利用についてラジオボタンをクリックする。

i・ナンバーの利用(●P92)

ダイヤルインの利用(●P95)



6 [次へ]をクリックする。

7 ご契約の電話番号を入力する。

手順5で [i・ナンバーを利用している] を選択した場合

[i・ナンバー情報1]

契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力

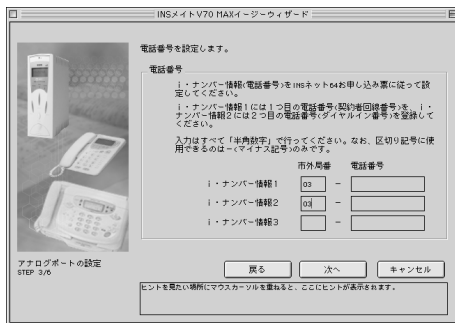
- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

[i・ナンバー情報2]

追加番号を入力

[i・ナンバー情報3]

追加番号を入力



手順5で [ダイヤルインサービスを利用している] を選択した場合

[契約者回線番号]

契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

[グローバル着信] (●P95)

グローバル着信の契約内容により選択

[ダイヤルイン1番~2番] (●P95)

契約しているダイヤルイン番号を入力

手順5で [i・ナンバー/ダイヤルインサービスとも利用していない] を選択した場合

[契約者回線番号]

契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力

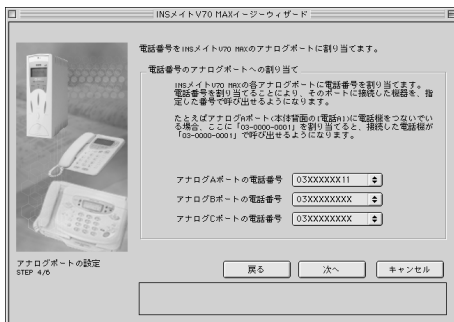
8 [次へ] をクリックする。

[電話番号のアナログポートへの割り当て] が表示されます。

手順5で [i・ナンバー/ダイヤルインサービスとも利用していない] を選択した場合は、[電話番号のアナログポートへの割り当て] は表示されません。手順10へ進みます。

(次ページへ続く)

9 アナログポートごとに着信したい電話番号をプルダウンで選択する。

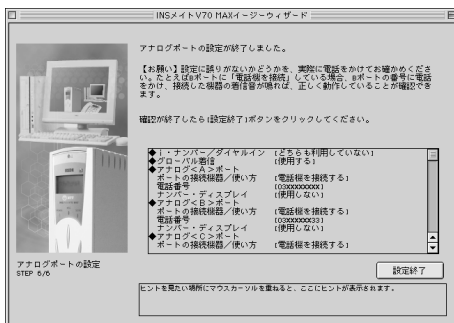


10 [次へ] をクリックする。



11 注意事項を読んで、[実行] をクリックする。

[アナログポートの設定が終了しました。] と表示されます。



12 [設定終了] をクリックする。

イーザーウィザードのメニュー画面に戻ります。

13 イーザーウィザードのメニュー画面で [設定の確認] をクリックする。

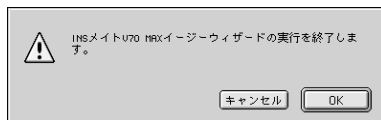
本装置に設定されている最新の内容が表示されます。

14 設定内容を確認したら、[戻る] をクリックする。

イーザーウィザードのメニュー画面に戻ります。

15 イーザーウィザードを終了するときには、[ウィザード終了] をクリックする。

続けて、インターネット接続の設定などを行うことができます。イーザーウィザードでインターネット接続の設定を行う方法は、「インターネット接続ガイド」(別冊)を参照してください。



16 [OK] をクリックする。

付属品のイーゼルセットソフトは、本装置のいろいろな設定をパソコンからわかりやすい操作で行うためのユーティリティです。イーゼルセットソフトを起動するときは、本装置とパソコンを正しく接続してください。

イーゼルセットソフトをインストールする

INSメイトV70 MAXユーティリティをインストールすると、イーゼルウィザード、イーゼルセットソフト、イーゼルバージョンアップがインストールされます。(●P264)

イーゼルセットソフトを起動/終了する

- 1 本装置の電源を入れる。
- 2 [INSメイトV70 MAXユーティリティ]フォルダをダブルクリックする。
- 3 [INSメイトV70 MAXイーゼルセットソフト]アイコンをダブルクリックする。

[INSメイトV70 MAXイーゼルセットソフト]が起動します。



- 4 [設定画面/機能]の各ボタンをクリックする。

[アナログポート]

アナログポートの設定を行います。(●P281)

[データポート]

RS-232Cポート / USBポートの設定を行います。(●P289)

パソコンを接続しているポート (RS-232CポートまたはUSBポート) の設定になります。

[番号テーブル]

着信する電話番号と発信者番号通知について設定します。(●P278)

[電話帳]

短縮ダイヤル、マイプライベート着信、相手番号識別着信、迷惑電話防止を利用するときの相手の方の電話番号を登録します。(●P299)

[パケット通信]

Dチャンネルパケット通信の設定を行います。(●P304)

[初期化]

設定をお買い求め時に戻します。(●P277)

[バージョン]

イーザーセットソフトとファームウェアのバージョン情報などを表示します。(●P309)

5 設定が終了したら、[OK] をクリックします。

設定内容が本装置のフラッシュメモリに記憶されます。

本装置の電源を切っても、フラッシュメモリの内容は消えません。



ワンポイント

- イーザーウィザードから起動する方法
イーザーセットソフトは、イーザーウィザードのメニュー画面から、[イーザーセットソフト] をクリックして起動することもできます。
- イーザーセットソフトの操作方法を調べるには
[ヘルプ] をクリックすると、ヘルプウィンドウが表示されますので、操作方法について見ることができます。



お知らせ

- 手順2で「INSメイトV70 MAXが見つかりません。...」と表示されたときは、[OK] をクリックしてイーザーセットソフトの起動を中止します。本装置の電源が入っているか、本装置とパソコンが正しく接続しているかを確認してください。
- アナログポートの使用中は、[OK] をクリックしないでください。

(次ページへ続く)

主な機能と設定項目

本装置の主な機能とイージーセットソフトの設定項目との対応は下表のとおりです。

機能	設定項目	参照ページ
アナログポートの装置 (●P47)	アナログポート「接続機器」	●P281
ダイヤルイン (●P95)	番号テーブル「i・ナンバーを使用しない」	●P278
ディスプレイのバックライト(●P80)	アナログポート「LCDモード」「LCD表示」	●P288
短縮ダイヤル (●P50)	電話帳「短縮ダイヤル」	●P299
相手番号識別着信 (●P58)	電話帳「識別着信」	●P301
	アナログポート「識別着信」	●P284
	RS-232Cポート/USBポート「識別着信」	●P289
疑似キャッチホン (●P66)	アナログポート「キャッチホン」	●P281
疑似三者通話 (●P68)	アナログポート「三者通話」	●P288
疑似着信転送 (●P70)	アナログポート「おでかけ設定」	●P285
迷惑電話防止 (●P60)	電話帳「迷惑電話防止」	●P303
マイプライベート着信 (●P62)	電話帳「マイプライベート着信」	●P300
疑似なりわけ (●P64)	アナログポート「識別リングング」	●P284
	電話帳「疑似なりわけ」	●P302
おでかけ設定 (●P72)	アナログポート「おでかけ設定」	●P285
INSナンバー・ディスプレイ(●P99)	アナログポート「情報通知サービス」	●P282
フレックスホンサービス (●P101)		
INSキャッチホン	アナログポート「キャッチホン」	●P281
三者通話	アナログポート「三者通話」	●P288
通信中転送	アナログポート「通信中転送」	●P288
着信転送	アナログポート「おでかけ設定」	●P285
モデムダイヤルイン (●P107)	アナログポート「情報通知サービス」	●P282
	アナログポート「端末番号の送出方法」	●P283
INSなりわけサービス (●P109)		
識別リングング	アナログポート「識別リングング」	●P284
セキュリティ	アナログポート「識別着信」	●P284
選択キャッチホン	アナログポート「キャッチホン」	●P281
	電話帳「識別着信」	●P301
	アナログポート「識別着信」	●P284
	アナログポート「通信中着信時のみ使用可能」	●P284
i・ナンバー (●P92)	番号テーブル「i・ナンバーを使用する」	●P280
キャッチホン・ディスプレイ(●P111)	アナログポート「キャッチホン」	●P281
	アナログポート「情報通知サービス」	●P282
128KマルチリンクPPPのBOD機能	データポート/USBポート「MP・BOD機能」	●P291

各種情報の見かた

イーザーセットソフトを起動したときのウィンドウには、本装置の最新の情報が表示されます。



[使用ポート]

本装置が接続されているポートです。

[更新]

クリックすると、最新の情報が表示されます。

[高度な情報]

クリックするとさらに詳細な情報を表示することができます。

[料金 (単位: 円)]

通信料金、通話料金の累計が表示されます。

[累積クリア]

クリックすると、通信料金 / 通話料金の累計が0円になります。

[最新着信番号]

最新着信番号とそのときの相手の番号が表示されます。

[最新発信番号]

各ポートから最後に発信した電話番号が表示されます。

(次ページへ続く)

[高度な情報] の見かた



[更新]

クリックすると、最新の情報が表示されます。

[切断理由・生成源]

発信時の切断理由と生成源が表示されます。(●P358、361)

[レイヤ]

正常 (緑)、異常 (赤)

[パソコン信号線]

オン (緑)、オフ (グレー)

[着信判定要因]

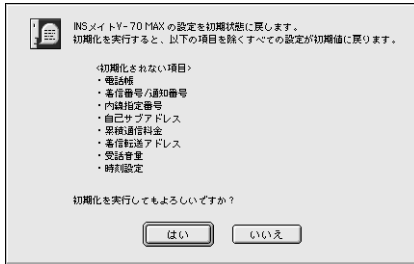
本装置が着信を拒否した理由が表示されます。

[データ、USB (B)、USB (F)、Aポート、Bポート、Cポート]

診断情報のコードが表示されます。(●P359)

設定を初期化する

- 1 [設定画面 / 機能] の [初期化] をクリックする。
- 2 メッセージを確認して [はい] をクリックする。



次の項目を除くすべての項目が、お買い求め時の設定に初期化されます。

初期化されない項目

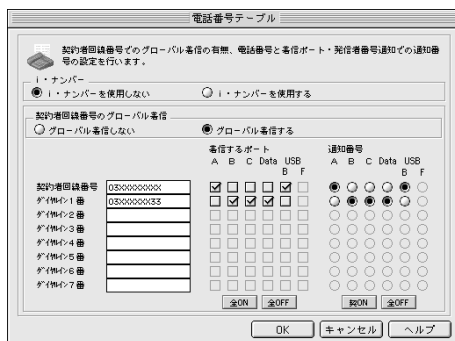
電話帳 / 着信番号 / 通知番号 / 変換後の番号 / 各ポートのサブアドレス / 着信転送先電話番号 / 累積通話料金・通信料金 / 受話音量 / 時刻設定

着信番号を登録するには (番号テーブル設定)

契約している電話番号を設定し、番号ごとに着信があったとき、どのポートを呼び出すかを設定します。ダイヤルインをご利用の方は、「契約者回線番号 / 追加番号を登録する」を行ってください。i・ナンバーをご利用の方は、「i・ナンバーを設定する」を行ってください。また、どちらのサービスもご利用でない方は、「契約者回線番号 / 追加番号を登録する」で契約者回線番号のみ設定してください。

契約者回線番号 / 追加番号を登録する

- 1 [設定画面 / 機能] の [番号テーブル] をクリックする。
[電話番号テーブル] が表示されます。
- 2 [i・ナンバーを使用しない] をクリックする。
- 3 項目を設定する。



[契約者回線番号のグローバル着信]

グローバル着信の利用 (INSネット64の契約) を設定します。

[契約者回線番号][ダイヤルイン1番 ~ 7番]

ご契約の番号をすべて入力します。

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

[着信するポート]

それぞれの番号に着信があったとき呼び出すポートを選択します。

[通知番号]

各ポートから発信したときに通知する番号を1つずつ選択します。[契約ON] をクリックすると、すべてのポートで契約者回線番号を通知します。[全OFF] をクリックすると、すべてのポートで番号を通知しません。

4 [OK] をクリックする。

各ポートの着信番号が設定されます。



ワンポイント

- **ダイヤルイン設定例**

契約

契約者回線番号...03XXXX1111 (グローバル着信する)

追加番号 ...03XXXX1112 (ダイヤルイン番号)

利用方法

アナログAポートに契約者回線番号を、アナログBポート、アナログCポートにダイヤルイン番号を着信する

設定

[契約者回線番号のグローバル着信]

「グローバル着信する」を選択する

[契約者回線番号]

電話番号に「03XXXX1111」を入力し、着信するポートの「A」
をチェックする

[ダイヤルイン1番]

電話番号に「03XXXX1112」を入力し、着信するポートの「B」
「C」をチェックする

i・ナンバーを設定する

1 [設定画面 / 機能] の [番号テーブル] をクリックする。

[電話番号テーブル] が表示されます。

2 [i・ナンバーを使用する] をクリックする。

i・ナンバーの設定になります。

3 項目を設定する。



[電話番号]

i・ナンバー情報1、i・ナンバー情報2、i・ナンバー情報3の電話番号を入力します。

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

[着信するポート]

i・ナンバー情報1、i・ナンバー情報2、i・ナンバー情報3で、呼び出すポートを選択します。

[発信するポート]

各アナログポート (A、B、C)、RS-232Cポート、各USBポートから発信したときに通知する電話番号を1つずつ選択します。[1 ON] をクリックすると、すべてのポートで i・ナンバー情報1の電話番号を通知します。[2 ON] をクリックすると、すべてのポートで i・ナンバー情報2の電話番号を通知します。[3 ON] をクリックすると、すべてのポートで i・ナンバー情報3の電話番号を通知します。

4 [OK] をクリックする。

各ポートの着信番号が設定されます。



お知らせ

- 電話番号の設定を正しく行わないと、相手に正しい電話番号が伝わらない場合や、INSネット64の各種サービスが利用できない場合があります。
- i・ナンバー情報3は、平成12年3月現在サービス未提供です。

アナログポートの設定を行うときは、設定するアナログポートが使用中でないことを確認します。使用中のときは、通話などが終了してから設定を行ってください。

各アナログポート（Aポート／Bポート／Cポート）を設定する

1 [設定画面／機能]の[アナログポート]をクリックする。

2 [Aポート][Bポート][Cポート]タブをクリックする。
各アナログポートの設定が表示されます。

3 項目を設定する。

[Aポート]タブ（アナログAポート）の例



[着信番号]

このアナログポートに着信する電話番号が表示されます。着信番号を設定するときは、[番号設定]をクリックします。(●P278)

[発信者番号通知]

[通知番号]に発信者番号通知での通知番号として設定した電話番号が表示されます。このアナログポートからの発信時に発信者番号を通知するかしないかを選択します。

[接続機器]

このアナログポートに接続する機器を選択します。接続しないときは、必ず[接続しない(使用しない)]を選択してください。

[キャッチホン]

疑似キャッチホンやフレックスホンサービスのINSキャッチホンを利用するときに設定します。

(次ページへ続く)

[受話音量]

受話音量を設定します。モデムの接続がうまくいかないときには、[音量 : 大] にすると改善されることがあります。

[内線呼出信号選択]

内線で呼び出されたときの着信音を選択します。

[情報通知サービス](アナログAポート / Bポートのみ)

INSナンバー・ディスプレイ、モデムダイヤルインを利用するとき、設定します。

モデムダイヤルインを利用するときは、[番号の送出方法] をクリックして、このアナログポートに送出する番号を設定することもできます。(●P234)

キャッチホン・ディスプレイを利用するときは、「ナンバー・ディスプレイを使用する」または「ナンバー・ディスプレイとモデム・ダイヤルインを使用する」と、「キャッチホン・ディスプレイを使用する」をチェックします。

[停電時の動作](アナログAポートのみ)

電池動作モードのとき、着信するかどうかと、電池動作モード時の着信音を設定します。

(●P33) INSナンバー・ディスプレイやモデムダイヤルインをご利用の場合は、停電時の着信音を「リング(着信音)を鳴らす」にしてください。「ブザーを鳴らす」に設定されていると、発信者番号や着信番号が正しく表示されないことがあります。

[高度な設定]

サブアドレスや相手番号識別着信を設定するときは、クリックします。(●P284)

4 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、設定するポートのタブをクリックします。

端末番号の送出方法（モデムダイヤルインの設定）



[モデム・ダイヤルインでの端末番号の送出方法]

着信する番号ごとに [電話番号をそのまま送出] か [電話番号を変換して送出] を選択します。また、[電話番号を変換して送出] を選択したときは、[変換後の番号] (最大4桁までの数字) を入力します。

アナログポートの高度な設定



(次ページへ続く)

[サブアドレス]

[サブアドレス] に、このアナログポートに設定するサブアドレス（最大19桁）を入力します。

サブアドレスが指定されていない着信を受けないときは、[サブアドレスなし着信する] のチェックを外します。

[ダイヤル桁間タイマ]

ダイヤル桁間タイマを [4秒] [9秒] [11秒] [13秒] の中から選択します。

[フッキング検出タイマ]

フッキング桁間タイマを [短い] [ふつう] [長い] の中から選択します。

[HLC（高位レイヤ整合性）]

HLC高位レイヤ整合性を [HLCを設定しない] [HLCを設定し、着信判定する] [HLCを設定するが着信判定しない] の中から選択します。（●P124）

[識別着信]

相手番号識別着信やINSなりわけサービスの相手番号識別着信を利用するとき設定します。また、相手番号識別着信を利用するときは、[電話帳] をクリックして相手番号識別着信番号を登録します。（●P301）

選択キャッチホンでのみ相手番号識別着信を有効にするときは、[通信中着信時のみ使用可能] をチェックします。

[識別リングング]

INSなりわけサービスの識別リングングや疑似なりわけを利用するとき、設定します。また、疑似なりわけを利用するときは、[電話帳] をクリックして疑似なりわけ番号を登録します。（●P302）

[リバースパルス]

リバースパルスの検出によって通話を終了する電話機を接続するとき、[リバースパルスを送出する] を選択します。留守番電話の録音で、相手が電話を切っても通話が終了しないときは、[リバースパルスを送出する] に設定してください。

[CTI機能]

CTI機能（アナログポートへの着信情報をRS-232CポートまたはUSBポートに通知したり、RS-232CポートまたはUSBポートからATコマンドを入力してアナログポートの発信を行う機能）を使用するかしないかを選択します。（●P125）

アナログポート共通の機能を設定する（着信）

1 [設定画面 / 機能] の [アナログポート] をクリックする。

2 [共通設定（着信）] タブをクリックする。

共通設定（着信）の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[おでかけ設定]

おでかけ設定ボタンの機能を選択します。

[電話着信転送モード] を選択したときは、[着信転送設定] をクリックして、着信転送に関する設定をしてください。（☛P286）

[INSボイスワープ転送モード] を選択したときは、[INSボイスワープ設定] をクリックして、INSボイスワープの起動 / 停止に関する設定を行ってください。（☛P287）

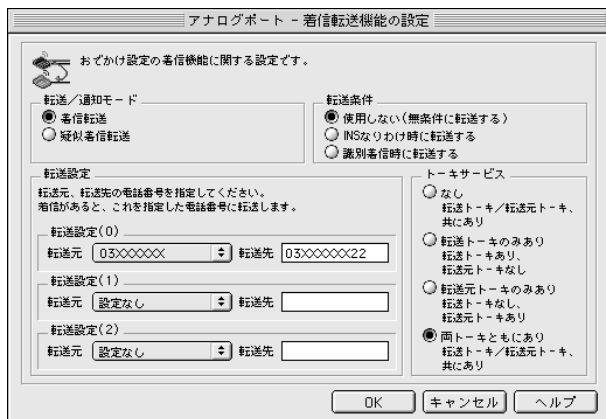
[優先着信ポート]

優先着信ポートを設定するときは、[Aポート][Bポート][Cポート] のどれかを選択します。

4 [OK] をクリックする。

（次ページへ続く）

着信転送の設定



[転送 / 通知モード]

フレックスホンサービスの着信転送か疑似着信転送のどちらを利用するか選択します。

[転送条件]

相手番号識別着信で着信できる相手の方のみ転送する場合は、「INSなりわけ時に転送する」か「識別着信時に転送する」を選択します。

[転送設定]

- ダイヤルインを利用した場合

[転送元] をプルダウンして、転送する電話番号を選択します。プルダウンで表示される電話番号は、番号テーブル設定で設定された番号です。

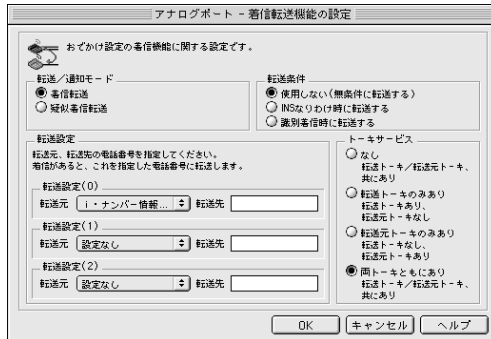
[転送先] に転送先の電話番号を入力します。

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

- i・ナンバーを利用した場合

[転送元] をプルダウンして、転送する i・ナンバー情報を選択します。[転送先] に転送先の電話番号を入力します。

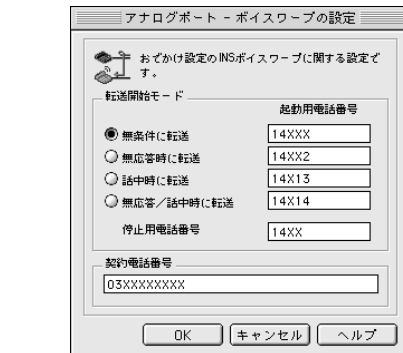
- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。



[トークサービス]

転送トークと転送元トークを流すかどうかを選択します。疑似着信転送をご利用のときは、トークサービスを利用することはできません。

INSボイスワープの設定



[転送開始モード]

おでかけ設定ボタンを押したとき起動するINSボイスワープの機能を [無条件に転送] [無応答時に転送] [話中時に転送] [無応答 / 話中時に転送] の中から選択します。INSボイスワープサービス停止の電話番号に変更があったときは、起動電話番号を変更します。

[契約電話番号]

INSボイスワープをご契約になった契約者回線番号または追加番号を入力します。

- (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

アナログポート共通の機能を設定する(その他)

1 [設定画面/機能]の[アナログポート]をクリックする。

2 [共通設定(その他)]のタブをクリックする。

共通設定(その他)の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[通信中転送]

フレックスホンサービスの通信中転送を利用するとき [使用する] を設定します。

[三者通話]

疑似三者通話、フレックスホンサービスの三者通話を使用するときは、それぞれを設定します。

[アナログポート間内線通話]

内線通話、内線転送を行えないように設定することができます。

[LCDモード]

本装置の液晶ディスプレイのバックライトの点灯を設定します。

[LCD表示]

発信するときに電話番号を本装置のディスプレイに表示するかないかを設定します。

[現在時刻]

[登録] をクリックすると、パソコンの現在の日付・時刻を本装置に設定します。

[ダイヤル終了識別]

(#) ボタンを含む電話番号にかけるときなどは、[しない] または「使用する(# # で発信動作を行う)」を設定します。(P49)

4 [OK] をクリックする。

他の設定をするときは、他のタブをクリックします。

RS-232Cポート / USBポートの設定を行うときは、設定しようとしているポートが使用中ではないことを確認します。使用中のときは、通信が終了してから設定を行ってください。

各RS-232Cポート / USBポートを設定する

着信番号を設定する（電話番号）

- 1 [設定画面 / 機能] の [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート（データポート（RS-232Cポート） / USB（B）ポート / USB（F）ポート）のタブをクリックする。

- 3 [設定項目選択] の [電話番号] をクリックする。

電話番号の設定が表示されます。

- 4 項目を設定する。



[着信番号]

このポートに着信する電話番号が表示されます。着信番号を設定するときは、[番号設定] をクリックします。（●P278）

[発信者番号通知]

[通知番号] に発信時に通知する電話番号として設定した電話番号が表示されます。このポートからの発信時に発信者番号を通知するかしないかを選択します。

[サブアドレス]

[サブアドレス] に、このポートに設定するサブアドレス（最大19桁）を入力します。

[セパレータ] で、サブアドレスとアドレスの区切りに使用する文字を選択します。

サブアドレスが指定されていない着信を受けないときは、[サブアドレスなし着信する] のチェックを外します。

（次ページへ続く）

[識別着信]

このポートで相手番号識別着信を行うときは、チェックします。相手番号識別着信を行うときは、電話帳の相手番号識別着信に着信可能な電話番号を設定する必要があります。

[電話帳]

相手番号識別着信の電話番号を登録するとき、クリックします。(☛P301)

[HLC (高位レイヤ整合性)]

HLC高位レイヤ整合性を設定するときは [HLCを設定する] をチェックし、「01」～「65」のコードを入力します。(☛P124)

5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

128KマルチリンクPPPのBODを設定する（MP・BOD機能）

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート（データポート（RS-232Cポート） / USB（B）ポート / USB（F）ポート）のタブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [MP・BOD機能] をクリックする。
128KマルチリンクPPPのBOD設定が表示されます。
- 4 項目を設定する。



[MPの2本目接続時の認証]

2本目のBチャンネルを接続するときの認証について設定します。

[リソースBOD]

リソースBODを利用するとき設定します。（●P119）

[スループットBOD]

スループットBODを利用するとき設定します。（●P118）

5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

（次ページへ続く）

自動切断タイマを設定する（自動切断）

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート（データポート（RS-232Cポート） / USB（B）ポート / USB（F）ポート）のタブをクリックする。

- 3 [設定項目選択] の [自動切断] をクリックする。

自動切断タイマの設定が表示されます。

- 4 項目を設定する。



[無通信監視タイマ]

無通信監視タイマを設定します。（☛P133）

[強制切断タイマ]

強制切断タイマを設定します。切断するまでの時間を入力します。（☛P133）

- 5 [OK] をクリックする。

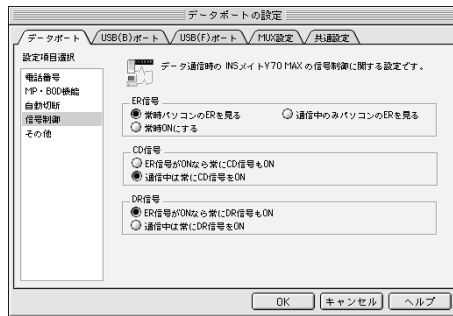
他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

信号線の制御を設定する（信号制御）

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート（データポート（RS-232Cポート） / USB（B）ポート / USB（F）ポート）のタブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [信号制御] をクリックする。

信号線の制御の設定が表示されます。

- 4 項目を設定する。



[ER信号]

ER信号について設定します。ER信号がないパソコンを使用するときは、[常時ONにする] を選択してください。

[CD信号]

CD信号について設定します。CD信号が通常ONのときに動作するパソコンは、[ER信号がONなら常にCD信号もON] を設定してください。

[DR信号]

DR信号について設定します。通常は、[ER信号がONなら常にDR信号もON] に設定してください。

- 5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。



お知らせ

- [ER信号] の設定で [通信中のみパソコンのERをみる] を設定すると、通常はER信号をONとみなしますが、通信中に5秒以上ER信号がOFFになると、いったんER信号をOFFとみなします。ER信号がないパソコンでソフトウェアが正常に切断できなくなっても、パソコンの電源を切りER信号をOFFにすることで通信を切断することができます。

（次ページへ続く）

その他の機能を設定する

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 設定するポート (データポート (RS-232Cポート) / USB (B) ポート / USB (F) ポート) のタブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [その他] をクリックする。
その他の設定が表示されます。
- 4 項目を設定する。



[フリーコールバック]

コールバックを使用するときの設定をします。(●P130)

- 5 [OK] をクリックする。

他のポートの設定をするときは、そのポートのタブをクリックします。

MUX機能を設定する

128KマルチリンクPPPのBODを設定する（MP・BOD機能）

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 [MUX設定] タブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [MP・BOD機能] をクリックする。
128KマルチリンクPPPのBOD設定が表示されます。
- 4 項目を設定する。



[MPの2本目接続時の認証]

2本目のBチャンネルを接続するときの認証について設定します。

[リソースBOD]

リソースBODを行うとき設定します。（☛P119）

[スループットBOD]

スループットBODを使用するとき設定します。（☛P118）

イージーBODで使用するときに設定します。

- 5 [OK] をクリックする。

（次ページへ続く）

自動切断を設定する

1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。

2 [MUX設定] タブをクリックする。

3 [設定項目選択] の [自動切断] をクリックする。

自動切断の設定が表示されます。

4 項目を設定する。



[無通信監視タイマ]

監視時間を設定します。(●P133)

[強制切断タイマ]

監視時間を設定します。切断するまでの時間を選択します。(●P133)

5 [OK] をクリックする。

MUX認証を設定する

- 1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。
- 2 [MUX設定] タブをクリックする。
- 3 [設定項目選択] の [MUX認証] をクリックする。
MUX認証が表示されます。
- 4 項目を設定する。



[MUX接続時の認証]

MUX接続時に認証を行うときは、チェックします。

- 5 [OK] をクリックする。

(次ページへ続く)

RS-232Cポート / USBポート共通の機能を設定する

1 [設定画面 / 機能] で [データポート] をクリックする。

2 [共通設定] タブをクリックする。

RS-232Cポート / USBポート共通の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[応答平均化]

応答平均化を設定します。(☛P132)

[優先着信ポート]

優先着信ポートを設定するときは、[データポート][USB(B)ポート][USB(F)ポート]のどれかを選択します。[指定しない]を選択すると、RS-232Cポートと2つのUSBポートすべてに着信します。

[CTI有効ポート]

CTI情報を出力するポートを選択します。[指定しない]を選択すると、RS-232Cポートと2つのUSBポートすべてにCTI情報が出力されます。(☛P125)

4 [OK] をクリックする。

短縮ダイヤル、マイプライベート着信、相手番号識別着信、疑似なりわけ、迷惑電話防止の各機能を利用するための、相手の方の電話番号を電話帳に登録します。短縮ダイヤルに登録されている相手の方には、各ポートから簡単な操作で発信できます。

短縮ダイヤルを登録する

1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。

2 [短縮ダイヤル] タブをクリックする。



3 一覧の中の登録する番号（短縮番号）をクリックする。

4 [名前][電話番号][サブアドレス]を入力する。

サブアドレスは入力しなくてもかまいません。

電話番号中の -（ハイフン）は入力してもしなくてもかまいません。

5 [更新] をクリックする。

入力した内容が一覧に表示されます。

続けて登録するときは、手順3～5を繰り返します。

[削除] をクリックすると、登録されている短縮ダイヤルが消去されます。

6 登録が終了したら、[OK] をクリックする。

マイプライベート着信の番号を登録する

- 1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。
- 2 [マイプライベート着信] タブをクリックする。



- 3 マイプライベート着信を有効にするときは、[マイプライベート着信を使用する] をチェックする。
- 4 一覧の中の登録する番号をクリックする。
- 5 [名前][電話番号][サブアドレス]を入力する。

電話番号を入力する代わりに、[非通知][表示圏外][公衆]のどれかをチェックすると、発信者番号が通知されない着信も振り分けることができます。

サブアドレスは入力しなくてもかまいません。

電話番号中の - (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

- 6 [呼び分けポート]の中から、呼び出す電話機のアナログポートをチェックする。

- 7 [更新] をクリックする。

入力した内容が一覧に表示されます。

続けて登録するときは、手順4～7を繰り返します。

- 8 登録が終了したら、[OK] をクリックする。

相手番号識別着信番号を登録する

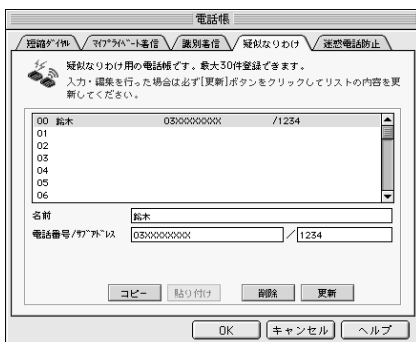
- 1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。
- 2 [識別着信] タブをクリックする。



- 3 一覧の中の登録する番号をクリックする。
 - 4 [名前][電話番号][サブアドレス]を入力する。
サブアドレスは入力しなくてもかまいません。
電話番号中の - (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。
 - 5 [更新] をクリックする。
入力した内容が一覧に表示されます。
- 続けて登録するときは、手順3～5を繰り返します。
- 6 登録が終了したら、[OK] をクリックする。

疑似なりわけ番号を登録する

- 1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。
- 2 [疑似なりわけ] タブをクリックする。



- 3 一覧の中の登録する番号をクリックする。

- 4 [名前][電話番号][サブアドレス]を入力する。

サブアドレスは入力しなくてもかまいません。

電話番号中の - (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

- 5 [更新] をクリックする。

入力した内容が一覧に表示されます。

続けて登録するときは、手順3～5を繰り返します。

- 6 登録が終了したら、[OK] をクリックする。

迷惑電話防止番号を登録する

- 1 [設定画面 / 機能] の [電話帳] をクリックする。
- 2 [迷惑電話防止] タブをクリックする。



- 3 一覧の中の登録する番号をクリックする。

- 4 [名前][電話番号]を入力する。

電話番号を入力する代わりに、[非通知][表示圏外][公衆]のどれかをチェックすると、発信者番号が通知されない着信も迷惑電話番号として登録することができます。

電話番号中の - (ハイフン) は入力してもしなくてもかまいません。

- 5 [追加] をクリックする。

入力した内容が一覧に表示されます。

すでに登録されている番号を修正するときは、[更新] をクリックします。

続けて登録するときは、手順3～5を繰り返します。

- 6 登録が終了したら、[OK] をクリックする。



ワンポイント

- 電話帳を削除するには
削除する電話番号をクリックして、[削除] をクリックします。
- 名前や電話番号をコピーするには
短縮ダイヤルからマイプライベート着信へ、識別着信から疑似なりわけなど、登録されている名前や電話番号をコピーすることができます。
コピーする名前や電話番号の番号をクリックして、[コピー] をクリックする
コピー先の番号をクリックして、[貼り付け] をクリックする

Dチャンネルパケット通信に関する設定（Pレジスタの値設定）をイーザーセットソフトで行うことができます。

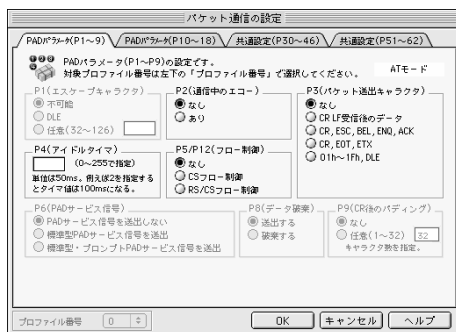
PADパラメータ（P1～P9）を設定する

1 [設定画面/機能]の[パケット通信]をクリックする。

2 [PADパラメータ（P1～9）]タブをクリックする。

PADパラメータ（P1～P9）の設定が表示されます。

3 [プロファイル番号]をプルダウンして、設定内容を保存するプロファイルを選択する。



4 項目を設定する。

[P1（エスケープキャラクタ）]

P1レジスタ（エスケープ文字）を設定します。（☛P385）

[P2（通信中のエコー）]

P2レジスタ（エコー）を設定します。（☛P385）

[P3（パケット送出キャラクタ）]

P3レジスタ（パケット送出契機文字）を設定します。（☛P385）

[P4（アイドルタイム）]

P4レジスタ（アイドルタイム値）を設定します。（☛P385）

[P5/P12（フロー制御）]

P5/P12レジスタ（フロー制御）を設定します。（☛P385、386）

[P6（PADサービス信号）]

P6レジスタ（PADサービス信号）を設定します。（☛P386）

[P8（データ破棄）]

P8レジスタ（データ破棄）を設定します。（☛P386）

[P9（CR後のパディング）]

P9レジスタ（CR後のパディング）を設定します。（☛P386）

5 [OK] をクリックする。

他の項目を設定するときは、他のタブをクリックします。

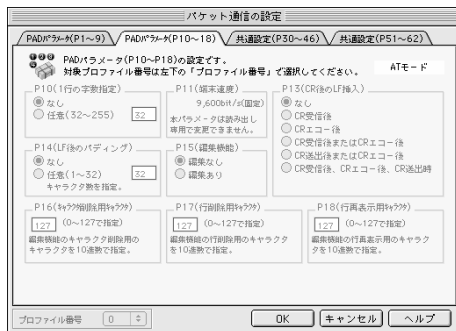
PADパラメータ (P10~P18) を設定する

1 [設定画面 / 機能] の [パケット通信] をクリックする。

2 [PADパラメータ (P10~18)] タブをクリックする。

PADパラメータ (P10~P18) の設定が表示されます。

3 [プロファイル番号] をプルダウンして、設定内容を保存するプロファイルを選択する。



4 項目を設定する。

[P10 (1行の字数指定)]

P10レジスタ (1行の字数指定) を設定します。(☛P386)

[P11 (端末速度)]

P11レジスタ (端末速度) を設定します。(☛P386)

[P13 (CR後のLF挿入)]

P13レジスタ (CR後のLF挿入) を設定します。(☛P387)

[P14 (LF後のパディング)]

P14レジスタ (LF後のパディング) を設定します。(☛P387)

[P15 (編集機能)]

P15レジスタ (編集機能) を設定します。(☛P387)

[P16 (キャラクタ削除用キャラクタ)]

P16レジスタ (キャラクタ削除用キャラクタ) を設定します。(☛P387)

[P17 (行削除用キャラクタ)]

P17レジスタ (行削除用キャラクタ) を設定します。(☛P388)

(次ページへ続く)

[P18 (行再表示用キャラクタ)]

P18レジスタ (行再表示用キャラクタ) を設定します。(☛P388)

5 [OK] をクリックする。

他の項目を設定するときは、他のタブをクリックします。

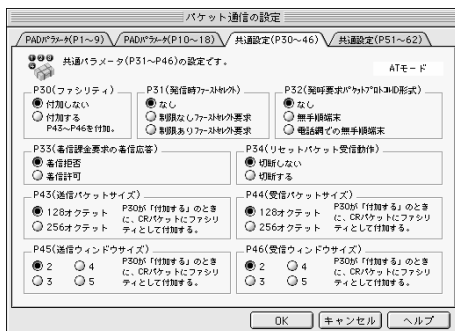
共通設定 (P30 ~ P46) を設定する

1 [設定画面 / 機能] の [パケット通信] をクリックする。

2 [共通設定 (P30 ~ 46)] タブをクリックする。

共通設定 (P30 ~ P46) の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[P30 (ファシリティ)]

P30レジスタ (ファシリティ付加) を設定します。(☛P388)

[P31 (発信時ファーストセレクト)]

P31レジスタ (発信時ファーストセレクト) を設定します。(☛P388)

[P32 (発呼要求パケットプロトコルID形式)]

P32レジスタ (発呼要求パケットプロトコルのID形式) を設定します。(☛P388)

[P33 (着信課金要求の着信応答)]

P33レジスタ (着信課金要求のある着信許可) を設定します。(☛P388)

[P34 (リセットパケット受信動作)]

P34レジスタ (通信中にリセット指示パケットを受信したときの動作指定) を設定します。(☛P388)

[P43 (送信パケットサイズ)]

P43レジスタ (送信パケットサイズ) を設定します。(☛P389)

[P44 (受信パケットサイズ)]

P44レジスタ (受信パケットサイズ) を設定します。(☛P389)

[P45 (送信ウィンドウサイズ)]

P45レジスタ (送信ウィンドウサイズ) を設定します。(☛P389)

[P46 (受信ウィンドウサイズ)]

P46レジスタ (受信ウィンドウサイズ) を設定します。(☛P389)

4 [OK] をクリックする。

他の項目を設定するときは、他のタブをクリックします。

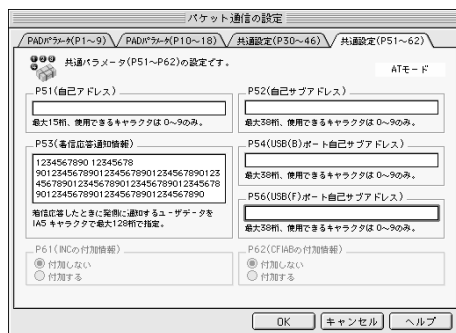
共通設定 (P51 ~ P62) を設定する

1 [設定画面 / 機能] の [パケット通信] をクリックする。

2 [共通設定 (P51 ~ 62)] タブをクリックする。

共通設定 (P51 ~ P62) の設定が表示されます。

3 項目を設定する。



[P51 (自己アドレス)]

P51レジスタ (自己アドレス) を設定します。(☛P389)

[P52 (自己サブアドレス)]

P52レジスタ (RS-232Cポート用サブアドレス) を設定します。(☛P389)

[P53 (着信応答通知情報)]

P53レジスタ (着信応答通知情報) を設定します。(☛P389)

[P54 (USB (B) ポート自己サブアドレス)]

P54レジスタ (背面USBポート用自己アドレス) を設定します。(☛P389)

[P56 (USB (F) ポート自己サブアドレス)]

P56レジスタ (前面USBポート用自己アドレス) を設定します。(☛P389)

[P61 (INCの付加情報)]

P61レジスタ (INCの付加情報) を設定します。(☛P390)

(次ページへ続く)

[P62 (CFIABの付加情報)]

P62レジスタ (CFIABの付加情報) を設定します。(▶P390)

4 [OK] をクリックする。

他の項目を設定するときは、他のタブをクリックします。

イーザーバージョンアップを利用すると、本装置のファームウェアを簡単な操作でバージョンアップすることができます。

バージョンを確認する

本装置のファームウェアのバージョンを、ディスプレイで確認します。

- 1 Menuボタンを押す。

1 : チャクシンリレキ

- 2 Selectボタンを繰り返し押し続けて「5 : バージョン」を表示させる。

5 : バージョン

- 3 Enterボタンを押す。

ファームウェアのバージョンが表示されます。

Ver. 1.00

- 4 表示を確認したらMenuボタンを押す。

ファームウェアファイルのダウンロード

イーザーバージョンアップを行うときは、あらかじめ、最新のファームウェアファイルを当社の通信機器商品のご案内のホームページにある「ターミナルアダプタのホームページ」からダウンロードしておく必要があります。

当社の通信機器商品のご案内のアドレス (URL) ... 「<http://www.ntt-east.co.jp/ced>」
(NTT東日本)
「<http://www.ntt-west.co.jp/kiki>」
(NTT西日本)

バージョンアップを行う

1 [INSメイトV70 MAXユーティリティ]フォルダをダブルクリックする。

2 [INSメイトV70 MAXイーザーバージョンアップ] をダブルクリックする。
[INSメイトV70 MAXイーザーバージョンアップ] が起動します。

すでにバージョンアップ用のソフトウェアを入手済みの場合（デスクトップにファームウェアがある場合）は、[次へ>] をクリックして、手順6へ進みます。

3 [最新ファームウェアの入手] でNTT東日本またはNTT西日本のサポートページを選択し、[Go!] をクリックする。

自動的にプロバイダに接続し、つながるとインターネットエクスプローラが起動します。NTT東日本またはNTT西日本のホームページが表示されます。

4 [INSメイトV70 MAX] を参照して、ファームウェアやユーティリティをダウンロードする。

5 インターネットへの接続を終了する。

[INSメイトV70 MAXイーザーバージョンアップ] に戻ります。

インターネットエクスプローラを終了し、[リモートアクセス] コントロールパネルを表示して [接続を切る] をクリックすると、接続を終了することができます。

6 [次へ>] をクリックする。

現在の状況が表示されます。

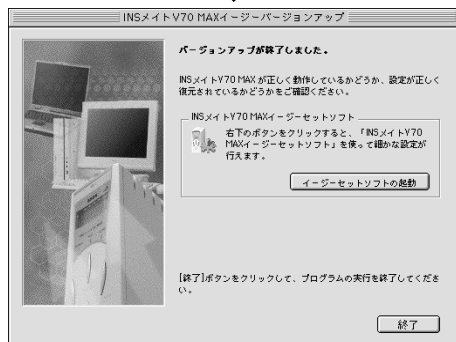
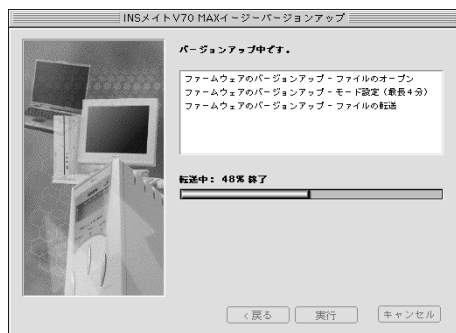


7 本装置が接続されているCOMポートなどを確認して、[次へ>] をクリックする。

- 8 [参照] をクリックして、ダウンロードしたファームウェアを保存したフォルダを開き、ダウンロードしたファイルを選択し、[次へ>] をクリックする。
通常ダウンロードしたファームウェアは圧縮されていますので、解凍してから使用してください。



- 9 [実行] をクリックする。
バージョンアップが開始します。



(次ページへ続く)

本装置のPOWERランプが点灯したら...

本装置のバージョンアップを行うには

10 設定が必要な場合は、[ユーティリティの起動]をクリックし、項目を設定する。

11 [終了]をクリックする。



ワンポイント

- ファームウェアとは
本装置に内蔵されているフラッシュメモリに書き込まれるソフトウェアのことです。新しいバージョンのファームウェアを本装置に書き込むことにより、新しい機能を利用できるようになります。



お知らせ

- イージーバージョンアップはRS-232Cポート、USBポートどちらに接続したパソコンからも利用することができます。
- イージーバージョンアップで最新のファームウェアやユーティリティをダウンロードするには、あらかじめインターネットに接続できている必要があります。インターネット接続については、「インターネット接続ガイド」(別冊)を参照してください。
- バージョンアップに失敗した場合は、ディスプレイに「コマンド待機中」と表示されているのを確認し、手順1からやり直してください。
バージョンアップをやり直すと、ディスプレイにバージョンと接続名が取得できない旨が表示されますが、そのまま手順を進めてバージョンアップを行ってください。

ATコマンドは、米国Hayes社が開発したモデムを制御するコマンドで、多くのモデムで採用されています。本装置は、ATコマンドに準拠しており、さらに拡張コマンドを採用しています。ATコマンドで行う設定の主な項目は、イメージソフトをご利用になると簡単に設定することができます。(●P224、272)

コマンド形式

ATコマンドは以下の形式で入力します。

A	T	コマンド	CR	LF
---	---	------	----	----

- 文字は半角を使用してください。
- ATは「at」でもかまいませんが、「At」や「aT」は使用しないでください。
- コマンドは最大184文字まで入力できます。184文字を超えた場合は、ERRORをパソコンに戻します。
- 複数のコマンドを連続して入力することもできます。
- コマンドの中には、コマンドのうしろにパラメータ(n)の必要なものもあります。パラメータの「0」は省略できます。
- CR(リターンキー)は復帰文字であり、コマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- LFは省略できます。
- LFは改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- コードはアスキーを使用します。
- 本装置は、ATコマンドからパソコン側通信ポートの速度、データビット長、パリティを自動的に判別してそれらに合わせます。

リザルトコード

送出したコマンドに対して表示される本装置からの応答結果を、リザルトコードといいます。表示されるリザルトコードには、数字形式と文字(英字)形式があり、Vコマンドで選択することができます。

数字形式

リザルトコード(数字)	CR
-------------	----

文字形式

CR	LF	リザルトコード(文字)	CR	LF
----	----	-------------	----	----

リザルトコード一覧(●P355)

レジスタ

レジスタは、設定内容を記憶しておく場所です。本装置のレジスタには、以下のものがあります。

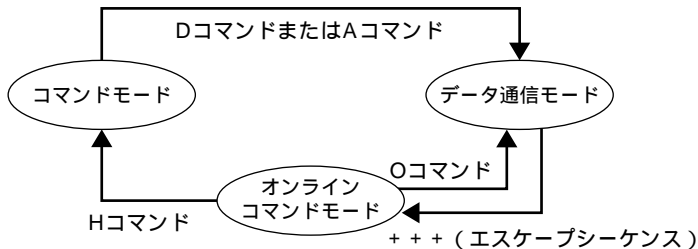
Sレジスタ

...自動発着信の動作を規定する各種パラメータを格納するレジスタ(●P357)

コマンドモードとデータ通信モード

「コマンドモード」のときは、パソコンから入力した文字は本装置で解釈され、本装置の制御コマンドとみなされます。データ通信モードのときは、実際にデータ通信が行われている状態で、パソコンから入力した文字はそのまま通信相手へ送信されます。パソコンから送信したデータが、本装置を制御するデータなのか、相手に送信するデータなのかを区別するために、これら2つのモードが用意されています。本装置は電源を入れた状態では、コマンドモードになっており、Dコマンド（発信）でダイヤルしたあと、または着信時にAコマンドで応答したあとに、データ通信モードに切り替わります。

データ通信モードから一時的にコマンドモードに切り替えたモードをオンラインコマンドモードと呼び、そのためのコマンドとしてエスケープシーケンス（+++）があります。回線を切断するときは、「+++」でオンラインコマンドモードに切り替えたあと、Hコマンドで切断します。



お知らせ

- 本装置は、パソコンからのER信号がONになると通信可能になります。ER信号をONにできないパソコンの場合は、INSメイトV70 MAXイメージセットソフトまたは&Dコマンドで「ER信号を常時ONとみなす」に設定してください。

ATコマンド一覧

コマンド	機能	保存	参照ページ
A	着信応答		☛P318
D	ダイヤル発信		☛P318
E	エコー制御		☛P319
H	切断		☛P319
I	製品情報表示		☛P319
N	回線速度		☛P320
O (オー)	通信状態復帰		☛P320
Q	リザルトコードの有無		☛P320
V	リザルトコードの表示形式		☛P320
W	リザルトコード拡張		☛P321
X	リザルトコード選択		☛P321

コマンド	機能	保存	参照ページ
Z	初期化		☛P322
ZJ	RS-232Cポート初期化		☛P322
ZK	背面USBポート初期化		☛P322
ZL	前面USBポート初期化		☛P323
/S	サブアドレスセパレータ		☛P323
/SJ	RS-232Cポートのサブアドレスセパレータ		☛P323
/SK	背面USBポートのサブアドレスセパレータ		☛P323
/SL	前面USBポートのサブアドレスセパレータ		☛P324
&C	CD信号制御		☛P324
&CJ	RS-232CポートのCD信号制御		☛P324
&CK	背面USBポートのCD信号制御		☛P324
&CL	前面USBポートのCD信号制御		☛P324
&D	ER信号制御		☛P325
&DJ	RS-232CポートのER信号制御		☛P325
&DK	背面USBポートのER信号制御		☛P325
&DL	前面USBポートのER信号制御		☛P325
&H	短縮番号表示		☛P325
&K	フロー制御		☛P326
&S	DR信号制御		☛P326
&SJ	RS-232CポートのDR信号制御		☛P326
&SK	背面USBポートのDR信号制御		☛P326
&SL	前面USBポートのDR信号制御		☛P326
&Z	短縮番号登録		☛P327
#C	通信料金、切断理由表示		☛P327
#CJ	RS-232Cポートの通信料金、切断理由表示		☛P327
#CK	背面USBポートの通信料金、切断理由表示		☛P327
#CL	前面USBポートの通信料金、切断理由表示		☛P327
#H	RS-232Cポートの通知番号、自己サブアドレス表示		☛P328
#HA	アナログAポートの通知番号、自己サブアドレス表示		☛P328
#HB	アナログBポートの通知番号、自己サブアドレス表示		☛P328
#HC	アナログCポートの通知番号、自己サブアドレス表示		☛P328
#HJ	RS-232Cポートの通知番号、自己サブアドレス表示		☛P328
#HK	背面USBポートの通知番号、自己サブアドレス表示		☛P329
#HL	前面USBポートの通知番号、自己サブアドレス表示		☛P329
#M	通信モードの設定と表示		☛P329
#R	着信拒否		☛P329
#Z	通知番号登録		☛P329
#ZA	アナログAポートの通知番号登録		☛P330
#ZB	アナログBポートの通知番号登録		☛P330
#ZC	アナログCポートの通知番号登録		☛P330

(次ページへ続く)

コマンド	機能	保存	参照ページ
#ZJ	RS-232Cポートの通知番号登録		☛P330
#ZK	背面USBポートの通知番号登録		☛P330
#ZL	前面USBポートの通知番号登録		☛P331
*H	着信番号・変換後の番号表示		☛P331
*PCA	アナログAポート発信用 i・ナンバー設定		☛P331
*PCB	アナログBポート発信用 i・ナンバー設定		☛P331
*PCC	アナログCポート発信用 i・ナンバー設定		☛P331
*PCN	発信用 i・ナンバー設定		☛P331
*PCNJ	RS-232Cポート発信用 i・ナンバー設定		☛P331
*PCNK	背面USBポート発信用 i・ナンバー設定		☛P332
*PCNL	前面USBポート発信用 i・ナンバー設定		☛P332
*PN	i・ナンバー情報の電話番号登録		☛P332
*PRA	アナログAポート着信用 i・ナンバー設定		☛P332
*PRB	アナログBポート着信用 i・ナンバー設定		☛P332
*PRC	アナログCポート着信用 i・ナンバー設定		☛P332
*PRN	着信用 i・ナンバー設定		☛P333
*PRNJ	RS-232Cポート着信用 i・ナンバー設定		☛P333
*PRNK	背面USBポート着信用 i・ナンバー設定		☛P333
*PRNL	前面USBポート着信用 i・ナンバー設定		☛P333
*PX1	i・ナンバーの使用設定		☛P333
*P?	i・ナンバーの設定表示		☛P333
*Z	着信番号・変換後の番号設定		☛P334
*ZA	アナログAポートの着信番号・変換後の番号割り当て		☛P334
*ZB	アナログBポートの着信番号・変換後の番号割り当て		☛P334
*ZC	アナログCポートの着信番号割り当て		☛P335
*ZD	着信番号・変換後の番号割り当て		☛P335
*ZDJ	RS-232Cポート着信番号、変換後の番号割り当て		☛P335
*ZDK	背面USBポート着信番号、変換後の番号割り当て		☛P335
*ZDL	前面USBポート着信番号、変換後の番号割り当て		☛P335
¥C	累積通信料金表示・初期化		☛P336
¥L	最新発信 / 着信番号表示		☛P336
¥Q	フロー制御		☛P336
¥S	装置状態表示		☛P336
¥SJ	RS-232Cポート状態表示		☛P337
¥SK	背面USBポート状態表示		☛P337
¥SL	前面USBポート状態表示		☛P337
\$A	アナログAポート設定・表示		☛P337
\$B	アナログBポート設定・表示		☛P339
\$C	アナログCポート設定・表示		☛P339
\$D	アナログポート共通設定・表示		☛P340
\$F	RS-232Cポート、USBポート共通設定・表示		☛P341

コマンド	機能	保存	参照ページ
\$ H	着信転送設定・表示		☛P342
\$ L	LCD設定・表示		☛P342
\$ M	128KマルチリンクPPPの設定と表示		☛P343
\$ MJ	RS-232Cポート128KマルチリンクPPPの設定・表示		☛P343
\$ MK	背面USBポート128KマルチリンクPPPの設定・表示		☛P344
\$ ML	前面USBポート128KマルチリンクPPPの設定・表示		☛P344
\$ N	コマンド発行ポートの設定・表示		☛P344
\$ NJ	RS-232Cポートの設定・表示		☛P344
\$ NK	背面USBポートの設定・表示		☛P346
\$ NL	前面USBポートの設定・表示		☛P346
\$ O	MUX機能設定・表示		☛P347
\$ S	パラメータ・パソコン速度保存		☛P348
\$ X	着信転送		☛P348
\$ Y	着信転送先アドレス		☛P348
\$ Z	着信転送元アドレス		☛P349
%C	PIAFS通信のV.42bisデータ圧縮		☛P349
!C	CTI発信キャンセル		☛P350
!D	CTI発信		☛P350
!H	マイプライベート着信の相手の電話番号表示		☛P350
!SH	相手番号識別着信番号表示		☛P351
!SZ	相手番号識別着信番号登録		☛P351
!UC	迷惑電話の番号削除		☛P351
!UH	迷惑電話の番号表示		☛P351
!US	迷惑電話の番号登録		☛P352
!VH	INSボイスワープ設定表示		☛P352
!VZ	INSボイスワープ設定登録		☛P352
!WH	なりわけの相手の電話番号表示		☛P352
!WZ	なりわけの相手の電話番号登録		☛P353
!X	マイプライベート着信の使用設定		☛P353
!Z	マイプライベート着信の相手の電話番号登録		☛P353
S	Sレジスタポイント		☛P354
?	Sレジスタの内容表示		☛P354
=	Sレジスタの設定		☛P354
+++	エスケープシーケンス		☛P354

「保存」欄： = 電源を切っても保存されます
= \$ Sコマンドを実行すると電源を切っても保存されます

ATコマンド詳細

A	着信応答
機能	「RING」が表示されているときに、本コマンドを入力して応答します。
書式	ATA
入力例	ATA

D	ダイヤル発信	
機能	パラメータで指定したアドレスに発信します。	
書式	ATD<パラメータ1></パラメータ2><パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	相手アドレス（相手電話番号） S=0～9：短縮ダイヤルへの発信 ¥：再発信 00：背面のUSBポートへ内線発信 01：前面のUSBポートへ内線発信 02：RS-232Cポートへ内線発信
	<パラメータ2>	相手サブアドレス（最大19桁） ‘/’区切りをアドレスとサブアドレスの間に入れる 区切りは変更可能（●P323）
	<パラメータ3>	[ユーザデータ ；：コマンドモードへ入る（発信するときはATOコマンドを入力） CB：フリーコールバック発信 PF：PIAFS32Kモードで発信（通信終了後はもとの通信モードに戻る） PD：PIAFS64Kモードで発信（通信終了後はもとの通信モードに戻る） PA：MUX同期64Kで発信 PB：MUXMP通信で発信
入力例	ATD03-1234-5678[ABCD ATDS=0 ATD03-1234-5678CB	

補足	<ul style="list-style-type: none"> 相手アドレスは、最大32桁で0～9の数字が使用できます。その他の文字は使用しても無視されます。 相手サブアドレスは、最大19桁で0～9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は、相手サブアドレス指定なしとみなされます。 ユーザデータは最大128桁で次の文字が使用できます。 0～9、*、#、英字 ユーザデータのの前には [を入れてください。 ; はユーザデータ使用時は、使用できません。 CB、PD、PF、PA、PBは、どれか1つのみ指定してください。 CB指定時は、コールバック着信許可 (●P345) を設定してください。また、発信側、着信側ともにフロー制御 (●P326、336) を設定してください。 CB指定時の相手サブアドレスは、最大15桁に制限されます。 PIAFS通信時は、CBは使用できません。 CB、PF指定発信の再発信はできません。 CB、PF、PD、PA、PBは必ず最後に付けてください。 CB、PF、PD、PA、PBはcb、pf、pd、pa、pbでもかまいません。
----	--

E	エコー制御	
機能	エコーをするかしないかを設定します。	
書式	ATE<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : エコーバックしない
		1 : エコーバックする (初期値)
入力例	ATE0	

H	切断	
機能	通信を切断します。	
書式	ATH	
入力例	ATH	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 最初にエスケープシーケンス (+++) を入力し、コマンドモードにしてからHコマンドを入力します。 	

I	製品情報表示	
機能	本装置の製品情報を表示します。	
書式	ATI<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : 装置コード (ATコマンドのバージョン)
		3 : ファームウェアのバージョン
		4 : 製品名称
		50 : コマンドを入力したポート「SERIAL/USB(F)/USB(B)」
入力例	ATI4	

N	回線速度	
機能	回線速度を設定します。	
書式	ATN<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : パソコン側通信ポートの速度と同じ (初期値)
		1 : 1200 bit/s
		2 : 2400 bit/s
		3 : 4800 bit/s
		4 : 9600 bit/s
		5 : 14400 bit/s
		6 : 19200 bit/s
		7 : 28800 bit/s
		8 : 38400 bit/s
9 : 57600 bit/s		
入力例	ATN4	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • フロー制御方式 (P326、336) も合わせて設定してください。通常は「RS-CSフロー制御」を設定します。 • Dコマンドの前に入力してください。 • 通信相手が異速度通信できないターミナルアダプタのときに、相手のRS-232Cポート速度に合わせて設定します。 • 非同期通信のときに設定します。 • <パラメータ1>を0としてパソコン側通信ポートの速度を115 200 bit/sや230 400 bit/sとしたときは、回線速度は57 600 bit/sとなります。 	

O (オー)	通信状態復帰	
機能	エスケープ状態 (オンラインコマンドモード) からデータ通信モードに移行します。	
書式	ATO	
入力例	ATO	

Q	リザルトコードの有無	
機能	リザルトコードを返すかどうかを設定します。	
書式	ATQ<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : リザルトコードを返す (初期値)
		1 : リザルトコードを返さない
入力例	ATQ0	

V	リザルトコードの表示形式	
機能	リザルトコードの表示形式を設定します。	
書式	ATV<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : 数字形式
		1 : 文字形式 (初期値)
入力例	ATV0	

W	リザルトコード拡張	
機能	RINGにINSネット64から提供される情報を表示するかどうかを設定します。	
書式	ATW<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：付加情報を表示しない（初期値）
		2：RINGのあとに発信者番号、サブアドレス、ユーザデータを付加する
入力例	ATW2	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 発信者番号とサブアドレスはサブアドレスセパレータで区切られます。 • 発信者番号またはサブアドレスとユーザデータの区切りは[]です。 	

X	リザルトコード選択																																																																																																																																																				
機能	表示させるリザルトコードセットを選択します。																																																																																																																																																				
書式	ATX<パラメータ1>																																																																																																																																																				
パラメータ	<パラメータ1>	0：基本セット																																																																																																																																																			
		1：拡張セット1																																																																																																																																																			
		2：拡張セット2																																																																																																																																																			
		3：拡張セット3（初期値）																																																																																																																																																			
		4：拡張セット4																																																																																																																																																			
入力例	ATX0																																																																																																																																																				
補足	<ul style="list-style-type: none"> • リザルトコードセット <table border="1"> <thead> <tr> <th>数字</th> <th>英語</th> <th>基本</th> <th>拡張1</th> <th>拡張2</th> <th>拡張3</th> <th>拡張4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>OK</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td>CONNECT</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>RING</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>NO CARRIER</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>ERROR</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>CONNECT1200</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>BUSY</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>CONNECT2400</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>CONNECT4800</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>CONNECT9600</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>CONNECT14400</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>CONNECT19200</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>18</td><td>CONNECT57600</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>19</td><td>CONNECT64000</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>21</td><td>CONNECT32000</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td>CONNECT28800</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td>CONNECT38400</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>67</td><td>COMPRESSION:V.42bis</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>69</td><td>COMPRESSION:NONE</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>82</td><td>PROTOCOL:PIAFS</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		数字	英語	基本	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4	0	OK						1	CONNECT						2	RING						3	NO CARRIER						4	ERROR						5	CONNECT1200						7	BUSY						10	CONNECT2400						11	CONNECT4800						12	CONNECT9600						13	CONNECT14400						14	CONNECT19200						18	CONNECT57600						19	CONNECT64000						21	CONNECT32000						26	CONNECT28800						28	CONNECT38400						67	COMPRESSION:V.42bis						69	COMPRESSION:NONE						82	PROTOCOL:PIAFS					
数字	英語	基本	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4																																																																																																																																															
0	OK																																																																																																																																																				
1	CONNECT																																																																																																																																																				
2	RING																																																																																																																																																				
3	NO CARRIER																																																																																																																																																				
4	ERROR																																																																																																																																																				
5	CONNECT1200																																																																																																																																																				
7	BUSY																																																																																																																																																				
10	CONNECT2400																																																																																																																																																				
11	CONNECT4800																																																																																																																																																				
12	CONNECT9600																																																																																																																																																				
13	CONNECT14400																																																																																																																																																				
14	CONNECT19200																																																																																																																																																				
18	CONNECT57600																																																																																																																																																				
19	CONNECT64000																																																																																																																																																				
21	CONNECT32000																																																																																																																																																				
26	CONNECT28800																																																																																																																																																				
28	CONNECT38400																																																																																																																																																				
67	COMPRESSION:V.42bis																																																																																																																																																				
69	COMPRESSION:NONE																																																																																																																																																				
82	PROTOCOL:PIAFS																																																																																																																																																				

Z	初期化	
機能	パラメータの初期化（初期値に戻す）を行います。	
書式	ATZ<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：\$Sコマンドで設定した内容に戻す
		1：短縮ダイヤル、通知番号、自己サブアドレス、着信番号、変換後の番号、累積通信料金、着信転送先アドレス、着信転送元アドレス、受話音量以外のパラメータをお買い求め時の設定に戻す
		10：すべてのデータポートの設定を\$Sコマンドで設定した内容に戻す
		11：すべてのデータポートの設定をお買い求め時の状態に戻す
		98：すべてのパラメータを初期化する
		99：\$Sコマンドで設定した内容に戻す
入力例	ATZ1	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 各データポートで共通で使用しているデータ（\$F2、\$F3）は、各パラメータ指定内容で初期化されます。 パラメータ98、99はいつでも実行可能です。 パラメータ0、1は、MUX通信中のデータポートがある場合、MUX関連の設定項目（\$0）については、設定を変更しません。その他の項目に関しては初期化を実行します。 	

ZJ	RS-232Cポート初期化	
機能	RS-232Cポートの設定を初期化します。	
書式	ATZJ<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：RS-232Cポートの設定を、\$Sコマンドで設定した内容に戻す
		1：RS-232Cポートの設定を、お買い求め時の設定に戻す
入力例	ATZJ0	

ZK	背面USBポート初期化	
機能	背面のUSBポートの設定を初期化します。	
書式	ATZK<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：背面のUSBポートの設定を、\$Sコマンドで設定した内容に戻す
		1：背面のUSBポートの設定を、お買い求め時の設定に戻す
入力例	ATZK0	

ZL	前面USBポート初期化	
機能	前面のUSBポートの設定を初期化します。	
書式	ATZL<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：前面のUSBポートの設定を、\$Sコマンドで設定した内容に戻す
		1：前面のUSBポートの設定を、お買い求め時の設定に戻す
入力例	ATZL0	

/S	サブアドレスセパレータ	
機能	RS-232Cポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。	
書式	AT/S<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1><=パラメータ2>	0：セパレータの表示
		1：セパレータの設定 1=/（初期値） 1=# 1=*
入力例	AT/S1=#	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 本コマンドでサブアドレスセパレータを変更した場合は、&Z、#Z、#ZA、#ZB、#ZC、\$Z、D、!SZ、!WZ、!Zコマンドで使用するサブアドレスセパレータも変更してください。 アナログポートで使用するセパレータ（*）は固定です。 液晶ディスプレイに表示されるサブアドレスセパレータは、設定した文字で表示されます。 	

/SJ	RS-232Cポートのサブアドレスセパレータ	
機能	RS-232Cポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。	
書式	AT/SJ<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	/Sコマンドと同じ	
入力例	AT/SJ1=*	

/SK	背面USBポートのサブアドレスセパレータ	
機能	背面のUSBポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。	
書式	AT/SK<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	/Sコマンドと同じ	
入力例	AT/SK1=/	

/SL	前面USBポートのサブアドレスセパレータ
機能	前面のUSBポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。
書式	AT/SL<パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	/Sコマンドと同じ
入力例	AT/SL0

&C	CD信号制御				
機能	CD信号制御を設定します。				
書式	AT&C<パラメータ1>				
パラメータ	<パラメータ1> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>0</td> <td>: ER-ON時には常にCD-ON</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>: 通信中は常にCD-ON (初期値)</td> </tr> </table>	0	: ER-ON時には常にCD-ON	1	: 通信中は常にCD-ON (初期値)
0	: ER-ON時には常にCD-ON				
1	: 通信中は常にCD-ON (初期値)				
入力例	AT&C0				

&CJ	RS-232CポートのCD信号制御
機能	RS-232CポートのCD信号制御を設定します。
書式	AT&CJ<パラメータ1>
パラメータ	&Cコマンドと同じ
入力例	AT&CJ0

&CK	背面USBポートのCD信号制御
機能	背面のUSBポートのCD信号制御を設定します。
書式	AT&CK<パラメータ1>
パラメータ	&Cコマンドと同じ
入力例	AT&CK1

&CL	前面USBポートのCD信号制御
機能	前面のUSBポートのCD信号制御を設定します。
書式	AT&CL<パラメータ1>
パラメータ	&Cコマンドと同じ
入力例	AT&CL0

&D	ER信号制御	
機能	ER信号制御を設定します。	
書式	AT&D<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : パソコンのER信号を見る (初期値)
		1 : ER信号を常時ONとみなす
		2 : 通信中のみパソコンのERをみる
入力例	AT&D1	

&DJ	RS-232CポートのER信号制御	
機能	RS-232CポートのER信号制御を設定します。	
書式	AT&DJ<パラメータ1>	
パラメータ	&Dコマンドと同じ	
入力例	AT&DJ0	

&DK	背面USBポートのER信号制御	
機能	背面のUSBポートのER信号制御を設定します。	
書式	AT&DK<パラメータ1>	
パラメータ	&Dコマンドと同じ	
入力例	AT&DK1	

&DL	前面USBポートのER信号制御	
機能	前面のUSBポートのER信号制御を設定します。	
書式	AT&DL<パラメータ1>	
パラメータ	&Dコマンドと同じ	
入力例	AT&DL0	

&H	短縮番号表示	
機能	登録されている短縮ダイヤルを表示します。	
書式	AT&H<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 ~ 9 : 指定した短縮番号の内容を表示する
		なし : すべての短縮番号の内容を表示する
入力例	AT&H	

&K	フロー制御	
機能	フロー制御方式を設定します。	
書式	AT&K<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0または5：フロー制御しない
		3または6：RS-CSでのフロー制御（3：初期値）
		4：XON/XOFFフロー制御
入力例	AT&K4	
補足	• ¥Qコマンドと同じ機能です。	

&S	DR信号制御	
機能	コマンドを発行したポートのDR信号制御を設定します。	
書式	AT&S<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：ER-ON時には常にDR-ON（初期値）
		1：通信中は常にDR-ON
入力例	AT&S1	

&SJ	RS-232CポートのDR信号制御	
機能	RS-232CポートのDR信号制御を設定します。	
書式	AT&SJ<パラメータ1>	
パラメータ	&Sコマンドと同じ	
入力例	AT&SJ1	

&SK	背面USBポートのDR信号制御	
機能	背面のUSBポートのDR信号制御を設定します。	
書式	AT&SK<パラメータ1>	
パラメータ	&Sコマンドと同じ	
入力例	AT&SK0	

&SL	前面USBポートのDR信号制御	
機能	前面のUSBポートのDR信号制御を設定します。	
書式	AT&SL<パラメータ1>	
パラメータ	&Sコマンドと同じ	
入力例	AT&SL1	

&Z	短縮番号登録	
機能	短縮ダイヤルを登録します。	
書式	AT&Z<パラメータ1><=パラメータ2></パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	短縮番号(0~9の数字)
	<パラメータ2>	相手アドレス
	<パラメータ3>	相手サブアドレス
入力例	AT&Z0=012345678/910	
補足	<ul style="list-style-type: none"> ● 相手アドレスは最大32桁で0~9の数字が使用できます。 ● 相手サブアドレスは、最大19桁で0~9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は、相手サブアドレス指定なしとみなします。 ● /は/Sコマンドで変更できます。 ● 末尾にCBを付けたフリーコールバックを行う電話番号は登録できません。 	

#C	通信料金、切断理由表示	
機能	コマンドを発行したポートの通信料金と切断理由コード等を表示します。	
書式	AT#C	
入力例	AT#C	
補足	<ul style="list-style-type: none"> ● CAUSE =#のあとに切断理由コードが表示されます。(●P358) ● SOURCE =のあとに生成源が表示されます。(●P361) ● CHARGE =¥のあとに通信料金が表示されます。 	

#CJ	RS-232Cポートの通信料金、切断理由表示	
機能	RS-232Cポートの通信料金と切断理由コードを表示します。	
書式	AT#CJ	
入力例	AT#CJ	

#CK	背面USBポートの通信料金、切断理由表示	
機能	背面のUSBポートの通信料金と切断理由コードを表示します。	
書式	AT#CK	
入力例	AT#CK	

#CL	前面USBポートの通信料金、切断理由表示	
機能	前面のUSBポートの通信料金と切断理由コードを表示します。	
書式	AT#CL	
入力例	AT#CL	

#H	RS-232Cポートの通知番号、自己サブアドレス表示
機能	RS-232Cポートの通知番号と自己サブアドレスを表示します。
書式	AT#H
入力例	AT#H
補足	<ul style="list-style-type: none">通知番号と自己サブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。登録されていない場合は、「BUFFER EMPTY」と表示されます。

#HA	アナログAポートの通知番号、自己サブアドレス表示
機能	アナログAポートの通知番号と自己サブアドレスを表示します。
書式	AT#HA
入力例	AT#HA
補足	<ul style="list-style-type: none">通知番号と自己サブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。登録されていない場合は、「BUFFER EMPTY」と表示されます。

#HB	アナログBポートの通知番号、自己サブアドレス表示
機能	アナログBポートの通知番号と自己サブアドレスを表示します。
書式	AT#HB
入力例	AT#HB
補足	<ul style="list-style-type: none">通知番号と自己サブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。登録されていない場合は、「BUFFER EMPTY」と表示されます。

#HC	アナログCポートの通知番号、自己サブアドレス表示
機能	アナログCポートの通知番号と自己サブアドレスを表示します。
書式	AT#HC
入力例	AT#HC
補足	<ul style="list-style-type: none">通知番号と自己サブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。登録されていない場合は、「BUFFER EMPTY」と表示されます。

#HJ	RS-232Cポートの通知番号、自己サブアドレス表示
機能	RS-232Cポートの通知番号と自己サブアドレスを表示します。
書式	AT#HJ
入力例	AT#HJ
補足	<ul style="list-style-type: none">通知番号と自己サブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。登録されていない場合は、「BUFFER EMPTY」と表示されます。

#HK	背面USBポートの通知番号、自己サブアドレス表示	
機能	背面のUSBポートの通知番号と自己サブアドレスを表示します。	
書式	AT#HK	
入力例	AT#HK	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 通知番号と自己サブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。 登録されていない場合は、「BUFFER EMPTY」と表示されます。 	

#HL	前面USBポートの通知番号、自己サブアドレス表示	
機能	前面のUSBポートの通知番号と自己サブアドレスを表示します。	
書式	AT#HL	
入力例	AT#HL	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 通知番号と自己サブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。 登録されていない場合は、「BUFFER EMPTY」と表示されます。 	

#M	通信モードの設定と表示	
機能	通信モードの設定と表示を行います。	
書式	AT#M<=パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : PIAFS通信
		1 : 非同期通信 (初期値)
		? : 現在の設定表示
入力例	AT#M=0	
補足	<ul style="list-style-type: none"> #Mコマンドの設定は、\$N1コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。 	

#R	着信拒否	
機能	着信中に入力することにより、着信を拒否します。	
書式	AT#R	
入力例	AT#R	

#Z	通知番号登録	
機能	コマンドを発行したポートの通知番号を登録します。	
書式	AT#Z<パラメータ1></パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	通知番号
	<パラメータ2>	自己サブアドレス
入力例	AT#Z012345678/910	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。 自己サブアドレスは、最大19桁で0～9の数字が使用できます。 /は/Sコマンドで変更できます。 	

ATコマンド

#ZA	アナログAポートの通知番号登録	
機能	アナログAポートの通知番号を登録します。	
書式	AT#ZA<パラメータ1></パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	通知番号
	<パラメータ2>	自己サブアドレス
入力例	AT#ZA012345678/2222	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。 自己サブアドレスは、最大19桁で0～9の数字が使用できます。 /は/Sコマンドで変更できます。 	

#ZB	アナログBポートの通知番号登録	
機能	アナログBポートの通知番号を登録します。	
書式	AT#ZB<パラメータ1></パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	通知番号
	<パラメータ2>	自己サブアドレス
入力例	AT#ZB012345678/3333	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。 自己サブアドレスは、最大19桁で0～9の数字が使用できます。 /は/Sコマンドで変更できます。 	

#ZC	アナログCポートの通知番号登録	
機能	アナログCポートの通知番号を登録します。	
書式	AT#ZC<パラメータ1></パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	通知番号
	<パラメータ2>	自己サブアドレス
入力例	AT#ZC012345678/4444	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。 自己サブアドレスは、最大19桁で0～9の数字が使用できます。 /は/Sコマンドで変更できます。 	

#ZJ	RS-232Cポートの通知番号登録	
機能	RS-232Cポートの通知番号を登録します。	
書式	AT#ZJ<パラメータ1></パラメータ2>	
パラメータ	#Zコマンドと同じ	
入力例	AT#ZJ12345678	

#ZK	背面USBポートの通知番号登録	
機能	背面のUSBポートの通知番号を登録します。	
書式	AT#ZK<パラメータ1></パラメータ2>	
パラメータ	#Zコマンドと同じ	
入力例	AT#ZK567890/123	

#ZL	前面USBポートの通知番号登録	
機能	前面のUSBポートの通知番号を登録します。	
書式	AT#ZL<パラメータ1></パラメータ2>	
パラメータ	#Zコマンドと同じ	
入力例	AT#ZL111567890/99852	

*H	着信番号・変換後の番号表示	
機能	着信番号と変換後の番号の割り当てを表示します。	
書式	AT*H	
入力例	AT*H	

*PCA	アナログAポート発信用 i・ナンバー設定	
機能	アナログAポートの発信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PCA=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~3 (i・ナンバー情報)(初期値 : 1)
入力例	AT*PCA=1	

*PCB	アナログBポート発信用 i・ナンバー設定	
機能	アナログBポートの発信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PCB=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~3 (i・ナンバー情報)(初期値 : 2)
入力例	AT*PCB=3	

*PCC	アナログCポート発信用 i・ナンバー設定	
機能	アナログCポートの発信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PCC=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~3 (i・ナンバー情報)(初期値 : 2)
入力例	AT*PCC=2	

*PCN	発信用 i・ナンバー設定	
機能	コマンドを発行したポートの発信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PCN=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~3 (i・ナンバー情報)(初期値 : 1)
入力例	AT*PCN=1	

*PCNJ	RS-232Cポート発信用 i・ナンバー設定	
機能	RS-232Cポートの発信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PCNJ=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~3 (i・ナンバー情報)(初期値 : 1)
入力例	AT*PCNJ=1	

* PCNK	背面USBポート発信用 i・ナンバー設定	
機能	背面のUSBポートの発信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PCNK=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~3 (i・ナンバー情報) (初期値: 1)
入力例	AT*PCNK=1	

* PCNL	前面USBポート発信用 i・ナンバー設定	
機能	前面のUSBポートの発信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PCNL=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~3 (i・ナンバー情報) (初期値: 1)
入力例	AT*PCNL=1	

* PN	i・ナンバー情報の電話番号登録	
機能	各 i・ナンバー情報の電話番号を登録します。	
書式	AT*PN=<パラメータ1> <=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~3 (i・ナンバー情報)
	<パラメータ2>	電話番号 (0~9の数字、10桁まで)
入力例	AT*PN1=0312345678	

* PRA	アナログAポート着信用 i・ナンバー設定	
機能	アナログAポートの着信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PRA=<パラメータ1> ~ <,パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1> ~ <パラメータ3>	1~3 (i・ナンバー情報)
入力例	AT*PRA=1,2	
補足	• 初期値はAT*PRA=1です。	

* PRB	アナログBポート着信用 i・ナンバー設定	
機能	アナログBポートの着信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PRB=<パラメータ1> ~ <,パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1> ~ <パラメータ3>	1~3 (i・ナンバー情報)
入力例	AT*PRB=1,2	
補足	• 初期値はAT*PRB=2です。	

* PRC	アナログCポート着信用 i・ナンバー設定	
機能	アナログCポートの着信用 i・ナンバーを設定します。	
書式	AT*PRC=<パラメータ1> ~ <,パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1> ~ <パラメータ3>	1~3 (i・ナンバー情報)
入力例	AT*PRC=1,2	
補足	• 初期値はAT*PRC=2です。	

* PRN	着信用 i ・ ナンバー設定
機能	コマンドを発行したポートの着信用 i ・ ナンバーを設定します。
書式	AT * PRN=<パラメータ1> ~ <,パラメータ3>
パラメータ	<パラメータ1> ~ <パラメータ3> 1 ~ 3 (i ・ ナンバー情報)
入力例	AT * PRN=1,2
補足	• 初期値はAT * PRN=1です。

* PRNJ	RS-232Cポート着信用 i ・ ナンバー設定
機能	RS-232Cポート用の着信用 i ・ ナンバーを設定します。
書式	AT * PRNJ=<パラメータ1> ~ <,パラメータ3>
パラメータ	* PRNコマンドと同じ
入力例	AT * PRNJ=1,2
補足	• 初期値はAT * PRNJ=1です。

* PRNK	背面USBポート着信用 i ・ ナンバー設定
機能	背面のUSBポート用の着信用 i ・ ナンバーを設定します。
書式	AT * PRNK=<パラメータ1> ~ <,パラメータ3>
パラメータ	* PRNコマンドと同じ
入力例	AT * PRNK=1,2
補足	• 初期値はAT * PRNK=1です。

* PRNL	前面USBポート着信用 i ・ ナンバー設定
機能	前面のUSBポート用の着信用 i ・ ナンバーを設定します。
書式	AT * PRNL=<パラメータ1> ~ <,パラメータ3>
パラメータ	* PRNコマンドと同じ
入力例	AT * PRNL=1,2
補足	• 初期値はAT * PRNL=1です。

* PX1	i ・ ナンバーの使用設定
機能	i ・ ナンバーを使用するかどうかを設定します。
書式	AT * PX1=<パラメータ1>
パラメータ	<パラメータ1> 0 : 使用しない (初期値) 1 : 使用する
入力例	AT * PX1=1

* P ?	i ・ ナンバーの設定表示
機能	i ・ ナンバーに関する設定を表示します。
書式	AT * P ?
入力例	AT * P ?

*Z	着信番号・変換後の番号登録	
機能	着信番号と変換後の番号を登録します。	
書式	AT*Z<パラメータ1>=<パラメータ2><,パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	0~7: テーブル番号
	<パラメータ2>	着信番号(電話番号)
	<パラメータ3>	変換後の番号
入力例	AT*Z1=012345678,1111	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 着信番号は最大32桁で0~9の数字が使用できます。 変換後の番号は、「モデムダイヤルイン」設定時のみ使用できます。最大4桁で0~9の数字が使用できます。 	

*ZA	アナログAポートの着信番号・変換後の番号割り当て	
機能	アナログAポートに*Zコマンドで登録した着信番号・変換後の番号を割り当てます。	
書式	AT*ZA=<パラメータ1>~<,パラメータ8>	
パラメータ	<パラメータ1>~<,パラメータ8>	
		0~7: *Zコマンドで登録したテーブル番号
入力例	AT*ZA=0,2,3,7	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 1つのポートに最大8つまで割り当てることができます。 本コマンドで登録された番号で着信判定を行います。 変換後の番号は、「モデムダイヤルイン」設定時のみ使用できます。 	

*ZB	アナログBポートの着信番号・変換後の番号割り当て	
機能	アナログBポートに*Zコマンドで登録した着信番号・変換後の番号を割り当てます。	
書式	AT*ZB=<パラメータ1>~<,パラメータ8>	
パラメータ	<パラメータ1>~<,パラメータ8>	
		0~7: *Zコマンドで登録したテーブル番号
入力例	AT*ZB=0,2,3,7	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 1つのポートに最大8つまで割り当てることができます。 本コマンドで登録された番号で着信判定を行います。 変換後の番号は、「モデムダイヤルイン」設定時のみ使用できます。 	

* ZC	アナログCポートの着信番号割り当て
機能	アナログCポートに * Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
書式	AT * ZC=<パラメータ1> ~ <,パラメータ8 >
パラメータ	<パラメータ1> ~ <,パラメータ8 > 0 ~ 7 : * Zコマンドで登録したテーブル
入力例	AT * ZC=0,2,3,7
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 1つのポートに最大8つまで割り当てることができます。 • 本コマンドで登録された番号で着信判定を行います。

* ZD	着信番号・変換後の番号割り当て
機能	コマンドを発行したポートに * Zコマンドで登録した着信番号・変換後の番号を割り当てます。
書式	AT * ZD=<パラメータ1> ~ <,パラメータ8 >
パラメータ	<パラメータ1> ~ <,パラメータ8 > 0 ~ 7 : * Zコマンドで登録したテーブル番号
入力例	AT * ZD=0,2,3,7
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 最大8つまで割り当てることができます。 • 本コマンドに登録された番号で着信判定を行います。ただし、変換後の番号は無視されます。

* ZDJ	RS-232Cポート着信番号、変換後の番号割り当て
機能	RS-232Cポートに * Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
書式	AT * ZDJ=<パラメータ1> ~ <,パラメータ8 >
パラメータ	* ZDコマンドと同じ
入力例	AT * ZDJ=0,1,7,2,6

* ZDK	背面USBポート着信番号、変換後の番号割り当て
機能	背面USBポートに * Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
書式	AT * ZDK=<パラメータ1> ~ <,パラメータ8 >
パラメータ	* ZDコマンドと同じ
入力例	AT * ZDK=1,3,4,6

* ZDL	前面USBポート着信番号、変換後の番号割り当て
機能	前面USBポートに * Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
書式	AT * ZDL=<パラメータ1> ~ <,パラメータ8 >
パラメータ	* ZDコマンドと同じ
入力例	AT * ZDL=1,3,4,6

¥C	累積通信料金表示・初期化	
機能	RS-232Cポート、アナログポートの累積通信料金の表示と初期化を行います。	
書式	AT¥C<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：累積通信料金を表示
		1：累積通信料金を初期化（0円）
入力例	AT¥C0	

¥L	最新発信 / 着信番号表示	
機能	RS-232Cポート、アナログポートの最新発信 / 着信番号と着信しなかった理由を表示します。	
書式	AT¥L<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：最新の発信番号を表示
		1：最新の着信番号、切断理由、診断情報の表示
入力例	AT¥L1	
補足	• SEND CAUSE=切断理由、DIAGNOSIS=診断情報です。（●P358、359）	

¥Q	フロー制御	
機能	フロー制御方式を設定します。	
書式	AT¥Q<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：フロー制御なし
		1：XON/XOFFフロー制御
		2：CSフロー制御
		3：RS-CSフロー制御（初期値）
入力例	AT¥Q0	

¥S	装置状態表示	
機能	コマンドを発行したポート設定値、Sレジスタの内容、ATコマンド状態を表示します。	
書式	AT¥S<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：コマンドを発行したポートの設定値を表示
		1：Sレジスタ名とSレジスタの内容表示
		2：ATコマンド状態を表示
		3：Sレジスタの内容を表示
入力例	AT¥S0	
補足	• RS-232Cポート設定値は、RS-232Cポート速度、データフォーマット、フロー制御方式、エコー制御、非同期 / 同期PPPモード、回線状態、信号制御、信号線状態を表示します。	

¥SJ	RS-232Cポート設定表示
機能	RS-232Cポートの設定値、レジスタの内容、ATコマンド状態を表示します。
書式	AT¥SJ<パラメータ1>
パラメータ	¥Sコマンドと同じ
入力例	AT¥SJ1

¥SK	背面USBポート設定表示
機能	背面のUSBポートの設定値、レジスタの内容、ATコマンド状態を表示します。
書式	AT¥SK<パラメータ1>
パラメータ	¥Sコマンドと同じ
入力例	AT¥SK0

¥SL	前面USBポート設定表示
機能	前面のUSBポートの設定値、レジスタの内容、ATコマンド状態を表示します。
書式	AT¥SL<パラメータ1>
パラメータ	¥Sコマンドと同じ
入力例	AT¥SL1

\$A	アナログAポート設定・表示
機能	アナログAポートの設定と表示を行います。
書式	AT\$A<パラメータ1><=パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1><パラメータ2>
	0：設定内容の表示
	1：接続装置 1=0：電話機（初期値） 1=1：ファクス/モデム 1=2：使用しない
	2：キャッチホン 2=0：使用しない（初期値） 2=1：INSキャッチホン 2=2：疑似キャッチホン
	3：相手番号識別着信 3=0：使用しない（初期値） 3=1：INSなりわけサービス（セキュリティ） 3=2：相手番号識別着信 3=3：INSなりわけサービス （選択キャッチホン） 3=4：疑似選択キャッチホン

（次ページへ続く）

パラメータ	<p>4 : HLC設定</p> <p>4=0 : HLCを設定しない (初期値)</p> <p>4=1 : HLCを設定し着信判定する</p> <p>4=2 : HLCを設定するが着信判定しない</p>
	<p>5 : グローバル着信</p> <p>5=0 : 着信する (初期値)</p> <p>5=1 : 着信しない</p>
	<p>6 : サブアドレスなし着信選択</p> <p>6=0 : 着信する (初期値)</p> <p>6=1 : 着信しない</p>
	<p>7 : ダイヤル桁間タイマ設定</p> <p>7=0 : 4秒 (初期値)</p> <p>7=1 : 9秒</p> <p>7=2 : 11秒</p> <p>7=3 : 13秒</p>
	<p>8 : フッキング検出タイマ設定</p> <p>8=0 : 0.03 ~ 1秒</p> <p>8=1 : 0.3 ~ 1秒 (初期値)</p> <p>8=2 : 0.5 ~ 1.5秒</p>
	<p>9 : 発信者番号通知設定</p> <p>9=0 : 通知しない</p> <p>9=1 : 通知する</p> <p>9=2 : INSネット64契約に従う (初期値)</p>
	<p>10 : 受話音量設定</p> <p>10=0 : 小</p> <p>10=1 : 中 (初期値)</p> <p>10=2 : 大</p>
	<p>11 : 情報通知サービス設定</p> <p>11=0 : 情報通知サービスを利用しない (初期値)</p> <p>11=1 : INSナンバー・ディスプレイ</p> <p>11=2 : モデムダイヤルイン</p> <p>11=4 : INSナンバー・ディスプレイとモデム・ダイヤルイン</p>
	<p>12 : 情報通知サービス・サブアドレス付加</p> <p>12=0 : サブアドレス付加しない (初期値)</p> <p>12=1 : サブアドレス付加する</p>
	<p>13 : リバースパルス送出</p> <p>13=0 : 送出しない (初期値)</p> <p>13=1 : 送出する</p>
	<p>14 : 通話中に (✳) (⊕) で受話音量変更</p> <p>14=0 : 無効 (初期値)</p> <p>14=1 : 有効</p>

パラメータ	<p>15：なりわけ 15=0：使用しない（初期値） 15=1：INSなりわけサービス（識別リングング） 15=2：疑似なりわけ</p> <p>16：CTIモード設定 16=0：使用しない（初期値） 16=1：使用する</p> <p>17：内線呼出信号選択 17=0：呼出信号1（通常着信音） 17=1：呼出信号2（SIR着信音）（初期値）</p> <p>18：キャッチホン・ディスプレイ選択 18=0：使用しない（初期値） 18=1：使用する</p>
入力例	AT \$ A3=1
補足	<ul style="list-style-type: none"> • HLCを「設定する」にすると、接続装置の設定（電話機またはファクス/モデム）に合わせてHLC（電話機またはG2/G3ファクス）が自動的に設定されます。 • 「情報通知サービス・サブアドレス」は「情報通知サービス利用」を1、2、4に設定したとき利用できます。0に設定したときは無視されます。

\$ B	アナログBポート設定・表示
機能	アナログBポートの設定と表示を行います。
書式	AT \$ B <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	\$ Aコマンドと同じ
入力例	AT \$ B4=1

\$ C	アナログCポート設定・表示
機能	アナログCポートの設定と表示を行います。
書式	AT \$ C <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	\$ Aコマンドと同じですが、「情報通知サービス設定」、「情報通知サービスサブアドレス付加」、「キャッチホン・ディスプレイ選択」は利用できません。AポートとBポートをご使用ください。
入力例	AT \$ C4=1

\$D	アナログポート共通設定・表示
機能	アナログポート共通の設定と表示を行います。
書式	AT\$D<パラメータ1><=パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1><パラメータ2>
	0：設定内容の表示
	2：停電モードで着信時のリング 2=0：ブザー 2=1：リング（初期値） 2=3：着信を受け付けない
	3：優先着信ポート 3=0：なし（初期値） 3=1：アナログAポート優先 3=2：アナログBポート優先 3=3：アナログCポート優先
	4：内線通話・内線転送 4=0：使用しない 4=1：使用する（初期値）
	5：三者通話 5=0：使用しない（初期値） 5=1：使用する 5=2：疑似三者通話
	6：通信中転送 6=0：使用しない（初期値） 6=1：使用する
	7：おでかけ設定 7=1：おやすみモード（初期値） 7=2：電話着信転送モード 7=3：INSボイスワープ転送モード 7=4：フラッシュモード
	8：INSボイスワープ 8=1：無条件転送（初期値） 8=2：無応答時転送 8=3：話中時転送 8=4：無応答時または話中時転送
	9：ダイヤル終了識別 9=0：# 発信しない 9=1：# 発信する（初期値） 9=2：# # 発信する
入力例	AT\$D3=2

\$F	RS-232Cポート、USBポート共通設定・表示
機能	RS-232Cポート、2つのUSBポート共通の設定と設定内容の表示を行います。
書式	AT\$F<パラメータ1><=パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1><=パラメータ2>
	0：設定内容の表示
	1：優先着信ポート 1=0：優先着信ポートを指定しない（初期値） 1=1：RS-232Cポート優先 1=2：背面のUSBポート優先 1=3：前面のUSBポート優先
	2：応答平均化 2=0：応答平均化しない（初期値） 2=1：応答平均化する
	3：応答平均化のマルチポイント接続端末台数 3=1：1台（初期値） 3=2～8：2～8台
	4：CTI有効ポート選択 4=0：指定しない（初期値） 4=1：RS-232Cポート 4=2：背面のUSBポート 4=3：前面のUSBポート
入力例	AT\$F0 AT\$F4=1
補足	<ul style="list-style-type: none"> • AT\$F0のパラメータ（0）は、省略できます。 • 3（マルチポイント接続端末数）は、2（応答平均化）を「1」に設定したとき（2=1）には、必ず設定してください。3には、同一回線に接続されているINS64ネット用機器の数を設定してください。 • AT\$F4=0と指定した場合は、すべてのポート（RS-232Cポート、2つのUSBポート）にCTI情報が送出されます。

\$H	着信転送設定・表示
機能	アナログポートから転送する着信番号、着信転送先番号、トーキの設定値を表示します。
書式	AT\$H
入力例	AT\$H
補足	<ul style="list-style-type: none"> 着信番号と自己サブアドレスの間はサブアドレスセパレータで区切られます。 登録されていない場合は、BUFFER EMPTYと表示されます。

\$L	LCD設定・表示
機能	LCDの設定と表示を行います。
書式	AT\$L<パラメータ1><=パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1><=パラメータ2>
	0：設定内容の表示 1：バックライトの設定 1=0：常に消灯 1=1：常に点灯 1=2：AUTO（初期値） 1=3：AUTO+データ通信中は常に点灯 1=4：AUTO+Bチャンネル使用中は常に点灯
	2：アナログ発信時の電話番号表示 2=0：表示しない 2=1：表示する（初期値）
入力例	AT\$L2=1
補足	<ul style="list-style-type: none"> AT\$L2=0と設定しても、データ発信時は常にダイヤル番号が表示されます。

\$ M	128KマルチリンクPPPの設定と表示
機能	コマンドを発行したポートの128KマルチリンクPPPの設定と表示を行います。
書式	AT \$ M <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1> <=パラメータ2>
	0 : 設定内容の表示
	1 : マルチリンク通信選択 1=0 : 128KマルチリンクPPP通信しない (初期値) 1=1 : 128KマルチリンクPPP通信する
	2 : リソースBOD選択 2=0 : リソースBODを行わない (初期値) 2=1 : リソースBODを行う
	3 : スループットBOD選択 3=0 : スループットBODを行わない (初期値) 3=1 : スループットBODを行う
	4 : リンク追加算出時間 (秒) 4=10 ~ 60 (10秒ごと) (初期値30秒)
	5 : リンク削除算出時間 (秒) 5=10 ~ 60 (10秒ごと) (初期値10秒)
	6 : リンク追加しきい値 6=60 ~ 90 (10 %ごと) (初期値70 %)
	7 : リンク削除しきい値 7=10 ~ 40 (10 %ごと) (初期値20 %)
	8 : 2本目接続時の認証 8=0 : 認証しない 8=1 : 認証する (初期値)
入力例	AT \$ M2=1
補足	<ul style="list-style-type: none"> \$ M1は、\$ N11コマンドと同じ機能です。どちらかを設定すれば有効になります。

\$ MJ	RS-232Cポート128KマルチリンクPPPの設定と表示
機能	RS-232Cポートの128KマルチリンクPPPの設定と表示を行います。
書式	AT \$ MJ <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	\$ Mコマンドと同じ
入力例	AT \$ MJ3=1
補足	<ul style="list-style-type: none"> \$ MJ1は、\$ NJ11コマンドと同じ機能です。どちらかを設定すれば有効になります。

\$ MK	背面USBポート128KマルチリンクPPPの設定と表示
機能	背面のUSBポートの128KマルチリンクPPPの設定と表示を行います。
書式	AT \$ MK <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	\$ Mコマンドと同じ
入力例	AT \$ MK4=30
補足	<ul style="list-style-type: none"> \$ MK1は、\$ NK11コマンドと同じ機能です。どちらかを設定すれば有効になります。

\$ ML	前面USBポート128KマルチリンクPPPの設定と表示
機能	前面のUSBポートの128KマルチリンクPPPの設定と表示を行います。
書式	AT \$ ML <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	\$ Mコマンドと同じ
入力例	AT \$ ML5=10
補足	<ul style="list-style-type: none"> \$ ML1は、\$ NL11コマンドと同じ機能です。どちらかを設定すれば有効になります。

\$ N	コマンド発行ポートの設定・表示							
機能	コマンドを発行したポートの設定と表示を行います。							
書式	AT \$ N <パラメータ1> <=パラメータ2>							
パラメータ	<p><パラメータ1> <=パラメータ2></p> <table border="1"> <tr> <td>0 : 設定内容の表示</td> </tr> <tr> <td>1 : 通信モード 1=0 : 非同期 / 同期PPP変換しない (初期値) 1=1 : 非同期 / 同期PPP変換する 1=2 : PIAFS通信する</td> </tr> <tr> <td>2 : 相手番号識別着信 2=0 : 相手番号識別着信しない (初期値) 2=1 : 相手番号識別着信する</td> </tr> <tr> <td>3 : HLC設定 3=N : 設定しない (初期値) 3=0 ~ 127</td> </tr> <tr> <td>4 : 着信速度チェック 4=0 : チェックしない (初期値) 4=1 : チェックする</td> </tr> <tr> <td>5 : グローバル着信 5=0 : 着信する (初期値) 5=1 : 着信しない</td> </tr> <tr> <td>6 : サブアドレスなし着信 6=0 : 着信する (初期値) 6=1 : 着信しない</td> </tr> </table>	0 : 設定内容の表示	1 : 通信モード 1=0 : 非同期 / 同期PPP変換しない (初期値) 1=1 : 非同期 / 同期PPP変換する 1=2 : PIAFS通信する	2 : 相手番号識別着信 2=0 : 相手番号識別着信しない (初期値) 2=1 : 相手番号識別着信する	3 : HLC設定 3=N : 設定しない (初期値) 3=0 ~ 127	4 : 着信速度チェック 4=0 : チェックしない (初期値) 4=1 : チェックする	5 : グローバル着信 5=0 : 着信する (初期値) 5=1 : 着信しない	6 : サブアドレスなし着信 6=0 : 着信する (初期値) 6=1 : 着信しない
0 : 設定内容の表示								
1 : 通信モード 1=0 : 非同期 / 同期PPP変換しない (初期値) 1=1 : 非同期 / 同期PPP変換する 1=2 : PIAFS通信する								
2 : 相手番号識別着信 2=0 : 相手番号識別着信しない (初期値) 2=1 : 相手番号識別着信する								
3 : HLC設定 3=N : 設定しない (初期値) 3=0 ~ 127								
4 : 着信速度チェック 4=0 : チェックしない (初期値) 4=1 : チェックする								
5 : グローバル着信 5=0 : 着信する (初期値) 5=1 : 着信しない								
6 : サブアドレスなし着信 6=0 : 着信する (初期値) 6=1 : 着信しない								

パラメータ		<p>9：無通信監視タイマ 9=0：監視しない 9=1～10：1～10分で切断する（初期値：10分）</p> <p>10：フリーコールバック 10=0：コールバックしない（初期値） 10=1：コールバックする</p> <p>11：128KマルチリンクPPP通信 11=0：128KマルチリンクPPP通信しない（初期値） 11=1：128KマルチリンクPPP通信する</p> <p>12：発信者番号通知 12=0：通知しない 12=1：通知する（初期値） 12=2：INSネット64の契約に従う</p> <p>13：PPP ACCM付加選択 13=0：64KPPP、MP時にACCMを付加しない 13=1：64KPPP、MP時にACCMを付加する（初期値）</p> <p>14：強制切断タイマ 14=0：強制切断しない 14=1～10：1～10時間で切断する（初期値：10時間）</p> <p>15：PIAFS通信 15=0：32KでPIAFS通信する（初期値） 15=1：64KでPIAFS通信する</p>
入力例	AT \$ N9=2	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 「着信速度チェック」で「チェックしない」を設定すると、異速度通信を行います。 • \$ N1=0、\$ N=2の設定は、#Mコマンドでも設定できます。どちらかを設定すれば有効になります。 	

\$ NJ	RS-232Cポートの設定・表示
機能	RS-232Cポートの設定と表示を行います。
書式	AT \$ NJ <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	\$ Nコマンドと同じ
入力例	AT \$ NJ3=1

\$ NK	背面USBポートの設定・表示
機能	背面のUSBポートの設定と表示を行います。
書式	AT \$ NK <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	\$ Nコマンドと同じ
入力例	AT \$ NK4=1

\$ NL	前面USBポートの設定・表示
機能	前面のUSBポートの設定と表示を行います。
書式	AT \$ NL <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	\$ Nコマンドと同じ
入力例	AT \$ NL5=1

\$O	MUX機能設定・表示
機能	MUX機能に関する設定と表示を行います。
書式	AT \$O <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1> <=パラメータ2>
	0：設定内容の表示
	2：リソースBOD設定 2=0：リソースBODを行わない（初期値） 2=1：リソースBODを行う
	3：スループットBOD設定 3=0：スループットBODを行わない（初期値） 3=1：スループットBODを行う 3=2：イーザーBODで使用する
	4：リンク追加算出時間（秒） 4=10～60（10秒ごと）（初期値30秒）
	5：リンク削除算出時間（秒） 5=10～60（10秒ごと）（初期値10秒）
	6：リンク追加しきい値 6=60～90（10%ごと）（初期値70%）
	7：リンク削除しきい値 7=10～40（10%ごと）（初期値20%）
	8：2本目接続時の認証 8=0：認証しない 8=1：認証する（初期値）
	9：PPP ACCM付加 9=0：ACCMを付加しない 9=1：ACCMを付加する（初期値）
	10：MUX接続での2本目以降の接続認証 10=0：認証を行わない 10=1：認証を行う
	21：無通信監視タイマ 21=0：監視しない 21=1～10（分）（初期値10分）
	22：強制切断タイマ 22=0強制切断しない 22=1～10（時間）（初期値10時間）
	入力例
補足	<ul style="list-style-type: none"> • MUX通信中のポートがある場合は、リザルトコード「OK」が返され、設定は変更されません。ただし、パラメータ0のみ実行可能です。

\$ S	パラメータ・パソコン速度保存
機能	ATコマンドで設定したパラメータや自動的に検出したパソコン側の通信速度を保存します。
書式	AT \$ S
入力例	AT \$ S
補足	<ul style="list-style-type: none"> 電話帳、通知番号、自己サブアドレス、着信番号、変換後の番号、着信転送先アドレス、転送する着信番号は、設定のたびに保存されますので、本コマンドで保存する必要はありません。

\$ X	着信転送	
機能	着信転送を設定します。	
書式	AT \$ X <パラメータ1> <=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：着信転送の設定 0=1：着信転送 0=2：疑似着信転送（初期値）
	<パラメータ2>	1=0：無条件転送（初期値） 1=1：INSなりわけ時転送 1=2：相手番号識別着信時転送
入力例	AT \$ X0=1	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 本コマンドと合わせて、\$ Y、\$ Zコマンドを設定してください。 	

\$ Y	着信転送先アドレス	
機能	アナログポートの着信転送先のアドレスを登録します。	
書式	AT \$ Y <パラメータ1> <=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：着信転送先（0） 1：着信転送先（1） 2：着信転送先（2）
	<パラメータ2>	転送先アドレス（電話番号）
入力例	AT \$ Y0=0312345678	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 本コマンドと合わせて、\$ Zコマンドで転送元を設定してください。 転送先アドレスは、最大32桁で0～9の数字が使用できます。 着信転送先の設定はアドレスのみです。サブアドレスは設定できません。 	

\$Z	着信転送元アドレス	
機能	アナログポートの着信転送元のアドレスを登録します。	
書式	AT\$Z<パラメータ1><=パラメータ2></パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	0: 着信転送元 (0)
		1: 着信転送元 (1)
		2: 着信転送元 (2)
5: トーキあり/なしの設定		
<パラメータ2>	パラメータ1が0~2のとき 転送元アドレス (電話番号)	
	パラメータ1が5のとき 0: 転送トーキなし、転送元トーキなし 1: 転送トーキあり、転送元トーキなし 2: 転送トーキなし、転送元トーキあり 3: 転送トーキあり、転送元トーキあり (初期値)	
	<パラメータ3> 転送元サブアドレス	
入力例	AT\$Z0=0312345678/123 AT\$Z5=0	
補足	<ul style="list-style-type: none"> ● 本コマンドと合わせて、*Zコマンドで着信番号を設定してください。また、\$Yコマンドで転送先を設定してください。 ● 転送元アドレスは、最大32桁で0~9の数字が使用できます。 ● 転送元サブアドレスは最大19桁で0~9の数字が使用できます。 ● また、/以降が省略された場合は、転送元サブアドレス指定なしとみなします。 ● /は/Sコマンドで変更できます。 ● 転送トーキの設定は、\$Xコマンドで「着信転送」に設定したときに利用できます。また、電話番号ごとに設定することはできません。 	

%C	PIAFS32K通信のV.42bisデータ圧縮	
機能	PIAFS32Kによるデータ通信時、V.42bisデータ圧縮を行うか否かを設定します。	
書式	AT%C<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0: 圧縮なし
		1: V.42bisデータ圧縮あり (初期値)
		? : 本コマンドの設定内容表示
入力例	AT%C0	
補足	<ul style="list-style-type: none"> ● PIAFS64K通信時は、%Cコマンドの設定値にかかわらず自動的に「圧縮なし」になります。 	

!C	CTI発信キャンセル	
機能	CTI発信をキャンセルします。	
書式	AT!C<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	アナログポート番号 1：アナログAポート 2：アナログBポート 3：アナログCポート
入力例	AT!C1	

!D	CTI発信	
機能	指定した着番号へアナログポートの発信を行います。	
書式	AT!D<パラメータ1>;<パラメータ2>/<パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	アナログポート番号 1：アナログAポート 2：アナログBポート 3：アナログCポート
	<パラメータ2>	着番号（電話番号、最大32桁）
	<パラメータ3>	着サブアドレス（最大19桁）
入力例	AT!D1;0312345678/123	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 着番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。 着サブアドレスは、最大19桁で0～9の数字が使用できます。 着サブアドレスは、省略できます。 	

!H	マイプライベート着信の相手の電話番号表示	
機能	登録されているマイプライベート着信の相手の電話番号を表示します。	
書式	AT!H	
入力例	AT!H	
補足	登録されていないときは「BUFFER EMPTY」と表示されます。	

!SH	相手番号識別着信番号表示	
機能	登録されている相手番号識別着信番号を表示します。	
書式	AT!SH	
入力例	AT!SH	

!SZ	相手番号識別着信番号登録	
機能	相手番号識別着信番号を登録します。	
書式	AT!SZ<パラメータ1>=<パラメータ2></パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	0~29 (最大30件登録可能)
	<パラメータ2>	相手番号識別着信番号アドレス (電話番号)
	<パラメータ3>	相手番号識別着信番号サブアドレス
入力例	AT!SZ0=0312345678/123	
補足	<ul style="list-style-type: none"> サブアドレスのみ入力すると、「ERROR」と表示されます。 相手番号識別着信番号アドレスは、最大32桁で0~9の数字が使用できます。 	

!UC	迷惑電話の番号削除	
機能	迷惑電話の番号を削除します。	
書式	AT!UC=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	相手の電話番号 (またはP:非通知、C:公衆電話、O:表示圏外)
	入力例	AT!UC=0312345678
補足	<ul style="list-style-type: none"> 入力された電話番号のすべての桁が一致したとき削除されます。 登録されている電話番号と一致するものがないときは「ERROR」と表示されます。 	

!UH	迷惑電話の番号表示	
機能	登録されている迷惑電話の番号を表示します。	
書式	AT!UH	
入力例	AT!UH	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 登録されていないときは「BUFFER EMPTY」と表示されます。 	

!US	迷惑電話の番号登録	
機能	迷惑電話の番号を登録します。	
書式	AT!US=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	相手の電話番号 (またはP:非通知、C:公衆電話、O:表示圏外)
入力例	AT!US=0312345678	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • すでに登録されている電話番号を入力すると「ALREADY EXIST」と表示され登録内容は変更されません。 • 登録件数は最大20件です。 • 迷惑電話の番号は、最大15桁で0~9の数字が使用できます。 	

!VH	INSボイスワープ設定表示	
機能	INSボイスワープ設定用電話番号を表示します。	
書式	AT!VH	
入力例	AT!VH	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 登録されていないときは「BUFFER EMPTY」と表示されます。 	

!VZ	INSボイスワープ設定登録	
機能	INSボイスワープ設定用電話番号を登録します。	
書式	AT!VZ<パラメータ1>=<パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	設定する電話番号選択 0:サービス停止設定用電話番号(初期値:1420) 1:無条件転送用電話番号(初期値:14211) 2:無応答時転送用電話番号(初期値:14212) 3:話中時転送用電話番号(初期値:14213) 4:無応答または話中時転送用電話番号(初期値:14214) 9:INSボイスワープ契約電話番号(全32桁まで)
	<パラメータ2>	電話番号
入力例	AT!VZ0=1420	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • INSボイスワープ設定用電話番号には初期値があります。 	

!WH	なりわけの相手の電話番号表示	
機能	なりわけの相手の電話番号を表示します。	
書式	AT!WH	
入力例	AT!WH	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 登録されていないときは「BUFFER EMPTY」と表示されます。 	

!WZ	なりわけの相手の電話番号登録	
機能	なりわけの相手の電話番号を登録します。	
書式	AT!WZ<パラメータ1>=<パラメータ2></パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	0~29 (最大30件登録可能)
	<パラメータ2>	なりわけの相手のアドレス (電話番号)
	<パラメータ3>	なりわけの相手のサブアドレス
入力例	AT!WZ0=0312345678/123	
補足	<ul style="list-style-type: none"> サブアドレスのみ入力すると、「ERROR」と表示されます。 なりわけの相手のアドレスは、最大32桁で0~9の数字が使用できます。 	

!X	マイプライベート着信の使用設定	
機能	マイプライベート着信を使用するかどうかを設定します。	
書式	AT!X0=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : 使用しない (初期値)
		1 : 使用する
入力例	AT!X0=1	

!Z	マイプライベート着信の相手の電話番号登録	
機能	マイプライベート着信する相手の電話番号と着信するアナログポートを設定します。	
書式	AT!Z<パラメータ1>=<パラメータ2></パラメータ3><;パラメータ4>	
パラメータ	<パラメータ1>	0~29 (最大30件登録可能)
	<パラメータ2>	相手の電話番号 (またはP:非通知、C:公衆電話、O:表示圏外)
	<パラメータ3>	相手のサブアドレス (最大19桁)
	<パラメータ4>	A,B,C (着信するアナログポート)
入力例	AT!Z0=0312345678/123;A,B	
補足	<ul style="list-style-type: none"> サブアドレスまたは着信ポートのみ入力すると、「ERROR」と表示されます。 相手のアドレスは、最大32桁で0~9の数字が使用できます。 	

S	Sレジスタポインタ	
機能	Sレジスタのポインタを設定します。	
書式	ATS<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0~26 : Sレジスタ (初期値 : 0)
入力例	ATS0	

?	Sレジスタの内容表示	
機能	現在のSレジスタポインタの示すレジスタの内容を表示します。	
書式	AT?	
入力例	AT?	
補足	<ul style="list-style-type: none"> Sコマンドと続けることができます。 例 ATS0+AT? ATS0?	

=	Sレジスタ設定	
機能	現在のSレジスタポインタの示すレジスタの内容を設定します。	
書式	AT=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	設定値 (●P357)
入力例	AT=	
補足	<ul style="list-style-type: none"> Sコマンドと続けることができます。 例 ATS0+AT=2 ATS0=2	

+++	エスケープシーケンス	
機能	データ通信中に回線を切らずにコマンドモードへ戻し、コマンドを入力できる状態にします。	
書式	+++	
入力例	+++	
補足	<ul style="list-style-type: none"> データ通信を停止し、1秒間待ってから「+++」を入力してください。 また「+」と「+」の間は1秒以内に入力してください。 エスケープ文字は、S2レジスタで変更できます。 通信状態へ戻すには、Oコマンドを入力します。「CONNECT」が表示され通信状態に戻ります。 	

リザルトコード一覧

数字	文字	意味	説明
0	OK	コマンド正常終了	次の条件のとき送出されます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが正常であったとき (A,D,Oコマンド実行時はなし) • エスケープコマンド入力後、オンラインコマンドモードに入るとき • オンラインコマンドモード時にHコマンドで通信が切断されたとき
1	CONNECT	相手端末との接続完了	発着信の結果、相手と通信状態になったとき送出されます。
2	RING	着信通知	着信があった場合、応答するまで約2秒間隔で通知されます。
3	NO CARRIER	回線切断	通信相手との接続に失敗したときに送出されます。また、通信中なんらかの原因で切断したときも送出されます。Wコマンドで発信側のアドレス、サブアドレス、ユーザデータの付加を設定できます。(●P321)
4	ERROR	不正コマンド	次の条件のとき送出されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 不正なコマンドが入力されたとき • コマンド入力が最大文字数を越えたとき • 登録されていない短縮番号で発信しようとしたとき • パソコンのER信号がOFFのときに発信したとき • アナログポートの使用中に\$A,\$B,\$C,\$Dコマンドを実行しようとしたとき
5	CONNECT 1200	相手端末との接続完了	回線速度が1 200 bit/sで接続完了しました。
7	BUSY	相手通信中	相手が話中のため接続に失敗したときに送出されます。
10	CONNECT 2400	相手端末との接続完了	回線速度が2 400 bit/sで接続完了しました。
11	CONNECT 4800	相手端末との接続完了	回線速度が4 800 bit/sで接続完了しました。
12	CONNECT 9600	相手端末との接続完了	回線速度が9 600 bit/sで接続完了しました。
13	CONNECT 14400	相手端末との接続完了	回線速度が14 400 bit/sで接続完了しました。
14	CONNECT 19200	相手端末との接続完了	回線速度が19 200 bit/sで接続完了しました。
18	CONNECT 57600	相手端末との接続完了	回線速度が57 600 bit/sで接続完了しました。

(次ページへ続く)

数字	文字	意味	説明
19	CONNECT 64000	相手端末との 接続完了	回線速度が64 000 bit/sで接続完了しました。
21	CONNECT 32000	相手端末との 接続完了	回線速度が32 000 bit/sで接続完了しました。
26	CONNECT 28800	相手端末との 接続完了	回線速度が28 800 bit/sで接続完了しました。
28	CONNECT 38400	相手端末との 接続完了	回線速度が38 400 bit/sで接続完了しました。
69	COMPRES SION :NONE	圧縮モードな して接続完了	PIAFS通信のV.42bisデータ圧縮なしで接続したとき送出されます。
82	PROTOCOL :PIAFS	プロトコル PIAFSで接 続完了	PIAFS通信で接続したとき送出されます。
67	COMPRES SION : V.42bis	V.42bisデ ータ圧縮で接 続完了	PIAFS通信のV.42bisデータ圧縮で接続したとき送出されます。



お知らせ

- CTI機能を利用するときのリザルトコードについては、「CTI機能」(P125)を参照してください。

レジスタ一覧

Sレジスタ

レジスタ		設定値	説明	初期値
S0	自動応答	0	自動応答しない	1
		1 ~ 255	設定値の数だけRINGを送出後、自動応答する（RING送出間隔は約1秒）	
S1	RING送出回数	0 ~ 255	RINGを送出した回数が表示される（参照専用、設定不可）	0
S2	エスケープ文字	0	エスケープ文字なし	43 (+)
		1 ~ 127	設定した文字をエスケープとする（IA5キャラクタコード）	
S3	復帰文字	0 ~ 127	設定した文字を復帰文字とする（IA5キャラクタコード）	13 (CR)
S4	改行文字	0 ~ 127	設定した文字を改行文字とする（IA5キャラクタコード）	10 (LF)
S5	後退文字	0 ~ 32, 127	設定した文字を後退文字とする（IA5キャラクタコード）	8 (BS)
S7	発信時相手応答待ち時間	1 ~ 50	発信時、設定時間（秒）以内に応答がない場合は切断する	30
S26	CS遅延時間	0 ~ 100	RS信号がOFFからONになったとき、設定した時間（ms）だけCS信号を遅延させてONにする	0

- 「CS遅延時間」は、フロー制御なしに設定したときのみ有効です。
- S26に設定した値と、CS遅延時間の関係は、以下のとおりです。

S26設定値	CS遅延時間
0	AUTO (0 ms)
10	10 ms
20	20 ms
30	30 ms
40	40 ms
50	50 ms
80	80 ms
100	100 ms

「AUTO」は、設定した速度の24ビット分、ほかの設定値は、設定した速度の24ビット分にその設定値を足した時間になります。



お知らせ

切断理由一覧

	CAUSE=	説明
正常クラス	001	欠番
	002	中断網ルートなし
	003	相手ルートなし
	006	チャンネル不許可
	007	設定済みのチャンネルへ着呼
	016	正常切断
	017	着ユーザビジー
	018	着ユーザ応答なし
	019	相手ユーザ呼び出し中、応答なし
	021	相手ユーザ通信拒否
	022	相手端末番号変更
	026	選択されなかったユーザの切断復旧
	027	相手端末故障中
	028	無効番号フォーマット（不完全番号）
リソース 使用不可 クラス	029	ファシリティ拒否
	030	状態問い合わせ応答
	031	その他
	034	利用可回線 / チャンネルなし
	038	網故障
	041	一時的故障
	042	交換機輻輳
	043	アクセス情報破棄
サービス 提供不可 クラス	044	要求チャンネル利用不可
	047	その他
	049	QOS利用不可
	050	要求されたファシリティ不可
	057	伝達能力不許可
サービス 未提供ク ラス	058	現在利用不可伝達能力
	063	その他
	065	未提供伝達能力指定
	066	未提供チャンネル種別指定
	069	未提供ファシリティ要求
	070	制限デジタル情報能力のみ可能
	079	その他

	CAUSE=	説明
無効メッセージクラス	081	無効呼番号使用
	082	無効チャンネル番号使用
	083	指定された中断呼識別番号未使用
	085	中断呼なし
	086	指定された中断呼は既に切断復旧済み
	088	端末属性不一致
	091	無効中継網選択
	095	その他
手順誤りクラス	096	必須情報要素不足
	097	メッセージ種別未定義
	098	呼状態とメッセージ不一致、またはメッセージ種別未定義
	099	情報要素なし、または未定義
	100	無効情報要素内容
	101	呼状態とメッセージ不一致
	102	タイム満了の回復
111	その他	
インタワーク	127	その他

診断情報一覧

DIAGNOSIS=	説明
000	本ポートは正常に着信を受け付けました。
201	本ポートは使用中のため、着信を受け付けませんでした。
211	本ポートの着信番号設定とINSネット64からの通知番号が一致していないため、着信を受け付けませんでした。着信番号設定を確認してください。
212	本ポートのグローバル着信設定が「着信しない」に設定されているため、グローバル着信を受け付けませんでした。グローバル着信設定を確認してください。
213	本ポートの自己サブアドレス設定とINSネット64からの通知サブアドレスが一致していないため、着信を受け付けませんでした。自己サブアドレス設定を確認してください。
214	本ポートのサブアドレスなし着信設定が「着信しない」に設定されているため、サブアドレスなし着信を受け付けませんでした。サブアドレスなし着信設定を確認してください。
215	本ポートの相手番号識別着信設定が「着信する」になっており、相手番号識別着信番号設定に相手からの通知番号と一致するものがなかったため、着信を受け付けませんでした。相手番号識別着信設定、相手番号識別着信番号の設定を確認してください。

(次ページへ続く)

DIAGNOSIS=	説明
221	着信があったポートのHLC設定がINSネット64からの着信通知の中のHLCと一致していませんでした。HLCの設定を確認してください。
231	パケット端末からの着信がきましたが、着信を拒否しました。
301	フリーコールバック要求の着信がきましたが、着信を受けることができませんでした。フリーコールバックが「使用する」になっているか設定を確認してください。
302	フリーコールバック要求に対してサーバ側がかけ直しているときに、別の着信がありましたが、その着信を拒否しました。
311	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力情報転送速度が64 kbit/s以外の着信でした。
312	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力ユーザ情報レイヤ1プロトコルが違っていました。
313	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力ユーザ速度が56 kbit/sでしたので、着信を拒否しました。
321	INSネット64からの着信通知の中にLLC速度情報が含まれていなかったため、着信を拒否しました。
322	INSネット64からの着信通知の中のLLCユーザ速度が本装置の受けられない速度でした。通信相手機器を確認してください。
323	INSネット64からの着信通知の中のLLCユーザ速度が本装置の速度設定と不一致でした。「着信速度をチェックしない」に設定し、通信速度が異なるパソコンとも通信できるようにしてください。
324	INSネット64からの着信通知の中のLLC同期 / 非同期が同期であるが、速度が64 kbit/sの着信のために拒否しました。
325	INSネット64からの着信通知の中のLLC中間速度が本装置の受けられない速度のため拒否しました。
326	INSネット64からの着信通知の中のLLCフロー制御が本装置の設定と不一致でした。本装置フロー制御方式を設定してください。
327	INSネット64からの着信通知の中のLLCストップビット長、データビット長、パリティ情報が本装置の設定と不一致でした。通信相手と合わせてください。
331	G4ファクスからの着信でした。相手側の装置を確認してください。
341	2チャンネル使用中のため着信が受けられませんでした。
361	応答平均化機能が「使用する」に設定されており、着信できる順番ではないため、着信を無視しました。
401	停電モード時、アナログポートが「着信しない」に設定されているため、着信を受け付けられませんでした。停電時の設定を確認してください。
402	停電中のため、アナログBポート、アナログCポートへの着信は受け付けられませんでした。
411	アナログポートの設定が「使用しない」になっているため、着信を受け付けられませんでした。アナログポートの設定を確認してください。

DIAGNOSIS=	説明
421	内線通話中にチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信は、キャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
422	使用していないアナログポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信は、キャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
423	疑似キャッチホン設定ポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートのみ受け付けます。
424	キャッチホンなしの設定ポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
431	優先着信ポートの設定がされているため、優先着信ポートが着信を受けました。そのため、優先着信ポートでないアナログポートには着信しませんでした。
999	その他

生成源一覧

SOURCE=	説明
00	ユーザ自身
01	ユーザが直接接続する私設網
02	ユーザが直接接続する国内網
03	中継網
04	相手ユーザが直接接続する国内網
05	相手ユーザが直接接続する私設網
07	国際網
10	インタワーキング先の網

ATコマンド詳細 (Dチャンネルパケット通信)

Dチャンネルパケット通信で利用するATコマンドの詳細です。Dチャンネルパケット通信を利用するときのATコマンド詳細、リザルトコード一覧は、以下の項目を参照してください。

コマンド形式 (●P313)

リザルトコード形式 (●P313)

コマンドモードとデータ通信モード (●P314)

A	応答
機能	「RING」が表示されているときに、本コマンドを入力して応答します。
書式	ATA< [パラメータ1]>
パラメータ	<パラメータ1> [ユーザデータ]
入力例	ATA ATA[ABCD
補足	ユーザデータは最大128桁で次の文字が使用できます。 0~9、*、#、英字 <ul style="list-style-type: none"> ユーザデータの前に [を入れてください。 ユーザデータは、ファーストセレクト要求ファシリティが付加されたCNパケットを受信した場合に有効となります。

D	発信	
機能	AT\$N1=3でパケット通信モードにした後、Dチャンネルパケットで発信します。	
書式	ATD<パラメータ1>/<パラメータ2><パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	相手アドレス (相手電話番号) \$相手アドレス: 着信課金要求を付加して発信 S=0~9: 短縮ダイヤルへの発信 ¥: 再発信
	<パラメータ2>	相手サブアドレス (最大38桁)
	<パラメータ3>	[ユーザデータ ;: コマンドモードへ入る (発信するときはATOコマンドを入力)
入力例	ATD0312345678[ABCD ATDS=0	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 相手アドレスは、最大15桁で0~9の数字が使用できます。その他の文字は使用しても無視されます。 相手サブアドレスは、最大38桁で0~9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は、相手サブアドレスなしとみなされます。/は、/Sコマンドで変更できます。 ユーザデータは、ファーストセレクト機能を使用すると最大128桁で次の文字が使用できます。通常は16桁使用できます。 0~9、*、#、英字 ユーザデータの前に [を入れてください。 ; はユーザ・ユーザデータ使用時は、使用できません。 	

DX	発信	
機能	AT\$N1=3以外のときは、Dチャンネルパケットで発信します。	
書式	ATDX<パラメータ1>/<パラメータ2><パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	相手アドレス（相手電話番号） \$相手アドレス：着信課金要求を付加して発信
	<パラメータ2>	相手サブアドレス（最大19桁）
	<パラメータ3>	[ユーザデータ ;：コマンドモードへ入る（発信するときはATOコマンドを入力）
入力例	ATDX0312345678 [ABCD	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 相手アドレスは、最大15桁で0～9の数字が使用できます。その他の文字は使用しても無視されます。 相手サブアドレスは、最大38桁で0～9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は、相手サブアドレスなしとみなされます。/は、/Sコマンドで変更できます。 ユーザデータは、ファーストセレクト機能を使用すると最大128桁で次の文字が使用できます。通常は16桁使用できます。 0～9、*、#、英字 ユーザデータのの前には [を入れてください。 ; はユーザ・ユーザデータ使用時は、使用できません。 	

E	エコー制御	
機能	エコーをするかしないかを設定します。	
書式	ATE<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：エコーバックしない
		1：エコーバックする（初期値）
入力例	ATE0	

H	切断	
機能	通信を切断します。	
書式	ATH<パラメータ1><パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	なし：通信を切断する 1：解放勧誘メッセージを送出して切断
	<パラメータ2>	[ユーザデータ
入力例	ATH ATH [ABCD	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 最初にエスケープシーケンス(++)を入力し、コマンドモードにしてからHコマンドを入力します。 ユーザデータは、ファーストセレクト機能を使用すると最大128桁で次の文字が使用できます。 0~9、*、#、英字 ユーザデータのの前には[を入れてください。 ユーザデータは、ファーストセレクト要求ファシリティが付加されたCNパケットを受信または、CRパケット送信でファーストセレクト要求した場合に有効となります。 	

O	通信状態復帰	
機能	エスケープ状態(オンラインコマンドモード)からデータ通信モードに移行します。	
書式	ATO	
入力例	ATO	

W	リザルトコード拡張	
機能	RING、CONNECT、NO CARRIERの表示のしかたを設定します。	
書式	ATW<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：RING、CONNECT、NO CARRIERのみ表示(初期値) 2：RING、CONNECT、NO CARRIERのあとに発信者番号、サブアドレス、ユーザデータを付加する
入力例	ATW2	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 発信者番号とサブアドレスはサブアドレスセパレータで区切られます。 発信者番号またはサブアドレスとユーザデータの区切りは です。 	

/S	サブアドレスセパレータ	
機能	RS-232Cポートのサブアドレスセパレータの表示、設定を行います。	
書式	AT/S<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1><=パラメータ2>	
		0：セパレータの表示 1：セパレータの設定 1=#（初期値） 1=# 1=*
入力例	AT/S1=#	
補足	<ul style="list-style-type: none"> アナログポートで使用するセパレータ（*）は固定です。 液晶ディスプレイに表示されるサブアドレスセパレータは、設定した文字で表示されます。 	

&C	CD信号制御	
機能	CD信号制御を設定します。	
書式	AT&C<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	
		0：ER-ON時には常にCD-ON 1：通信中は常にON（初期値）
入力例	AT&C0	

&D	ER信号制御	
機能	ER信号制御を設定します。	
書式	AT&D<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	
		0：パソコンのER信号をみる（初期値）
		1：ER信号を常時ONとみなす
		2：通信中のみパソコンのERをみる
入力例	AT&D1	

&S	DR信号制御	
機能	DR信号制御を設定します。	
書式	AT&S<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	
		0：ER-ON時には常にDR-ON（初期値）
		1：通信中は常にDR-ON
入力例	AT&S1	

パケット通信コマンド

&Z	短縮番号登録	
機能	短縮ダイヤルを登録します。	
書式	AT&Z<パラメータ1><=パラメータ2></パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	短縮番号(0~9の数字)
	<パラメータ2>	相手アドレス
	<パラメータ3>	相手サブアドレス
入力例	AT&Z0=012345678/910	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • Dチャンネルパケット通信を利用する場合は、相手アドレスは最大15桁で0~9の数字が使用できます。 • Dチャンネルパケット通信を利用する場合は、相手サブアドレスは、最大38桁で0~9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は、相手サブアドレス指定なしとみなします。 • /は/Sコマンドで変更できます。 	

#D	切断理由表示	
機能	Dチャンネルパケット通信の切断情報を表示します。	
書式	AT#D	
入力例	AT#D	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • TYPE=のあとにパケットタイプ、CAUSE=切断理由、DIAG=診断符号が表示されます。(●P390、392) 	

¥Q	フロー制御	
機能	フロー制御方式を設定します。	
書式	AT¥Q<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0 : フロー制御なし
		2 : CSフロー制御
		3 : RS-CSフロー制御(初期値)
入力例	AT¥Q0	

\$N	RS-232Cポートの設定	
機能	RS-232Cポートを設定します。	
書式	AT\$N<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1><パラメータ2>	1=0 : 非同期通信する(初期値)
		1=1 : 非同期/同期PPP変換する
		1=2 : PIAFS通信する
		1=3 : Dチャンネルパケット通信する
		2=0 : 相手番号識別着信しない(初期値)
		2=1 : 相手番号識別着信する
入力例	AT\$N1=3	

!SH	相手番号識別着信番号表示
機能	登録されている相手番号識別着信番号を表示します。
書式	AT!SH
入力例	AT!SH

!SZ	相手番号識別着信番号登録	
機能	相手番号識別着信番号を登録します。	
書式	AT!SZ<パラメータ1>=<パラメータ2></パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	0～29（最大30件登録可能）
	<パラメータ2>	相手番号識別着信番号アドレス（電話番号）
	<パラメータ3>	相手番号識別着信番号サブアドレス
入力例	AT!SZ0=0312345678/123	
補足	<ul style="list-style-type: none"> サブアドレスのみ入力すると、「ERROR」と表示されます。 相手番号識別着信番号アドレスは、最大15桁で0～9の数字が使用できます。 相手番号識別着信番号サブアドレスは、最大38桁で0～9の数字が使用できます。 	

\$S	パラメータ・パソコン速度保存
機能	ATコマンドで設定したパラメータや自動的に検出したパソコン側の通信速度を保存します。
書式	AT\$S
入力例	AT\$S
補足	<ul style="list-style-type: none"> 短縮・識別番号は、設定のたびに保存されますので、本コマンドで保存する必要はありません。

%P	PADパラメータ設定	
機能	通信相手のPADパラメータを設定します。	
書式	AT%P<パラメータ1>=<パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	通信相手のPADパラメータ（X.28）の1～22の設定変更
入力例	AT%P2=0	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 本コマンドは、オンラインコマンドモードで入力してください。 相手から制御できる本装置のパラメータは、レジスタの2～4、12のみです。 	

P	レジスタ設定	
機能	レジスタのポインタを設定します。	
書式	ATP<パラメータ1>=<パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：レジスタの内容表示 1～54、56：レジスタ設定
	<パラメータ2>	設定値（☛P385）
入力例	ATP31=1	

パケット通信コマンド

S	Sレジスタポインタ	
機能	Sレジスタのポインタを設定します。	
書式	ATS<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0~7 : Sレジスタ (初期値 : 0)
入力例	ATS0	

?	Sレジスタの内容表示	
機能	現在のSレジスタポインタが示すレジスタの内容を表示します。	
書式	AT?	
入力例	AT?	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • Sコマンドと続けることができます。 例 ATS0+AT? ATS0?	

=	Sレジスタ設定	
機能	現在のSレジスタポインタの示すレジスタの内容を設定します。	
書式	AT=<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	設定値 (●P384)
入力例	AT=2	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • Sコマンドと続けることができます。 例 ATS0+AT=2 ATS0=2	

+++	エスケープシーケンス	
機能	データ通信中に回線を切らずにコマンドモードへ戻し、コマンドを入力できる状態にします。	
書式	+++	
入力例	+++	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • データ通信を停止し、1秒間待ってから「+++」を入力してください。 • また「+」と「+」の間は1秒以内に入力してください。 • エスケープ文字は、S2レジスタで変更できます。 • 通信状態へ戻すには、Oコマンドを入力します。「CONNECT」が表示され通信状態に戻ります。 	

リザルトコード一覧

文字	意味	説明
BUSY	相手通信中	相手が話中のため接続に失敗したときに送出されます。
OK	コマンド正常終了	次の条件のとき送出されます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが正常であったとき (A,D,Oコマンド実行時はなし) • エスケープコマンド入力後、オンラインコマンドモードに入るとき • オンラインコマンドモード時にHコマンドで通信が切断されたとき
CONNECT	相手端末との接続完了	発着信の結果、相手と通信状態になったとき送出されます。
CONNECT [ユーザーデータ]		ユーザーデータの付加は、Wコマンドで設定します。
CONNECT1200		回線速度スループットクラスが1 200 bit/sで接続完了しました。
CONNECT2400		回線速度スループットクラスが2 400 bit/sで接続完了しました。
CONNECT4800		回線速度スループットクラスが4 800 bit/sで接続完了しました。
CONNECT9600		回線速度スループットクラスが9 600 bit/sで接続完了しました。
RING	着信通知	着信があった場合、応答するまで約2秒間隔で通知されます。
RING相手アドレス/サブアドレス[ユーザーデータ]		相手アドレス、相手サブアドレス、ユーザーデータの付加は、Wコマンドで設定します。
NO CARRIER	回線切断	通信相手との接続に失敗したときに送出されます。また、通信中なんらかの原因で切断したときも送出されます。
NO CARRIER相手アドレス/サブアドレス[ユーザーデータ]		相手アドレス、相手サブアドレス、ユーザーデータの付加は、Wコマンドで設定します。
ERROR	不正コマンド	次の条件のとき送出されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 不正なコマンドが入力されたとき • コマンド入力が最大文字数を越えたとき • 登録されていない短縮ダイヤルで発信しようとしたとき • パソコンのER信号がオフのときに発信したとき • アナログポートを使用中に \$ A、\$ B、\$ C、\$ D コマンドを実行しようとしたとき • Dコマンドで発信しようとしたとき、INSネット64の同期が外れていたとき • 本装置に「リスタート」や「ツウシンフカ」が表示されているときに、発信しようとしたとき

V.25bisコマンド

V.25bisコマンドで通信するとき、本装置とパソコン間のデータ速度とフォーマットは、次のように固定されますので、パソコンの設定を合わせてください。

データ速度 : 9 600 bit/s

フォーマット : 非同期、8ビット、パリティなし、ストップビット1

コマンド形式

V.25bisコマンドは、以下の形式で入力します。

- CRコードで終わります。
- 文字は半角を使用してください。
- コマンドの英字は、大文字でも小文字でもかまいません。
- コードはアスキーを使用します。

データフォーマット

V.25bisコマンドおよびインディケーションのデータフォーマットは、以下のとおりです。

コマンド/インディケーション	CR
----------------	----



お知らせ

- Windows[®] 98 (システム : Microsoft Windows98 4.10.1998) のハイパーターミナルでは、V.25bisコマンドモードの手動応答時は着信メッセージが画面に表示されないため使用できません。自動応答でご使用ください。

V.25bisコマンド詳細

CIC	
機能	DICコマンドの設定を解除します。また着信時に本コマンドで手動応答します。
書式	CIC <パラメータ1 >
パラメータ	<パラメータ1 > [ユーザデータ
入力例	CIC
補足	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザデータは最大128桁で次の文字が使用できます。 0~9、*、#、英字 • ユーザデータの前には[を入れてください。 • ユーザデータは、ファーストセレクト要求ファシリティが付加されたCNパケットを受信した場合に有効となります。

CRN,CRNX		
機能	発信して相手呼び出します。	
書式	CRN<パラメータ1></パラメータ2><パラメータ3> CRNX<パラメータ1></パラメータ2><パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	相手アドレス(相手電話番号) \$相手アドレス(着信課金要求を付加して発信)
	<パラメータ2>	相手サブアドレス
	<パラメータ3>	[ユーザデータ]
入力例	CRN123456789[ABCD]	
補足	<ul style="list-style-type: none"> 相手電話番号は最大15桁で0~9の数字が使用できます。(その他の文字は使用しても無視されます) 相手サブアドレスは、最大38桁で0~9の数字が使用できます。また/以降を省略した場合は、サブアドレス指定なしとみなされます。 ユーザデータは、ファーストセレクト機能を使用すると最大128桁で次の文字が使用できます。通常は16桁使用できます。 0~9、*、#、英字 ユーザデータのの前には[を入れてください。 	

CSD		
機能	接続時にCS信号をOFF後、ONにするまでの遅延時間を指定します。	
書式	CSD<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0:20 m秒(初期値) 1:40 m秒 2:80 m秒
	入力例	CSD1

DIC	
機能	着信に対する自動応答をできないようにします。着信時に実行すると着信拒否になります。
書式	DIC

FLW		
機能	フロー制御方式を指定します。	
書式	FLW<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	0:フロー制御なし 2:CSフロー制御 3:RS-CSフロー制御(初期値)
	入力例	FLW0

パケット通信コマンド

PRO	
機能	プロファイル番号を指定します。
書式	PRO<パラメータ1>
パラメータ	<パラメータ1> 0~9 : プロファイル番号 (初期値0)
入力例	PRO3
補足	• 本データは保存されません。

REG					
機能	各レジスタの設定と設定値の表示を行います。				
書式	REG<パラメータ1><=パラメータ2>				
パラメータ	<table border="1"> <tr> <td><パラメータ1></td> <td>0 : V.2.5bisコマンドの設定値とPレジスタの設定値を表示</td> </tr> <tr> <td><パラメータ2></td> <td>3 : V.2.5bisコマンドの設定値を表示 Pn=m : Pnはレジスタ、mは設定値</td> </tr> </table>	<パラメータ1>	0 : V.2.5bisコマンドの設定値とPレジスタの設定値を表示	<パラメータ2>	3 : V.2.5bisコマンドの設定値を表示 Pn=m : Pnはレジスタ、mは設定値
<パラメータ1>	0 : V.2.5bisコマンドの設定値とPレジスタの設定値を表示				
<パラメータ2>	3 : V.2.5bisコマンドの設定値を表示 Pn=m : Pnはレジスタ、mは設定値				
入力例	REG0 REGP3=6				

RIF	
機能	Dチャンネルパケット通信の切断情報を表示します。
書式	RIF
補足	• LIFインディケーションで切断情報が表示されます。

RST			
機能	リセットします。		
書式	RST<パラメータ1>		
パラメータ	<table border="1"> <tr> <td><パラメータ1></td> <td>0 : 現在指定されているプロファイルの内容を読み込む 1 : プロファイルデータすべての設定値をお買い求め時の設定に戻す</td> </tr> </table>	<パラメータ1>	0 : 現在指定されているプロファイルの内容を読み込む 1 : プロファイルデータすべての設定値をお買い求め時の設定に戻す
<パラメータ1>	0 : 現在指定されているプロファイルの内容を読み込む 1 : プロファイルデータすべての設定値をお買い求め時の設定に戻す		
入力例	RST1		

SCC	
機能	現在の設定値をPROコマンドで指定したプロファイルに登録します。
書式	SCC

SET	
機能	コード体系を自動認識し、VALを返します。
書式	SET
補足	• V.2.5bisコマンド使用時は、本装置とパソコン間の通信速度は9600 bit/s、8ビット、パリティなし、ストップビット1に固定されます。

インディケーション

CFI		
機能	CRNコマンド後、相手との接続がうまくいかなかったときその理由を通知します。	
書式	CFI<パラメータ1><[パラメータ2]>	
パラメータ	<パラメータ1>	NT：網または相手何らかの障害のため接続できない ET：相手が通信中である RT：相手応答待ちタイマタイムアウト AB：その他、発信終了後接続できず DC：ER OFFで発信失敗
	<パラメータ2>	ユーザデータ
出力例	CFIET	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • <パラメータ2>は、<パラメータ1>が「AB」のときのみ付加されます。また、付加するか否かは、P62レジスタで設定します。 	

INC		
機能	着信があった場合、応答するまで2秒間隔で通知します。	
書式	INC<パラメータ1></パラメータ2><[パラメータ3]>	
パラメータ	<パラメータ1>	発信側アドレス（相手電話番号）
	<パラメータ2>	発信側サブアドレス
	<パラメータ3>	ユーザデータ
出力例	INC123456789[ABCD]	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 付加情報を付加するか否かはP61レジスタで設定します。 	

INV	
機能	コマンドが不正であったとき送出します。
書式	INV

LIF		
機能	切断理由、診断符号を表示します。	
書式	LIF<パラメータ1><,パラメータ2><,パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	パケットタイプ
	<パラメータ2>	切断理由
	<パラメータ3>	診断符号
出力例	LIF CI,019,066	

VAL	
機能	コマンドが正常であったとき送出します。
書式	VAL

X.28PADコマンド

X.28PADコマンドで通信するとき、本装置とパソコン間のデータ速度とフォーマットは、次のように固定されますので、パソコンの設定を合わせてください。

データ速度 : 9 600 bit/s

フォーマット : 非同期、8ビット、パリティなし、ストップビット1

コマンド形式

X.28PADコマンドは、以下の形式で入力します。

コマンド	CRまたは+
------	--------

- 文字は半角を使用してください。
- コマンドの英字は、大文字でも小文字でもかまいません。
- コードはアスキーを使用します。
- コマンドとパラメータの間にはスペースが必要です。

PADサービス信号

PADサービス信号は、次の形式で入力します。

CR	LF	PADサービス信号	CR	LF
----	----	-----------	----	----

- コードはアスキーを使用します。

エスケープ

通信中にP1レジスタで設定したキャラクタを入力するとコマンドモードになります。(初期値 : DLE : CTRL+P)

コマンドを入力したあとは、自動的に通信モードに戻ります。



お知らせ

- Windows® 98 (システム : Microsoft Windows98 4.10.1998) のハイパーターミナルでは、X.28PADコマンドの手動応答時は着信メッセージが画面に表示されないため使用できません。自動応答でご使用ください。

X.28 PAD コマンド 詳細

ACK	
機能	Dチャンネルパケットの着信に手動応答します。
書式	ACK <[パラメータ1]>
パラメータ	<パラメータ1> ユーザデータ
入力例	ACK ACK [ABCD]
補足	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザデータは最大128桁で次の文字が使用できます。 0～9、*、#、英字 • ユーザデータの前には[を入れてください。 • ユーザデータは、ファーストセレクト要求ファシリティが付加されたCNパケットを受信した場合に有効となります。

CALL	
機能	発信して相手を呼び出します。
書式	CALL <パラメータ1> <パラメータ2> </パラメータ3> <,パラメータ4> <:パラメータ5> <,[パラメータ6>
パラメータ	<パラメータ1> \$: 着信課金要求を付加して発信
	<パラメータ2> 相手アドレス (相手電話番号)
	<パラメータ3> 相手サブアドレス
	<パラメータ4> 43～46 : PADパラメータ番号
	<パラメータ5> PADパラメータ値
	<パラメータ6> ユーザデータ
入力例	CALL 12345678/1234 CALL \$ 12345678,43:8,45:4,[ABCD]
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 相手電話番号は最大15桁で0～9の数字が使用できます。(その他の文字は使用しても無視されます) • 相手サブアドレスは、最大38桁で0～9の数字が使用できます。また/以降を省略した場合は、サブアドレス指定なしとみなされます。 • ユーザデータは、ファーストセレクト機能を使用すると最大128桁で次の文字が使用できます。通常は16桁使用できます。 0～9、*、#、英字 • ユーザデータの前には[を入れてください。 • <,パラメータ4> <:パラメータ5> は、連続して入力することができます。

パケット通信コマンド

CLR	
機能	通信を切断します。
書式	CLR <[パラメータ1]>
パラメータ	<パラメータ1> ユーザデータ
入力例	CLR CLR [ABCD]
補足	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザデータは最大128桁で次の文字が使用できます。 0~9、*、#、英字 • ユーザデータの前には[を入れてください。 • ユーザデータは、ファーストセレクト要求ファシリティが付加されたCNパケットを受信した場合に有効となります。

ICLR	
機能	解放勧誘データパケットを送出します。
書式	ICLR

INT	
機能	割り込みパケットを送出します。
書式	INT

PAR?			
機能	PROFで指定されているプロファイルの選択されたPADパラメータの現在値を表示します。		
書式	PAR? <パラメータ1>		
パラメータ	<table border="1"> <tr> <td><パラメータ1></td> <td>なし：PROFで指定されているプロファイルのすべてのPADパラメータの現在値を表示 1~62：表示するPADパラメータの番号</td> </tr> </table>	<パラメータ1>	なし：PROFで指定されているプロファイルのすべてのPADパラメータの現在値を表示 1~62：表示するPADパラメータの番号
<パラメータ1>	なし：PROFで指定されているプロファイルのすべてのPADパラメータの現在値を表示 1~62：表示するPADパラメータの番号		
入力例	PAR? 1,2,3,9,15		
補足	<ul style="list-style-type: none"> • パラメータは連続して入力することができます。 連続して入力するときは、「,」でつなげます。 		

PROF			
機能	PADパラメータ値のリセットやプロファイル番号の指定をします。		
書式	PROF <パラメータ1>		
パラメータ	<table border="1"> <tr> <td><パラメータ1></td> <td>なし：PADパラメータの値を直前にセーブしたプロファイル値にリセット 0~9：プロファイル番号（初期値0）</td> </tr> </table>	<パラメータ1>	なし：PADパラメータの値を直前にセーブしたプロファイル値にリセット 0~9：プロファイル番号（初期値0）
<パラメータ1>	なし：PADパラメータの値を直前にセーブしたプロファイル値にリセット 0~9：プロファイル番号（初期値0）		
入力例	PROF		
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 本データはバックアップされません。 		

RESET	
機能	リセットパケットRQを送出します。
書式	RESET

RPAR?	
機能	リモートPADの前PADパラメータを表示します。
書式	RPAR?

RSET		
機能	リモートPADのPADパラメータ値を設定します。	
書式	RSET<パラメータ1><:パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~18: PADパラメータ番号
	<パラメータ2>	PADパラメータ値
入力例	RSET 2:1,5:3	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • <パラメータ1><:パラメータ2>は連続して入力することができます。連続して入力するときは、「,」でつなげます。 	

RSET?		
機能	リモートPADのPADパラメータ値の設定と表示を行います。	
書式	RSET?<パラメータ1><:パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~18: PADパラメータ番号
	<パラメータ2>	PADパラメータ値
入力例	RSET? 2:1,5:3	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • <パラメータ1><:パラメータ2>は連続して入力することができます。連続して入力するときは、「,」でつなげます。 	

SAVE	
機能	PADパラメータをPROFコマンドで指定したプロファイルにセーブします。
書式	SAVE

SET		
機能	PROFで指定されているプロファイルのPADパラメータ値を設定します。	
書式	SET<パラメータ1><:パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	1~62: PADパラメータ番号
	<パラメータ2>	PADパラメータ値
入力例	SET 2:1,5:3	
補足	<ul style="list-style-type: none"> • <パラメータ1><:パラメータ2>は連続して入力することができます。連続して入力するときは、「,」でつなげます。 	

パケット通信コマンド

SET?	
機能	PROFで指定されているプロファイルのPADパラメータ値を設定と表示を行います。
書式	SET? <パラメータ1> <:パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1> 1～62：PADパラメータ番号
	<パラメータ2> PADパラメータ値
入力例	SET? 2:1,5:3
補足	<ul style="list-style-type: none"> • <パラメータ1> <パラメータ2> は連続して入力することができます。連続して入力するときは、「,」でつなげます。

STAT	
機能	呼状態を表示します。
書式	STAT
補足	<ul style="list-style-type: none"> • アイドル状態、通信中、相手呼び出し中でのみ使用可能です。

PADサービス信号

ACK ACKNOWLEDGED	
機能	ACKコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	ACK ACKNOWLEDGED

CALL BEING ESTABLISHED	
機能	相手呼び出し中にSTATコマンドを受け付けたとき送出します。
書式	CALL BEING ESTABLISHED <パラメータ1>
パラメータ	<パラメータ1> 相手電話番号

CALL CLEARED	
機能	次のとき送出します。 (1) 網から切断されたとき (2) リモート端末から切断されたとき (3) X.29端末からの切断勧誘により切断されたとき
書式	CALL CLEARED <パラメータ1> <:パラメータ2> % <パラメータ3>
パラメータ	<パラメータ1> 切断原因
	<パラメータ2> 診断符号
	<パラメータ3> ユーザデータ
補足	<ul style="list-style-type: none"> 切断原因 <ul style="list-style-type: none"> DTE : DTE復旧 OCC : 相手DTEビジー INV : 不正ファシリティ要求 NC : 網輻輳 DER : 障害 NA : 接続規制 NP : 接続不可 RPE : リモート手順誤り ERR : ローカル手順誤り RD : RPOA障害 RNA : 着信課金許容未加入 DIC : 相手プロトコル不一致 FNA : ファーストセレクト未登録

CALL CONNECTED	
機能	通信中に状態遷移したときに送出します。
書式	CALL CONNECTED <パラメータ1>
パラメータ	<パラメータ1> 相手電話番号

CALL IN PROGRESS	
機能	エスケープモードでSTATコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	CALL IN PROGRESS <パラメータ1>
パラメータ	<パラメータ1> 相手電話番号

CALL REQUEST ACKNOWLEDGED	
機能	CALLコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	CALL REQUEST ACKNOWLEDGED

CLEAR REQUEST ACKNOWLEDGED	
機能	エスケープ状態でCLRコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	CLEAR REQUEST ACKNOWLEDGED

パケット通信コマンド

COMMAND ERROR	
機能	PADコマンドエラーが発生したときに送出します。
書式	COMMAND ERROR <パラメータ1>
パラメータ	<パラメータ1> エラーメッセージ
補足	<ul style="list-style-type: none"> エラーメッセージ INCORRECT SYNTAX OR CHARACTERS : コマンドフォーマット誤り 例) デリミッタが「,」でない パラメータが不要なPADコマンドにセットされた ILLEGAL PARAMETER REFERENCE : パラメータ参照番号誤り 例) CALL ***,15:1 ILLEGAL PARAMETER VALUE : パラメータ値誤り 例) CALL ***,2:15 UNKNOWN COMMAND : 未サポートコマンド SEQUENCE ERROR : 現在ラインステータスでコマンド使用不可 例) アイドルステータスでのCLRコマンド INVALID CODE : コマンドに不正なキャラクタが使用された NOT PERMISSIBLE : 許可されないコマンドが入力された

COMMAND TIME OUT	
機能	エスケープモードでコマンド入力があったとき（3分間）にタイムアウトし、通信モードに戻ると同時に送出します。
書式	COMMAND TIME OUT

ICLR ACKNOWLEDGED	
機能	エスケープモードでICLRコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	ICLR ACKNOWLEDGED

IDLE FREE	
機能	アイドル状態でSTATコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	IDLE FREE

INCOMING CALL		
機能	CNパケットを受信したときに送出します。	
書式	INCOMING CALL <パラメータ1>PSZ<(パラメータ2:パラメータ3)>WSZ<(パラメータ4:パラメータ5)> THP<(パラメータ6:パラメータ7)>RVC <パラメータ8> %<パラメータ9>	
パラメータ	<パラメータ1>	相手電話番号
	<パラメータ2>	起呼パケットサイズ、被呼パケットサイズ
	<パラメータ3>	
	<パラメータ4>	起呼ウィンドウサイズ、被呼ウィンドウサイズ
	<パラメータ5>	
	<パラメータ6>	起呼スループットクラス、被呼スループットクラス
	<パラメータ7>	
	<パラメータ8>	ファーストセレクト指示
	<パラメータ9>	ユーザデータ
補足	<ul style="list-style-type: none"> PSZはパケットサイズ、THPはスループットクラス、RVCは着信課金を示します。 ファーストセレクト指示、ファーストセレクト要求があった場合のみ表示します。 制限なし FAST SERECT:PLEASE ANSWER ACK OR CLR 制限あり FAST SERECT:PLEASE ANSWER CLR 	

INTERRUPT	
機能	ITパケットを受信したときに送出します。
書式	INTERRUPT

INT ACKNOWLEDGED	
機能	エスケープモードでINTコマンドを受信したときに送出します。
書式	INT ACKNOWLEDGED

INTERRUPT CONFIRMED	
機能	IFパケットを受信したときに送出します。
書式	INTERRUPT CONFIRMED

パケット通信コマンド

PARAMETER LIST	
機能	PAR?,SET?,RPAR?,RSET?コマンドを受け付けたときに送出します。
書式	PARAMETER LIST <パラメータ1> <:パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1> P001~P053 : Pレジスタ
	<パラメータ2> レジスタ値
補足	<ul style="list-style-type: none"> • RPAR?,RSET?コマンドを受け付けたときは、<パラメータ1>はP001~P022 : Pレジスタになります。

PROFILE ACCEPTED	
機能	PROFコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	PROFILE ACCEPTED

READY	
機能	PAD起動時、(ER信号ON時)に送出します。
書式	READY

REMOTE SET ACKNOWLEDGED	
機能	RSETコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	REMOTE SET ACKNOWLEDGED

RESET	
機能	リセットパケット (RI) を受信したときに送出します。
書式	RESET <パラメータ1> <:パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1> リセット原因
	<パラメータ2> 診断符号
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 診断符号 リセット原因 DTE : 相手によるリセット DER : 故障 RPE : リモート手順誤り ERR : ローカル手順誤り NC : 網輻輳 RDO : リモートDTE運用可 NOP : 網運用可 DIC : 相手プロトコル不一致 ND : 網障害

RESET ACKNOWLEDGED	
機能	RESETコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	RESET ACKNOWLEDGED

RESTART	
機能	リスタートパケット (SI) を受信したときに送出します。
書式	RESTART <パラメータ1> <:パラメータ2>
パラメータ	<パラメータ1> リスタート原因 <パラメータ2> 診断符号
補足	<ul style="list-style-type: none"> 診断符号 <ul style="list-style-type: none"> リセット原因 ERR : ローカル手順誤り NC : 網輻輳 NOP : 網運用可

SAVE PROFILE ACKNOWLEDGED	
機能	SAVEコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	SAVE PROFILE ACKNOWLEDGED

SET ACKNOWLEDGED	
機能	SETコマンドを受け付けたときに送出します。
書式	SET ACKNOWLEDGED

%	
機能	次のときに送出します。 <ul style="list-style-type: none"> データ転送フェーズ時にエスケープキャラクタを受信したとき 次の場合を除くPADサービス信号送信時 データ転送フェーズ中 / データ転送フェーズに移行中
書式	%

XXX	
機能	行削除が起動されたときに表示します。
書式	XXX

表示キャラクタ	
機能	行表示が起動されたときに表示します。
書式	表示キャラクタ

レジスタ一覧

Sレジスタ

ATコマンドでのみご利用になれます。

レジスタ		設定値	説明	初期値
S0	自動応答	0	自動応答しない	1
		1 ~ 255	設定値の数だけRINGを送出後、自動応答する（RING送出間隔は約1秒）	
S1	RING送出回数	0 ~ 255	RINGを送出した回数が表示される（参照専用、設定不可）	0
S2	エスケープ文字	0	エスケープ文字なし	43 (+)
		1 ~ 127	設定した文字をエスケープとする（IA5キャラクタコード）	
S3	復帰文字	0 ~ 127	設定した文字を復帰文字とする（IA5キャラクタコード）	13 (CR)
S4	改行文字	0 ~ 127	設定した文字を改行文字とする（IA5キャラクタコード）	10 (LF)
S5	後退文字	0 ~ 32, 127	設定した文字を後退文字とする（IA5キャラクタコード）	8 (BS)
S7	発信時相手応答待ち時間	1 ~ 50	発信時、設定時間（秒）以内に応答がない場合は切断する	30

Pレジスタ

レジスタ番号は、PADパラメータ番号を表します。
 コマンドにより設定できるレジスタが異なります。各コマンドで設定できないレジスタは、初期値（プロファイル0）の値に設定されています。

Pレジスタの設定コマンド
 ATコマンド：ATP
 V.25bisコマンド：REGP
 X.28PADコマンド：SET

レジスタ	設定可能コマンド	説明
P1	X.28PAD	エスケープキャラクタ
		エスケープキャラクタを設定する
		設定値：0,1,2～126
		0：不可能 1：DLE (CTRL+P) (初期値) 32～126：選択可能な10進数に対応するIA5キャラクタ
P2	AT V.25bis X.28PAD	通信中のエコー
		パケット通信中エコーバックするかどうかを設定する
		設定値：0,1
		0：なし (初期値) 1：あり
P3	AT V.25bis X.28PAD	パケット送信キャラクタ
		パケットを作成する契機となる文字 (キャラクタ) を設定する
		設定値：0,2,6,18,126
		0：なし 2：CR,LF (初期値) 6：CR,ESC,BEL,ENQ,ACK 18：CR,EOT,EXT 126：00h～1Fh,DLE (7Fh)
P4	AT V.25bis X.28PAD	アイドルタイマ
		アイドルタイマ値を設定する。設定値×50 m秒がタイマ値になる
		設定値：0～255 (初期値0)
P5	AT V.25bis X.28PAD	フロー制御
		フロー制御方式を設定する
		設定値：0,2,3
		0：なし 2：CSフロー 3：RS-CSフロー (初期値)

(次ページへ続く)

レジスタ	設定可能コマンド	説明
P6	X.28PAD	PADサービス信号
		接続する端末へPADサービス信号を送出するかどうかを設定する
		設定値：0,1,5
		0：端末に対しPADサービス信号を送出ししない 1：標準形PADサービス信号を送出する 5：標準形PADサービス信号とプロンプトPADサービス信号を送出（初期値）
P7	X.28PAD	ブレーク信号制御
		データ端末からブレーク信号受信時のPAD動作を設定する 設定値：0（何もしない、固定）
P8	X.28PAD	データ破棄
		データ通信中に網から受信したパケットデータを接続端末に送らずPADで破棄するかどうかを設定する
		設定値：0,1
		0：端末に対し通常に送出（初期値） 1：破棄する
P9	X.28PAD	CR後のパディング
		CR後に挿入するパディングキャラクタ数を設定する パディングキャラクタはNULL（00h）
		設定値：0,1～32
		0：パディングなし（初期値） 1～32：CR後に挿入するパディングキャラクタ数
P10	X.28PAD	1行の字数指定
		接続端末の1行あたりの字数を設定する 本パラメータで指定したグラフィックキャラクタ数を端末に対して送出した時PADはその直後にCR,LFを挿入する
		設定値：0,32～255
		0：印字数制限なし（初期値） 32～255：1行あたりの印字数
P11	V.25bis	端末速度
	X.28PAD	端末速度を読み出す 本パラメータは読み出し専用で設定後変更はできない 14：9 600 bit/s（固定）
P12	AT	PADフロー制御
	V.25bis	PADフロー制御方式を設定する
	X.28PAD	P5と連動したパラメータ
	設定値：0,2,3	
		0：なし
		2：CSフロー
		3：RS-CSフロー（初期値）

レジスタ	設定可能コマンド	説明
P13	X.28PAD	CR後のLF挿入
		CRキャラクタ直後にLFキャラクタを挿入するかどうかとその挿入条件を設定する
		設定値：0,1,4,5,6,7
		0：挿入なし（初期値） 1：網からのデータにCRがあった場合、LFを挿入して端末に送出 4：エコーするデータにCRがあった場合、LFを挿入して端末に送出 5：エコーまたは網からのデータにCRがあった場合、LFを挿入して端末に送出 6：網へのデータ（行表示データ含む）にCRがあった場合、LFを挿入して網に送出およびエコーするデータにCRがあった場合、LFを挿入して端末に送出 7：エコーまたは網からのデータにCRがあった場合、LFを挿入して網に送出および網へのデータ（行表示データ含む）にCRがあった場合、LFを挿入して網に送出
P14	X.28PAD	LF後のパディング数
		LFキャラクタ直後に挿入するパディングキャラクタ数を指定する パディングキャラクタはNULL（00h）
		設定値：0,1～32
		0：パディングなし（初期値） 1～32：CR後挿入されたパディングキャラクタ数
P15	X.28PAD	編集機能
		データ通信中に編集機能を使用するかどうかを設定する 設定値：0,1
		0：使用しない（初期値） 1：使用する
P16	X.28PAD	キャラクタ削除
		編集機能によるキャラクタ削除を起動するキャラクタを指定する
		設定値：0～7,8,9～127
		0～7：選択可能10進数に対応するIA5キャラクタ 8：BS（CTRL+H）（初期値） 9～127：選択可能10進数に対応するIA5キャラクタ

（次ページへ続く）

レジスタ	設定可能コマンド	説明
P17	X.28PAD	行削除
		編集機能による行削除を起動するキャラクタを指定する
		設定値：0～23,24,25～127
		0～23：選択可能10進数に対応するIA5キャラクタ 24：CAN (CTRL+X)(初期値) 25～127：選択可能10進数に対応するIA5キャラクタ
P18	X.28PAD	行再表示
		編集機能による行再表示を起動するキャラクタを指定する
		設定値：0～17,18,19～127
		0～17：選択可能10進数に対応するIA5キャラクタ 18：DC2 (TRL+R)(初期値) 19～127：選択可能10進数に対応するIA5キャラクタ
P30	AT V.25bis X.28PAD	ファシリティ付加
		CRパケットにファシリティを付加する
		設定値：0,1
		0：付加しない 1：付加する(初期値)
P31	AT V.25bis X.28PAD	発信時ファーストセレクト
		発信時にファーストセレクトを指定する
		設定値：0,1,2
		0：指定なし(初期値) 1：応答制限のないファーストセレクト要求 2：応答制限のあるファーストセレクト要求
P32	AT V.25bis X.28PAD	発呼要求パケットに含めるプロトコルID形式
		発呼要求パケットに含めるプロトコルID形式を設定する
		ユーザデータを最大長128バイトで送信する場合は、0にすること
		設定値：0,1,2
P33	AT V.25bis X.28PAD	0：なし 1：無手順端末表示(初期値) 2：電話網での無手順端末表示
		着信課金要求のある着信許可
		着信課金要求のある着信の許可を設定する
		設定値：0,1
P34	AT V.25bis X.28PAD	0：着信拒否(初期値) 1：着信許可
		リセットパケット受信動作
		通信中にリセット指示パケットを受信したときの動作を設定する
		設定値：0,1
		0：切断しない 1：切断する(初期値)

レジスタ	設定可能コマンド	説明
P43	AT V.25bis X.28PAD	送信パケットサイズ
		送信パケットサイズを設定する P30=1のときにユーザファシリティとして付加する
		設定値：7,8
		7：128オクテット 8：256オクテット（初期値）
P44	AT V.25bis X.28PAD	受信パケットサイズ
		受信パケットサイズを設定する P30=1のときにユーザファシリティとして付加する
		設定値：7,8
		7：128オクテット 8：256オクテット（初期値）
P45	AT V.25bis X.28PAD	送信ウィンドウサイズ
		送信ウィンドウサイズを設定する P30=1のときにユーザファシリティとして付加する
		設定値：2～5（初期値4）
P46	AT V.25bis X.28PAD	受信ウィンドウサイズ
		受信ウィンドウサイズを設定する P30=1のときにユーザファシリティとして付加する
		設定値：2～5（初期値4）
P51	AT V.25bis X.28PAD	自己アドレス
		自己アドレスを設定する P30レジスタの設定に関係しない
		設定値：最大15桁の番号（数字のみ）（初期値なし）
P52	AT V.25bis X.28PAD	自己サブアドレス
		RS-232Cポート用の自己サブアドレスを設定する P30レジスタの設定に関係しない
		設定値：最大38桁の番号（数字のみ）（初期値なし）
P53	AT V.25bis X.28PAD	着信応答通知情報
		着信応答したときに、相手に通知するユーザデータを設定する
		設定値：最大128バイトのデータ（0～9,*,#,英字）（初期値なし）
P54	AT V.25bis X.28PAD	背面USBポート用自己サブアドレス
		背面USBポート用の自己サブアドレスを設定する P30レジスタの設定に関係しない
		設定値：最大38桁の番号（数字のみ）（初期値なし）
P56	AT V.25bis X.28PAD	前面USBポート用自己サブアドレス
		前面USBポート用の自己サブアドレスを設定する P30レジスタの設定に関係しない
		設定値：最大38桁の番号（数字のみ）（初期値なし）

（次ページへ続く）

レジスタ	設定可能コマンド	説明
P61	V.25bis	INCの付加情報
		INC（インディケーション）の付加情報を設定する
		設定値：0,3
		0：付加しない（初期値） 3：付加する
P62	V.25bis	CFIABの付加情報
		CFIAB（インディケーション）の付加情報を設定する
		設定値：0,1
		0：付加しない（初期値） 1：付加する



お知らせ

- P16、P17、P18レジスタに同じキャラクタを設定した場合は、若い番号のレジスタが有効になります。
- Dチャンネルパケット通信では、Pレジスタで設定された自己アドレス、自己サブアドレスが使用されます。

切断理由一覧

CIパケットの切断理由

切断理由	コード
DTE復旧	000
相手DTEビジー	001
障害	009
リモート手順誤り	017
着信課金未登録	025
相手プロトコル不一致	033
ファーストセレクト未登録	041
不正ファシリティ要求	003
アクセス禁止	011
ローカル手順誤り	019
網輻輳	005
接続不可	013
RPOA障害	021



お知らせ

- コードが128以上は、通信相手端末が送出していますのでその仕様によります。

SIパケットの切断理由

リスタート原因	コード
ローカル手順誤り	001
網輻輳	003
網運用可	007

RIパケットの切断理由

リスタート原因	コード
DTEリセット	000
障害	001
リモート手順誤り	003
ローカル手順誤り	005
網輻輳	007
リモートDTE運用可	009
網運用可	015
相手プロトコル不一致	017
網障害	029



お知らせ

- コードが128以上は、通信相手端末が送出していますのでその仕様によります。

診断符号一覧

診 断	コード	使用されるパケット種別
追加情報なし	000	CI,RI,SI
P(S)が無効	001	RI
P(R)が無効	002	RI
状態に適合しないパケットタイプ	016	CI,RI,SI
状態r1に対して	017	CI,RI,SI
状態r2に対して	018	CI,RI,SI
状態r3に対して	019	SI
状態p1に対して	020	CI
状態p2に対して	021	CI
状態p3に対して	022	CI
状態p4に対して	023	CI
状態p5に対して	024	CI
状態p6に対して	025	CI
状態p7に対して	026	CI
状態d1に対して	027	RI
状態d2に対して	028	RI
状態d3に対して	029	RI
非許容パケット	032	CI,RI,SI
未定義パケット	033	CI,RI,SI
一方向論理チャネルの呼	034	CI
PVCの無効パケットタイプ	035	RI
REJパケット非サポート	037	CI,RI
短すぎるパケット	038	CI,RI,SI
長すぎるパケット	039	CI,RI,SI
無効ゼネラル	040	CI,RI,SI
オクテット1のビット1から4およびオクテット2のビット1から8が「0」でないリスタートパケットあるいは登録パケット	041	CI,RI,SI
ファシリティに適合しないパケットタイプ	042	CI
非許容の割込確認パケット	043	RI
非許容の割込パケット	044	RI
非許容のリジェクトパケット	045	CI,RI
タイムアウト	048	CI,RI,SI
着呼パケットに対して	049	CI
切断指示パケットに対して	050	CI
リセット指示パケットに対して	051	RI,CI
リスタート指示パケットに対して	052	SI

診断	コード	使用されるパケット種別
呼設定、呼解放、あるいは登録の問題	064	CI
非許容のファシリティ / 登録の符号	065	CI
非許容のファシリティパラメータ	066	CI
無効被呼アドレス	067	CI
無効起呼アドレス	068	CI
無効ファシリティ / 登録長	069	CI
着呼禁止	070	CI
使用可論理チャネルなし	071	CI
発着呼衝突	072	CI
ファシリティの二重要求	073	CI
0でないアドレス長	074	CI
0でないファシリティ長	075	CI
期待されたファシリティなし	076	CI
CCITT要求DTEファシリティ不正	077	CI
その他	080	CI,RI,SI
DTEからの不適当な原因符号	081	CI,RI,SI
オクテット非整列	082	CI,RI,SI
Qビット設定矛盾	083	CI,RI
網間網上の問題	112	CI,RI,SI
リモート網の問題	113	CI,RI,SI
網間のプロトコル上の問題	114	CI,RI,SI
網間リンクの障害	115	CI,RI,SI
網間リンクビジー	116	CI
中継網ファシリティの問題	117	CI
リモート網のファシリティの問題	118	CI
網間ルーティングの問題	119	CI,RI
一時的なルーティングの問題	120	CI,RI
被呼DNIC不明	121	CI
保守作業中	122	CI,RI,SI


パケット通信設定記入シート

保守上で必要となる重要なものです。設置時に記入のうえ、大切に保管してください。
*は初期値です。

電話番号

装置名（製造月日）

設定スイッチの内容

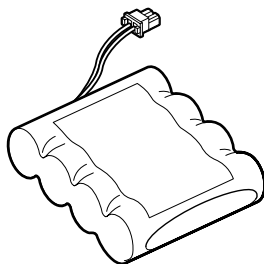
 ON
 1 DIP SW 8 OFF

Dチャンネルパケット

- | | | | | |
|--------|-----------------|-------------------------|----------------|-----------------|
| P1 | () エスケープキャラクタ | 不可能 | * DLE (CTRL+P) | _____ |
| P2 | () 通信中のエコー | * なし | | あり |
| P3 | () パケット送信キャラクタ | 使用しない | | |
| | | * CRまたはLF | | |
| | | CR, ESC, BEL, ENQ, ACK | | |
| | | CR, EOT, EXT | | |
| | | 00h ~ 1Fh, DLE | | |
| P4 | () アイドルタイマ | _____ | * 0 (使用しない) | |
| P5/P12 | () フロー制御 | なし | CSフロー | * RS-CSフロー |
| P6 | () PADサービス信号 | | | PADサービス信号を送出しない |
| | | | | 標準形PADサービス信号を送出 |
| | | * 標準形・プロンプトPADサービス信号を送出 | | |
| P7 | (0) ブレーク信号制御 | 何もしない (固定) | | |
| P8 | () データ破棄 | * 送出する | | 破棄する |
| P9 | () CR後のパディング | _____ | * なし | |
| P10 | () 1行の字数指定 | _____ | * なし | |
| P11 | (14) 端末速度 | 9 600 bit/s (固定) | | |

P13	() CR後のLF挿入	* なし	
		CR受信後	
		CRエコー後	
		CR受信後またはCRエコー後	
		CR送出時またはCRエコー後	
		CR受信後、CRエコー後、CR送出時	
P14	() LF後のパディング数	_____	* なし
P15	() 編集機能	使用する	* 使用しない
P16	() キャラクタ削除	_____	* BS (CTRL + H)
P17	() 行削除	_____	* CAN (CTRL + X)
P18	() 行再表示	_____	* DC2 (CTRL + R)
P30	() ファシリティ付加	付加しない	* 付加する
P31	() 発信時ファーストセレクト	* なし	
		制限なしファーストセレクト要求	
		制限ありファーストセレクト要求	
P32	() 発呼要求パケットプロトコルID形式	なし	
		* 無手順端末表示	
		電話網での無手順端末表示	
P33	() 着信課金要求のある着信許可	* 着信拒否	着信許可
P34	() リセットパケット受信動作	切断しない	* 切断する
P43	() 送信パケットサイズ	128オクテット	* 256オクテット
P44	() 受信パケットサイズ	128オクテット	* 256オクテット
P45	() 送信ウィンドウサイズ	2 3 *	4 5
P46	() 受信ウィンドウサイズ	2 3 *	4 5
P51	() 自己アドレス	_____	
P52	() 自己サブアドレス	_____	
P53	() 着信応答通知情報	_____	
P54	() 背面USBポート用自己サブアドレス	_____	
P56	() 前面USBポート用自己サブアドレス	_____	
P61	() INCの付加情報	* 付加しない	付加する
P62	() CFIABの付加情報	* 付加しない	付加する

本装置のオプションとして、電池動作モード用の充電式ニカド電池パックを別売しています。



INSメイトV70 MAX
Ni-Cdバッテリーパック

ボタン操作で、本装置の設定をお買い求め時の設定に戻すことができます。

1 Menuボタンを押す。

1 : チャクシンリレキ

2 Selectボタンを繰り返し押しして「4 : ショキカ」を表示させる。

4 : ショキカ

3 Enterボタンを押す。

4 Selectボタンを繰り返し押しして「2 : コウジョウシュッカジニショキカ」を表示させる。

2 : コウジ^シ ヨウシュッカ
ジ^シ ニショキカ

5 Enterボタンを押す。

「コウジョウシュッカジニショキカシマスカ」と表示されます。

6 Enterボタンを押す。

「ショキカチュウ」と表示され、設定内容がお買い求め時の内容に戻ります。

初期化を中止するときは、Menuボタンを押します。

(次ページへ続く)



ワンポイント

- 通信料金 / 通話料金の累計を初期化するには (▶P106)



お知らせ


- 初期化を行うと、イージーウィザード、イージーセットソフト、ATコマンド、電話機からの設定で、本装置に設定した内容はすべて無効になり、お買い求め時の内容に戻ります。

接続

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
POWERランプが点灯しない (液晶ディスプレイに何も表示されない)	電源プラグがコンセントから外れている	電源プラグを正しく差し込んでください	●P35
	電源スイッチが入っていない	電源スイッチの「 」を押して、電源を入れてください	●P35
	電源コードがパソコンのコンセントに差し込まれているため、パソコンの電源を入れないと通電しない	パソコンの電源を入れてください (この接続方法は電池動作モードを利用する場合、使用できなくなりますのでお勧めできません)	●P33、35
ディスプレイに「回線異常 レイヤ1ダウン」と表示される	INSネット64の電話機コードが外れている	付属品の電話機コードをしっかりと接続してください	●P35
	極性が反転している	極性切替(スイッチ)を切り替えてください	●P38
	INSネット64が開通していない	INSネット64が開通していないと使用できません INSネット64については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください	●P38
ディスプレイに「回線異常 レイヤ2ダウン」と表示される	本装置に異常がある	自己診断を行って、異常がないか確認してください	●P415
通信していないのにSD/RD (Send Data / Receive Data)ランプが点滅する	本装置をDOS/Vパソコンのプリンタポートに接続している	COMポートに正しく接続してください	●P35
	パソコンが電源を切ってもSD信号を送出している	パソコンの電源コードを抜き、アナログポートでの通信に支障がなければそのままお使いください	

電話をかける / 受ける

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
アナログ通信機器の発信ができない	アナログポートにアナログ通信機器が正しく接続されていない	正しく接続してください	●P35
	ダイヤル式（DP）のアナログ通信機器を使用している	プッシュ式（PB）のアナログ通信機器を接続してください	●P38、39
	「アナログポート」の設定が「使用しない」に設定されている	正しく設定してください	●P81、232、281
	疑似キャッチホン、疑似着信転送、疑似三者通話中である	疑似キャッチホン、疑似着信転送、疑似三者通話中はBチャンネルを2本使用するのでアナログ通信機器の発信はできません	●P66、68、70
	128KマルチリンクPPPでデータ通信中である	128KマルチリンクPPP通信中はBチャンネルを2本使用するのでアナログ通信機器の発信はできません 「リソースBOD」を設定してください	●P119
アナログ通信機器の着信ができない	ダイヤルイン番号、契約者番号、グローバル着信の設定が間違っている	INSネット64の契約に合わせて設定してください	●P90
	優先着信ポートが設定されている	優先着信ポートの設定を確認してください	●P57
	相手番号識別着信が設定されている	相手番号識別着信の設定を確認してください	●P58
	1つのアナログポートに2台以上の電話機やファクスを接続している	1つのアナログポートに接続するアナログ通信機器は1台にしてください	●P38

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
アナログ通信機器の着信ができない	おでかけ設定が設定されている	おでかけ設定ランプが点灯していないか確認してください	☛P72
	相手の方が指定してきたサブアドレスと本装置の設定が一致しない	相手の方の指定してきたサブアドレスに関係なく着信したいときは、「サブアドレスなし着信」を「する」に設定してください	☛P97
	相手の方が指定してきたHLC（高位レイヤ整合性）と本装置の設定が一致しない	「高位レイヤ整合性」を「設定しない」に設定してください	☛P124
ハンドセットを取りあげると電話が切れる	ナンバー・ディスプレイ対応でない電話機を接続しているのに、「ナンバー・ディスプレイ」、「モデムダイヤルイン」を設定している	「情報通知サービス」を「使用しない」に設定してください	☛P99、111
転送ができない	圏外の携帯電話機やPHS対応電話機に転送しようとしている	圏外の携帯電話機やPHS対応電話機には転送できません	
おでかけ設定ができない	INSボイスワープを契約していないのにボイスワープモードを設定した	INSボイスワープをご利用になるには、当社との契約が必要です	☛P110
	INSボイスワープの契約電話番号の設定を間違っている	INSボイスワープを契約している電話番号を正しく設定してください	☛P84、85、236、238、285、287
留守番電話で相手がハンドセットを置いてても電話が切れない	留守番電話がリバースパルスを検出して電話を切る仕組みになっている	アナログポートの「リバースパルス送出」を「送出する」に設定してください	☛P82、235、284
電話をかけるときの、相手につながるまで時間がかかる	「ダイヤル桁間タイム」の設定により発信するまで時間がかかる	故障ではありません 電話番号を押した後、  ボタンを押すとすぐに発信します	☛P49

(次ページへ続く)

故障かな？と思ったら

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
ファクスの送受信ができない	相手のファクスがG3モードに対応していないG4ファクスである	本装置のアナログポートに接続したファクスは、G3モードに対応していないG4ファクスとは通信できません	
	ファクスの回線自動選択機能がONになっている	INSネット64に接続したターミナルアダプタでは、ファクスの回線自動選択機能は使用できません 手動で選択してください	
	Fネットの無鳴動着信機能を使用している	アナログポートから特殊な周波数を出力する必要のある無鳴動着信は、本装置では使用できません	
	「アナログポート」の設定が「電話」になっている	「ファクス/モデム」に設定してください	●P81、232、281

モデム利用

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
発信できない	モデムの設定が間違っている	次の点を確認して、正しくないときは、モデムの取扱説明書を参照して設定し直してください <ul style="list-style-type: none"> 発信時に「ツー」という発信音が聞こえるか 通信ソフトでダイヤル方法を「トーン」に設定しているか モデムの設定が「ダイヤルトーンを無視する」になっているか 	●P82、233、282
		本装置の受話音量を「大」に設定してください	
モデムの通信速度が上がらない	回線が混み合っている	一度切断してから、再度接続し直してください	
	モデムの送出レベルが低い	モデムの取扱説明書を参照して、送出レベルを上げてください	

停電モード

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
POWERランプが点滅しない	電池がセットされていない	単3アルカリ乾電池または電池パックをセットしてください	●P31
	電池が消耗している	単3アルカリ乾電池または電池パックを交換してください	●P31
	電源スイッチが「切」になっている	電源スイッチを「入」にしてください	●P35
電話がかけられない	アナログBポート、アナログCポートに電話機を接続している	停電時に使用できるアナログポートはアナログAポートのみです	●P32

累積料金

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
累積料金と請求額が一致しない	「INSテレホーダイ」や「i・アイプラン」などのサービスに加入している	「INSテレホーダイ」や「i・アイプラン」などのサービスに加入している場合は、通信料金が異なります	
	PHS網などの他通信網経由で通信を行った	PHS網など他通信網との通信では料金情報がネットワークより送出されないため請求額と一致しくありません	
	本装置の電源を切った	本装置の電源を切ると、累積料金の情報が初期化されます	
	本装置で初期化を行った	初期化の操作を行うと、累積料金は0円になります	●P106

データ通信

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
データ通信ができない	RS-232Cポートにパソコンが正しく接続されていない	正しく接続してください	●P35
	終端抵抗が正しく設定されていない	終端抵抗を正しく設定してください	●P40
	2つのアナログポートが使用中などで、Bチャンネルが空いていない	アナログポートの使用が終了してから接続し直してください	
	本装置が接続されているシリアルポートと通信ソフトウェアの設定と合っていない	通信ソフトウェアを正しく設定してください	
	本装置が接続されているシリアルポートを他のアプリケーションが使用している	他のアプリケーションを終了してから接続し直してください または、他のアプリケーションの着信待ちの設定を解除してから接続し直してください	
	自動発信規制のため	本装置は、同じ番号への再発信の回数を3分で2回以内に制限しています 少し待ってから接続し直してください	
パソコンの電源を切っても本装置の「RDY」ピクトが消えない	パソコンの電源を切ってもER信号がOFFにならない	本装置とINSネット64を接続しているケーブルを抜いて通信を切断してください	

イーザーウィザード / イーザーセットソフト / イーザーバージョンアップ

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
イーザーウィザード、イーザーセットソフトが起動しない	本装置が接続されているシリアルポートを他のアプリケーションが使用している	他のアプリケーションを終了してから起動してください または、他のアプリケーションの着信待ちの設定を解除してから起動してください	
	本装置の電源が入っていない	本装置の電源を入れてから起動してください	●P216、 224、264、 272
	RS-232Cポートにパソコンが正しく接続されていない	正しく接続してください	●P35
	モデム内蔵パソコンを使用している	モデムが占有しているシリアルポートに本装置を接続している場合は、他の空いているシリアルポートに接続してください	
イーザーバージョンアップに失敗した	バージョンアップの途中で本装置とパソコンを接続しているケーブルが抜けた	正しく接続して、再度バージョンアップを行ってください	●P35
	バージョンアップするファームウェアのファイルを間違えた	ファームウェアがバージョンアップしようとしている機種のものか確認してください	●P261、 310
	ダウンロードしたファイルを解凍していない	ダウンロードしたファイルは解凍してからご使用ください	●P262、 311
イーザーセットソフトの設定画面がグレー表示になる	ご利用の環境によっては、パソコン常駐ソフトなどによりRS-232Cポートに影響を与え、グレー表示されることがある	パソコン常駐ソフトを外してご利用ください	

保守上で必要となる重要なものです。設置時に記入のうえ、大切に保管してください。
*は初期値です。

商品名（製造番号）

設定スイッチの内容

ON
1 DIP SW 8 OFF

設定の確認

回線

* INSネット64 OCNエコノミー

i・ナンバー

使用しない 使用する _____

契約者回線のグローバル着信

グローバル着信しない * グローバル着信する
着信するポート 通知番号

着信番号と通知番号

USB USB
A B C DATA (B) (F) A B C DATA (B) (F)

契約者回線番号

ダイヤルイン1番 _____
ダイヤルイン2番 _____
ダイヤルイン3番 _____
ダイヤルイン4番 _____
ダイヤルイン5番 _____
ダイヤルイン6番 _____
ダイヤルイン7番 _____

(各ポート複数選択可) (各ポート択一)

i・ナンバー

電話番号

着信するポート

発信するポート

USB USB
A B C DATA (B) (F) A B C DATA (B) (F)

i・ナンバー情報1 _____
i・ナンバー情報2 _____
i・ナンバー情報3 _____

アナログAポート

発信者番号通知

* INSネット64申込内容に従う 通知する 通知しない

接続機器

* 電話 ファクス/モデム 使用しない

キャッチホン

* 使用しない INSキャッチホン

疑似キャッチホン

受話音量

小 * 中 大

内線呼出信号選択

呼出信号1(通常着信音) * 呼出信号2(SIR着信音)

停電時の着信

* 着信する 着信しない

停電時のリング

* リンガが鳴る ブザーが鳴る

自己サブアドレス

サブアドレスなし着信

* 着信する 着信しない

ダイヤル桁間タイマ

* 4秒 9秒 11秒 13秒

フッキング検出タイマ

短い * 普通 長い

(高位レイヤ整合性) HLC	設定し着信判定する	* 設定しない	
	設定するが着信判定しない		
相手番号識別着信	* 使用しない	INSなりわけ識別着信	識別着信
識別リングング	* 使用しない	INSなりわけ	疑似なりわけ
リバースパルス送出	* 送出しない	送出する	
CTI機能	* 使用しない	使用する	
情報通知サービス	* 使用しない	INSナンバー・ディスプレイを使用する	
		モデム・ダイヤルインを使用する	
		INSナンバー・ディスプレイ+モデム・ダイヤルインを使用する	
キャッチホン・ディスプレイ	* 使用しない	使用する	
ナンバー・ディスプレイ、	* しない	する	
モデムダイヤルイン時			
のサブアドレス通知			
番号の送出方法	電話番号を	電話番号を	
	<u>そのまま送出</u>	<u>変換して送出</u>	<u>変換後の番号</u>

- 契約者回線番号
- ダイヤルイン1番
- ダイヤルイン2番
- ダイヤルイン3番
- ダイヤルイン4番
- ダイヤルイン5番
- ダイヤルイン6番
- ダイヤルイン7番

アナログBポート

発信者番号通知	* INSネット64申込内容に従う	通知する	通知しない
接続機器	* 電話	ファクス/モデム	使用しない
キャッチホン	* 使用しない	INSキャッチホン	
		疑似キャッチホン	
受話音量	小	* 中	大
内線呼出信号選択	呼出信号1 (通常着信音)	* 呼出信号2 (SIR着信音)	
自己サブアドレス			
サブアドレスなし着信	* 着信する	着信しない	
ダイヤル桁間タイマ	* 4秒	9秒	11秒 13秒
フッキング検出タイマ	短い	* 普通	長い
(高位レイヤ整合性) HLC	設定し着信判定する	* 設定しない	
	設定するが着信判定しない		
相手番号識別着信	* 使用しない	INSなりわけ識別着信	識別着信
識別リングング	* 使用しない	INSなりわけ	疑似なりわけ
リバースパルス送出	* 送出しない	送出する	
CTI機能	* 使用しない	使用する	
情報通知サービス	* 使用しない	INSナンバー・ディスプレイを使用する	
		モデム・ダイヤルインを使用する	
		INSナンバー・ディスプレイ+モデム・ダイヤルインを使用する	

キャッチホン・ディスプレイ *	使用しない	使用する	
INSナンバー・ディスプレイ、*	しない	する	
モデムダイヤルイン時のサブアドレス通知番号の送出方法	電話番号をそのまま送出	電話番号を変換して送出	変換後の番号
契約者回線番号			_____
ダイヤルイン1番			_____
ダイヤルイン2番			_____
ダイヤルイン3番			_____
ダイヤルイン4番			_____
ダイヤルイン5番			_____
ダイヤルイン6番			_____
ダイヤルイン7番			_____

アナログCポート

発信者番号通知	*	INSネット64申込内容に従う	通知する	通知しない
接続機器	*	電話	ファクス/モデム	使用しない
キャッチホン	*	使用しない	INSキャッチホン	疑似キャッチホン
受話音量		小	* 中	大
内線呼出信号選択		呼出信号1 (通常着信音)	*	呼出信号2 (SIR着信音)
自己サブアドレス				
サブアドレスなし着信	*	着信する	着信しない	
ダイヤル桁間タイム	*	4秒	9秒	11秒 13秒
フッキング検出タイム	*	短い	* 普通	長い
(高位レイヤ整合性) HLC		設定し着信判定する	*	設定しない
		設定するが着信判定しない		
相手番号識別着信	*	使用しない	INSなりわけ識別着信	識別着信
識別リングング	*	使用しない	INSなりわけ	疑似なりわけ
リバースパルス送出	*	送出しない	送出する	
CTI機能	*	使用しない	使用する	

アナログポート共通登録

おでかけ設定	*	おやすみモード	電話着信転送モード	
		INSボイスワープ転送モード	フラッシュモード	
優先着信ポート	*	指定しない	Aポート	Bポート Cポート
通信中転送	*	使用しない	使用する	
三者通話	*	使用しない	三者通話	疑似三者通話
アナログポート間内線通話	*	内線通話・転送を行わない	内線通話・転送を行う	

LCDモード 常に消灯 常に点灯
 * 自動（発着信、回線切断時に点灯）
 自動+データ通信中は常に点灯
 自動+Bチャンネル使用中は常に点灯
 LCD表示 発信時にLCDに番号を表示しない
 * 発信時にLCDに番号を表示するしない * する（#） する（##）

着信転送登録

転送モード 着信転送 * 疑似着信転送
 転送条件 * 使用しない INSなりわけ時に転送する
 識別着信時に転送する
 転送設定 転送元（0） _____ 転送先（0） _____
 転送元（1） _____ 転送先（1） _____
 転送元（2） _____ 転送先（2） _____
 トークサービス 転送トークなし、転送元トークなし
 転送トークあり、転送元トークなし
 転送トークなし、転送元トークあり
 * 転送トークあり、転送元トークあり

INSボイスワープ登録

転送開始モード * 無条件に転送 無応答時に転送
 話中時に転送 無応答 / 話中時に転送
 起動電話番号 無条件に転送 _____ 無応答時に転送 _____
 話中時に転送 _____ 無応答 / 話中時に転送 _____
 停止用電話番号 _____
 契約電話番号 _____

RS-232Cポート

発信者番号通知 * INSネット64申込内容に従う 通知する 通知しない
 自己サブアドレス _____
 サブアドレス・セパレータ * / # *
 サブアドレスなし着信 * 着信する 着信しない
 相手番号識別着信 識別着信する * 識別着信しない
 （高位レイヤ整合性）HLC 設定する * 設定しない
 MPの2本目接続時の認証 認証しない * 認証する
 リソースBOD する * しない
 スループットBOD する * しない
 スループットBODパラメータ リンク追加算出時間 秒（* 30秒）
 リンク削除算出時間 秒（* 10秒）
 リンク追加しきい値 %（* 70 %）
 リンク削除しきい値 %（* 20 %）

無通信監視タイマ	監視しない	* 監視する	<input type="text"/> 分 (* 10分)
強制切断タイマ	切断しない	* 切断する	<input type="text"/> 時間 (* 10時間)
ER信号	* パソコンのERを見る		常時ONとみなす
	通信中パソコンのERを見る		
CD信号	ER-ON時には常にCD-ON	* 通信中は常にCD-ON	
DR信号	* ER-ON時には常にDR-ON	通信中は常にDR-ON	
フリーコールバック	* コールバックしない	コールバックする	

USBポート (背面)

発信者番号通知 自己サブアドレス	* INSネット64申込内容に従う	通知する	通知しない
---------------------	-------------------	------	-------

サブアドレス・セパレータ

* / # *			
サブアドレスなし着信	* 着信する		着信しない
相手番号識別着信	識別着信する	* 識別着信しない	
(高位レイヤ整合性) HLC	設定する	* 設定しない	
MPの2本目接続時の認証	認証しない	* 認証する	
リソースBOD	する	* しない	
スループットBOD	する	* しない	
スループットBODパラメータ	リンク追加算出時間	<input type="text"/> 秒 (* 30秒)	
	リンク削除算出時間	<input type="text"/> 秒 (* 10秒)	
	リンク追加しきい値	<input type="text"/> % (* 70%)	
	リンク削除しきい値	<input type="text"/> % (* 20%)	

無通信監視タイマ	監視しない	* 監視する	<input type="text"/> 分 (* 10分)
強制切断タイマ	切断しない	* 切断する	<input type="text"/> 時間 (* 10時間)
ER信号	* パソコンのERを見る		常時ONとみなす
	通信中パソコンのERを見る		
CD信号	ER-ON時には常にCD-ON	* 通信中は常にCD-ON	
DR信号	* ER-ON時には常にDR-ON	通信中は常にDR-ON	
フリーコールバック	* コールバックしない	コールバックする	

USBポート (前面)

発信者番号通知 自己サブアドレス	* INSネット64申込内容に従う	通知する	通知しない
---------------------	-------------------	------	-------

サブアドレス・セパレータ

* / # *			
サブアドレスなし着信	* 着信する		着信しない
相手番号識別着信	識別着信する	* 識別着信しない	
(高位レイヤ整合性) HLC	設定する	* 設定しない	
MPの2本目接続時の認証	認証しない	* 認証する	
リソースBOD	する	* しない	
スループットBOD	する	* しない	

スループットBODパラメータ	リンク追加算出時間	<input type="text"/>	秒 (* 30秒)
	リンク削除算出時間	<input type="text"/>	秒 (* 10秒)
	リンク追加しきい値	<input type="text"/>	% (* 70%)
	リンク削除しきい値	<input type="text"/>	% (* 20%)
無通信監視タイマ	監視しない	*	監視する <input type="text"/> 分 (* 10分)
強制切断タイマ	切断しない	*	切断する <input type="text"/> 時間 (* 10時間)
ER信号	*	パソコンのERを見る	常時ONとみなす
		通信中パソコンのERを見る	
CD信号	ER-ON時には常にCD-ON	*	通信中は常にCD-ON
DR信号	*	ER-ON時には常にDR-ON	通信中は常にDR-ON
フリーコールバック	*	コールバックしない	コールバックする

MUX設定

MPの2本目接続時の認証	認証しない	*	認証する
リソースBOD	する	*	しない
スループットBOD	する	*	しない イージー-BODで使用する
スループットBODパラメータ	リンク追加算出時間	<input type="text"/>	秒 (* 30秒)
	リンク削除算出時間	<input type="text"/>	秒 (* 10秒)
	リンク追加しきい値	<input type="text"/>	% (* 70%)
	リンク削除しきい値	<input type="text"/>	% (* 20%)
無通信監視タイマ	監視しない	*	監視する <input type="text"/> 分 (* 10分)
強制切断タイマ	切断しない	*	切断する <input type="text"/> 時間 (* 10時間)
MUX接続時の認証	認証しない	*	認証する

RS-232Cポート / USBポート共通

応答平均化	*	平均化しない	平均化する	接続台数 <input type="text"/> 台
優先着信ポート	*	指定しない	RS-232Cポート	背面USBポート 前面USBポート
CTI有効ポート	*	指定しない	RS-232Cポート	背面USBポート 前面USBポート

短縮ダイヤル登録

名前	電話番号	サブアドレス
00		
01		
02		
03		
04		
05		
06		
07		
08		
09		

マイプライベート着信

マイプライベート着信 名前	* 使用しない 電話番号	使用する サブアドレス	呼び分けポート		
00			A	B	C
01			A	B	C
02			A	B	C
03			A	B	C
04			A	B	C
05			A	B	C
06			A	B	C
07			A	B	C
08			A	B	C
09			A	B	C
10			A	B	C
11			A	B	C
12			A	B	C
13			A	B	C
14			A	B	C
15			A	B	C
16			A	B	C
17			A	B	C
18			A	B	C
19			A	B	C
20			A	B	C
21			A	B	C
22			A	B	C
23			A	B	C
24			A	B	C
25			A	B	C
26			A	B	C
27			A	B	C
28			A	B	C
29			A	B	C

相手番号識別着信

名前	電話番号	サブアドレス
00		
01		
02		
03		
04		

05

06

07

08

09

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

疑似なりわけ

名前

電話番号

サブアドレス

00

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

迷惑電話防止

名前

電話番号

00

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

自己診断を行うと、本装置のハードウェアに異常がないかをチェックすることができます。

診断項目

診断項目	診断内容
FLASH	フラッシュメモリの読み込みが正常かどうかを確認します
RAM	RAMの読み込み / 書き込みが正常かどうかを確認します
TCU	タイマ制御ユニットが正常かどうかを確認します
LINE	INSネット64インタフェースを制御するS/T点インタフェース制御部が正常かどうかを確認します
HDLC	通信送受信データの制御部が正常かどうかを確認します
OPTION	バス配線用ユニット制御部が正常かどうかを確認します
USB	USBポート制御部が正常かどうかを確認します

自己診断を行う

- 1** 設定スイッチの設定を次のように設定して、電源を入れ直す。

自動的に自己診断が開始します。



設定スイッチの変更 (●P136)

- 2** 診断結果を確認する。

正常... 「ピピピ...」という音が鳴ったあと、MSGランプが緑色に点滅します。
ディスプレイには、「シンダン テストOK」と表示されます。

異常... MSGランプが赤色で点灯し「ピピピ...」という音が鳴り続け、ディスプレイに異常があった項目が表示されます。

異常が発見されたときのディスプレイ表示

ディスプレイ表示	異常が発見された診断項目
Error FLASH	FLASH
Error RAM	RAM
Error TCU	TCU
Error LINE	LINE
Error HDLC	HDLC
Error OPTION	OPTION
Error USB	USB

(次ページへ続く)

3 電源を切る。

正常の場合は、設定スイッチをもとに戻してから電源を入れ直してください。異常が発見された場合は、当社のサービス取扱所にお問い合わせください。

(▶P423)



お知らせ

- 自己診断を行っている途中で電源を切らないでください。電源を切ると本装置でバックアップしている内容が正しく保存されないことがあります。

数字、アルファベット

- 128KマルチリンクPPP通信 117
128KマルチリンクPPP通信の
リンクを削除/追加する 175
ACCM 130
ATコマンド 313
Dチャンネルパケット通信の
ATコマンド 362
BOD機能 118
CD-ROM (INSメイトV70 MAX
ユーティリティ集) 24
CS遅延時間 135
CTI機能 125
D-SUB9ピン 24
Dチャンネルパケット通信 206
Enterボタン 26
FG端子 29
HLC (高位レイヤ整合性) 124
INSキャッチホン 102
INSなりわけサービス 109
INSナンバー・ディスプレイ 99
かけてきた相手にかかけ直す... 5.1, 159
電話がかかってきたときの
表示 99
INSネット64
INSネット64に接続する 38
INSネット64用通信機器 40
INSネット64用通信機器を
接続する 40
INSネット64サービス 90
INSキャッチホン 102
INSナンバー・ディスプレイ 99
INSボイスワープ 110
サブアドレス 97
三者通話 104
着信転送 104
通信中転送 102
発信者番号通知 98
フレックスホン 101
INSボイスワープ/INSボイスワープ
セレクト 110
INSマジックボックス 114
i・ナンバー 92
i・ナンバー情報 92
Macintosh
イージーウィザードを
インストールする 264
イージーセットソフトを
インストールする 272
Mac変換ケーブル 24
Menuボタン 26
Microsoft 共有サービス 183
Microsoft クライアント 183
MSGランプ 26
MUX機能 167
MUXステータス for USB 170
MUXステータス
ユーティリティ 171
Net BEUI 184
NTT通信機器お取扱相談センタ
シール 25
OCNエコノミー 136
PAD機能 206
PADサービス信号 374, 378
PADパラメータ 208, 255, 304
PADパラメータプロファイル一覧 210
PIAFS 123
POWERランプ 26
Pレジスタ 385
RS-232Cケーブル
(D-SUB9ピン) 24, 36, 138
RS-232Cポート 29
RS-232Cポートを
設定する 240, 289
RS-232Cポートインタフェース 138
SD/RD (Send Data/
Receive Data) ランプ 26
Selectボタン 26
S/T端子 29
Sレジスタ 357, 384
USBケーブル 24, 36
USBネットワーク 183
USBポート 26, 29

USBポートでデータ通信を 行う	139,154
USBポートを設定する	240,289
USBポートに関するQ&A	176
V.25bisコマンド	370
Windows® 98 / Windows® 95 イーザーウィザードを インストールする	212
イーザーセットソフトを インストールする	224
X.28PADコマンド	374

五十音

【ア行】

相手番号識別着信 INSなりわけサービスの識別 着信（セキュリティ）を 利用する	109
相手番号識別着信を利用する	58
相手番号識別着信転送	71
アナログポート	29
アナログポートの接続装置を 設定する	87
アナログポートを 設定する	232,281
イーザーBOD	172
イーザーウィザード	47
イーザーウィザードで 設定する	212,264
イーザーセットソフト イーザーセットソフトで 設定する	224,272
イーザーテレホン設定	81
イーザーバージョンアップ イーザーバージョンアップでパー ジョンアップする	260,309
イーザーバックアップ	223
異速度通信	134
インストール INSメイトV70 MAXユーティリティ をインストールする	212,264

MUXステータス for USBを インストールする	170
イーザーセットソフトを インストールする	224,272
着信履歴 for USBをインストール する	159
インターネット	116
MUXでインターネットに 接続する	169
インターネットで利用できる通信 モード	116
インターネット接続ガイド	24
インディケーション	370,373
液晶ディスプレイ	28
応答平均化	132
おでかけ設定	72
おでかけ設定を設定 する	72,84,236,285
おでかけ設定ボタン（ランプ）	26
オプション	396
おやすみモード	72

【カ行】

回線 回線状態を表示する	80,173
極性を反転する	38
回線接続端子	29
各部の名前	26
疑似キャッチホン	66
疑似三者通話	68
疑似着信転送	70
疑似なりわけ	64
キャッチホン INSキャッチホンを 利用する	102
疑似キャッチホンを 利用する	66
キャッチホン・ディスプレイ	111
強制切断タイマ	133
極性切替（スイッチ）	29
クライアント	183
USBネットワークのクライアント を設定する	196

グローバル着信95
 契約者回線番号95
 コールバック130
 故障かな?と思ったら399
 コマンド
 ATコマンド313
 V.25bisコマンド370
 X.28PADコマンド374

【サ行】
 サーバ183
 USBネットワークのサーバを
 設定する187
 サブアドレス97
 サブアドレスで特定の電話機を
 呼び出す97
 サブアドレスを指定して電話を
 かける49
 サブアドレスを
 設定する82,235,284
 三者通話
 疑似三者通話を利用する68
 フレックスホンサービスの
 三者通話を利用する104
 時刻
 日付・時刻を設定
 する44,239,288
 自己診断415
 シャープ (Ⓜ) ボタン
 (Ⓜ) ボタンを含む電話番号に
 かける49
 終端抵抗40,43
 スイッチSW140
 手動BOD120
 受話音量
 受話音量を変更する49
 仕様422
 情報通知サービス82,233,282
 初期化397
 信号線制御244,293
 診断情報359
 診断符号392

スループットBOD118
 生成源361
 接続
 INSネット64用通信機器を
 接続する40
 接続上の注意38
 接続手順34
 パソコンを接続するケーブル36
 接続早わかりガイド24
 切断理由358,390
 設定
 イージーウィザードで
 設定する212,264
 設定を初期化する397
 必要な設定を確認する47
 設定記入シート406
 パケット通信設定記入
 シート394
 設定スイッチ
 OCNエコノミーの設定
 スイッチを設定する136
 パケット通信の設定スイッチ
 を設定する206
 選択キャッチホン67,109

【タ行】
 ダイヤルアップサーバ187
 ダイヤルイン95
 ダイヤルイン番号を
 設定する88,229,278
 ダイヤル桁間タイム49
 ダイヤル終了識別49
 単3アルカリ乾電池
 単3アルカリ乾電池を
 セットする31
 短縮ダイヤル
 短縮ダイヤルを登録
 する83,250,299
 短縮ダイヤルで電話を
 かける50
 端末速度自動検出133
 着信56

- 着信転送
疑似着信転送を利用する70
フレックスホンの着信
転送を利用する104
- 着信番号
着信番号を設定
する84,229,278
- 着信履歴51
着信履歴 for USB159
着信履歴発信51,53,162
着信履歴表示51,53,161
通信中転送102
- 通信料金
通信料金を表示する105
- 停電
停電用の電池をセットする31
データ通信116
データ通信モード116
- 電源
電源を入れる35,38
電源コード29
電源スイッチ30
転送トーキ83,238,287
- 電池
停電用の電池をセットする31
電池パックの取り扱い33
電池カバー30
電池動作モード33,233,282
電池パック32
電池パック接続コネクタ30
電池ホルダ30
- 電話を受ける56
通話中に電話を受ける66
登録した相手のみ受ける58
- 電話をかける48
かけてきた方につけ直す ...51,159
Ⓜ ボタンを含む電話番号
にかける49
短縮ダイヤルでかける50
通話中に電話を
かける68,102,104
電話を取りつく77
- 電話機
電話機から設定を行う81
- 電話機コード24
電話帳250,299
登録
相手番号識別着信番号を登録
する85,252,303
短縮ダイヤルを登録
する83,250,299
なりわけの番号を
登録する84,253,302
マイプライベート着信を
登録する84,251,300
迷惑電話防止番号を
登録する60,254,303
- 特長22
取扱説明書の見かた9
- 【ナ行】
内線通話75
内線通話を設定する ...83,239,288
内線転送77
内線番号75,77
内線呼出信号
内線で呼び出すときの音を設定
する82,233,282
- なりわけ
INSなりわけ（識別リングング）
を利用する109
疑似なりわけを利用する64
ナンバー・ディスプレイ99
- 【ハ行】
バージョンアップ
バージョンアップを
行う261,310
バージョンを確認する ...260,309
パケット通信206
パケット通信を設定する
（例）207
パケット通信コマンド362
バス配線40

バス配線用ユニット29

バックライト
ディスプレイのバックライトを
設定する.....80,239,288

発信48

発信者番号通知98
通知番号を設定する...82,229,278
発信者番号通知を設定
する.....82,232,281

日付
日付・時刻を
設定する.....44,239,288

非同期116

非同期 / 同期PPP変換116

非同期 / 同期自動判別着信134

品名紙30

ファームウェア263
ファームウェアをバージョン
アップする261,310

ファイル共有185,205

付属品24

フッキング67
フッキング検出タイマを
設定する.....81,235,284

フラッシュモード72

フリーコールバック130

プリンタ共有185,205

フレックスホン101

フロー制御134

保守サービス423

保証書25

【マ行】

マイプライベート着信...62,84,251,300

マルチアクセス121

マルチリンクPPPの設定343

無通信監視タイマ133

迷惑電話防止60

モデム情報186

モデムダイヤルイン107

【ヤ行】

優先着信ポート57

ユーティリティ
INSメイトV70 MAXユーティリティ
をインストールする
.....212,224,264,272

MUXステータス
ユーティリティ171

【ラ行】

ランプ表示27

リザルトコード313,355,369

リソースBOD119

リバースパルス送出82,235,284

累積料金表示105

レジスタ313
Pレジスタ385
Sレジスタ.....357,384

回線	適用回線	INSネット64 OCNエコノミー回線	
	通信交換方式	Bチャンネル回線交換、Dチャンネルパケット交換	
	接続インタフェース	6ピンモジュラジャック	
	インタフェース形態	P-MP接続	
	レイヤ1起動種別	呼毎起動	
S/T点インタフェース		8ピンモジュラジャック	
パソコン インタフェース	RS 232C ポート	電气的条件	ITU-T勧告 V.28 準拠
		論理的条件	ITU-T勧告 V.24 準拠
		物理的条件	JIS X5103 準拠 D-SUB9ピンコネクタ
		端末速度 (kbit/s)	1.2、2.4、4.8、9.6、14.4、19.2、(28.8、38.4、57.6、115.2、230.4) ()内はV.28規格外
		通信速度 (kbit/s)	非同期：1.2、2.4、4.8、9.6、14.4、19.2、(28.8、38.4、57.6) ()内はV.28規格外 非同期/同期PPP変換：64 128KマルチリンクPPP：128 PIAFS：32、64
	USB ポート (2)	端末速度	12 Mbit/s
		通信速度 (kbit/s)	非同期：1.2、2.4、4.8、9.6、14.4、19.2、(28.8、38.4、57.6) ()内はV.28規格外 非同期/同期PPP変換：64 128KマルチリンクPPP：128 PIAFS：32、64
		接続手順	ATコマンド V.25bisコマンド(Dチャンネルパケット交換のみ) X.28PADコマンド(Dチャンネルパケット交換のみ)
	アナログ ポート(3)	接続インタフェース	6ピンモジュラジャック×3(PB) 約48V給電(待機時)
	使用電源		AC100V±10V(50/60Hz)
電池動作 モード	アルカリ乾電池	待ち受け時間：約4時間 連続通話：約2時間	
	ニカド電池 パック	待ち受け時間：約1時間 連続通話：約30分	
消費電力		最大6.5W	
外形寸法		幅約56mm×高さ約171mm×奥行約132mm	
質量		約0.5kg	

保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください。
（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。
当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） 当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

故障の場合は


故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

お話し中調べは

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

その他

定額保守サービスの料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：  トークニーナ 0120-109217

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

補修用部品の保有期間について

本装置の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

MEMO

MEMO


MEMO

MEMO



この取扱説明書は、
エコマーク認定の
再生紙を使用して
います。

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ： 0120 - 109217

トークニーナ

電話番号をお間違えにならないように、ご注意ください。



©2000 NTTEAST・NTTWEST

本2083-1(2000.03)
INSメイトV70 MAXトリセツ